

令和5年9月5日  
政策経営部広報広聴課

## 令和5年度世田谷区民意調査の結果について

### 1 調査目的

区民が、区政に対してどのような意見・要望を持っているかを把握し、今後の区政運営の基礎資料とする。

### 2 調査概要

- (1) 調査期間 令和5年5月19日～6月9日  
 (2) 対象 満18歳以上の区内在住者(外国籍含む) 4,000人(無作為抽出)  
 (3) 調査方法 郵送配布・回収またはインターネットによる回答  
 (4) 回収結果 有効回収数1,832人 回収率45.8%  
 (内訳: 郵送回収1,160通・63.3%、インターネット回収672通・36.7%)  
 (5) 調査項目 19項目(全52問 ※枝問含む)

1. 定住性	2. 区政	<u>3. 区の基本構想</u>	4. 職員応対	5. 福祉と医療	6. 認知症
7. 障害者を支える取り組み	8. 子育て・子どもを取り巻く環境	9. 地域コミュニティ	10. <u>区民交流スペース</u>	11. 災害時の備え	12. 男女共同参画の推進
13. <u>平和資料館</u>	14. 多文化共生	15. 文化活動	16. スポーツ	17. たばこマナー	<u>18. せたがやPay</u>
<u>19. 世田谷区公契約条例</u>					

経年調査質問(17問) 単年調査質問(35問) ※下線は令和5年度新規項目

### 3 調査結果

別添「世田谷区民意調査2023(概要版)」及び「世田谷区民意調査2023」のとおり

### 4 今後のスケジュール

- 9月6日 区ホームページに「世田谷区民意調査2023」及び「概要版(日本語版・英語版・テキストデータ)」を掲載  
 9月6日 区政情報センター(区政情報コーナー)、図書館で区民向けに閲覧開始  
 9月15日 区のおしらせ「せたがや」9月15日号に調査結果の一部を掲載

# 世田谷区民意識調査2023

## (概要版)

(令和5年5月実施)

区民意識調査概要版は、令和5年5月に実施した「世田谷区民意識調査2023」を要約したもので、広く区民の方にその内容を知っていただくために作成しました。

今回の調査は、「定住性」「職員応対」など経年的な変化を把握するための調査項目に加え、「区の基本構想」「区民交流スペース」「せたがやPay」などに関する項目を調査対象といたしました。

これらの調査結果については、区政を推進するための基礎資料として活用してまいります。

また、詳しく知りたい方は、世田谷区の区政情報センター、区政情報コーナー、区立図書館、区のホームページで「世田谷区民意識調査2023」をご覧ください。

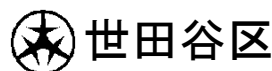
### 調査の概要

対象者 世田谷区在住の満18歳以上の男女  
 対象数 4,000人  
 (内訳/日本国籍3,882人、外国籍118人)  
 抽出方法 層化二段無作為抽出法  
 調査方法 郵送配布・回収またはインターネットによる回答  
 調査期間 令和5年5月19日～6月9日  
 有効回収数 1,832人  
 (内訳/日本国籍1,797人、外国籍35人)  
 有効回収率 45.8%  
 (内訳/郵送回収1,160通・63.3%、  
 インターネット回収672通・36.7%)

### 回答者の属性

- 1 定住性
- 2 区政
- 3 区の基本構想
- 4 職員応対
- 5 福祉と医療
- 6 認知症
- 7 障害者を支える取り組み
- 8 子育て・子どもを取り巻く環境
- 9 地域コミュニティ
- 10 区民交流スペース
- 11 災害時の備え
- 12 男女共同参画の推進
- 13 平和資料館
- 14 多文化共生
- 15 文化活動
- 16 スポーツ
- 17 たばこマナー
- 18 せたがやPay
- 19 世田谷区公契約条例

令和5年9月



今回の調査項目は次のとおりです。このうち★印のある項目をこの概要版に掲載しています。

## 1 定住性

- (1) 居住年数
- ★ (2) 暮らしの満足度
- ★ (3) 住みやすさ
- ★ (4) 定住意向
- (5) 定住意向理由
- (6) 非定住意向理由
- ★ (7) 地域における日常生活での困りごと

## 2 区政

- ★ (1) 区が積極的に取り組むべき事業

## 3 区の基本構想

- ★ (1) 「世田谷区基本構想」九つのビジョンの達成状況

## 4 職員対応

- ★ (1) 窓口対応
- ★ (2) 印象が良かった点
- ★ (3) 印象が悪かった点
- ★ (4) 職員対応での注意点

## 5 福祉と医療

- ★ (1) 「福祉の相談窓口」の認知度
- (2) 介護や医療必要時の居留意向
- ★ (3) 「在宅医療」の認知度
- ★ (4) 「ACP」（アドバンス・ケア・プランニング：人生会議）の認知度
- (5) 「うめとぴあ」の利用または関心のある事業

## 6 認知症

- ★ (1) 「世田谷区認知症とともに生きる希望条例」の認知度
- (2) 認知症についての印象

## 7 障害者を支える取り組み

- ★ (1) 手話が独自の言語であることの認知度
- (2) 手話についての考え

## 8 子育て・子どもを取り巻く環境

- ★ (1) 区の子育て環境

## 9 地域コミュニティ

- ★ (1) 地域活動への参加経験・参加意向

## 10 区民交流スペース

- (1) 区民交流スペース開設時期の認知度
- ★ (2) 区民交流スペースに期待すること

## 11 災害時の備え

- (1) 防災への対処
- ★ (2) 在宅避難推奨の認知度
- (3) 水や食料の備蓄について
- (4) 非常用電力の備蓄について
- ★ (5) ハザードマップの認知度
- (6) ハザードマップの活用状況
- (7) Jアラート発信時の避難行動の認知度

## 12 男女共同参画の推進

- ★ (1) 「男は仕事、女は家庭」という考え方について
- (2) 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度
- (3) 性的マイノリティという言葉の認知度
- (4) 性的マイノリティの人権を守る啓発や施策の必要性
- ★ (5) 「世田谷区パートナーシップの宣誓の取組み」の認知度

## 13 平和資料館

- ★ (1) 区立平和資料館の認知度

## 14 多文化共生

- ★ (1) 区の多文化共生社会の実現に向けた施策の充実度
- (2) 外国人の地域活動への参加の進捗状況
- (3) 区内の外国人への誤解・偏見の解消状況

## 15 文化活動

- ★ (1) 区内の文化資源の認知度

## 16 スポーツ

- ★ (1) この1年間に行ったスポーツや運動の回数
- (2) この1年間のスポーツの観戦状況
- (3) この1年間に参加したスポーツを支える活動
- (4) 今後のスポーツ施設整備について

## 17 たばこマナー

- ★ (1) 居住地域におけるたばこマナーの満足度

## 18 せたがや Pay

- ★ (1) せたがや Pay の認知・利用度
- (2) せたがや Pay を利用しない理由

## 19 世田谷区公契約条例

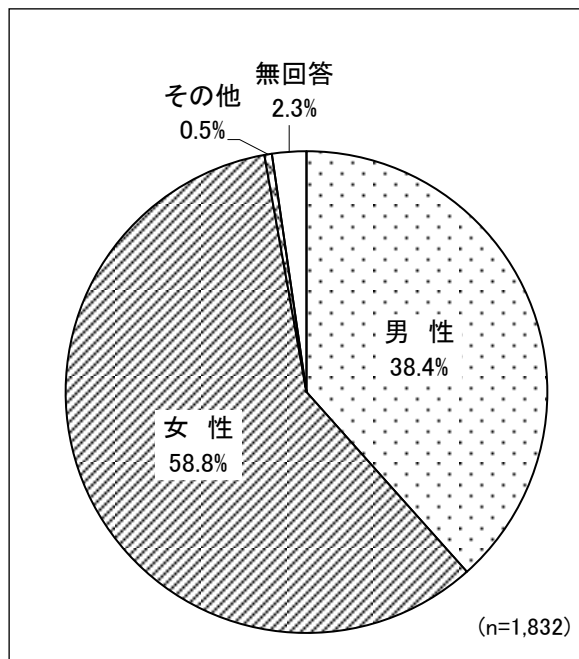
- ★ (1) 「世田谷区公契約条例」の認知度
- (2) 「世田谷区公契約条例」の認知経路

### グラフの見方

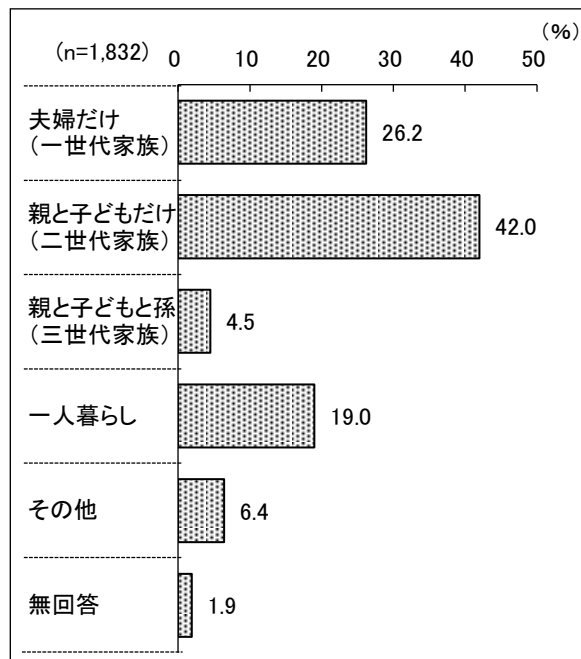
- 1 (複数回答) と記述されたもの以外は、選択肢を1つだけ選ぶ設問です。
- 2 小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならないものがあります。
- 3 複数回答の設問については、合計が100.0%を超えることがあります。
- 4 グラフ中のnは、設問の回答者数を表します。

## 回答者の属性

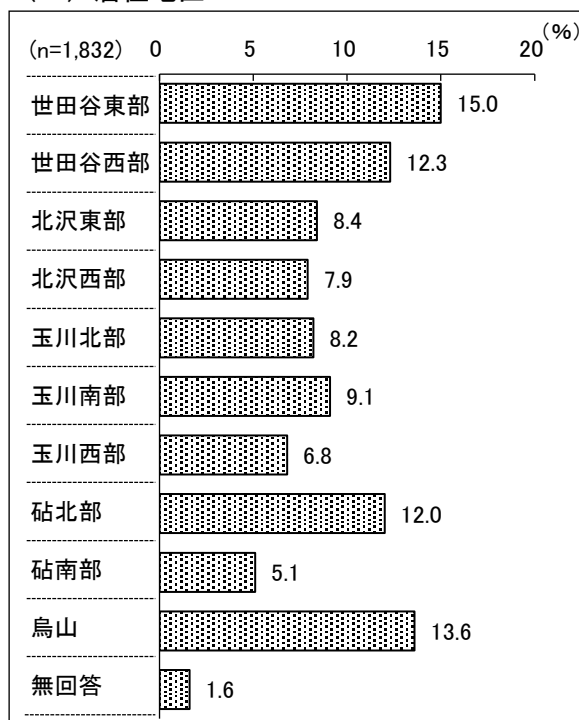
(1) 性別



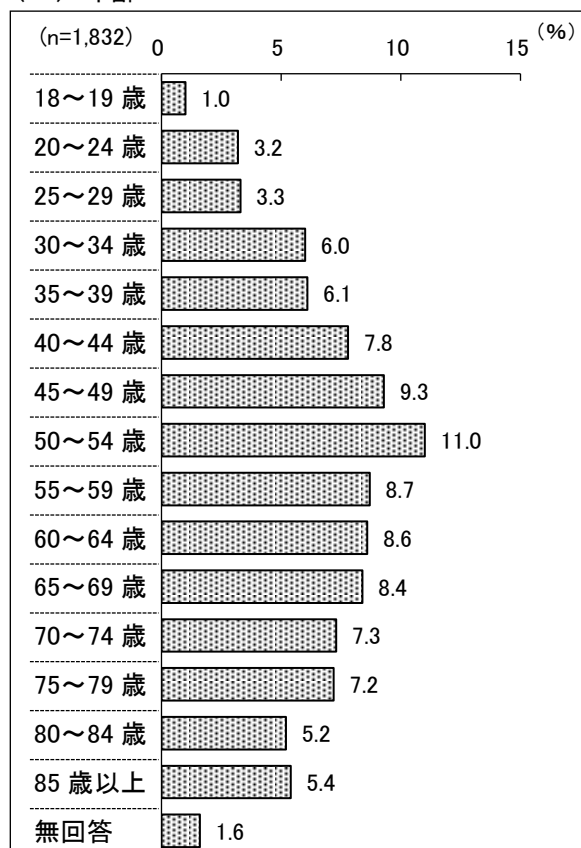
(2) 家族構成



(3) 居住地区

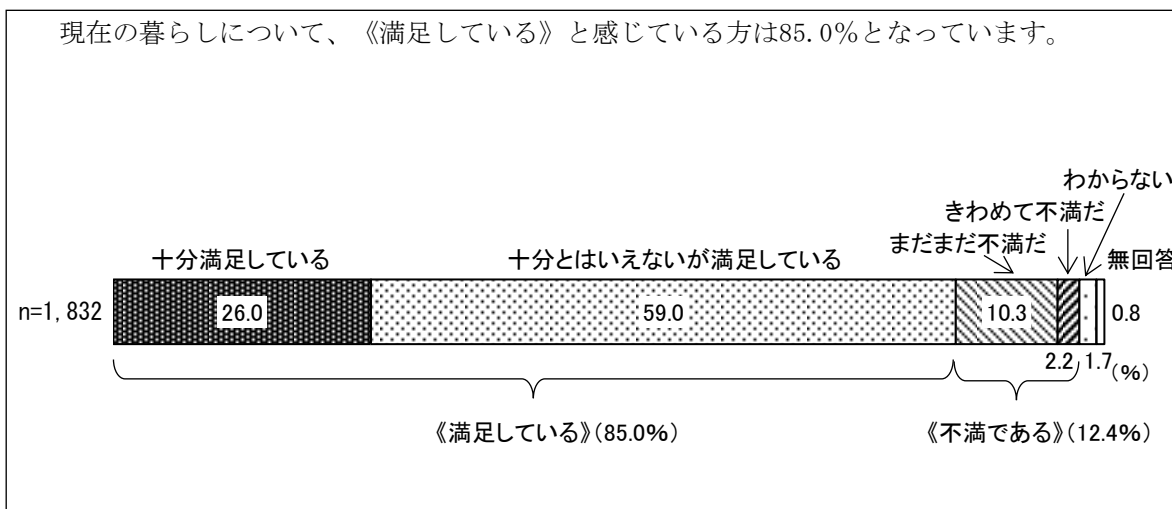


(4) 年齢

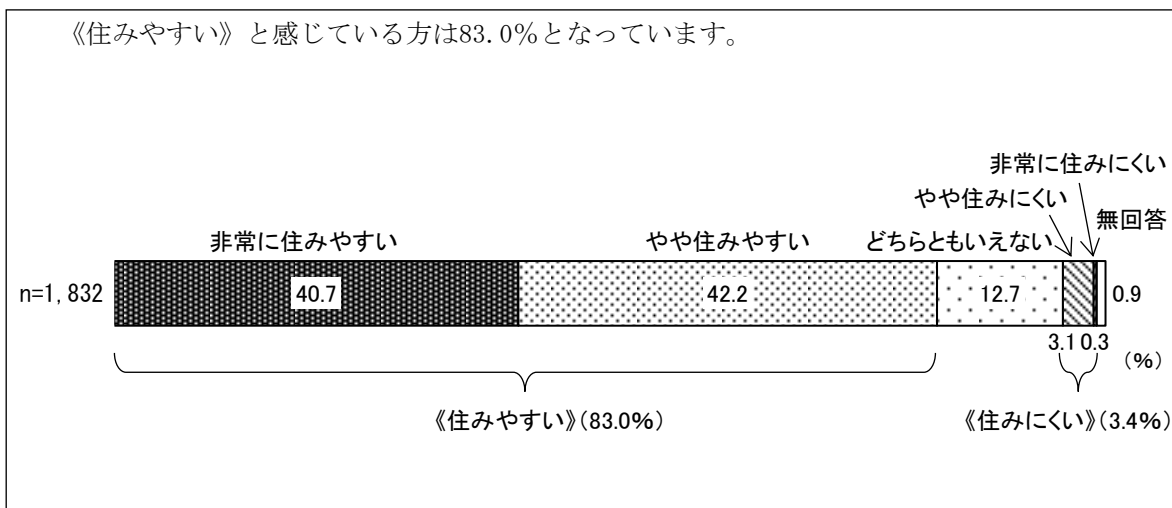


## 1. 定住性

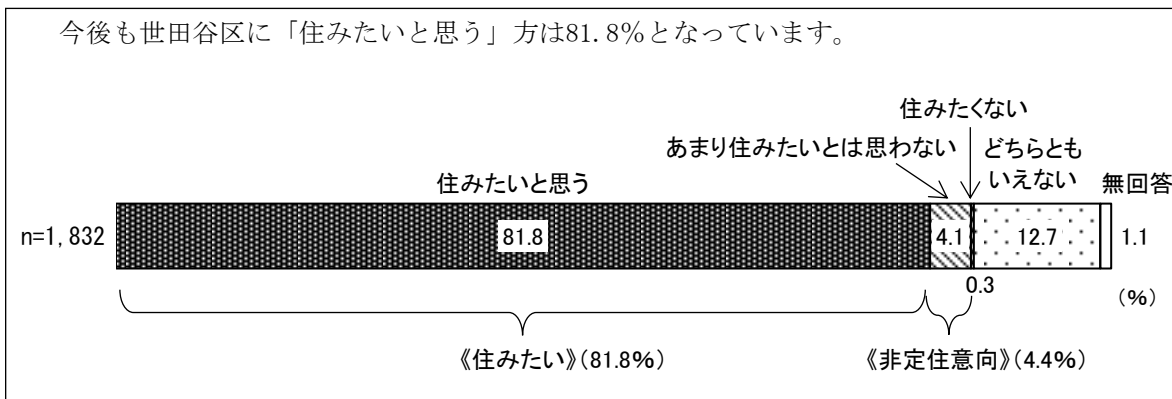
### ●暮らしの満足度



### ●住みやすさ

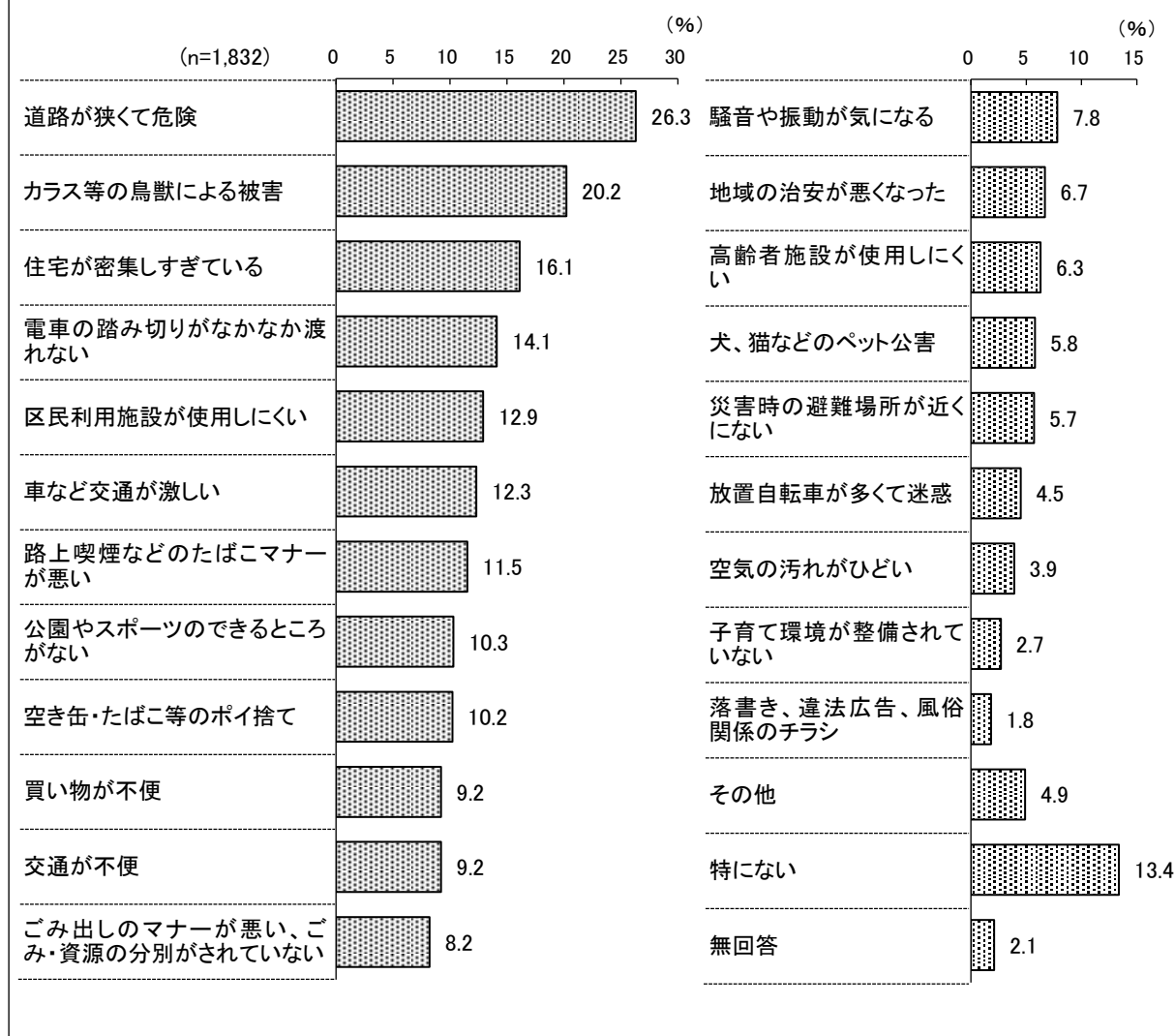


### ●定住意向



●地域における日常生活での困りごと（複数回答）

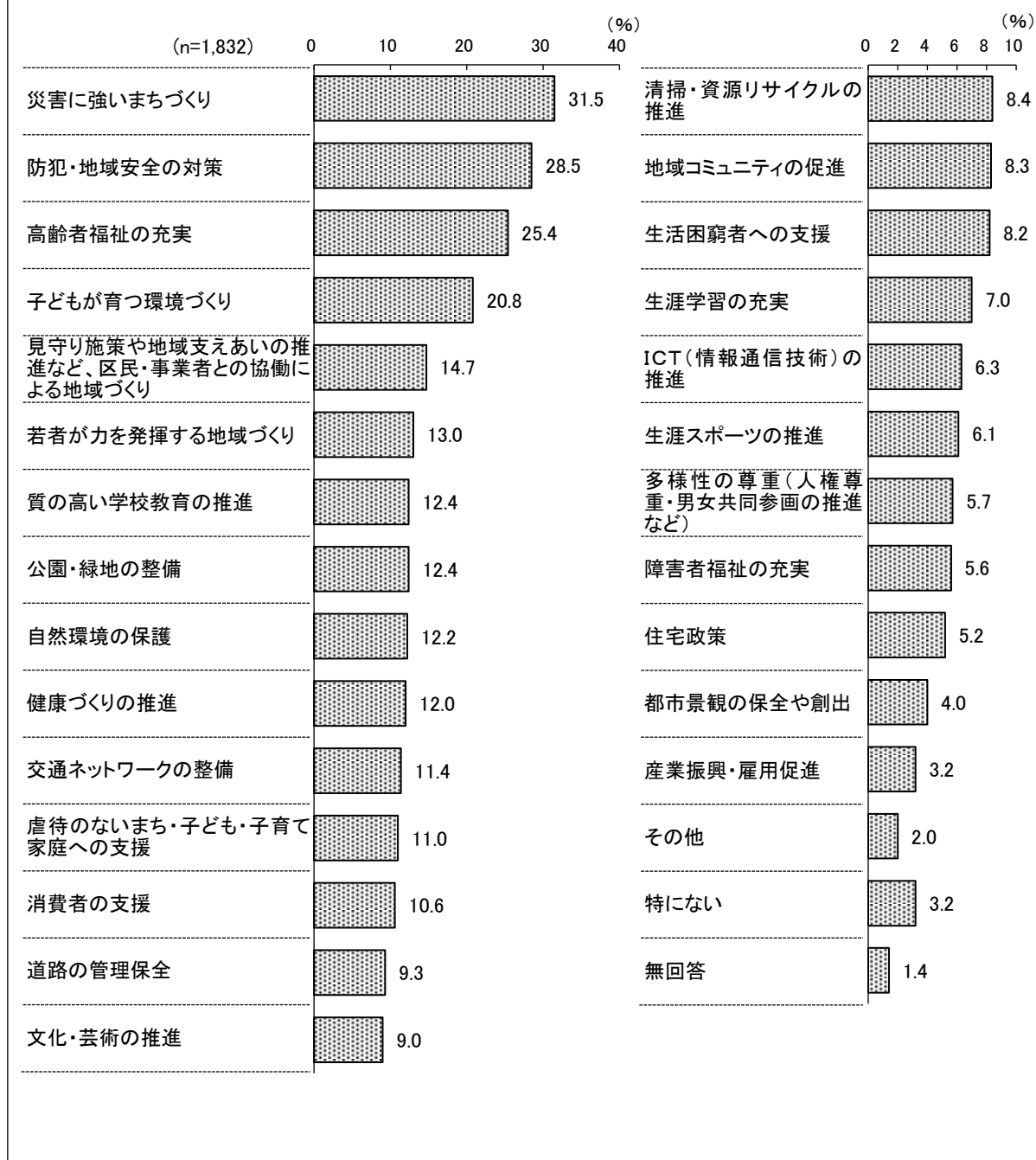
「道路が狭くて危険」が26.3%で最も高く、以下、「カラス等の鳥獣による被害」、「住宅が密集しすぎている」などと続いています。



## 2. 区政

### ●区が積極的に取り組むべき事業（複数回答）

「災害に強いまちづくり」が31.5%で最も高く、以下、「防犯・地域安全の対策」、「高齢者福祉の充実」などと続いています。

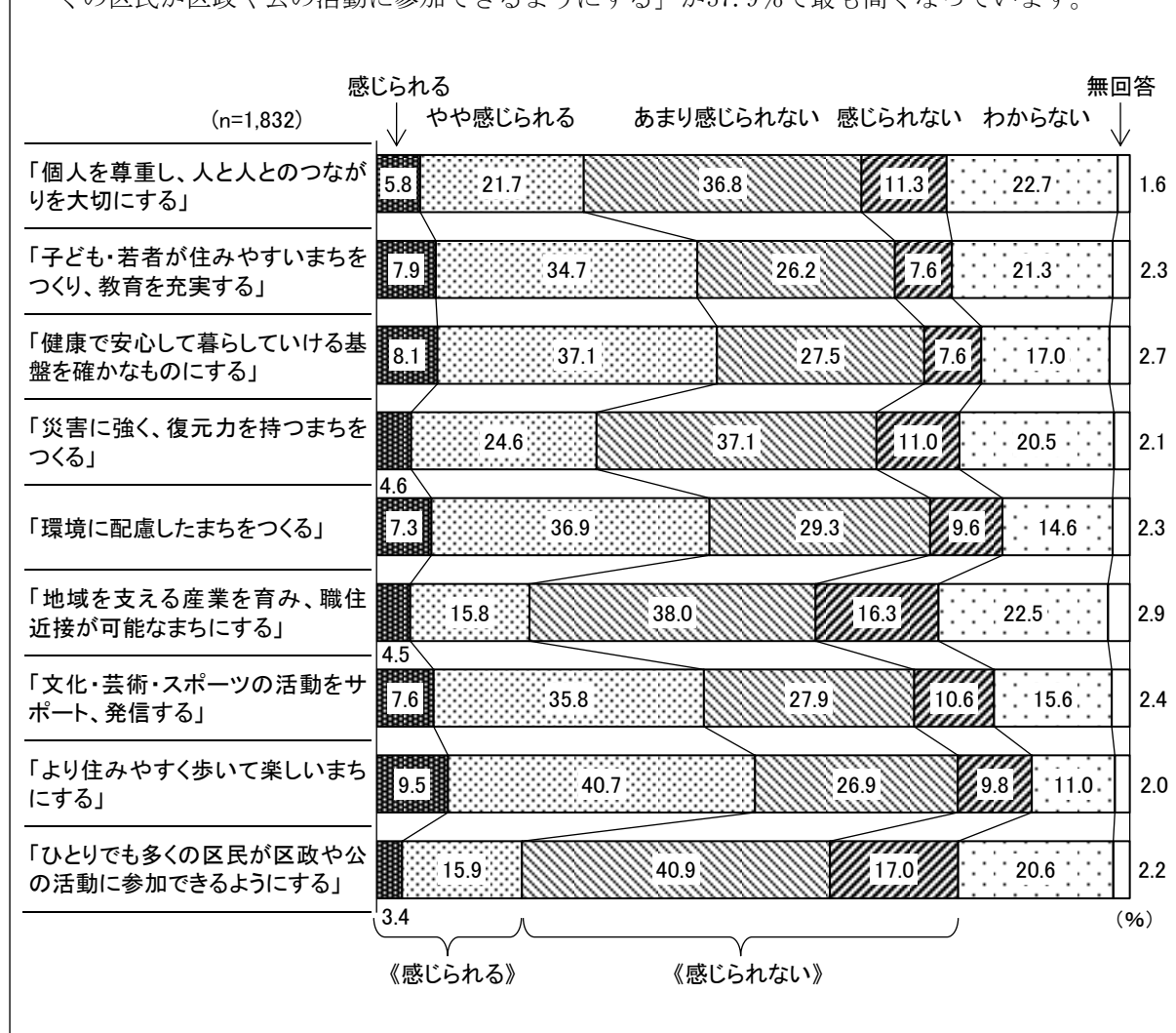




### 3. 区の基本構想

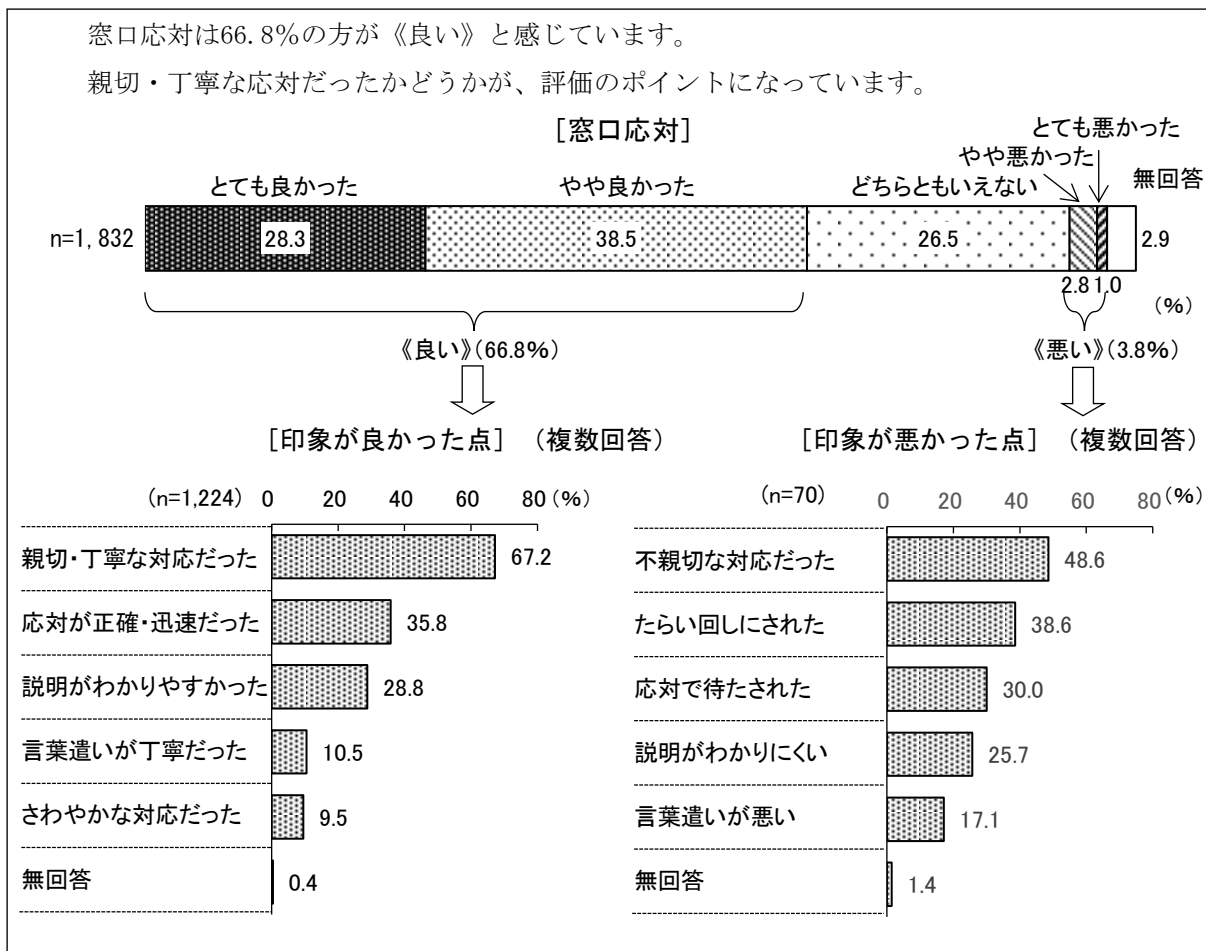
#### ● 「世田谷区基本構想」九つのビジョンの達成状況

「感じられる」と「やや感じられる」を合わせた《感じられる》は「より住みやすく歩いて楽しいまちにする」が50.2%で最も高く、以下、「健康で安心して暮らしていける基盤を確かなものにする」が45.2%、「環境に配慮したまちをつくる」が44.2%、などと続いています。一方、「あまり感じられない」と「感じられない」を合わせた《感じられない》は「ひとりでも多くの区民が区政や公の活動に参加できるようにする」が57.9%で最も高くなっています。

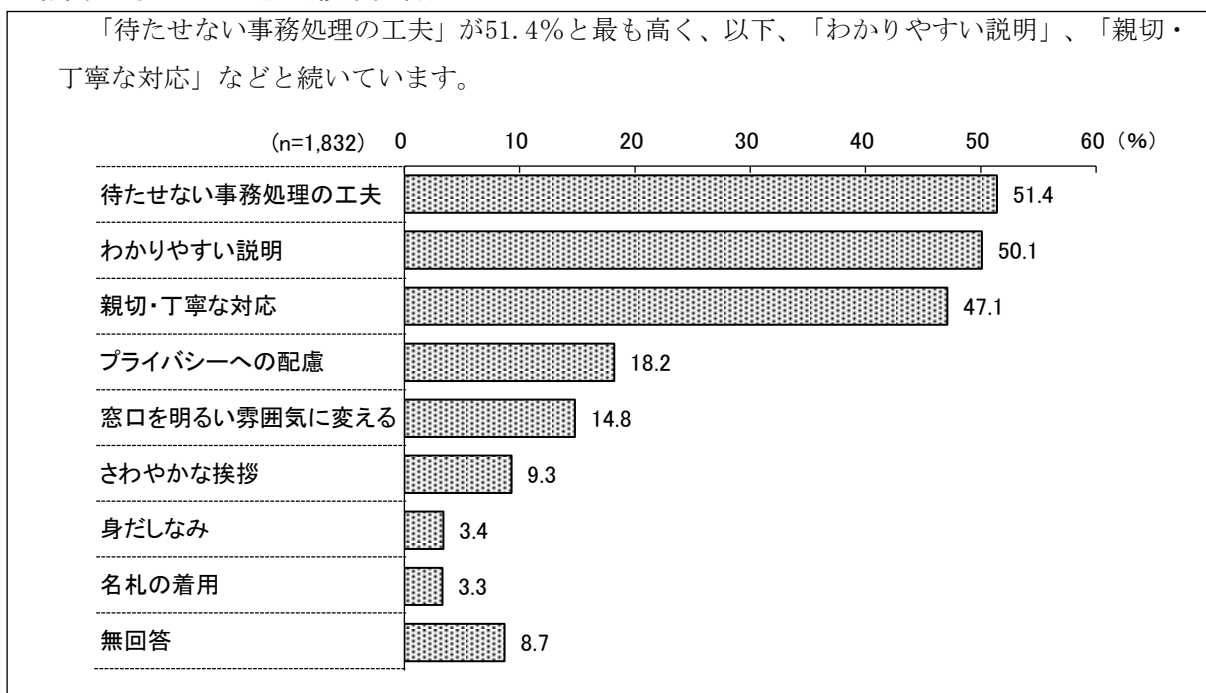


## 4. 職員応対

### ●窓口対応と印象が良かった点・悪かった点



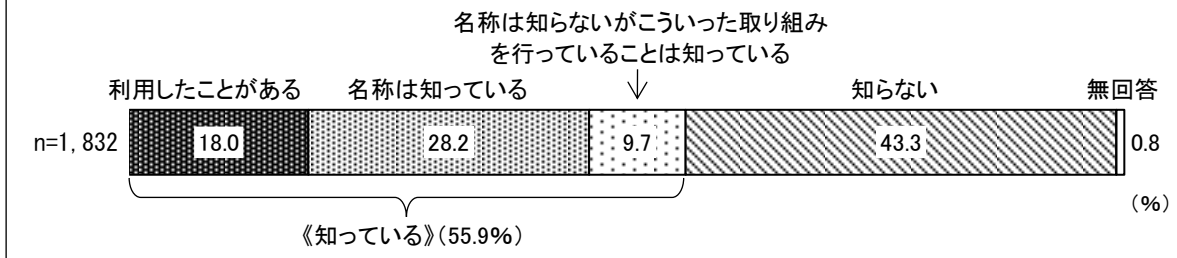
### ●職員応対での注意点 (複数回答)



## 5. 福祉と医療

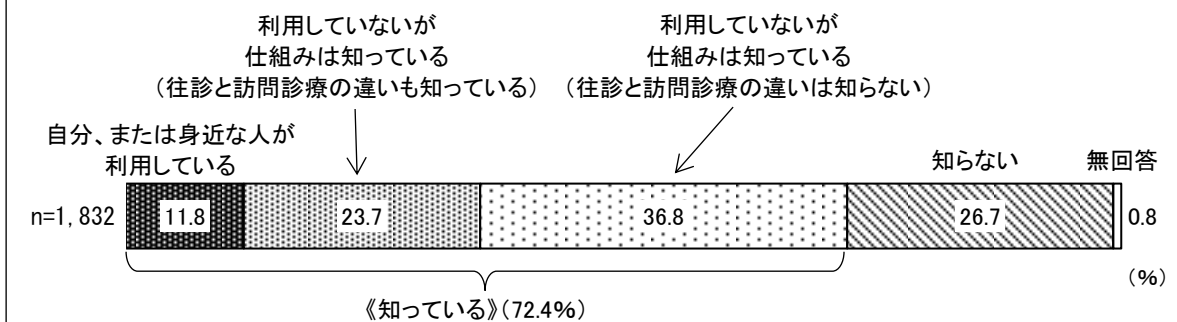
### ● 「福祉の相談窓口」の認知度

「福祉の相談窓口」の認知度を聞いたところ、「利用したことがある」(18.0%)、「名称は知っている」(28.2%)、「名称は知らないがこういった取り組みを行っていることは知っている」(9.7%)を合わせた《知っている》が55.9%、「知らない」が43.3%となっています。



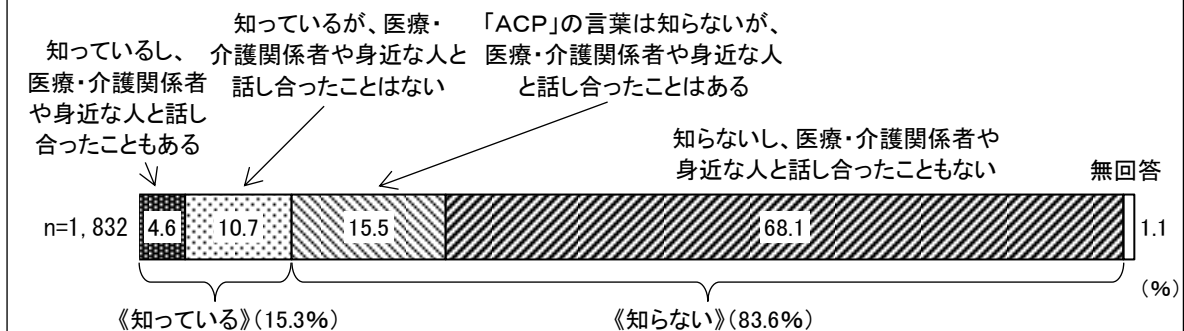
### ● 「在宅医療」の認知度

「在宅医療」の認知度を聞いたところ、「自分、または身近な人が利用している」(11.8%)、「利用していないが仕組みは知っている(往診と訪問診療の違いも知っている)」(23.7%)、「利用していないが仕組みは知っている(往診と訪問診療の違いは知らない)」(36.8%)を合わせた《知っている》が72.4%、「知らない」が26.7%となっています。



### ● 「ACP」(アドバンス・ケア・プランニング：人生会議)の認知度

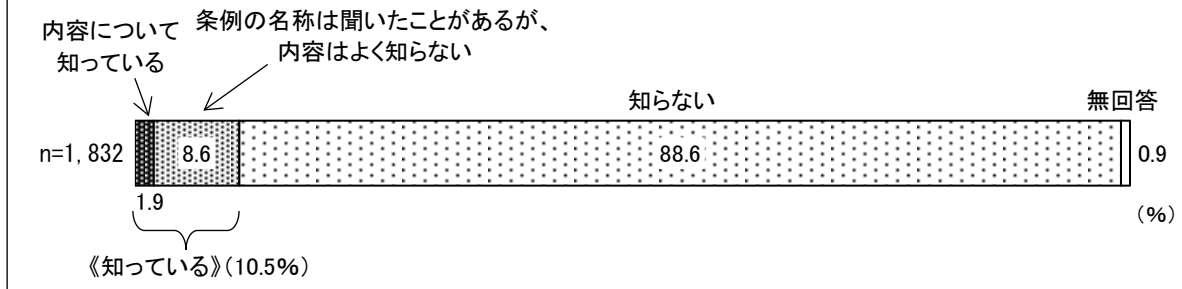
「ACP」(アドバンス・ケア・プランニング：人生会議)の認知度を聞いたところ、「知っているし、医療・介護関係者や身近な人と話し合ったこともある」(4.6%)と「知っているが、医療・介護関係者や身近な人と話し合ったことはない」(10.7%)を合わせた《知っている》が15.3%、「「ACP」の言葉は知らないが、医療・介護関係者や身近な人と話し合ったことはある」(15.5%)、「知らないし、医療・介護関係者や身近な人と話し合ったこともない」(68.1%)を合わせた《知らない》が83.6%となっています。



## 6. 認知症

### ●「世田谷区認知症とともに生きる希望条例」の認知度

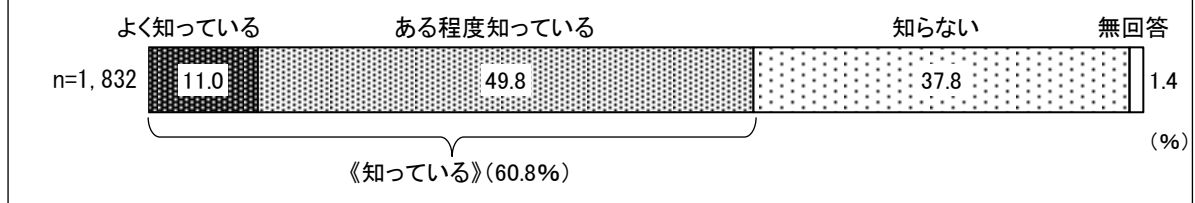
「世田谷区認知症とともに生きる希望条例」の認知度を聞いたところ、「内容について知っている」(1.9%)と「条例の名称は聞いたことがあるが、内容はよく知らない」(8.6%)を合わせた《知っている》が10.5%、「知らない」が88.6%となっています。



## 7. 障害者を支える取り組み

### ●手話が独自の言語であることの認知度

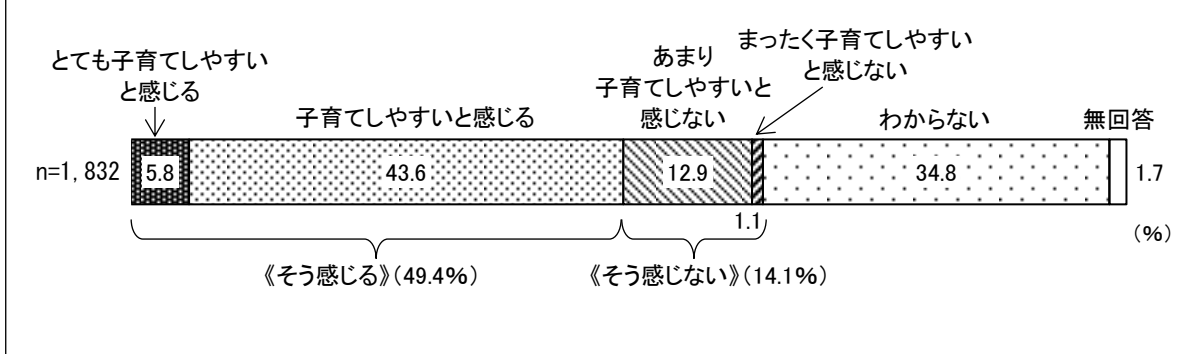
手話が独自の言語であることの認知度を聞いたところ、「よく知っている」(11.0%)と「ある程度知っている」(49.8%)を合わせた《知っている》が60.8%、「知らない」が37.8%となっています。



## 8. 子育て・子どもを取り巻く環境

### ●区の子育て環境

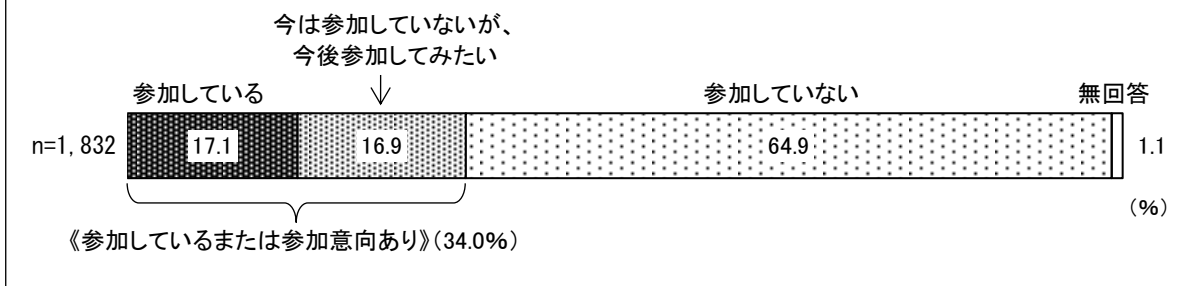
区の子育て環境について聞いたところ、「とても子育てしやすいと感じる」(5.8%)と「子育てしやすいと感じる」(43.6%)を合わせた《そう感じる》が49.4%、「あまり子育てしやすいと感じない」(12.9%)と「まったく子育てしやすいと感じない」(1.1%)を合わせた《そう感じない》が14.1%となっています。



## 9. 地域コミュニティ

### ●地域活動への参加経験・参加意向

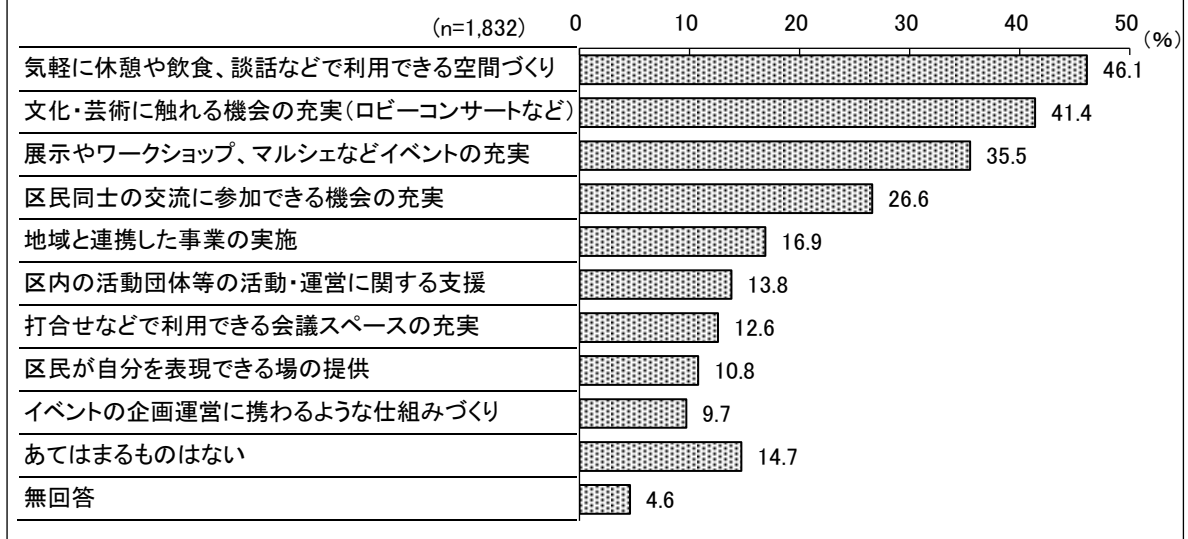
身近な地域の活動に参加しているかどうかを聞いたところ、「参加している」(17.1%)と「今は参加していないが、今後参加してみたい」(16.9%)を合わせた《参加しているまたは参加意向あり》が34.0%となっています。「参加していない」が64.9%となっています。



## 10. 区民交流スペース

### ●区民交流スペースに期待すること（複数回答）

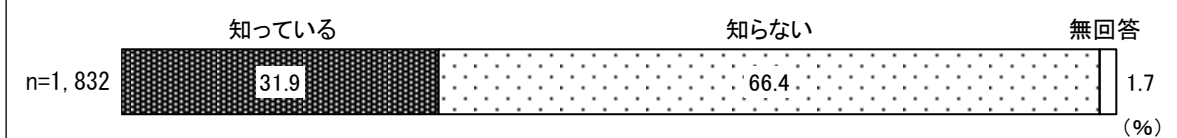
区民交流スペースに期待することを聞いたところ、「気軽に休憩や飲食、談話などで利用できる空間づくり」が46.1%で最も高く、以下、「文化・芸術に触れる機会の充実（ロビーコンサートなど）」、「展示やワークショップ、マルシェなどイベントの充実」、「区民同士の交流に参加できる機会の充実」などと続いています。



## 11. 災害時の備え

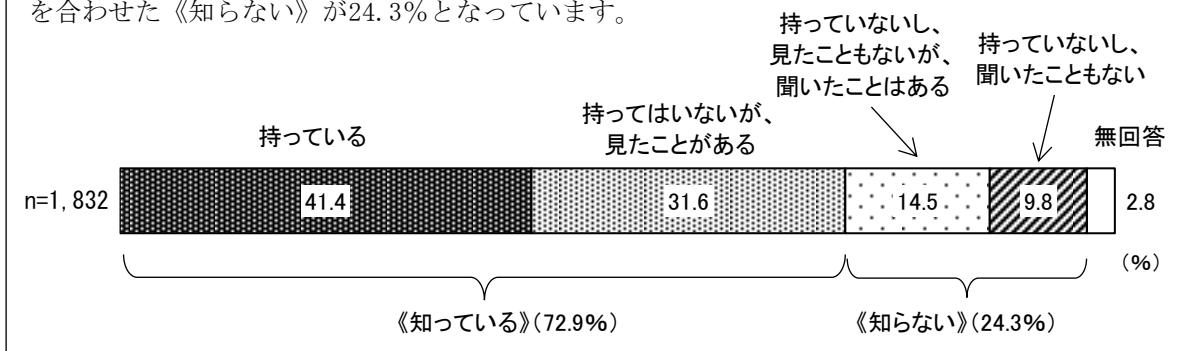
### ●在宅避難推奨の認知度

区が在宅避難を奨励していることの認知度を聞いたところ、「知っている」が31.9%、「知らない」が66.4%となっています。



### ●ハザードマップの認知度

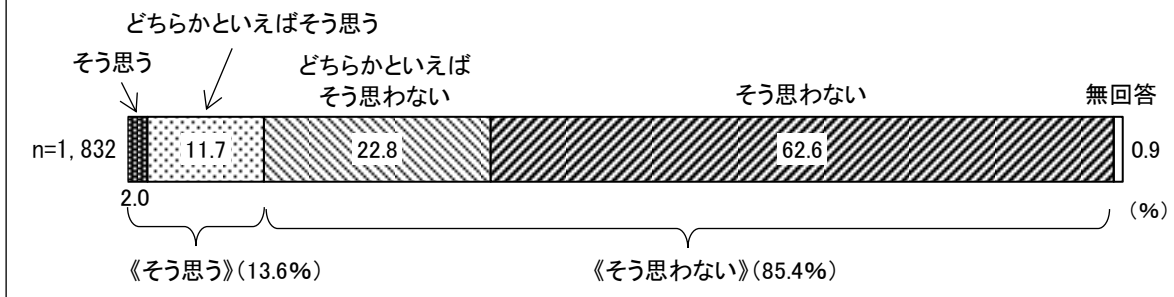
ハザードマップの認知度を聞いたところ、「持っている」(41.4%)と「持ってはいないが、見たことがある」(31.6%)を合わせた《知っている》が72.9%、「持っていないし、見たこともないが、聞いたことはある」(14.5%)と「持っていないし、聞いたこともない」(9.8%)を合わせた《知らない》が24.3%となっています。



## 12. 男女共同参画の推進

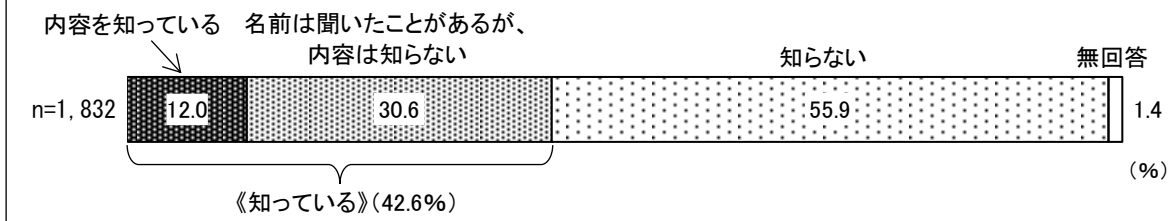
### ● 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

「男は仕事、女は家庭」という考え方について共感するか聞いたところ、《そう思う》が13.6%、《そう思わない》が85.4%となっています。



### ● 「世田谷区パートナーシップの宣誓の取組み」の認知度

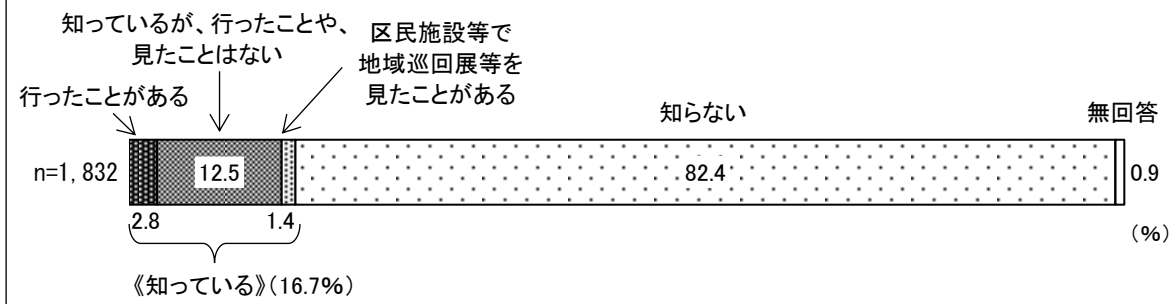
「世田谷区パートナーシップの宣誓の取組み」の認知度を聞いたところ、「知らない」が55.9%で最も高く、「内容を知っている」(12.0%)と「名前は聞いたことがあるが、内容は知らない」(30.6%)を合わせた《知っている》は42.6%となっています。



## 13. 平和資料館

### ● 区立平和資料館の認知度

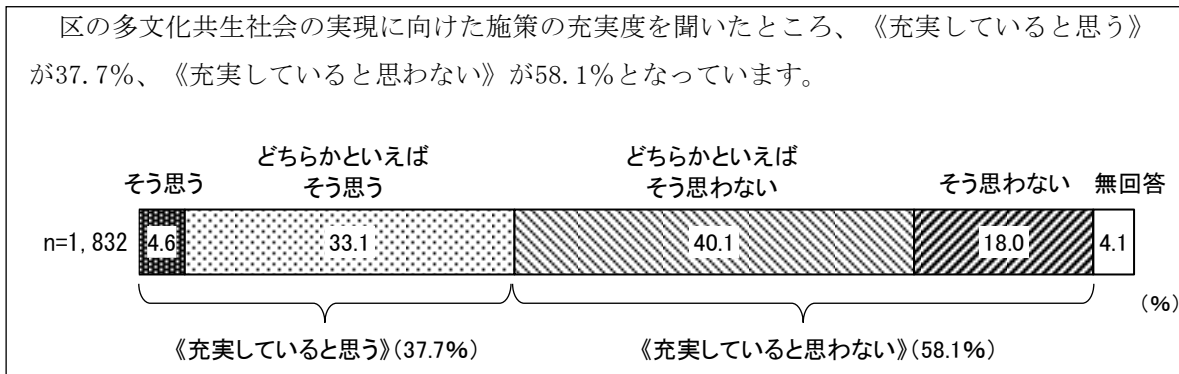
世田谷区立平和資料館の認知度を聞いたところ、「行ったことがある」(2.8%)、「知っているが、行ったことや、見たことはない」(12.5%)、「区民施設等で地域巡回展等を見たことがある」(1.4%)を合わせた《知っている》が16.7%、「知らない」が82.4%となっています。



## 14. 多文化共生

### ●区の多文化共生社会の実現に向けた施策の充実度

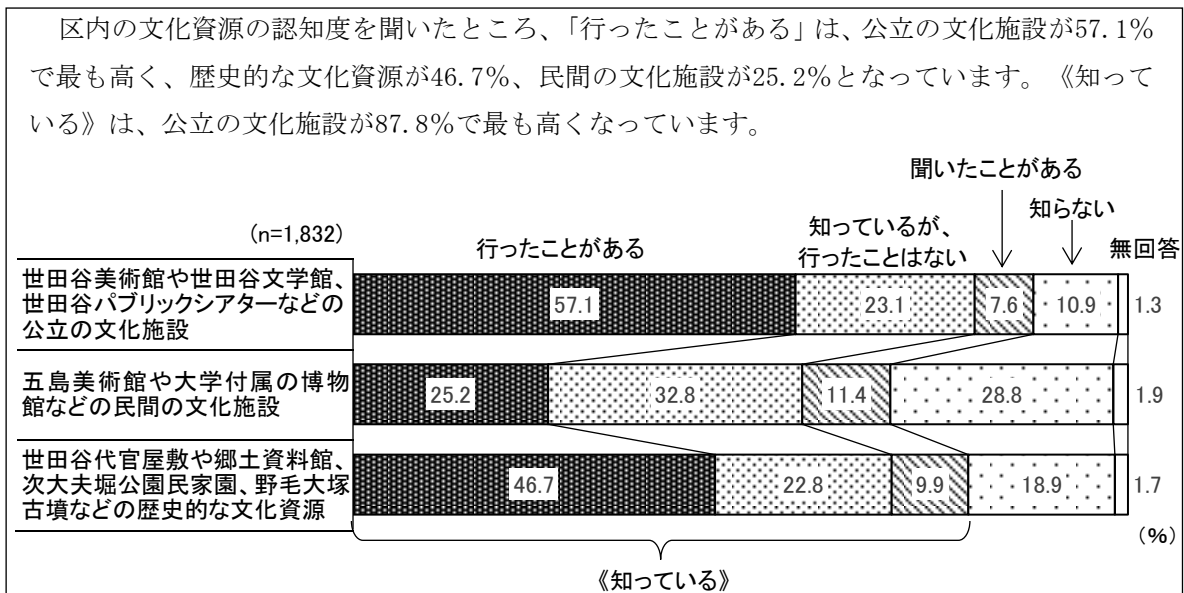
区の多文化共生社会の実現に向けた施策の充実度を聞いたところ、《充実していると思う》が37.7%、《充実していると思わない》が58.1%となっています。



## 15. 文化活動

### ●区内の文化資源の認知度

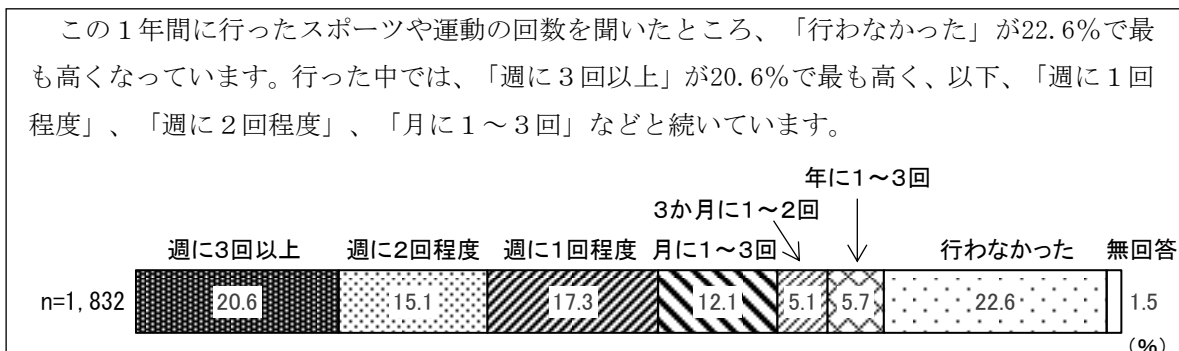
区内の文化資源の認知度を聞いたところ、「行ったことがある」は、公立の文化施設が57.1%で最も高く、歴史的な文化資源が46.7%、民間の文化施設が25.2%となっています。《知っている》は、公立の文化施設が87.8%で最も高くなっています。



## 16. スポーツ

### ●この1年間に行ったスポーツや運動の回数

この1年間に行ったスポーツや運動の回数を聞いたところ、「行わなかった」が22.6%で最も高くなっています。行った中では、「週に3回以上」が20.6%で最も高く、以下、「週に1回程度」、「週に2回程度」、「月に1~3回」などと続いています。

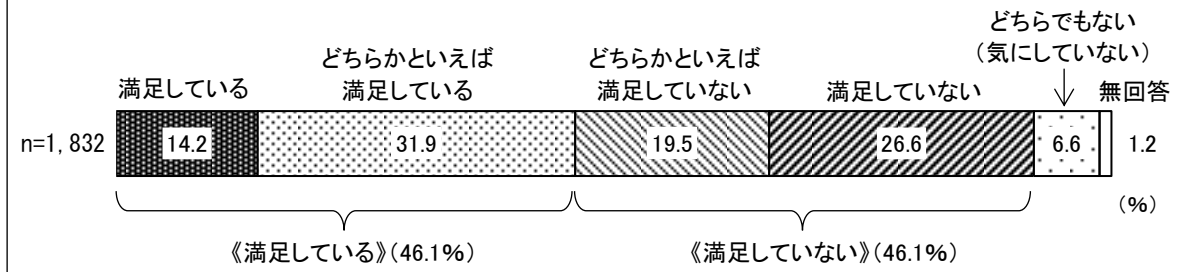




## 17. たばこマナー

### ●居住地におけるたばこマナーの満足度

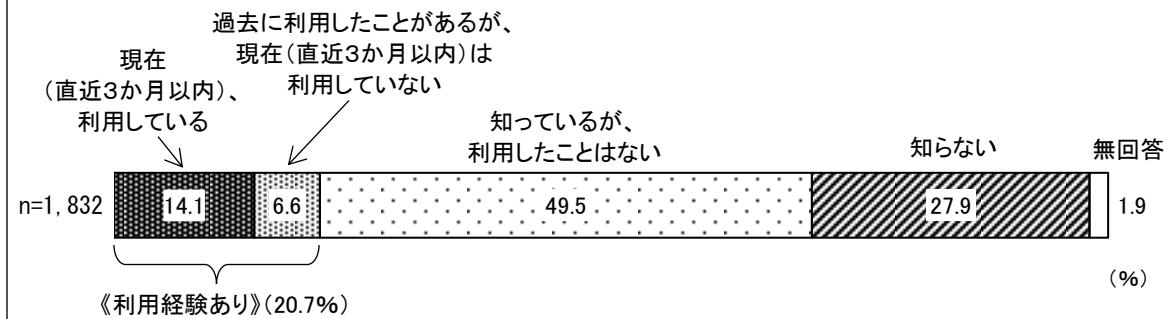
居住地におけるたばこマナーの満足度を聞いたところ、《満足している》、《満足していない》ともに46.1%となっています。



## 18. せたがや Pay

### ●せたがや Pay の認知・利用度

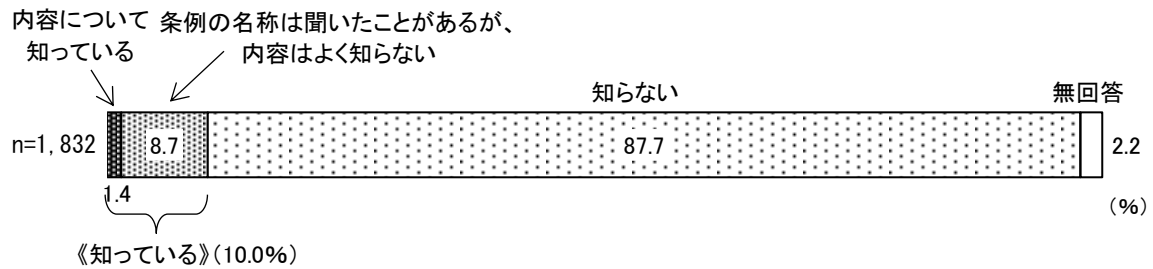
せたがやPayの認知・利用度を聞いたところ、「知っているが、利用したことはない」が49.5%で最も高くなっています。「現在(直近3か月以内)、利用している」(14.1%)と「過去に利用したことがあるが、現在(直近3か月以内)は利用していない」(6.6%)を合わせた《利用経験あり》は20.7%となっています。



## 19. 世田谷区公契約条例

### ● 「世田谷区公契約条例」の認知度

「世田谷区公契約条例」の認知度を聞いたところ、「知らない」が87.7%と多数を占めています。「内容について知っている」(1.4%)と「条例の名称は聞いたことがあるが、内容はよく知らない」(8.7%)を合わせた《知っている》は10.0%となっています。



### 世田谷区民意識調査2023 (概要版)

令和5年9月発行 (広報印刷物登録番号 No. 2178)

発行 世田谷区政策経営部広報広聴課  
東京都世田谷区世田谷4丁目21番27号  
電話：03(5432)2014  
ファクシミリ：03(5432)3001

実施 株式会社アダムスコミュニケーション  
東京都杉並区上高井戸1丁目8番17号 ブライトコアビル新館6階  
電話：03(6847)5757  
ファクシミリ：03(6847)5756

# 世田谷区民意識調査 2023

(令和5年5月実施)





## はじめに

世田谷区では、日頃より、様々な形で区民の皆様から区政に対するご意見・ご要望をお聴かせいただいています。

区民意識調査も、こうした広聴事業のひとつとして、区政に対するニーズや意識とその変化を把握するために毎年実施しているもので、今回で49回目となります。

本書は、本年実施した区民意識調査の結果を取りまとめたものです。今回の調査は、「定住性」「職員応対」など経年的な変化を把握するための調査項目に加え、「区の基本構想」「区民交流スペース」「せたがやPay」などに関する項目を調査対象といたしました。

この調査結果を今後の事業の見直しや政策立案の参考とさせていただくとともに、引き続き区民の皆様へのわかりやすい情報提供・情報発信に努め、行政への理解や関心を深めていただき、区民参加を更に推進してまいります。

最後に、調査実施にあたりまして、ご協力いただきました区民の皆様にご心からお礼を申し上げます。

令和5年9月

世田谷区



## 目 次

調査概要	1
1. 調査目的	3
2. 調査項目	3
3. 調査設計	3
4. 標本設計	3
5. 回収結果	6
6. この報告書のみかた	7
7. 標本誤差	7
標本構成	9
1. 標本構成	11
質問と回答	15
調査結果	37
1. 定住性	39
(1) 居住年数	39
(2) 暮らしの満足度	43
(3) 住みやすさ	49
(4) 定住意向	54
(5) 定住意向理由	60
(6) 非定住意向理由	65
(7) 地域における日常生活での困りごと	67
2. 区政	72
(1) 区が積極的に取り組むべき事業	72
3. 区の基本構想	76
(1) 「世田谷区基本構想」九つのビジョンの達成状況	76
4. 職員対応	86
(1) 窓口対応	86
(2) 印象が良かった点	89
(3) 印象が悪かった点	92
(4) 職員対応での注意点	94

5. 福祉と医療	97
(1) 「福祉の相談窓口」の認知度	97
(2) 介護や医療必要時の居住意向	100
(3) 「在宅医療」の認知度	103
(4) 「ACP」(アドバンス・ケア・プランニング：人生会議)の認知度	106
(5) 「うめとびあ」の利用または関心のある事業	109
6. 認知症	112
(1) 「世田谷区認知症とともに生きる希望条例」の認知度	112
(2) 認知症についての印象	115
7. 障害者を支える取り組み	118
(1) 手話が独自の言語であることの認知度	118
(2) 手話についての考え	120
8. 子育て・子どもを取り巻く環境	122
(1) 区の子育て環境	122
9. 地域コミュニティ	126
(1) 地域活動への参加経験・参加意向	126
10. 区民交流スペース	130
(1) 区民交流スペース開設時期の認知度	130
(2) 区民交流スペースに期待すること	133
11. 災害時の備え	135
(1) 防災への対処	135
(2) 在宅避難推奨の認知度	143
(3) 水や食料の備蓄について	146
(4) 非常用電力の備蓄について	149
(5) ハザードマップの認知度	152
(6) ハザードマップの活用状況	156
(7) Jアラート発信時の避難行動の認知度	160



12. 男女共同参画の推進	162
(1) 「男は仕事、女は家庭」という考え方について	162
(2) 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度	165
(3) 性的マイノリティという言葉の認知度	168
(4) 性的マイノリティの人権を守る啓発や施策の必要性	170
(5) 「世田谷区パートナーシップの宣誓の取組み」の認知度	172
13. 平和資料館	174
(1) 区立平和資料館の認知度	174
14. 多文化共生	177
(1) 区が多文化共生社会の実現に向けた施策の充実度	177
(2) 外国人の地域活動への参加の進捗状況	180
(3) 区内の外国人への誤解・偏見の解消状況	183
15. 文化活動	186
(1) 区内の文化資源の認知度	186
16. スポーツ	191
(1) この1年間に行ったスポーツや運動の回数	191
(2) この1年間のスポーツの観戦状況	195
(3) この1年間に参加したスポーツを支える活動	197
(4) 今後のスポーツ施設整備について	199
17. たばこマナー	202
(1) 居住地域におけるたばこマナーの満足度	202
18. せたがやPay	205
(1) せたがやPayの認知・利用度	205
(2) せたがやPayを利用しない理由	208
19. 世田谷区公契約条例	210
(1) 「世田谷区公契約条例」の認知度	210
(2) 「世田谷区公契約条例」の認知経路	212



## 調 査 概 要



## 1. 調査目的

この調査は、区民が区政に対してどのような意見・要望を持っているかを把握し、今後の区政を進めていくうえでの基礎資料とすることを目的としています。

## 2. 調査項目

- |                    |                |
|--------------------|----------------|
| (1) 定住性            | (11) 災害時の備え    |
| (2) 区政             | (12) 男女共同参画の推進 |
| (3) 区の基本構想         | (13) 平和資料館     |
| (4) 職員対応           | (14) 多文化共生     |
| (5) 福祉と医療          | (15) 文化活動      |
| (6) 認知症            | (16) スポーツ      |
| (7) 障害者を支える取り組み    | (17) たばこマナー    |
| (8) 子育て・子どもを取り巻く環境 | (18) せたがやPay   |
| (9) 地域コミュニティ       | (19) 世田谷区公契約条例 |
| (10) 区民交流スペース      |                |

## 3. 調査設計

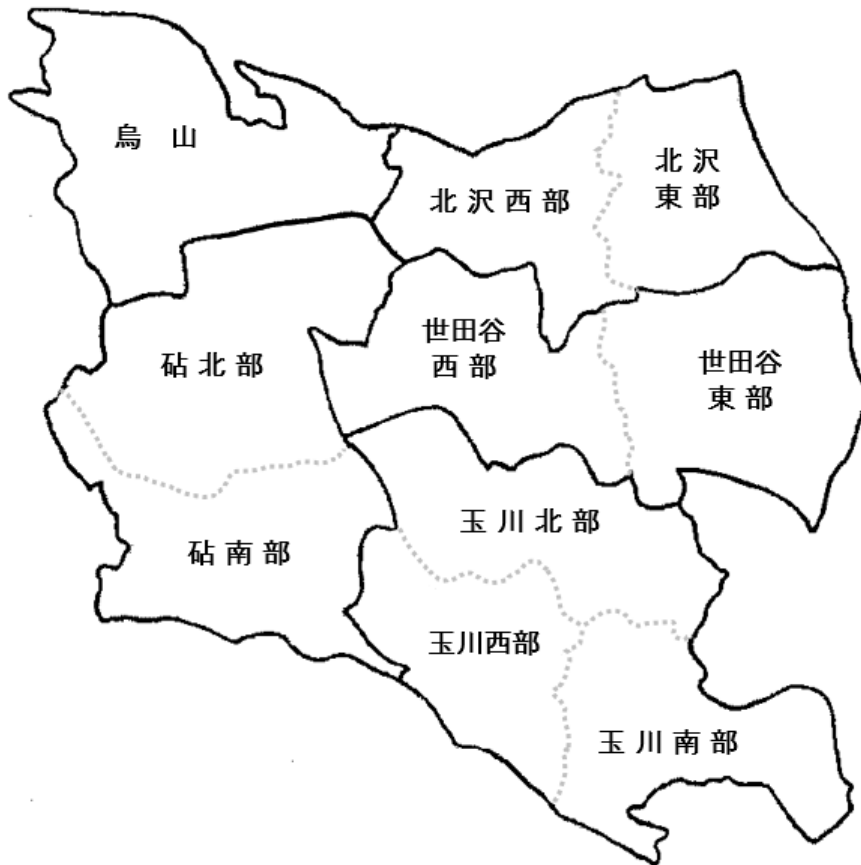
- |          |                           |
|----------|---------------------------|
| (1) 調査対象 | 世田谷区在住の満18歳以上の男女          |
| (2) 対象数  | 4,000人（内訳／3,882人、外国籍118人） |
| (3) 抽出方法 | 層化二段無作為抽出法                |
| (4) 調査方法 | 郵送配布・回収またはインターネットによる回答    |
| (5) 調査期間 | 令和5年5月19日～6月9日            |
| (6) 調査機関 | 株式会社アダムスコミュニケーション         |

## 4. 標本設計

- |           |                  |
|-----------|------------------|
| (1) 母集団   | 世田谷区在住の満18歳以上の男女 |
| (2) 対象数   | 4,000人           |
| (3) 調査地点数 | 200地点            |
| (4) 抽出方法  | 層化二段無作為抽出法       |

### 【層 化】

世田谷区内を町丁目単位として、次の10地域に分類しそれぞれを層として計10層とした。



### 【標本数の配分】

各地域（層）における18歳以上の人口数（令和5年4月1日現在）により、4,000の標本数を配分した。

### 【抽 出】

① 調査地点の抽出数については、1調査地点の標本数が20になるように、各地域（層）に当てられた標本数より算出し、決定した。

② 調査地点は、各地域（層）ごとに、

$$\frac{\text{地域（層）における人口数}}{\text{地域（層）で算出された調査地点数}} = \text{抽出間隔}$$

を算出し、等間隔抽出法によって、調査地点となる対象者抽出のための町丁目における起算番号を算出した。

③ 対象者の抽出の名簿として、住民基本台帳を使用した。抽出された調査地点における対象者の抽出は、町丁目指定された起算番号目の人を第1番目の抽出対象とし、以下一定の抽出間隔で指定の対象数20を系統的に抽出した。

## 地域別町丁名一覧表

地域	町丁目	地域	町丁目			
世田谷東部	池尻	1～4丁目	玉川南部	奥沢	1～8丁目	
	下馬	1～6丁目		東玉川	1～2丁目	
	三宿	1～2丁目		玉川田園調布	1～2丁目	
	太子堂	1～5丁目		等々力	1～8丁目	
	三軒茶屋	1～2丁目		尾山台	1～3丁目	
	野沢	1～4丁目		玉堤	1～2丁目	
	若林	1～5丁目		玉川西部	中町	1～5丁目
	上馬	1～5丁目			野毛	1～3丁目
	駒沢	1～2丁目			瀬田	1～5丁目
		上野毛	1～4丁目			
世田谷西部	世田谷	1～4丁目	玉川	1～4丁目		
	弦巻	1～5丁目	砧北部	船橋	1～7丁目	
	宮坂	1～3丁目		千歳台	1～6丁目	
	桜	1～3丁目		祖師谷	1～6丁目	
	経堂	1～5丁目		砧	1～8丁目	
	桜丘	1～5丁目		成城	1～9丁目	
北沢東部	北沢	1～5丁目	砧南部	大蔵	1～6丁目	
	代沢	1～5丁目		砧公園		
	大原	1～2丁目		岡本	1～3丁目	
	羽根木	1～2丁目		鎌田	1～4丁目	
	代田	1～6丁目		喜多見	1～9丁目	
北沢西部	松原	1～6丁目	宇奈根	1～3丁目		
	梅丘	1～3丁目	烏山	八幡山	1～3丁目	
	豪徳寺	1～2丁目		南烏山	1～6丁目	
	赤堤	1～5丁目		粕谷	1～4丁目	
	桜上水	1～5丁目		北烏山	1～9丁目	
		給田		1～5丁目		
玉川北部	駒沢公園		上祖師谷	1～7丁目		
	駒沢	3～5丁目	上北沢	1～5丁目		
	新町	1～3丁目				
	深沢	1～8丁目				
	桜新町	1～2丁目				
	用賀	1～4丁目				
	上用賀	1～6丁目				
	玉川台	1～2丁目				

## 5. 回収結果

(1) 有効回収数 1,832人 (内訳/日本国籍 1,797人、外国籍 35人)

(2) 有効回収率 45.8%

(内訳/郵送回収 1,160通・63.3%、インターネット回収 672通・36.7%)

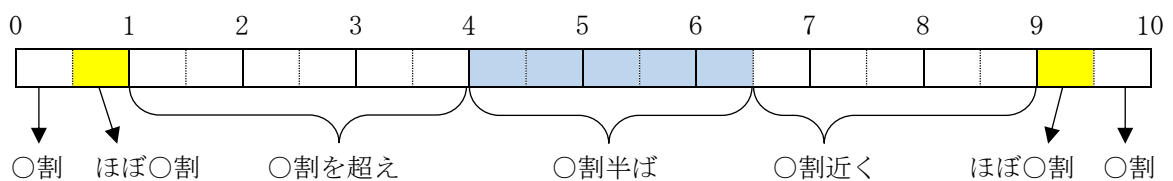
回収結果内訳 (人口は令和5年4月1日現在)

		標本数A	調査地点数	18歳以上の人口数(母集団)	回収数B	回収率 C=B/A	
全体		4,000	200	790,609	1,832	45.8%	
地区	世田谷	東部	660	33	130,224	274	41.5%
		西部	460	23	90,713	225	48.9%
	北沢	東部	340	17	66,061	154	45.3%
		西部	360	18	69,909	145	40.3%
	玉川	北部	360	18	72,902	151	41.9%
		南部	340	17	68,016	166	48.8%
		西部	260	13	51,766	124	47.7%
	砧	北部	500	25	96,830	220	44.0%
		南部	200	10	40,807	93	46.5%
	烏山		520	26	103,381	250	48.1%
無回答		-	-	-	30	-	
性別×年齢	男性	計	1,845	-	369,110	703	38.1%
		10歳代・20歳代	322	-	65,052	59	18.3%
		30歳代	320	-	59,453	80	25.0%
		40歳代	358	-	71,174	119	33.2%
		50歳代	331	-	69,385	135	40.8%
		60歳代	227	-	44,850	131	57.7%
		70歳代	176	-	36,136	109	61.9%
		80歳以上	111	-	23,060	70	63.1%
	無回答	-	-	-	0	-	
	女性	計	2,155	-	421,499	1,077	50.0%
		10歳代・20歳代	325	-	68,652	77	23.7%
		30歳代	350	-	65,581	140	40.0%
		40歳代	402	-	78,146	191	47.5%
		50歳代	361	-	74,498	220	60.9%
		60歳代	269	-	46,916	176	65.4%
		70歳代	223	-	44,203	155	69.5%
		80歳以上	225	-	43,503	116	51.6%
無回答	-	-	-	2	-		
その他		-	-	-	10	-	
無回答		-	-	-	42	-	



## 6. この報告書のみかた

- (1) 百分比は回答者数（該当設問においては該当者数）を100%として算出し、本文及び図表の数字はすべて小数点第2位を四捨五入してある。したがって、比率の合計が必ずしも100.0%にならない場合がある。同様に、複数の回答の合計値も図表の数字が一致しない場合がある。
- (2) 設問中に特に指示がない限り、回答は1つである。
- (3) 複数回答の設問は、すべての比率の合計が100.0%を超えることがある。
- (4) 設問に対して無回答があったクロス集計による分析では、各回答者数の合計が全体の回答者数と一致していない。
- (5) 基数が30に満たないデータについては参考値とする。
- (6) 数値を考察するにあたり、割合の表現は以下のとおりとしている。



(例：73.5%⇒7割を超え、38.3%⇒4割近く、59.5%⇒6割となる)

## 7. 標本誤差

下記は二段抽出の標本誤差算出の数式である。

$$(\text{標本誤差}) \quad b = 2 \sqrt{2 \times \frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

<p>N=母集団（世田谷区全体）  n=比率算出の基礎（サンプル数）  p=回答比率</p>
--

Nはnより非常に大きいため、 $\frac{N-n}{N-1} \doteq 1$ とみなすことができるので、標準誤差の範囲は、次の

標本誤差早見表のとおり求められる。

標本誤差早見表

基数(n)		回答比率(p)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後	
総数		1,832	± 2.0%	± 2.6%	± 3.0%	± 3.2%	± 3.3%	
地域	世田谷	東部	274	± 5.1%	± 6.8%	± 7.8%	± 8.4%	± 8.5%
		西部	225	± 5.7%	± 7.5%	± 8.6%	± 9.2%	± 9.4%
	北沢	東部	154	± 6.8%	± 9.1%	± 10.4%	± 11.2%	± 11.4%
		西部	145	± 7.0%	± 9.4%	± 10.8%	± 11.5%	± 11.7%
	玉川	北部	151	± 6.9%	± 9.2%	± 10.5%	± 11.3%	± 11.5%
		南部	166	± 6.6%	± 8.8%	± 10.1%	± 10.8%	± 11.0%
		西部	124	± 7.6%	± 10.2%	± 11.6%	± 12.4%	± 12.7%
	砧	北部	220	± 5.7%	± 7.6%	± 8.7%	± 9.3%	± 9.5%
		南部	93	± 8.8%	± 11.7%	± 13.4%	± 14.4%	± 14.7%
	烏山		250	± 5.4%	± 7.2%	± 8.2%	± 8.8%	± 8.9%
性別	男性	703	± 3.2%	± 4.3%	± 4.9%	± 5.2%	± 5.3%	
	女性	1,077	± 2.6%	± 3.4%	± 3.9%	± 4.2%	± 4.3%	
年代	10・20歳代	138	± 7.2%	± 9.6%	± 11.0%	± 11.8%	± 12.0%	
	30歳代	221	± 5.7%	± 7.6%	± 8.7%	± 9.3%	± 9.5%	
	40歳代	313	± 4.8%	± 6.4%	± 7.3%	± 7.8%	± 8.0%	
	50歳代	360	± 4.5%	± 6.0%	± 6.8%	± 7.3%	± 7.5%	
	60歳代	311	± 4.8%	± 6.4%	± 7.3%	± 7.9%	± 8.0%	
	70歳代	265	± 5.2%	± 6.9%	± 8.0%	± 8.5%	± 8.7%	
	80歳以上	194	± 6.1%	± 8.1%	± 9.3%	± 9.9%	± 10.2%	

基数(n)		回答比率(p)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
n = 2,500 の場合		(2,500)	± 1.7%	± 2.3%	± 2.6%	± 2.8%	± 2.8%
n = 2,000 の場合		(2,000)	± 1.9%	± 2.5%	± 2.9%	± 3.1%	± 3.2%
n = 1,500 の場合		(1,500)	± 2.2%	± 2.9%	± 3.3%	± 3.6%	± 3.7%
n = 1,000 の場合		(1,000)	± 2.7%	± 3.6%	± 4.1%	± 4.4%	± 4.5%
n = 800 の場合		(800)	± 3.0%	± 4.0%	± 4.6%	± 4.9%	± 5.0%
n = 600 の場合		(600)	± 3.5%	± 4.6%	± 5.3%	± 5.7%	± 5.8%
n = 400 の場合		(400)	± 4.2%	± 5.7%	± 6.5%	± 6.9%	± 7.1%
n = 200 の場合		(200)	± 6.0%	± 8.0%	± 9.2%	± 9.8%	± 10.0%
n = 100 の場合		(100)	± 8.5%	± 11.3%	± 13.0%	± 13.9%	± 14.1%

(注) この表の見方は次のとおりである。

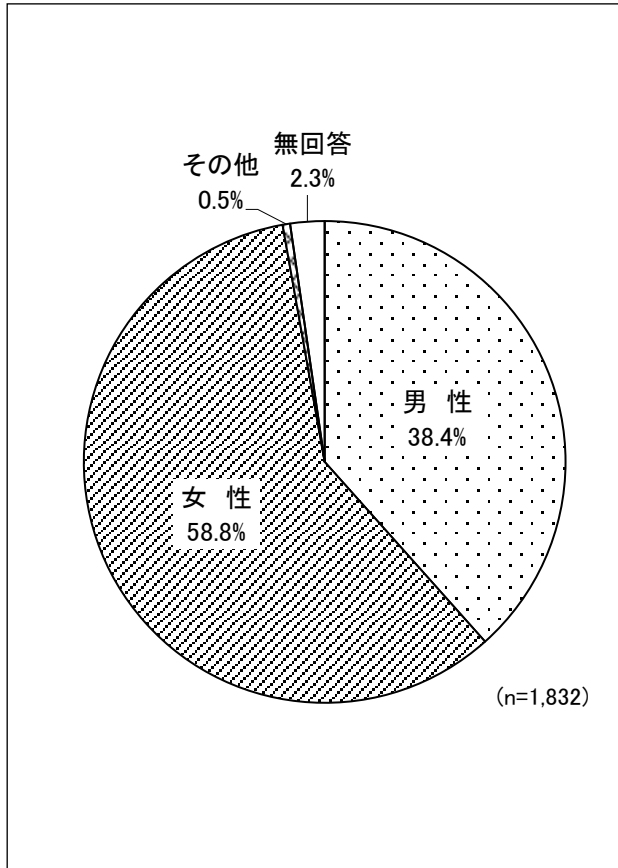
「ある設問の回答数が1,832人であり、その設問の選択肢の回答比率が40.0%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高で±3.2%である。」

## 標 本 構 成

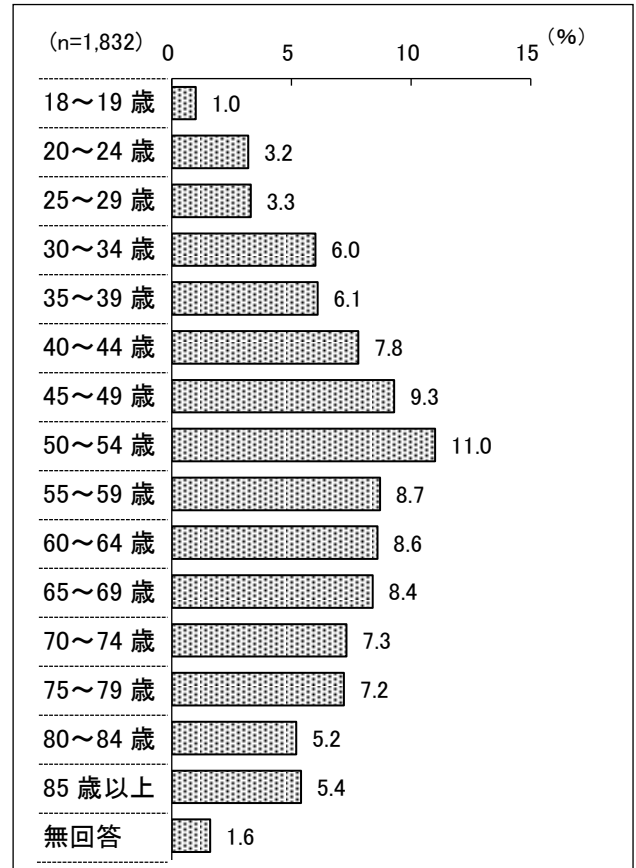


## 1. 標本構成

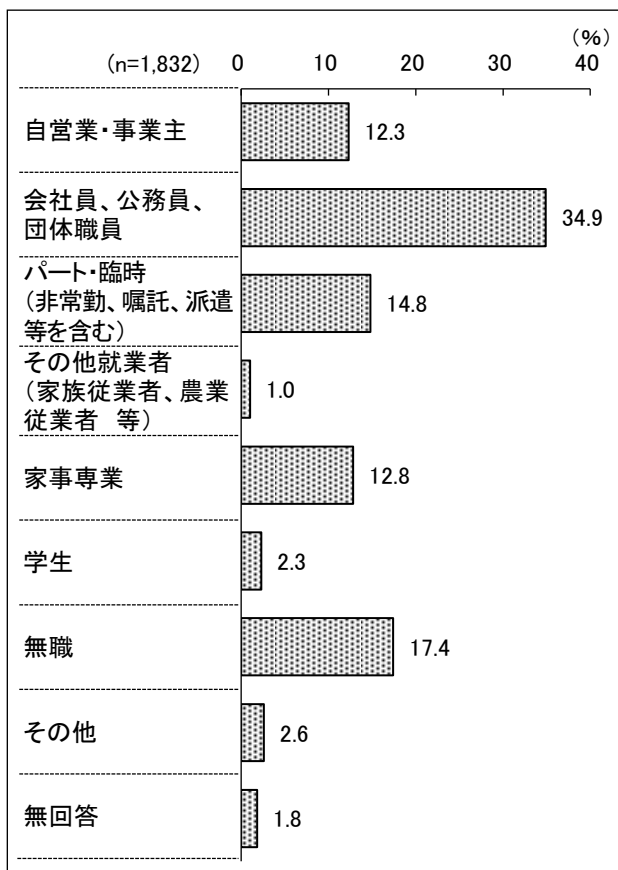
### (1) 性別



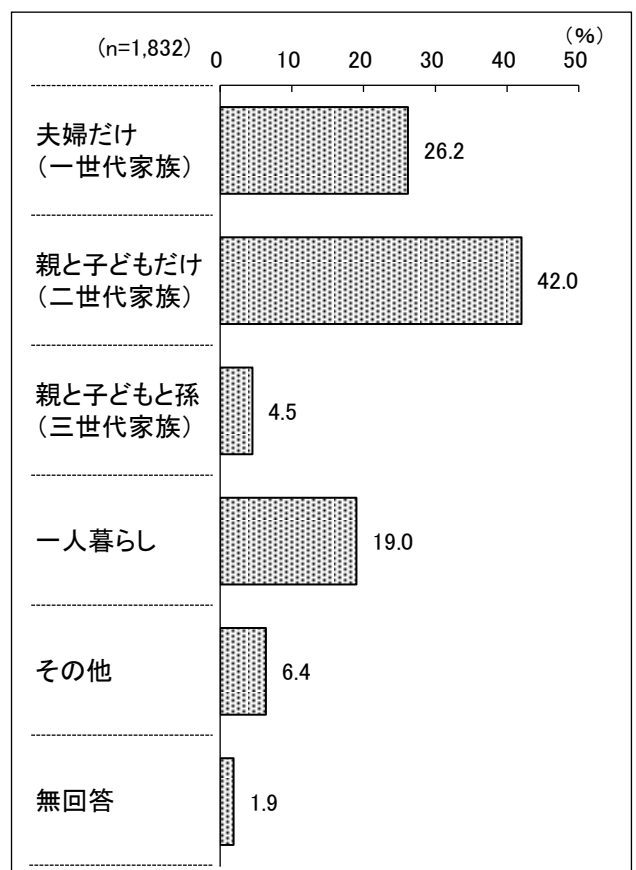
### (2) 年齢



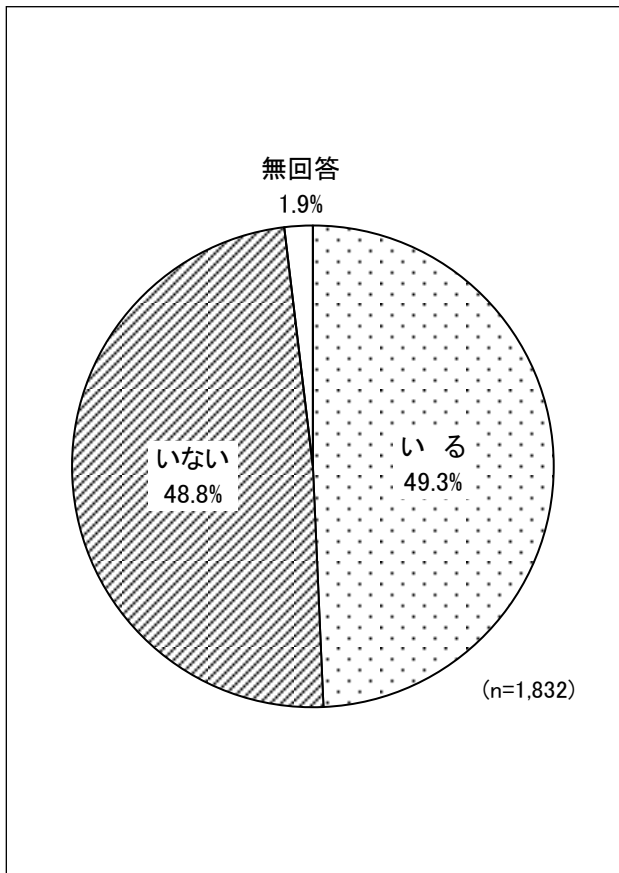
### (3) 職業



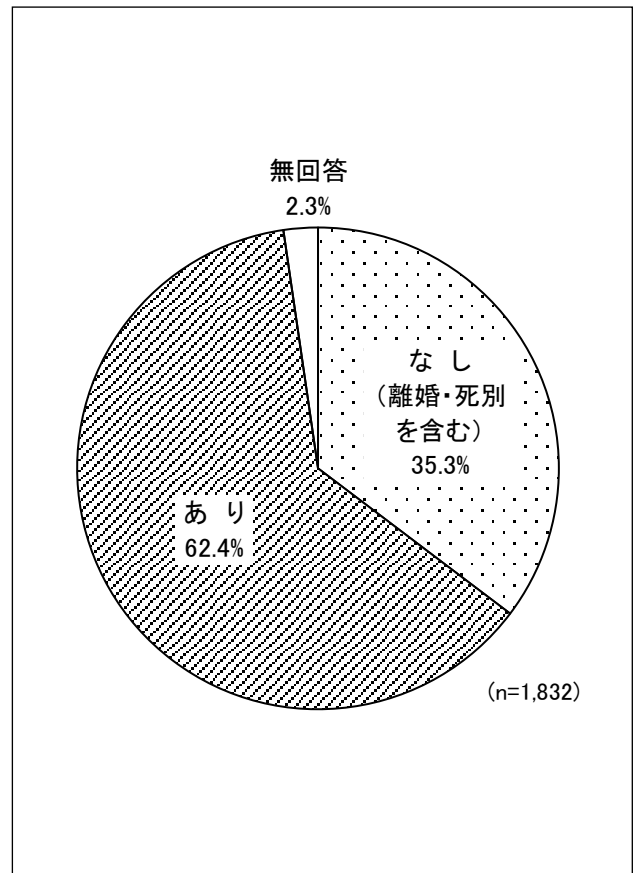
### (4) 家族構成



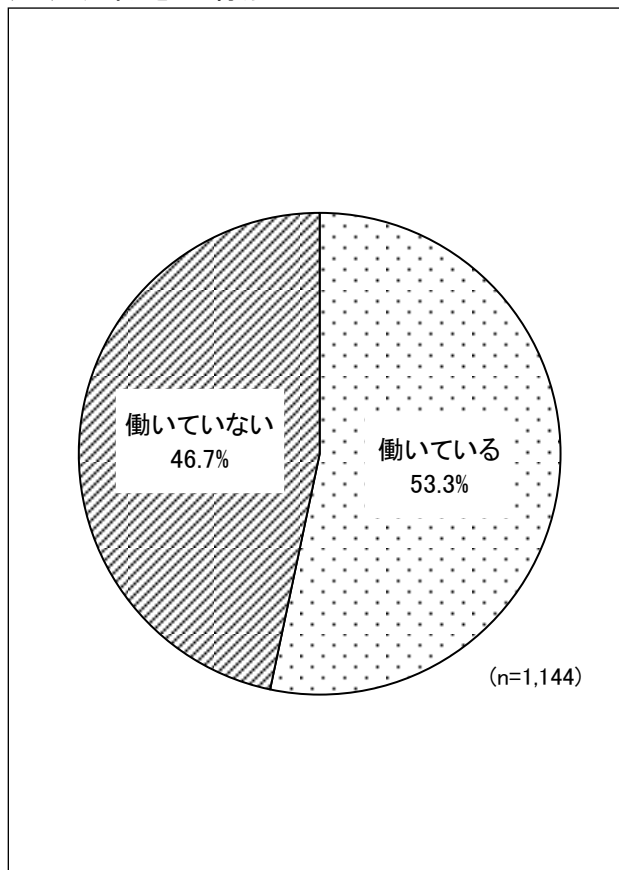
(5) 同居家族における高齢者の有無



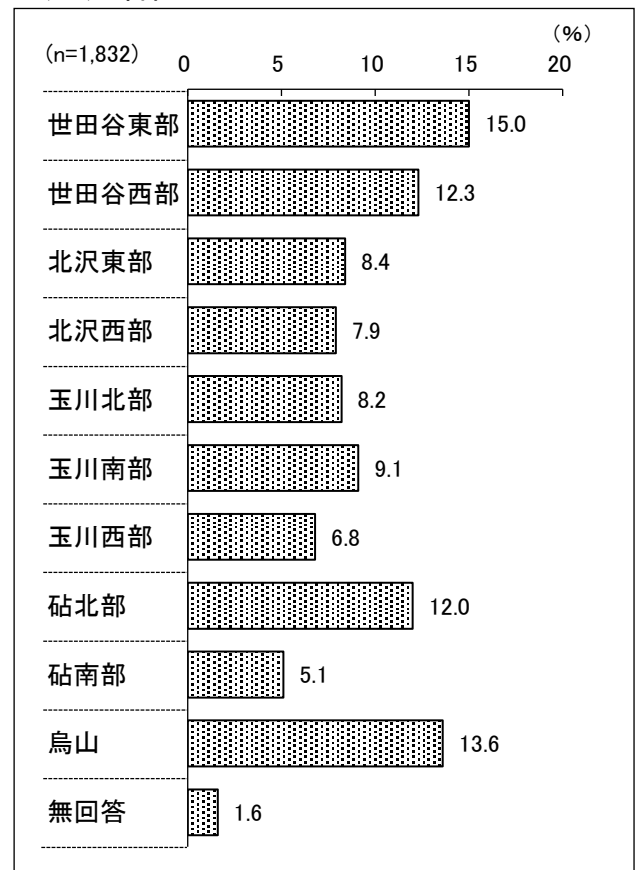
(6) 配偶者の有無



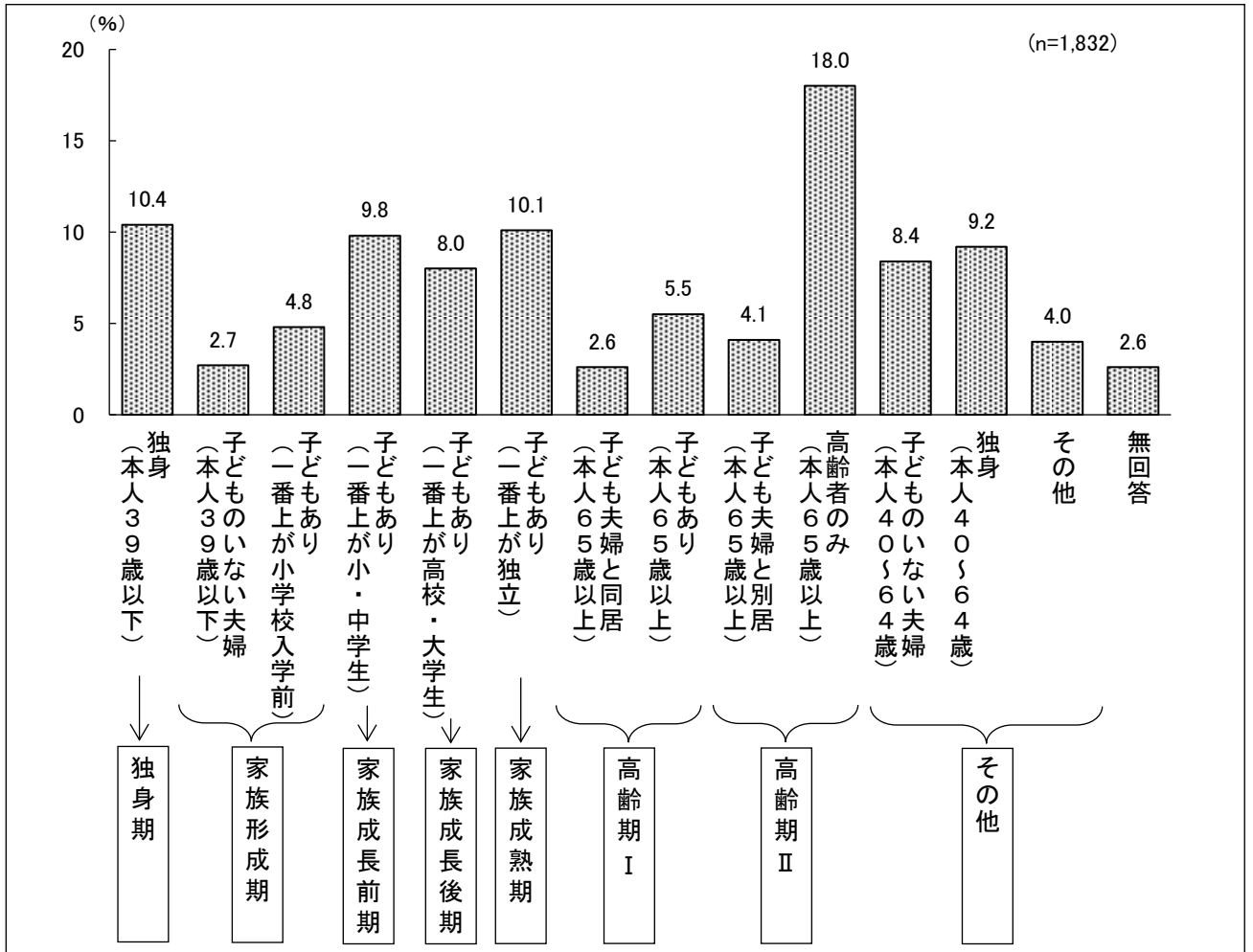
(7) 共働きの有無



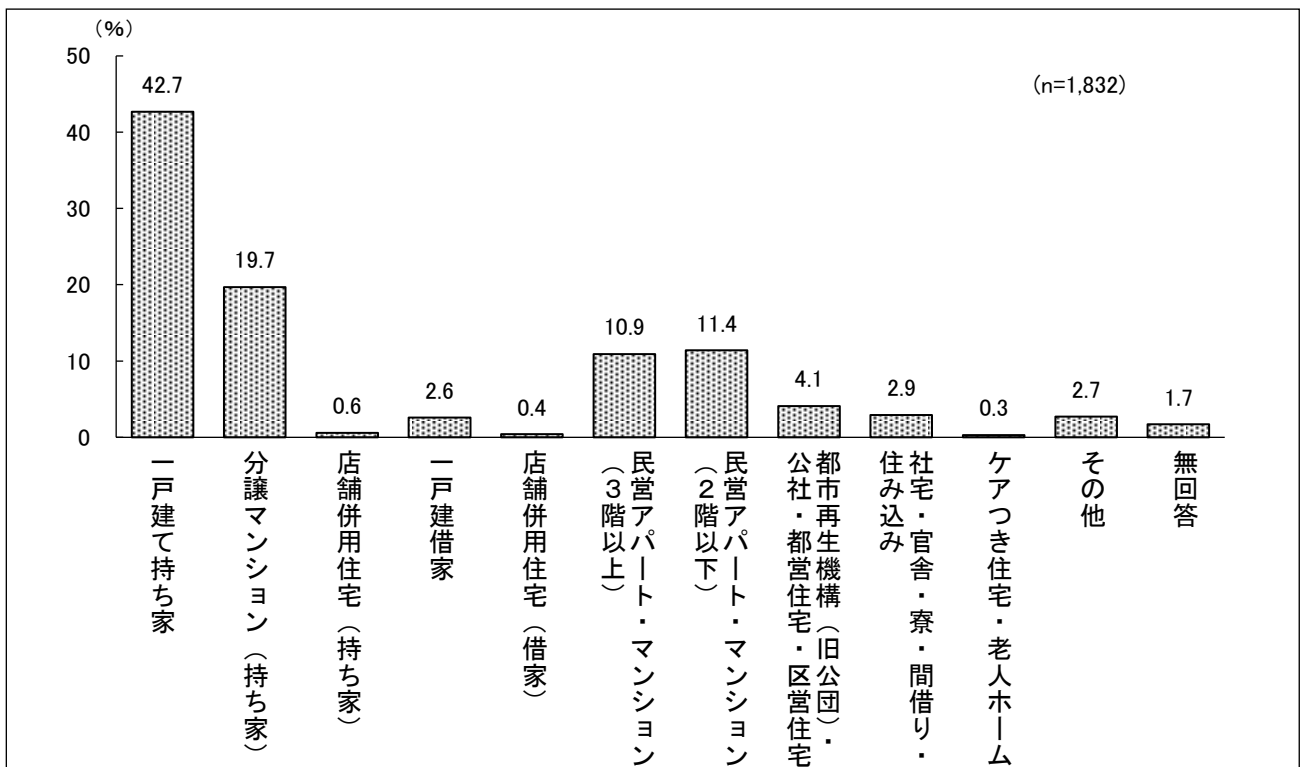
(8) 居住地区



(9) ライフステージ



(10) 住居形態







## 質 問 と 回 答



この調査は世田谷区役所が実施しています

## 令和5年度 世田谷区民意識調査 調査票

### 【ご回答にあたってのお願い】

1. 封筒の宛名に書かれているご本人がお答えください。  
ただし、事情によりご本人による記入やインターネット操作が難しい場合は、ご家族の方が代わりに行っていただいても構いません。
2. 回答は、最初から1問ずつ、最後までお答えください。
3. 回答は、あてはまる番号に○印をつけてください。
4. 質問によって、○をつける数を（1つ）（いくつでも）などと指定していますので、その範囲内でお答えください。
5. 回答は郵送またはインターネットで行うことができます。

6月9日（金）までに、ご回答いただくようお願いいたします。

### 郵送による回答方法

1. 記入は、黒のボールペンまたは鉛筆でお願いします。
2. 回答のご記入が終わりましたら、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて郵便ポストに投函してください。

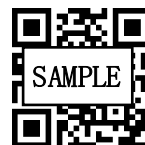
### インターネットによる回答方法（文面は日本語のみです）

パソコン、スマートフォンからご回答いただけます。

URL : <https://00000/>

あなたの ID 番号 : 12345

あなたのパスワード : abcde



1. 回答を途中で終了した場合も、再度、ID とパスワードでログインすることで、続きから回答を再開できます。
2. この ID・パスワードは無作為に配布していますので、個人を特定するものではありません。どなたがどの ID・パスワードであるかは照合できません。
3. インターネットで回答した場合は調査用紙の提出は不要です。

≫≫ 調査の内容などについては下記へお問い合わせください。

せたがやコール      電話 03-5432-3333  
午前8時～午後9時（年中無休）

≫≫ 調査主体      世田谷区 政策経営部 広報広聴課

n=1, 832

## 定 住 性

(全員の方に)

問1 あなたは、世田谷区に住んで何年くらいになりますか。(○は1つ)

1	1年未満	3.5	5	10～18年未満	15.5
2	1～3年未満	5.9	6	18～30年未満	19.3
3	3～6年未満	7.9	7	30年以上	40.0
4	6～10年未満	7.2		(無回答)	0.8

(全員の方に)

問2 あなたは、現在の暮らしについてどのように思っていますか。(○は1つ)

1	十分満足している	26.0	3	まだまだ不満だ	10.3
2	十分とはいえないが満足している	59.0	4	きわめて不満だ	2.2
			5	わからない	1.7
				(無回答)	0.8

(全員の方に)

問3 あなたは、世田谷区は住みやすいところだと思いますか。それとも住みにくいところだと思いますか。(○は1つ)

1	非常に住みやすい	40.7	4	やや住みにくい	3.1
2	やや住みやすい	42.2	5	非常に住みにくい	0.3
3	どちらともいえない	12.7		(無回答)	0.9

(全員の方に)

問4 あなたは、これからも世田谷区に住みたいと思いますか。(○は1つ)

1	住みたいと思う	81.8	問4-1にお答えください。
2	あまり住みたいとは思わない	4.1	
3	住みたくない	0.3	→問4-2にお答えください。
4	どちらともいえない	12.7	→問5にお答えください。
	(無回答)	1.1	

(問4で「1」と答えた方に) (n=1, 498)

問4-1 これからも世田谷区に住みたいと思う理由はどんなことですか。(○はいくつでも)

1	住み慣れているから	68.8	9	教育や文化、その他の社会施設などがよく整備されているから	20.4
2	生まれた時からずっと住んでいるから	13.6	10	仕事や商売の関係で	8.1
3	自分の土地(住宅)だから	37.2	11	家賃など経済的負担が適当だから	2.4
4	住まいが広いなど住宅事情がよいから	10.0	12	子育てがしやすいから	9.7
5	自然や街並みなど生活環境がよいから	51.3	13	その他	2.1
6	交通や買物など生活に便利だから	67.1	14	わからない	0.1
7	通勤・通学など交通の便がよいから	37.5			
8	人間関係がよいから	16.6			

(問4で「2～3」と答えた方に) (n=81)

問4-2 世田谷区に住みたくない理由はどんなことですか。(○はいくつでも)

1	土地柄になじめないから	13.6	9	教育や文化、その他の社会施設などが整備されていないから	22.2
2	生まれ育った土地ではないから	21.0	10	仕事や商売の関係で	2.5
3	自分の土地(住宅)でないから	13.6	11	家賃など経済的負担が多いから	38.3
4	住まいが狭いなど住宅事情が悪いから	34.6	12	子育てがしにくいから	14.8
5	自然や街並みなど地域の生活環境が悪いから	12.3	13	その他	18.5
6	交通や買物など生活に不便だから	34.6	14	わからない	-
7	通勤・通学など交通の便が悪いから	23.5			
8	地域・近隣との交流がほとんどないから	14.8			

(全員の方に)

問5 あなたは、普段生活しているこの地域でどんなことにお困りですか。(○は3つまで)

《街づくり・暮らし》		《交通》		
1	公園やスポーツのできる場所がない	10.3	11 交通が不便	9.2
2	住宅が密集しすぎている	16.1	12 車など交通が激しい	12.3
3	放置自転車が多くて迷惑	4.5	13 電車の踏み切りがなかなか渡れない	14.1
4	災害時の避難場所が近くにない	5.7	14 道路が狭くて危険	26.3
5	地域の治安が悪くなった	6.7	-----	
6	落書き、違法広告、風俗関係のチラシ	1.8	《環境・ごみ》	
7	子育て環境が整備されていない	2.7	15 騒音や振動が気になる	7.8
8	区民利用施設が使用しにくい	12.9	16 空気の汚れがひどい	3.9
9	高齢者施設が使用しにくい	6.3	17 空き缶・たばこ等のポイ捨て	10.2
10	買い物が不便	9.2	18 路上喫煙などのたばこマナーが悪い	11.5
			19 ごみ出しのマナーが悪い、ごみ・資源の分別がされていない	8.2
			20 カラス等の鳥獣による被害	20.2
			21 犬、猫などのペット公害	5.8
			22 その他	4.9
			23 特にない	13.4
			(無回答)	2.1

## 区 政

(全員の方に)

問6 あなたは、今後世田谷区が積極的に取り組む事業として、どれが必要だと思えますか。(○は3つまで)

《健康・福祉》		《暮らし・コミュニティ》		
1	健康づくりの推進	12.0	12 地域コミュニティの促進	8.3
2	見守り施策や地域支えあいの推進など、区民・事業者との協働による地域づくり	14.7	13 防犯・地域安全の対策	28.5
3	高齢者福祉の充実	25.4	14 消費者の支援	10.6
4	障害者福祉の充実	5.6	15 多様性の尊重(人権尊重・男女共同参画の推進など)	5.7
5	生活困窮者への支援	8.2	16 文化・芸術の推進	9.0
			17 生涯スポーツの推進	6.1
			18 清掃・資源リサイクルの推進	8.4
			19 産業振興・雇用促進	3.2
			-----	
《子ども若者・教育》		《都市づくり》		
6	若者が力を発揮する地域づくり	13.0	20 災害に強いまちづくり	31.5
7	生涯学習の充実	7.0	21 住宅政策	5.2
8	I C T (情報通信技術) の推進	6.3	22 公園・緑地の整備	12.4
9	子どもが育つ環境づくり	20.8	23 自然環境の保護	12.2
10	質の高い学校教育の推進	12.4	24 都市景観の保全や創出	4.0
11	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援	11.0	25 交通ネットワークの整備	11.4
			26 道路の管理保全	9.3
			27 その他	2.0
			28 特にない	3.2
			(無回答)	1.4

## 区の基本構想

(全員の方に)

問7 世田谷区では、平成25年9月に策定した「世田谷区基本構想」の中で、その後20年間の目標や理念を「九つのビジョン」にまとめ、その実現に向けて様々な課題に取り組んでいます。あなたは、「九つのビジョン」の項目それぞれについて、世田谷区において実現してきていると感じられますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

	感じられる	やや感じられる	あまり感じられない	感じられない	わからない	(無回答)
(1)「個人を尊重し、人と人のつながりを大切にする」	5.8	21.7	36.8	11.3	22.7	1.6
(2)「子ども・若者が住みやすいまちをつくり、教育を充実する」	7.9	34.7	26.2	7.6	21.3	2.3
(3)「健康で安心して暮らしていける基盤を確かなものにする」	8.1	37.1	27.5	7.6	17.0	2.7
(4)「災害に強く、復元力を持つまちをつくる」	4.6	24.6	37.1	11.0	20.5	2.1
(5)「環境に配慮したまちをつくる」	7.3	36.9	29.3	9.6	14.6	2.3
(6)「地域を支える産業を育み、職住近接が可能なまちにする」	4.5	15.8	38.0	16.3	22.5	2.9
(7)「文化・芸術・スポーツの活動をサポート、発信する」	7.6	35.8	27.9	10.6	15.6	2.4
(8)「より住みやすく歩いて楽しいまちにする」	9.5	40.7	26.9	9.8	11.0	2.0
(9)「ひとりでも多くの区民が区政や公の活動に参加できるようにする」	3.4	15.9	40.9	17.0	20.6	2.2

## 職員 応 対

(全員の方に)

問8 区の窓口や応対について印象はいかがでしたか。(〇は1つ)

1	とても良かった	28.3		
2	やや良かった	38.5		問8-1にお答えください。
3	どちらともいえない	26.5	→	問9にお答えください。
4	やや悪かった	2.8	→	問8-2にお答えください。
5	とても悪かった	1.0		
	(無回答)	2.9		

(問8で「1~2」と答えた方に) (n=1,224)

問8-1 印象が良かった点はどれですか。(〇は2つまで)

1	説明がわかりやすかった	28.8	4	親切・丁寧な対応だった	67.2
2	応対が正確・迅速だった	35.8	5	言葉遣いが丁寧だった	10.5
3	さわやかな対応だった	9.5		(無回答)	0.4

(問8で「4~5」と答えた方に) (n=70)

問8-2 印象が悪かった点はどれですか。(〇は2つまで)

1	説明がわかりにくい	25.7	4	不親切な対応だった	48.6
2	応対で待たされた	30.0	5	言葉遣いが悪い	17.1
3	たらい回しにされた	38.6		(無回答)	1.4

(全員の方に)

問9 今後、職員応対について、どのような点に注意すべきだと思いますか。(〇は3つまで)

1	身だしなみ	3.4	5	親切・丁寧な対応	47.1
2	わかりやすい説明	50.1	6	待たせない事務処理の工夫	51.4
3	名札の着用	3.3	7	窓口を明るいきれいに変える	14.8
4	さわやかな挨拶	9.3	8	プライバシーへの配慮	18.2
				(無回答)	8.7

## 福 祉 と 医 療

(全員の方に)

問10 あなたは、区内28地区で実施しているまちづくりセンター、あんしんすこやかセンター(地域包括支援センター)、社会福祉協議会が連携して相談を受ける「福祉の相談窓口」を知っていますか。(〇は1つ)

1	利用したことがある	18.0	3	名称は知らないがこういった取り組みを行っていることは知っている	9.7
2	名称は知っている	28.2	4	知らない	43.3
				(無回答)	0.8

(全員の方に)

問11 あなたは、介護や医療が必要になっても世田谷区に住み続けたいですか。(○は1つ)

1	そう思う	33.6	4	そう思わない	2.7
2	どちらかといえばそう思う	35.2	5	わからない	20.0
3	あまりそう思わない	7.8		(無回答)	0.8

(全員の方に)

問12 あなたは、訪問診療や訪問看護を受けながら自宅で療養する「在宅医療」を知っていますか。

(○は1つ)

1	自分、または身近な人が利用している	11.8
2	利用していないが仕組みは知っている (往診と訪問診療の違いも知っている)	23.7
3	利用していないが仕組みは知っている (往診と訪問診療の違いは知らない)	36.8
4	知らない	26.7
	(無回答)	0.8

人生の最終段階にどのような治療やケアを望むのかを、医療・介護関係者や家族等の信頼できる身近な人と繰り返し話し合うプロセスを「ACP (アドバンス・ケア・プランニング：人生会議)」といいます。

(全員の方に)

問13 あなたは、「ACP (アドバンス・ケア・プランニング：人生会議)」を知っていますか。(○は1つ)

1	知っているし、医療・介護関係者や身近な人と話し合ったこともある	4.6
2	知っているが、医療・介護関係者や身近な人と話し合ったことはない	10.7
3	「ACP」の言葉は知らないが、医療・介護関係者や身近な人と話し合ったことはある	15.5
4	知らないし、医療・介護関係者や身近な人と話し合ったこともない	68.1
	(無回答)	1.1



区では、区民が住みなれた地域で安心して暮らし続けることのできる地域社会の実現のため、全区的な保健医療福祉の拠点「うめとぴあ」(松原6丁目37番)を整備し、区の保健センターや初期救急診療所、休日夜間薬局、貸出会議室等の複合施設「保健医療福祉総合プラザ」と民間事業者の高齢者・障害者支援施設「東京リハビリテーションセンター世田谷」を拠点内に開設して、令和2年4月に全面オープンしました。

(全員の方に)

問14 「うめとぴあ」内施設で行われている事業について、利用したことのある事業または関心がある事業を教えてください。(〇はいくつでも)

1 カフェ (カフェでのイベントを含む)	14.4
2 健康づくり事業	16.3
3 がん検診や各種精密検査	19.3
4 こころの健康支援 (夜間等の電話相談・講演会等)	8.7
5 がんに関する相談	6.8
6 障害のある方の専門相談	3.9
7 貸出会議室	2.7
8 福祉に関する研修・体験	6.0
9 認知症に関する講演会・相談等	10.6
10 初期救急診療所・休日夜間薬局	20.1
11 障害者支援施設・高齢者支援施設	10.0
12 新型コロナワクチン接種	21.9
13 「うめとぴあ」内の事業を利用したことはないし、興味もない	35.0
(無回答)	6.3

## 認 知 症

認知症とは、暮らしの障害であり、脳の病気や様々な原因によって脳の働きが低下し、日常生活や社会生活を送るうえで支障が出てくる状態をいいます。

(全員の方に)

問15 区では、一人ひとりの希望及び権利が尊重され、ともに安心して自分らしく暮らせるまち、世田谷を目指して、令和2年10月に「世田谷区認知症とともに生きる希望条例」を施行しました。あなたは、この条例を知っていますか。(〇は1つ)

1 内容について知っている	1.9
2 条例の名称は聞いたことがあるが、内容はよく知らない	8.6
3 知らない	88.6
(無回答)	0.9

(全員の方に)

問16 認知症についてどのような印象・考えをお持ちですか。(〇はいくつでも)

1 認知症は、誰もがなり得るものである	85.7
2 認知症は、高齢者になる病気で、自分には関係がない	2.2
3 認知症になってからも、自分なりにできることがある	38.2
4 認知症になると、自分では何もできなくなる	13.9
5 認知症になってからも、地域の中で自分らしく希望をもって暮らし続けることができる	24.0
6 認知症になると、地域の中で自分らしく希望をもって暮らし続けることができなくなる	21.7
7 認知症に関する知識や情報について知りたいと思う	43.2
8 認知症について関心がない	1.5
9 あてはまるものはない	1.2
(無回答)	1.2

### 障害者を支える取り組み

(全員の方に)

問17 あなたは、手話が、日本語や英語などの言語とは異なる、独自の文法を持つ言語であることを知っていますか。(〇は1つ)

1 よく知っている	11.0	2 ある程度知っている	49.8	3 知らない	37.8
(無回答)					1.4

(全員の方に)

問18 あなたは、手話についてどのようにお考えですか。(〇はいくつでも)

1 手話に関心がある	32.0
2 手話を習得し、使用することができる	0.5
3 手話を日常生活、仕事、ボランティアなどで使用している	0.7
4 以前に学んだ手話を、どこかで活かしたい	1.4
5 手話を学んでいるところである	0.5
6 手話を学びたいが、どのように学べばよいかわからない	21.1
7 その他	22.5
8 手話に興味はない	28.8
(無回答)	3.2

### 子育て・子どもを取り巻く環境

(全員の方に)

問19 あなたは、世田谷区は子育てをしやすいまちだと感じますか。(〇は1つ)

1 とても子育てしやすいと感じる	5.8	3 あまり子育てしやすいと感じない	12.9
2 子育てしやすいと感じる	43.6	4 まったく子育てしやすいと感じない	1.1
		5 わからない	34.8
(無回答)			1.7

## 地域コミュニティ

(全員の方に)

問20 あなたは、\*身近な地域の活動に参加していますか。(〇は1つ)

1 参加している	17.1
2 今は参加していないが、今後参加してみたい	16.9
3 参加していない	64.9
(無回答)	1.1

\*身近な地域の活動・ ・町会・自治会、NPO・ボランティア、子育て支援活動、青少年健全育成活動、高齢者支援活動、お祭り・イベント、防犯・防災活動、介護予防・健康づくり活動、スポーツ活動、文化・芸術活動、環境美化・リサイクル活動、交通安全活動、コミュニティ・ビジネスなど

## 区民交流スペース

区では、世田谷四丁目の本庁舎等（本庁舎、世田谷総合支所、世田谷区民会館）において、令和3年7月より、本庁舎等整備工事を行っています。

新しい本庁舎等において「区民自治と協働・交流の拠点としての庁舎」を実現するために、幅広い区民がふれあい、交流できる場所として、区民交流スペース（令和7年度竣工予定）の整備を進めています。区民交流スペースは東棟1階ロビーに併設される、仕切りのないオープンスペースです。多様な人々が気軽に訪れ、イベントや打ち合わせだけでなく、憩いの場として思い思いの時間を過ごせるような空間づくりをめざしています。

(全員の方に)

問21 区民交流スペースが令和7年度に開設することを知っていますか。(〇は1つ)

1 知っている	4.0	2 知らない	94.3	(無回答)	1.7
---------	-----	--------	------	-------	-----

(全員の方に)

問22 区民交流スペースに期待することは何ですか。(〇はいくつでも)

1 区民同士の交流に参加できる機会の充実	26.6
2 イベントの企画運営に携わるような仕組みづくり	9.7
3 区民が自分を表現できる場の提供	10.8
4 区内の活動団体等の活動・運営に関する支援	13.8
5 打合せなどで利用できる会議スペースの充実	12.6
6 展示やワークショップ、マルシェなどイベントの充実	35.5
7 文化・芸術に触れる機会の充実（ロビーコンサートなど）	41.4
8 地域と連携した事業の実施	16.9
9 気軽に休憩や飲食、談話などで利用できる空間づくり	46.1
10 あてはまるものはない	14.7
(無回答)	4.6

## 災害時の備え

(全員の方に)

問23 あなたは、防災に対して日頃から心がけていることはありますか。次の(1)から(3)の項目について、あてはまるものを選んでください。(〇はそれぞれ1つずつ)

	心がけて いる	どちらかと いえば心が けている	どちらかと いえば心が けていない	心がけて いない	わからない	(無回答)
(1) 防災知識の向上	15.1	52.2	21.8	5.9	3.2	1.8
(2) 地区での避難所運営訓練や防災塾への参加	2.4	13.4	28.1	38.2	15.0	2.9
(3) *避難行動要支援者の支援	2.8	15.2	24.9	30.1	23.6	3.3

\*避難行動要支援者・・・要介護高齢者等や障害者のうち、身体の障害等の理由により、災害時に自力で自宅外へ避難することが困難な方や、自ら救出を求めることが困難な方。

震災時の避難所は、火災や倒壊により自宅で生活できなくなった方々を受け入れる施設です。自宅が無事である場合は、家庭で備蓄した水や食料などを使いながら、自宅で過ごす「在宅避難」が原則となります。在宅避難にご協力いただくことが、避難所の過密化対策のためにとっても大切になります。区では、在宅避難のために水、食料、電力の備蓄を推奨しています。

(全員の方に)

問24 あなたは区が在宅避難を推奨していることを知っていましたか。(〇は1つ)

1 知っている	31.9	2 知らない	66.4	(無回答)	1.7
---------	------	--------	------	-------	-----

(全員の方に)

問25 あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。(〇は1つ)

1 1～2日分	23.0	4 1週間分以上	9.7
2 3日分	34.3	5 水や食料の備蓄はしていない	12.1
3 4～6日分	19.7	(無回答)	1.2

(全員の方に)

問26 あなたのご家庭では、災害に備えて非常用電力の備蓄をしていますか。(〇はいくつでも)

1 小型発電機を備蓄している	2.8	5 太陽光蓄電池を設置している	4.1
2 小型ポータブル蓄電池を備蓄している	7.3	6 自家用車から電源を確保する予定である	4.7
3 モバイルバッテリーを備蓄している	25.3	7 その他	3.4
4 手回し発電機を備蓄している	11.8	8 備蓄していない	55.9
		(無回答)	2.5

区では、水害から身を守るために、日頃の備えとして役立てていただくため、「世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ」を作成しています。「世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ」とは、水害リスクと区民のとるべき行動が確認できるよう、浸水のおそれがある範囲や浸水の深さ、避難所、避難行動、情報収集方法を掲載しているものです。令和2年9月に区内全戸へ配布したほか、令和3年8月からは玉川・砧地域の転入届窓口でも配布しています。

(全員の方に)

問27 あなたは、「世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ」を持っていますか。(〇は1つ)

1 持っている	41.4	問27-1にお答えください。
2 持ってはいないが、見たことがある	31.6	
3 持っていないし、見たこともないが、聞いたことはある	14.5	
4 持っていないし、聞いたこともない	9.8	
(無回答)	2.8	

▼ (問27で「1~2」と答えた方に) (n=1,336)

問27-1 あなたは、「世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ」で自宅の浸水リスク(浸水するかどうか、浸水する場合は浸水の深さ)を確認しましたか。(〇は1つ)

1 確認した	78.3	2 確認していない	21.1	(無回答)	0.6
--------	------	-----------	------	-------	-----

Jアラートは、弾道ミサイル情報や緊急地震速報等、対処に時間的余裕のない事態に関する情報を、人工衛星及び地上回線を用いて国(内閣官房・気象庁から消防庁を経由)から送信し、防災行政無線による放送や携帯電話・スマートフォンへの緊急速報メールによる通知等により、国から住民に対し緊急情報を瞬時に伝達するシステムです。

弾道ミサイルの都内上空通過・落下等によりJアラートから緊急情報が発信された際は、屋外にいる場合は近くの建物の中か地下に避難し、建物がない場合は物陰に身を隠すか地面に伏せて頭部を守る、また屋内にいる場合は窓から離れるか窓のない部屋に移動するといった避難行動が必要です。

(全員の方に)

問28 あなたは、Jアラートが発信されたときにとるべき行動を知っていましたか。(〇は1つ)

1 知っていた	42.5
2 Jアラートは知っていたが、とるべき行動は知らなかった	51.4
3 Jアラートを知らなかった	4.3
(無回答)	1.9

## 男女共同参画の推進

区では、第二次男女共同参画プラン後期計画を令和4年3月に策定しました。プランでは、「あらゆる分野における女性活躍推進」、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の着実な推進」、「暴力やハラスメントのない社会の構築」、「多様性を認め合い、尊厳をもって生きることができる社会の構築」という4つの目標を掲げ、男女共同参画社会の実現に向けて様々な施策に取り組んでいます。

（全員の方に）

問29 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方に共感しますか。（○は1つ）

1 そう思う	2.0	3 どちらかといえばそう思わない	22.8
2 どちらかといえばそう思う	11.7	4 そう思わない	62.6
（無回答）			0.9

（全員の方に）

問30 あなたの生活の中で「仕事」「家庭生活（家族と過ごすこと、家事、育児、介護など）」「地域・個人の生活（地域・社会活動、学習・研修、趣味、娯楽、スポーツなど）」の優先度についておたずねします。あなたの現状に近いものはどれですか。（○は1つ）

1 「仕事」を優先している	12.9
2 「家庭生活」を優先している	25.5
3 「地域・個人の生活」を優先している	3.6
4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	27.3
5 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	5.0
6 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	8.4
7 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	9.7
8 わからない	5.9
（無回答）	
1.8	

（全員の方に）

問31 あなたは、性的マイノリティという言葉を知っていますか。（○は1つ）

1 知っている	87.6	2 知らない	11.0	（無回答）	1.4
---------	------	--------	------	-------	-----

（全員の方に）

問32 あなたは、性的マイノリティの方々の人権を守る啓発や施策について、必要だと思いますか。（○は1つ）

1 必要だと思う	64.3	3 その他	4.3
2 必要ないと思う	7.5	4 わからない	22.4
（無回答）			1.6

（全員の方に）

問33 あなたは、「世田谷区パートナーシップの宣誓の取組み」を知っていますか。（○は1つ）

1 内容を知っている	12.0	3 知らない	55.9
2 名前は聞いたことがあるが、内容は知らない	30.6	（無回答）	1.4

## 平和資料館

(全員の方に)

問34 あなたは、世田谷区立平和資料館（愛称：せたがや未来の平和館）を知っていますか。（○は1つ）

1	行ったことがある	2.8
2	知っているが、行ったことや、見たことはない	12.5
3	区民施設等で地域巡回展等を見たことがある	1.4
4	知らない	82.4
	(無回答)	0.9

## 多文化共生

区は、誰もが共に参画・活躍でき、人権が尊重され、安心・安全に暮らせる「多文化共生」社会の実現を目指し、世田谷をさらに魅力あるまちにするよう取り組んでいます。

(全員の方に)

問35 あなたは、「外国人と日本人が共に暮らす」という視点からみて、区の多文化共生社会の実現に向けた施策が充実していると思いますか。（○は1つ）

1	そう思う	4.6	3	どちらかといえばそう思わない	40.1
2	どちらかといえばそう思う	33.1	4	そう思わない	18.0
				(無回答)	4.1

(全員の方に)

問36 区では、外国人が地域住民の一人として地域社会に参加・活躍できるように、地域のおまつりや防災訓練、ボランティア活動等への参加を促進しています。あなたは、外国人の地域活動への参加が進んでいると思いますか。（○は1つ）

1	そう思う	2.6	3	どちらかといえばそう思わない	26.0
2	どちらかといえばそう思う	13.0	4	そう思わない	13.8
			5	わからない	43.4
				(無回答)	1.2

(全員の方に)

問37 区では、多様な文化を理解し合える交流イベント等を開催し、区民一人ひとりが互いの文化について理解を深め、誤解や偏見を解消することで、多文化共生社会の実現を目指しています。あなたは、区内において外国人に対する誤解や偏見が解消されていると思いますか。（○は1つ）

1	そう思う	4.7	3	どちらかといえばそう思わない	18.3
2	どちらかといえばそう思う	26.4	4	そう思わない	7.5
			5	わからない	42.0
				(無回答)	1.0

## 文化活動

(全員の方に)

問38 あなたは、区内にある美術館や文学館、劇場、文化財・史跡などの文化資源について、どの程度、ご存知ですか。次の(1)から(3)の項目について、あてはまるものを選んでください。

(○はそれぞれ1つずつ)

	行ったことがある	知っているが、行ったことはない	聞いたことがある	知らない	(無回答)
(1) 世田谷美術館や世田谷文学館、世田谷パブリックシアターなどの公立の文化施設	57.1	23.1	7.6	10.9	1.3
(2) 五島美術館や大学付属の博物館などの民間の文化施設	25.2	32.8	11.4	28.8	1.9
(3) 世田谷代官屋敷や郷土資料館、次大夫堀公園民家園、野毛大塚古墳などの歴史的な文化資源	46.7	22.8	9.9	18.9	1.7

## スポーツ

区では、いつでも、どこでも、だれでも、いつまでも気軽にスポーツ・レクリエーションに親しみ、楽しむことのできる生涯スポーツ社会の実現を目指しています。

(全員の方に)

問39 あなたがこの1年間にスポーツや運動(ウォーキングや軽い体操、介護予防のためのトレーニング、様々なレクリエーションなどを含む)を行った回数ほどのくらいですか。(○は1つ)

1 週に3回以上	20.6	5 3か月に1~2回	5.1
2 週に2回程度	15.1	6 年に1~3回	5.7
3 週に1回程度	17.3	7 行わなかった	22.6
4 月に1~3回	12.1	(無回答)	1.5

(全員の方に)

問40 あなたがこの1年間に観戦したスポーツの試合・イベントについて教えてください。(プロ・アマチュア問わず)(○はいくつでも)

1 区内の会場(競技場・体育館・パブリックビューイング含む)で直接観戦した	4.2
2 区外の会場(競技場・体育館・パブリックビューイング含む)で直接観戦した	15.8
3 自宅でTV・インターネット等で観戦した	68.1
4 関心はあるが観戦していない	12.1
5 関心がないため観戦していない	13.3
(無回答)	1.5



(全員の方に)

問4 1 あなたがこの1年間に参加したスポーツを支える活動を教えてください。(〇はいくつでも)

1 イベント・大会などのボランティア	2.4	8 クラブ・団体への寄附、ファンクラブ入会	2.2
2 スポーツや運動の指導・コーチ	1.9	9 スポーツイベントを通じた募金や	
3 試合の審判	1.1	チャリティー活動	0.6
4 講習会・研修会への参加	1.5	10 スポーツ用具等の寄附	0.4
5 教室・大会・イベントの運営や補助	1.7	11 スポーツ観戦・応援	21.6
6 地域のスポーツクラブ、競技団体等 の運営補助	1.7	12 その他	3.9
7 スポーツ施設の運営補助	0.3	13 関心はあるが活動していない	37.7
		14 関心がないため活動していない	29.4
(無回答)			3.2

(全員の方に)

問4 2 新たなスポーツ施設が作られるとしたら、あなたは何かができる施設が欲しいですか。

(〇はいくつでも)

1 ウォーキング	31.3	9 ボルダリング・クライ ミング	12.1	17 弓道	5.7
2 トレーニング	23.4	10 サッカー	5.2	18 アーチェリー	3.2
3 ランニング・マラソン	13.7	11 フットサル	5.3	19 バレーボール	3.2
4 自転車・サイクリング	18.2	12 ラグビー	2.3	20 水泳	25.5
5 ゴルフ	11.9	13 野球・ソフトボール	6.4	21 卓球	10.2
6 テニス・ソフトテニス	12.8	14 スケートボード	3.2	22 バasketボール	5.8
7 壁打ち(テニス・ 野球・サッカー等)	10.2	15 バドミントン	8.4	23 3×3バスケットボール	4.1
8 スカッシュ	5.0	16 武道(柔道・剣道・ 空手等)	5.3	24 ダンス・ヨガ・ 体操競技等	28.4
				25 その他	8.2
(無回答)					6.3

## たばこマナー

区は、喫煙する人としない人が相互に理解を深め、地域のたばこマナーが向上するまちづくりの実現をめざすため、「世田谷区たばこルール」を策定し、平成30年10月より区内全域の道路、公園を喫煙禁止にしました。

(全員の方に)

問4 3 あなたは、現在お住まいの地域における路上喫煙やポイ捨て等たばこマナーに満足していますか。

(〇は1つ)

1 満足している	14.2	3 どちらかといえば満足していない	19.5
2 どちらかといえば満足している	31.9	4 満足していない	26.6
		5 どちらでもない(気にしていない)	6.6
(無回答)			1.2

## せたがや Pay

「せたがやPay」は、区の支援のもと、世田谷区商店街振興組合連合会が2021年2月に提供を開始した、世田谷区内で使えるキャッシュレス決済アプリです。

(全員の方に)

問44 せたがやPayを知っていますか。また、利用したことがありますか。(〇は1つ)

1 現在(直近3か月以内)、利用している	14.1	
2 過去に利用したことがあるが、現在(直近3か月以内)は利用していない	6.6	問44-1に お答えください。
3 知っているが、利用したことはない	49.5	
4 知らない	27.9	
(無回答)		1.9

(問44で「2~3」と答えた方に) (n=1,027)

問44-1 せたがやPayを利用していない理由を教えてください。(〇はいくつでも)

1 大型の還元キャンペーンを実施していないため	13.8
2 チャージ方法が限られているため	16.1
3 使えるお店が少ないため	27.8
4 使いたいお店がせたがやPayを導入していないため	14.8
5 せたがやPayアプリが使いづらいため	6.2
6 決済方法がユースキャン方式(客側がコード読込)のみで、ストアスキャン方式(店側がコード読込)がないため	2.6
7 そもそもスマートフォンを使用していない、持っていないため	3.7
8 アプリのインストール方法や使い方などがわからないため	15.6
9 既にクレジットカードや他社の二次元コード決済サービス等を利用しており、これ以上決済手段を増やしたくないため	40.8
10 キャッシュレス決済の利用に抵抗があるため	12.5
11 個人情報の流出や不正使用等のおそれを感じるため	13.2
12 その他	10.1
(無回答)	0.4

## 世田谷区公契約条例

世田谷区公契約条例（平成 27 年 4 月施行）は事業者の経営環境の改善や適正な賃金の支払いなど労働者の労働条件が守られ、公共事業の品質が確保されることで区民福祉の増進を図ることを目的としており、この条例をもとに入札制度改革や区独自の最低賃金である労働報酬下限額といった取り組みを行っています。

（全員の方に）

問 4 5 あなたは「世田谷区公契約条例」を知っていますか。（○は1つ）

1	内容について知っている	1.4
2	条例の名称は聞いたことがあるが、内容はよく知らない	8.7
3	知らない	87.7

問 4 5 - 1 にお答えください。

（無回答）

2.2

（問 4 5 で「1～2」と答えた方に）（n=184）

問 4 5 - 1 「世田谷区公契約条例」についてどこで知りましたか。（○はいくつでも）

1	区報紙（区のおしらせ「せたがや」）	57.1	7	区広報板（区が設置している掲示板）	8.2
2	区のホームページ	19.0	8	区作成のポスター	3.3
3	区公式 Twitter（ツイッター）	3.8	9	区作成のチラシ	3.8
4	区公式 Facebook（フェイスブック）	-	10	周囲の人からの伝聞	10.9
5	メール配信サービス（メールマガジン）	0.5	11	その他	9.8
6	エフエム世田谷	1.1		（無回答）	1.6

（引き続き、次ページの質問にお答えください）

## \*\*\* 基本項目（フェイスシート）\*\*\*

(全員の方に)

F 1 あなたの性別はどちらですか。(〇は1つ)

1 男性	38.4	2 女性	58.8	3 その他	0.5	(無回答)	2.3
------	------	------	------	-------	-----	-------	-----

F 2 あなたの年齢はいくつですか。(〇は1つ)

1 18～19歳	1.0	6 40～44歳	7.8	11 65～69歳	8.4
2 20～24歳	3.2	7 45～49歳	9.3	12 70～74歳	7.3
3 25～29歳	3.3	8 50～54歳	11.0	13 75～79歳	7.2
4 30～34歳	6.0	9 55～59歳	8.7	14 80～84歳	5.2
5 35～39歳	6.1	10 60～64歳	8.6	15 85歳以上	5.4
				(無回答)	1.6

F 3 あなたのご職業は次のどれですか。(〇は1つ)

1 自営業・事業主	12.3	5 家事専業	12.8
2 会社員、公務員、団体職員	34.9	6 学生	2.3
3 パート・臨時 (非常勤、嘱託、派遣 等を含む)	14.8	7 無職	17.4
4 その他就業者 (家族従業者、農業従業者 等)	1.0	8 その他	2.6
		(無回答)	1.8

F 4 あなたの家族構成は次のどれですか。(〇は1つ)

1 夫婦だけ (一世代家族)	26.2	4 一人暮らし	19.0
2 親と子どもだけ (二世世代家族)	42.0	5 その他	6.4
3 親と子どもと孫 (三世世代家族)	4.5	(無回答)	1.9

F 5 回答者ご本人も含めて、ご家族の中に高齢者 (65歳以上の方) はいらっしゃいますか。(〇は1つ)

1 いる	49.3	2 いない	48.8	(無回答)	1.9
------	------	-------	------	-------	-----

F 6 配偶者はいらっしゃいますか。(〇は1つ)

1 なし (離婚・死別を含む)	35.3	→ F 7にお答えください
2 あり	62.4	→ F 6-1にお答えください
(無回答)	2.3	

(F 6で「2」と答えた方に) (n=1, 144)

F 6-1 あなたと配偶者は、2人とも働いていますか。(〇は1つ)

1 働いている	53.3	2 働いていない	46.7
---------	------	----------	------

(全員の方に)

F7 あなたご自身は、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

1 独身	23.1	6 子ども夫婦と同居(本人が65歳以上)	2.6
2 子どもあり(一番上が小学校入学前)	4.9	7 子ども夫婦と別居(本人が65歳以上)	4.1
3 子どもあり(一番上が小・中学生)	9.8	8 高齢者のみ(本人が65歳以上)	8.8
4 子どもあり(一番上が高校・大学生)	8.0	9 夫婦のみ	16.8
5 子どもあり(一番上が独立:学校卒業、就職、結婚など)	15.5	10 その他	4.0
		(無回答)	2.4

F8 あなたの住居形態は次のどれにあたりますか。(○は1つ)

1 一戸建て持ち家	42.7	8 都市再生機構(旧公団)・公社・都営住宅・区営住宅	4.1
2 分譲マンション(持ち家)	19.7	9 社宅・官舎・寮・間借り・住み込み	2.9
3 店舗併用住宅(持ち家)	0.6	10 ケアつき住宅・老人ホーム	0.3
4 一戸建借家	2.6	11 その他	2.7
5 店舗併用住宅(借家)	0.4	(無回答)	1.7
6 民営アパート・マンション(3階以上)	10.9		
7 民営アパート・マンション(2階以下)	11.4		

F9 あなたのお住まいの地域は次のどれですか。(○は1つ)

1 世田谷東部	(池尻、下馬、三宿、太子堂、三軒茶屋、野沢、若林、上馬、駒沢1～2丁目)	15.0
2 世田谷西部	(世田谷、弦巻、宮坂、桜、経堂、桜丘)	12.3
3 北沢東部	(北沢、代沢、大原、羽根木、代田)	8.4
4 北沢西部	(松原、梅丘、豪徳寺、赤堤、桜上水)	7.9
5 玉川北部	(駒沢公園、駒沢3～5丁目、新町、深沢、桜新町、用賀、上用賀、玉川台)	8.2
6 玉川南部	(奥沢、東玉川、玉川田園調布、等々力、尾山台、玉堤)	9.1
7 玉川西部	(中町、野毛、瀬田、上野毛、玉川)	6.8
8 砧北部	(船橋、千歳台、祖師谷、砧、成城)	12.0
9 砧南部	(大蔵、砧公園、岡本、鎌田、喜多見、宇奈根)	5.1
10 烏山	(八幡山、南烏山、粕谷、北烏山、給田、上祖師谷、上北沢)	13.6
	(無回答)	1.6

ご協力ありがとうございました。

※ ご記入いただいた調査用紙は6月9日までに、投函してください。



## 調 査 結 果

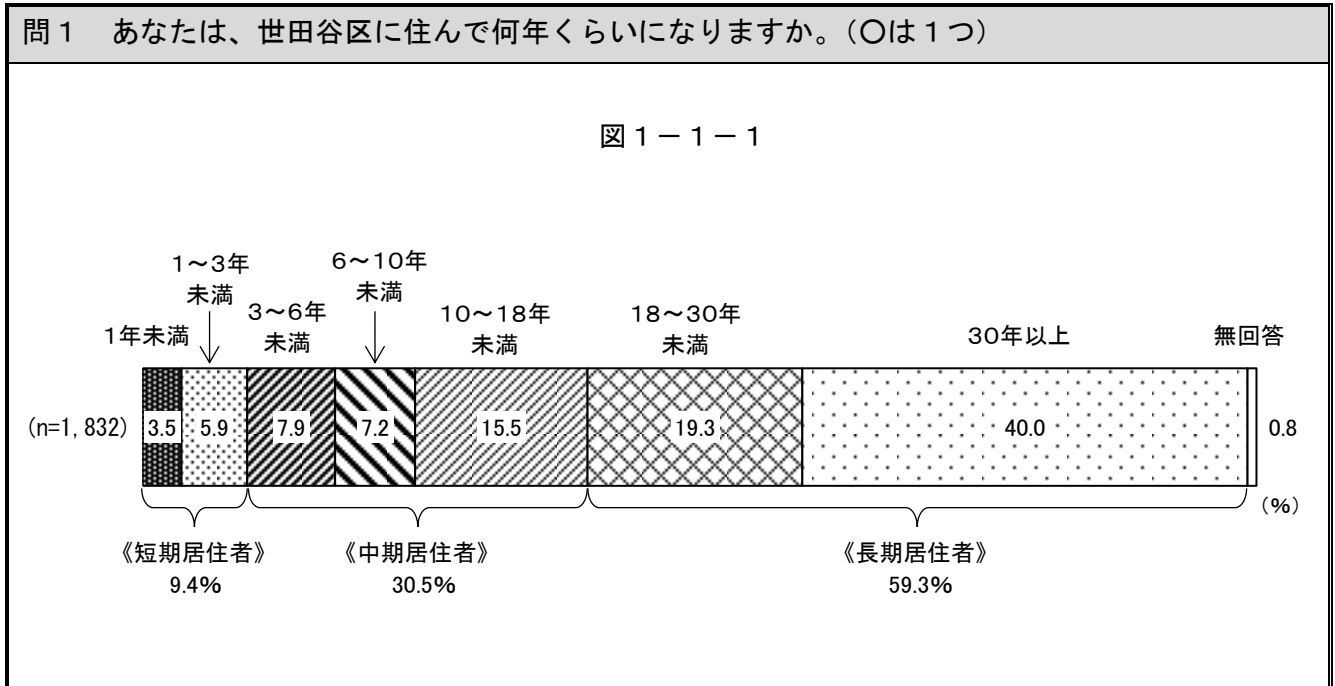




## 1. 定住性

### (1) 居住年数

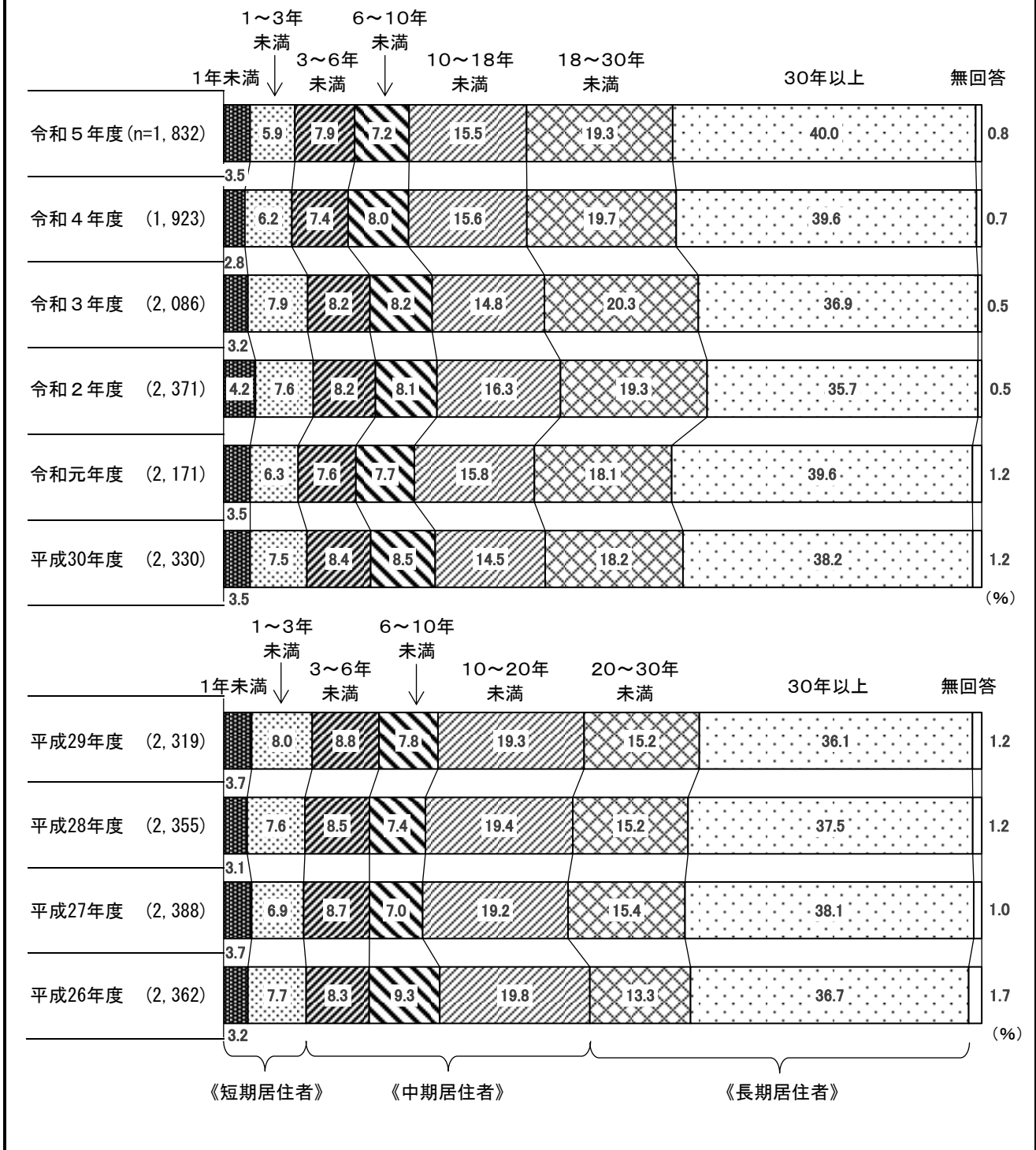
◎居住年数 18 年以上の《長期居住者》はほぼ 6 割



世田谷区での居住年数は、「1年未満」(3.5%)と「1～3年未満」(5.9%)を合わせた《短期居住者》(9.4%)がほぼ1割、「3～6年未満」(7.9%)、「6～10年未満」(7.2%)、「10～18年未満」(15.5%)を合わせた《中期居住者》(30.5%)がほぼ3割、「18～30年未満」(19.3%)と「30年以上」(40.0%)を合わせた《長期居住者》(59.3%)がほぼ6割となっている。

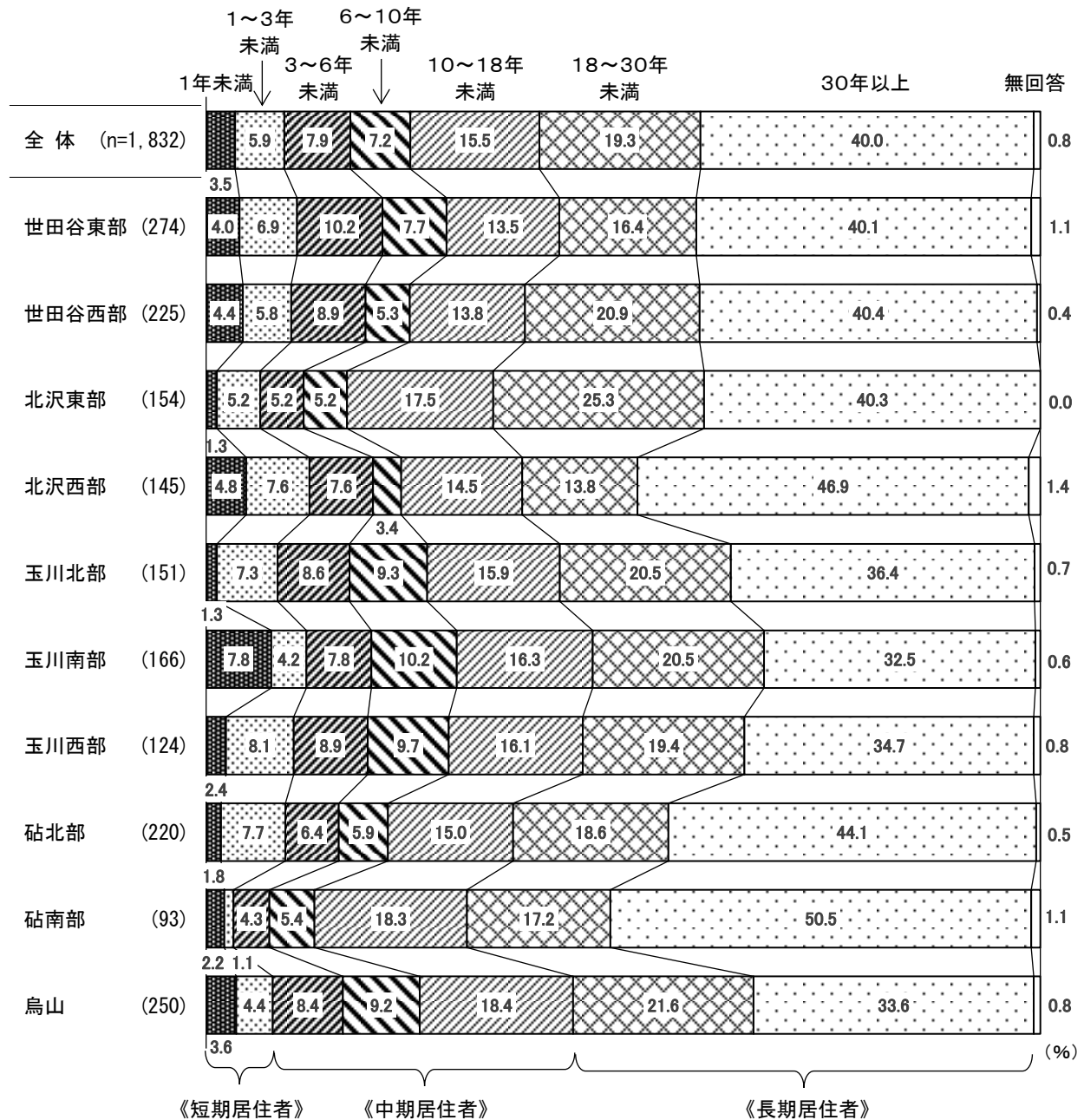
(図 1-1-1)

図 1-1-2 居住年数（時系列）



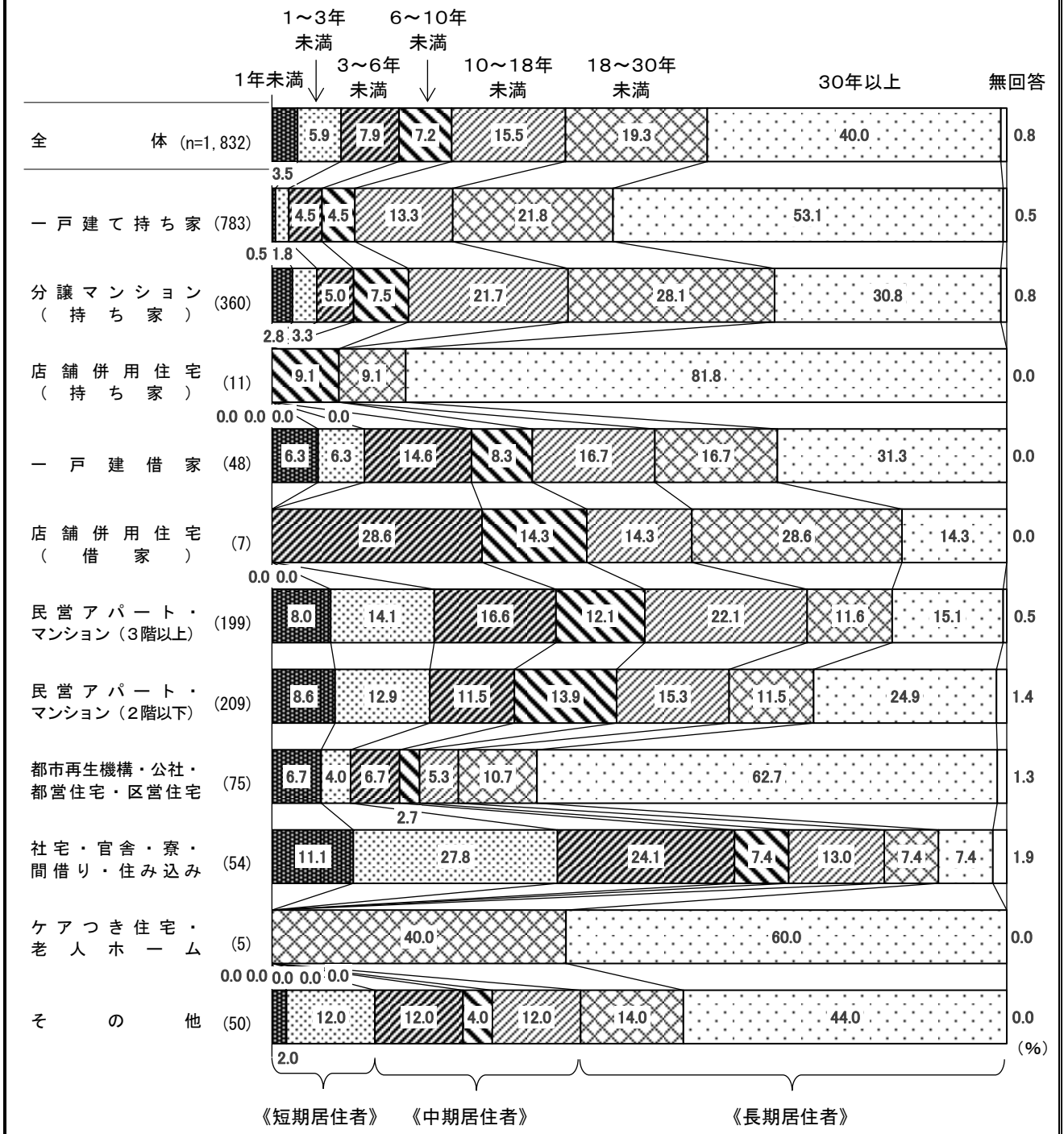
平成30年度以降と平成29年度以前では、「10~18年未満」と「18~30年未満」の区分が異なるが、平成26年度からの時系列の変化をみると、《短期居住者》、《中期居住者》、《長期居住者》ともに割合に大きな変化は見られない。《長期居住者》は5割台で推移している。（図1-1-2）

図 1-1-3 居住年数（地域別）



地域別にみると、《長期居住者》は砧南部が7割近くで最も高く、北沢東部で6割半ば、砧北部、世田谷西部で6割を超え、北沢西部でほぼ6割となっている。《短期居住者》は北沢西部、玉川南部で1割を超えている。（図1-1-3）

図1-1-4 居住年数（住居形態別）

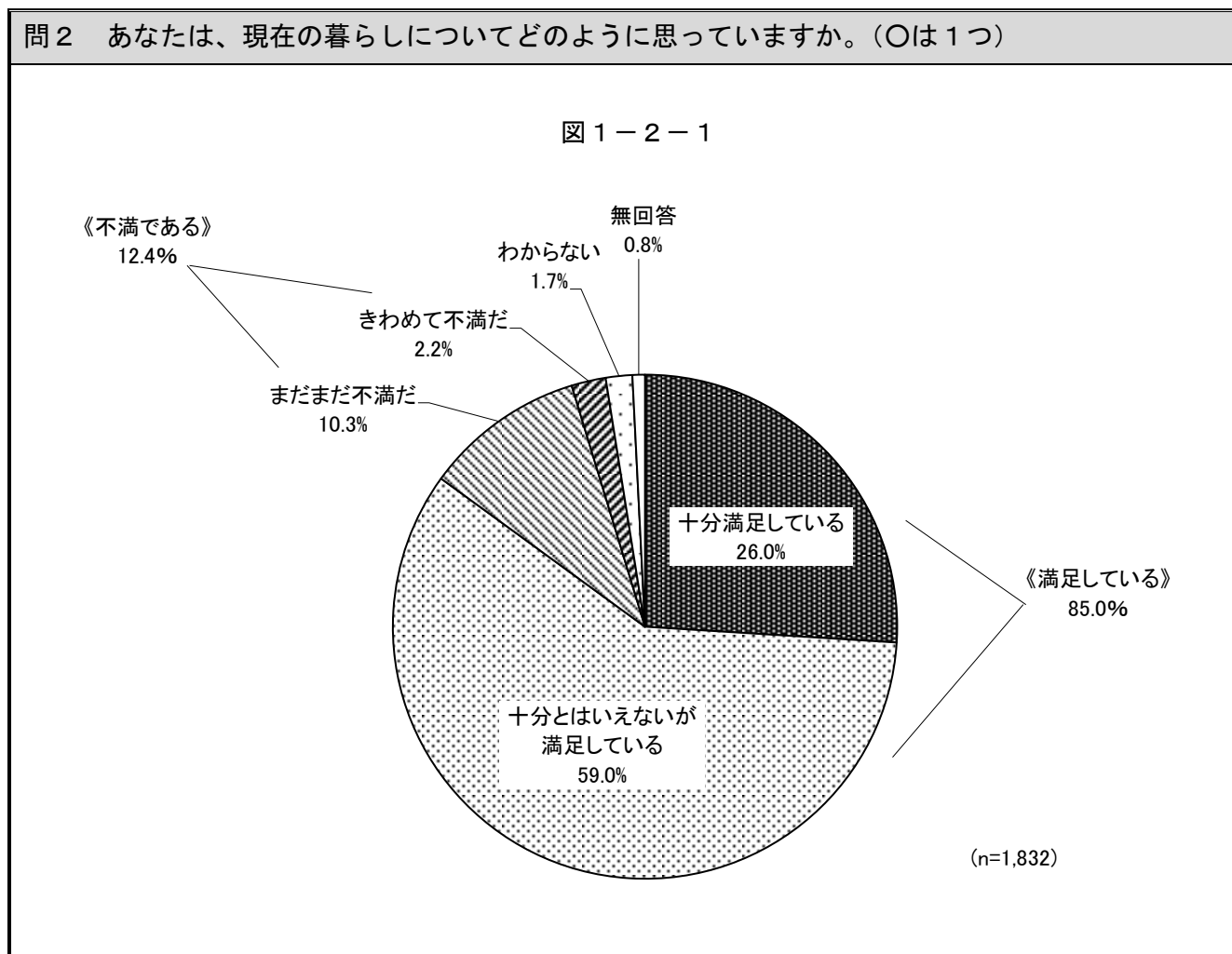


住居形態別にみると、《長期居住者》は、一戸建て持ち家で7割半ば、都市再生機構（旧公団）・公社・都営住宅・区営住宅で7割を超えている。《短期居住者》は、社宅・官舎・寮・間借り・住み込みで4割近くとなっている。（図1-1-4）

なお、基数(n)が30に満たない層については参考値とする。

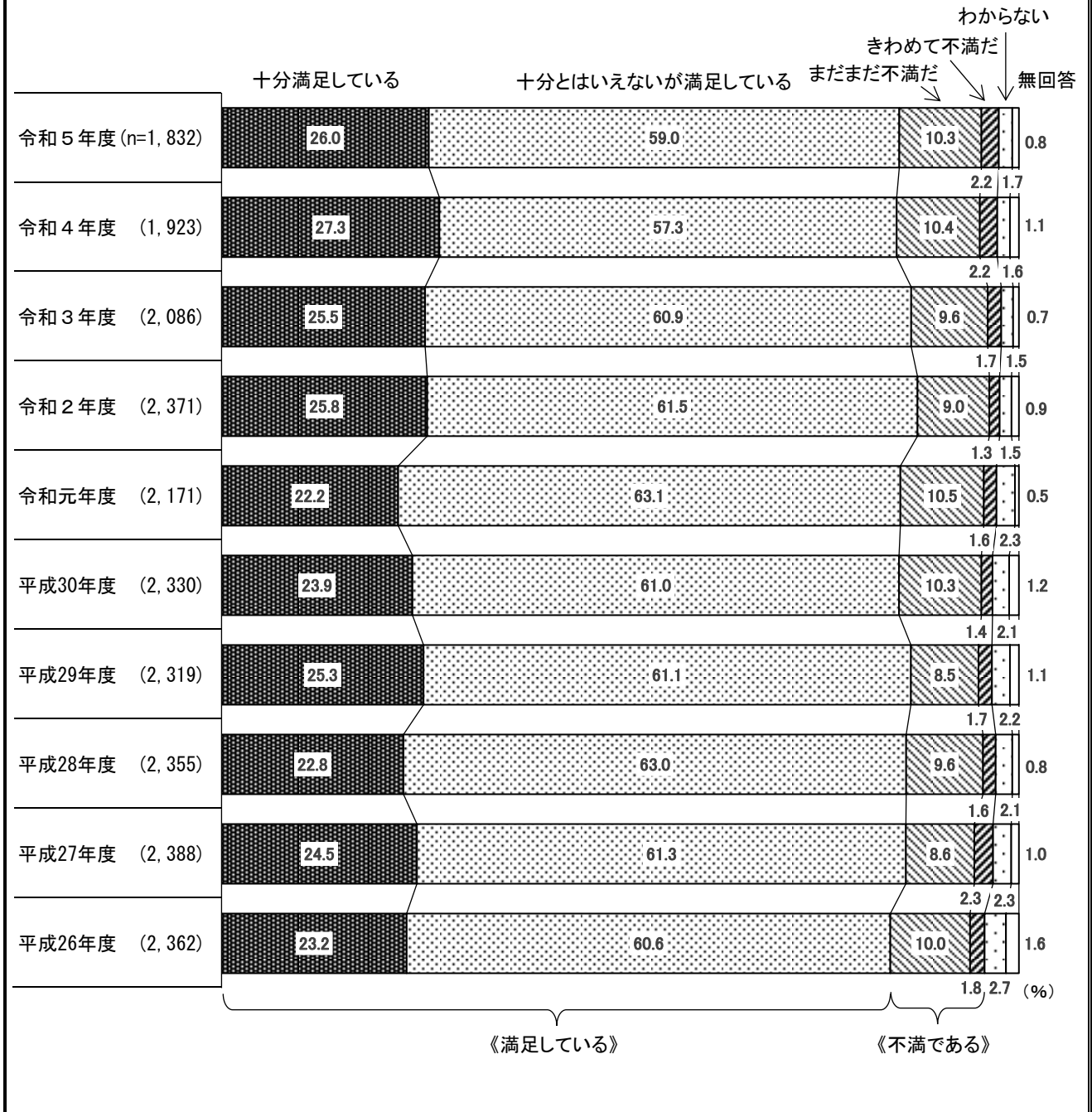
## (2) 暮らしの満足度

## ◎ 《満足している》が8割半ば



現在の暮らしについてどのように思っているか聞いたところ、「十分満足している」(26.0%)と「十分とはいえないが満足している」(59.0%)を合わせた《満足している》(85.0%)が8割半ばとなり、「まだまだ不満だ」(10.3%)と「きわめて不満だ」(2.2%)を合わせた《不満である》(12.4%)を大きく上回っている。(図1-2-1)

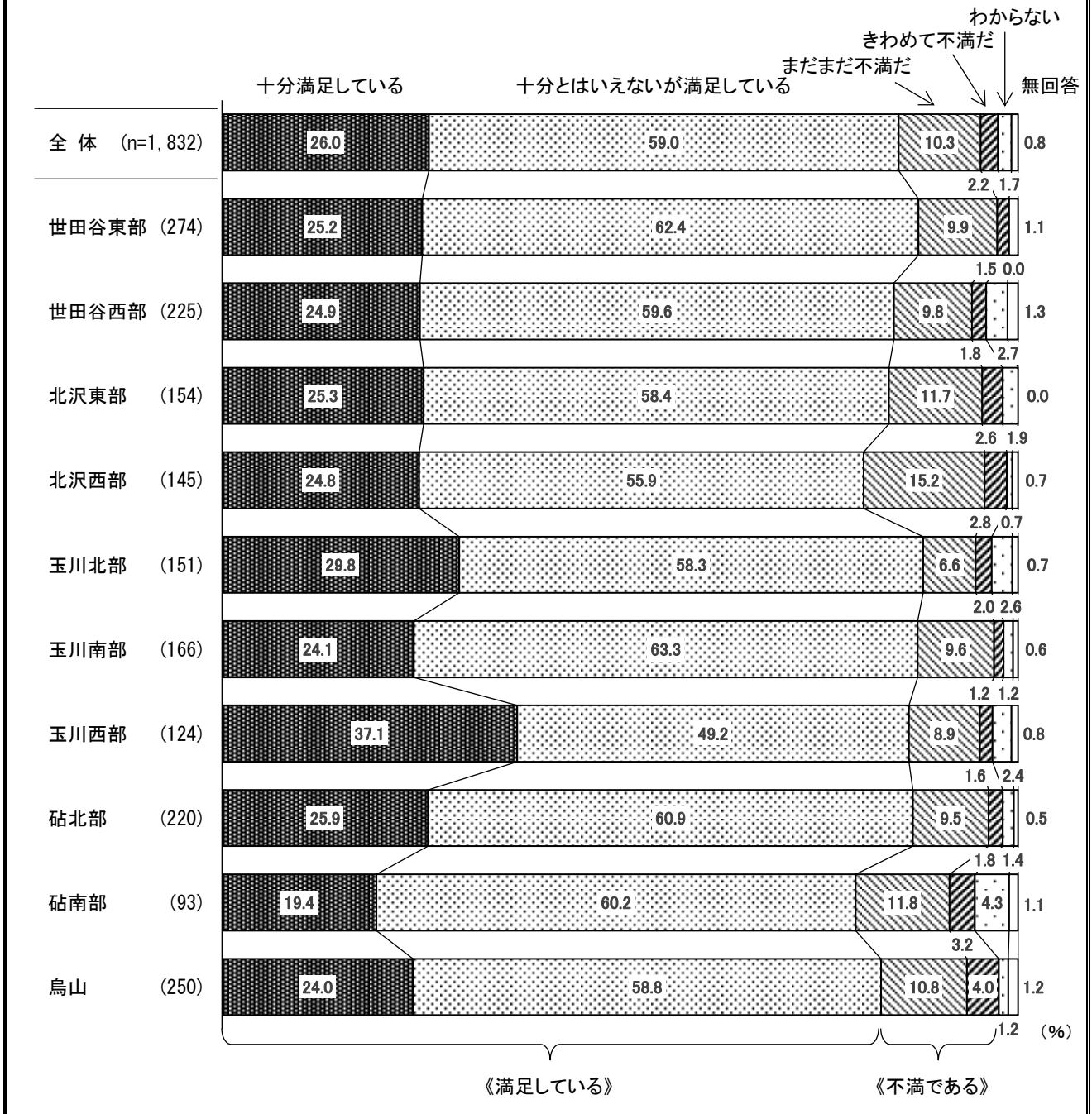
図1-2-2 暮らしの満足度（時系列）



平成26年度からの時系列の変化をみると、《満足している》が多数を占める傾向に変化はない。

(図1-2-2)

図1-2-3 暮らしの満足度（地域別）

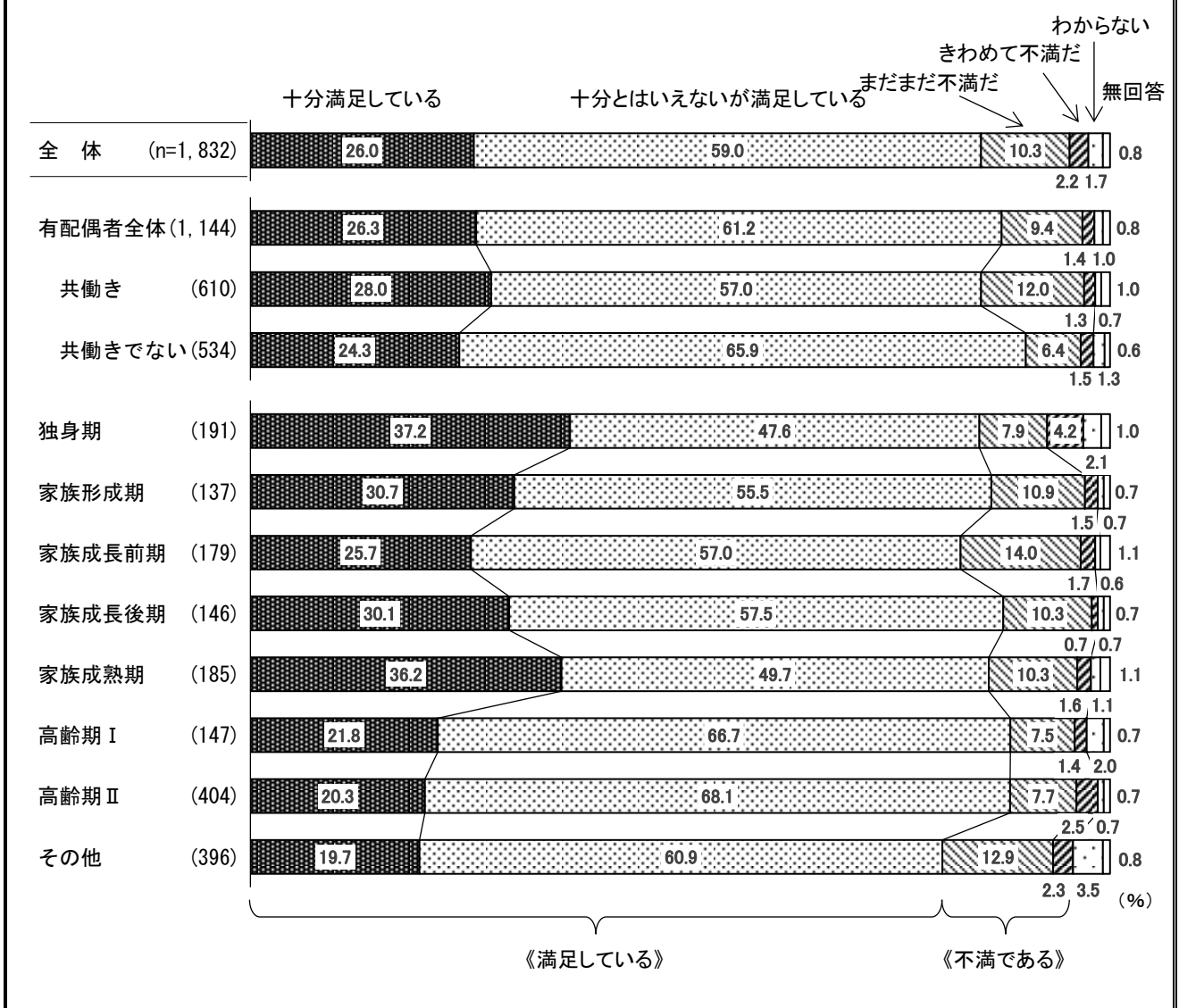


地域別にみると、いずれの地域も《満足している》が多数を占めており、「十分満足している」は玉川西部で4割近く、玉川北部で3割となっている。一方、《不満である》は北沢西部で2割近くとなっている。（図1-2-3）





図 1-2-5 暮らしの満足度（共働きの有無別・ライフステージ別）

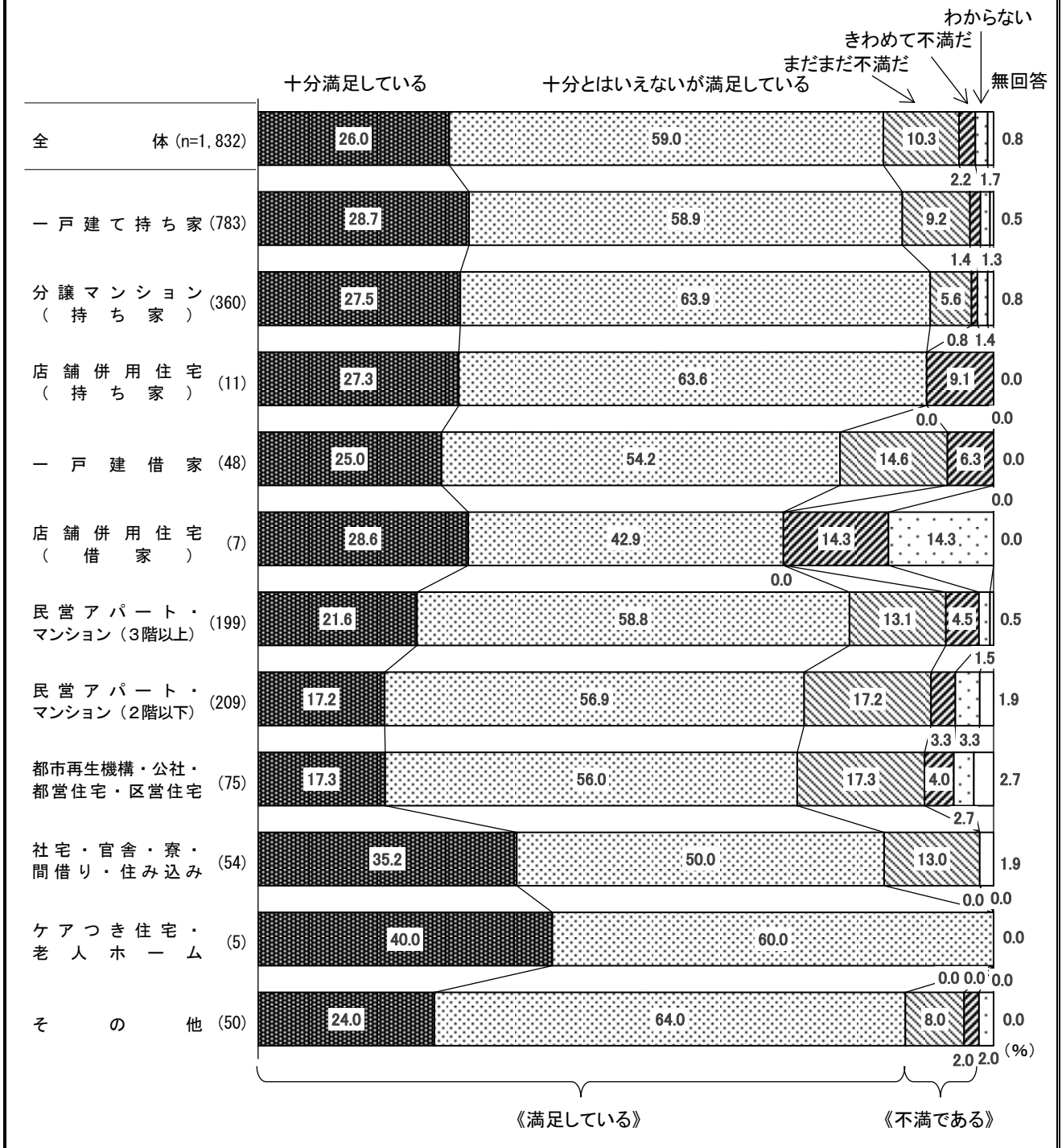


共働きの有無別にみると、《満足している》は共働きでない世帯で9割、共働き世帯で8割半ばとなっている。

ライフステージ別にみると、《満足している》は高齢期 I、高齢期 II、家族成長後期で9割近くとなっている。「十分満足している」は独身期で4割近く、家族成熟期で3割半ばとなっている。

(図 1-2-5)

図1-2-6 暮らしの満足度（住居形態別）



住居形態別にみると、《満足している》は、分譲マンション（持ち家）で9割を超えている。《不満である》は、都市再生機構（旧公団）・公社・都営住宅・区営住宅で2割を超え、一戸建借家、民営アパート・マンション（2階以下）でほぼ2割となっている。（図1-2-6）

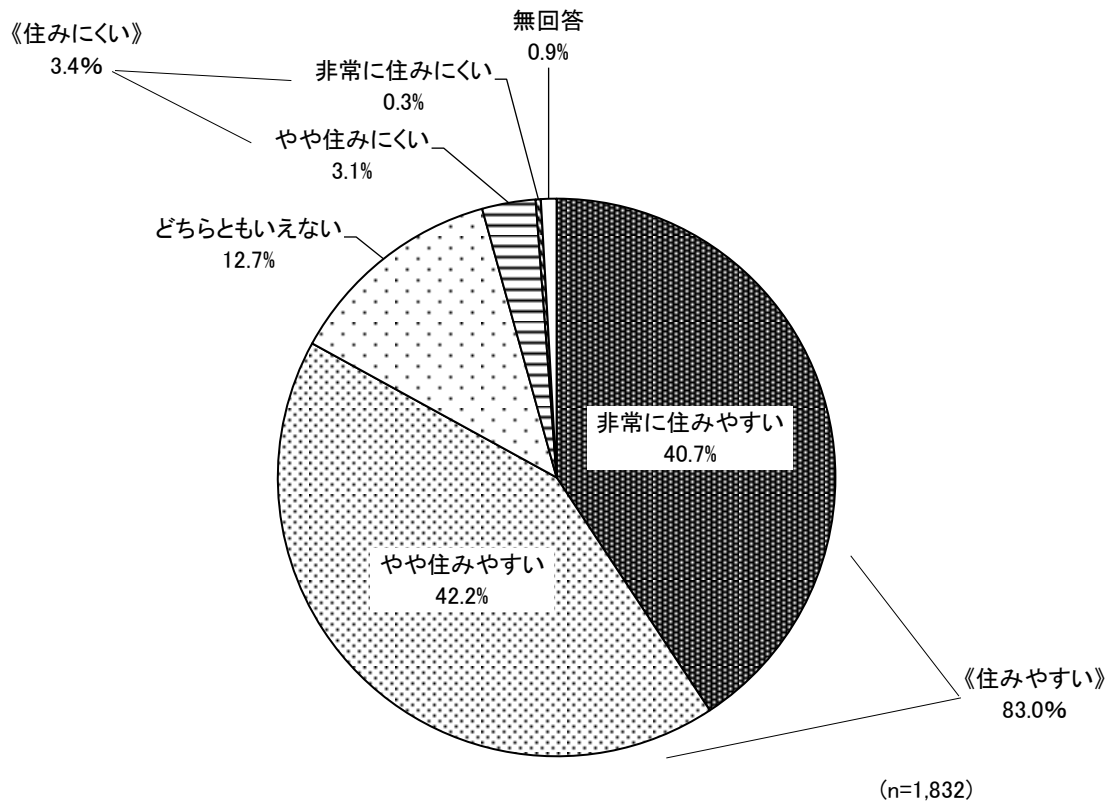
なお、基数(n)が30に満たない層については参考値とする。

## (3) 住みやすさ

## ◎ 《住みやすい》が8割を超える

問3 あなたは、世田谷区は住みやすいところだと思いますか。それとも住みにくいところだと思いますか。(○は1つ)

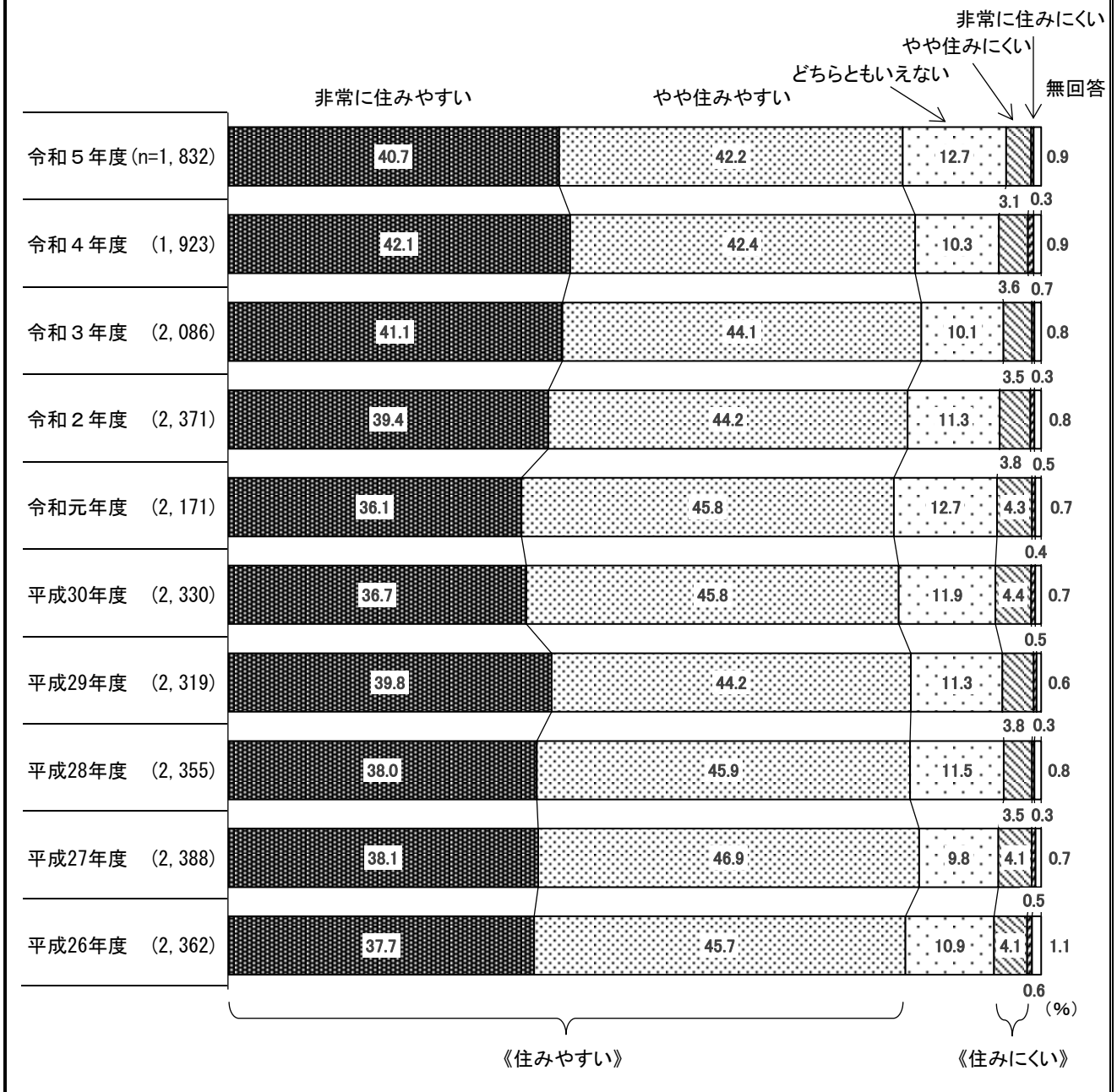
図1-3-1



世田谷区の住みやすさについて聞いたところ、「非常に住みやすい」(40.7%)と「やや住みやすい」(42.2%)を合わせた《住みやすい》(83.0%)が8割を超え、「やや住みにくい」(3.1%)と「非常に住みにくい」(0.3%)を合わせた《住みにくい》(3.4%)を大きく上回っている。

(図1-3-1)

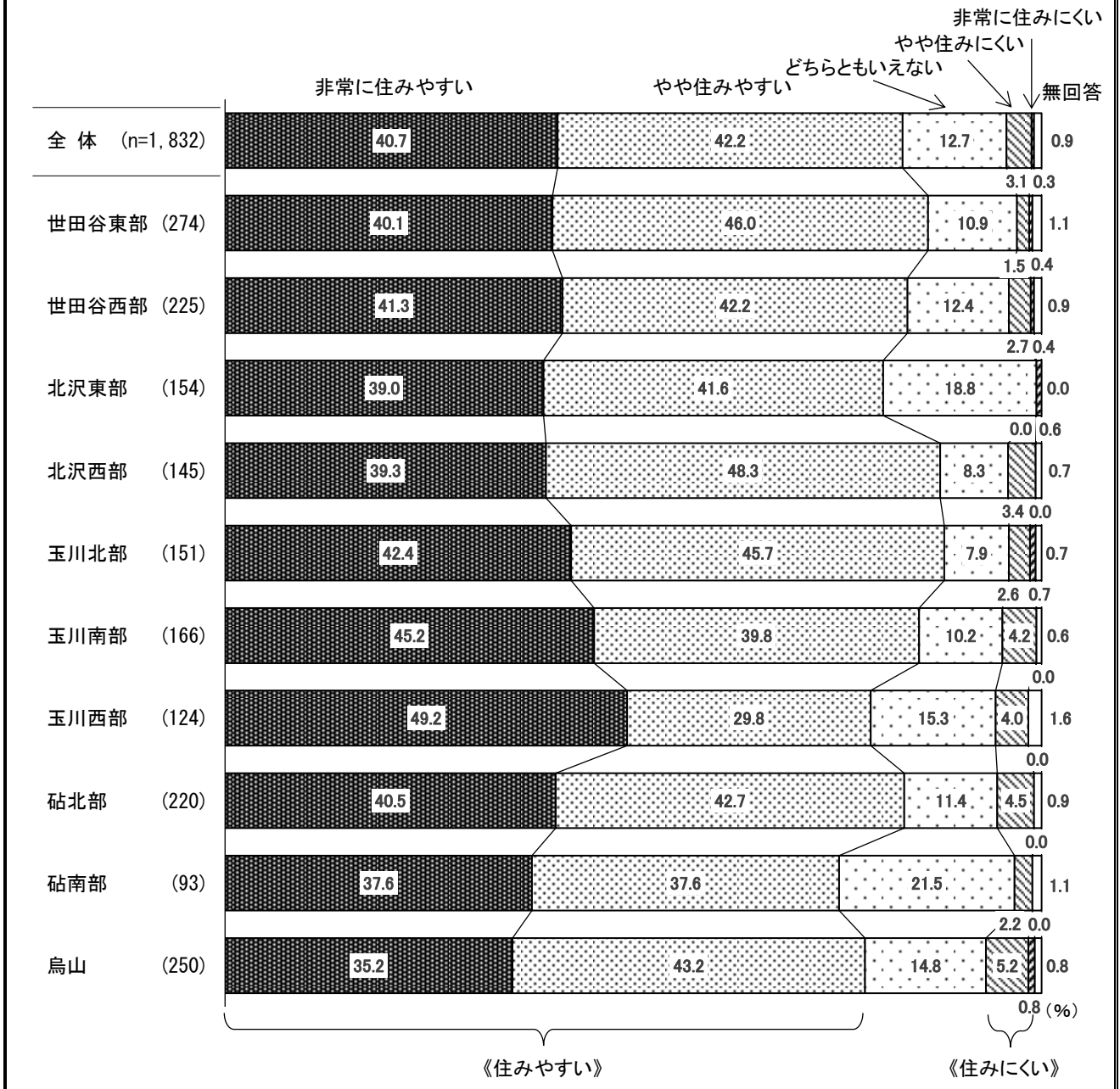
図1-3-2 住みやすさ（時系列）



平成26年度からの時系列の変化をみると、「《住みやすい》」の割合は、いずれの年も8割台となっている。「非常に住みやすい」の割合は、3割台後半で推移し、令和3年度から4割台となっている。

(図1-3-2)

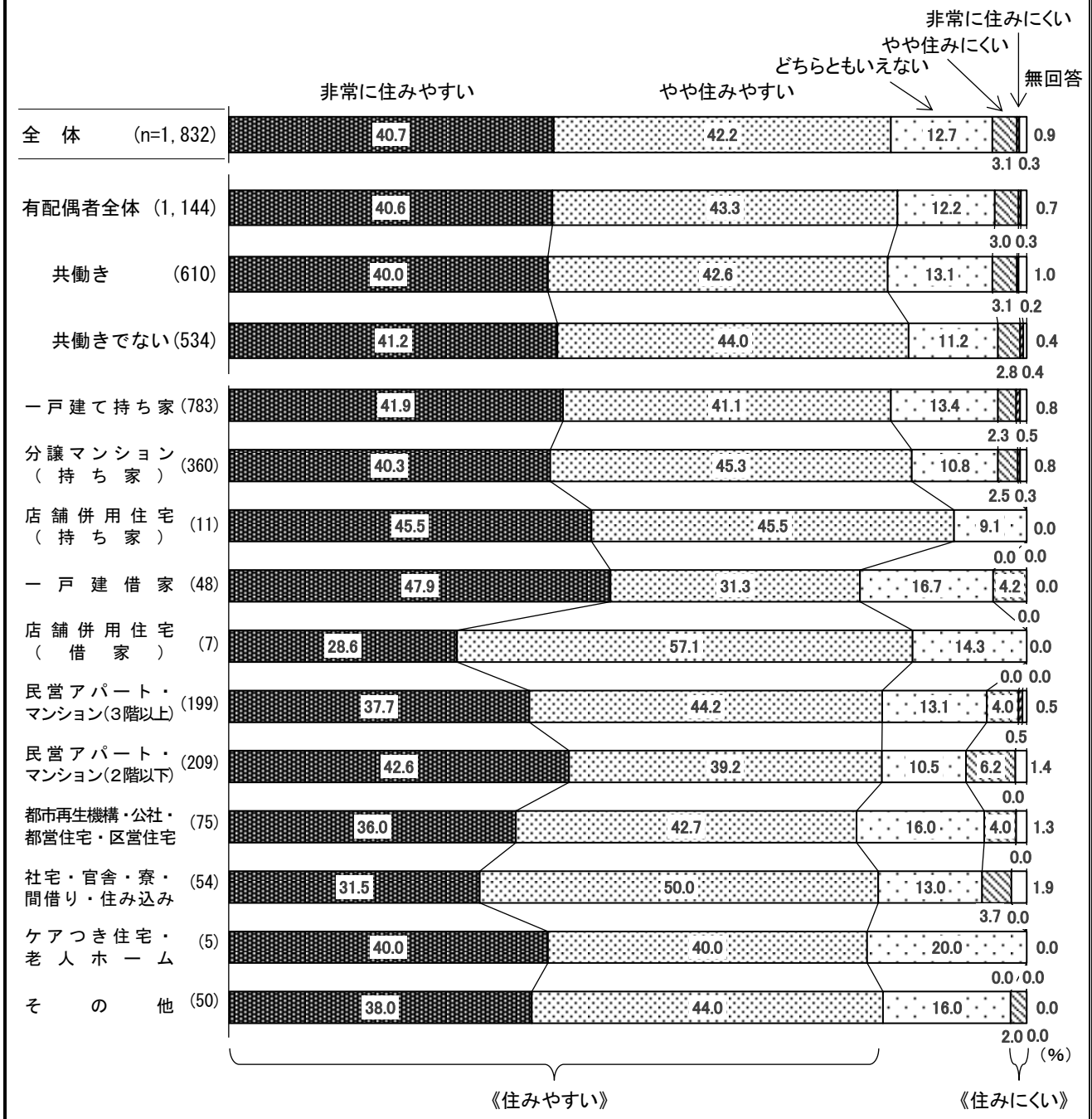
図1-3-3 住みやすさ（地域別）



地域別にみると、いずれの地域も《住みやすい》が多数を占めており、「非常に住みやすい」は玉川西部でほぼ5割、玉川南部で4割半ばとなっている。《住みにくい》は、いずれの地域でも1割に満たなかった。（図1-3-3）



図1-3-5 住みやすさ（共働きの有無別・住居形態別）



共働きの有無別にみると、共働き世帯と共働きでない世帯との間で大きな傾向の違いはみられない。住居形態別にみると、《住みやすい》は、分譲マンション（持ち家）で8割半ば、「非常に住みやすい」は一戸建借家で5割近くとなっている。（図1-3-5）

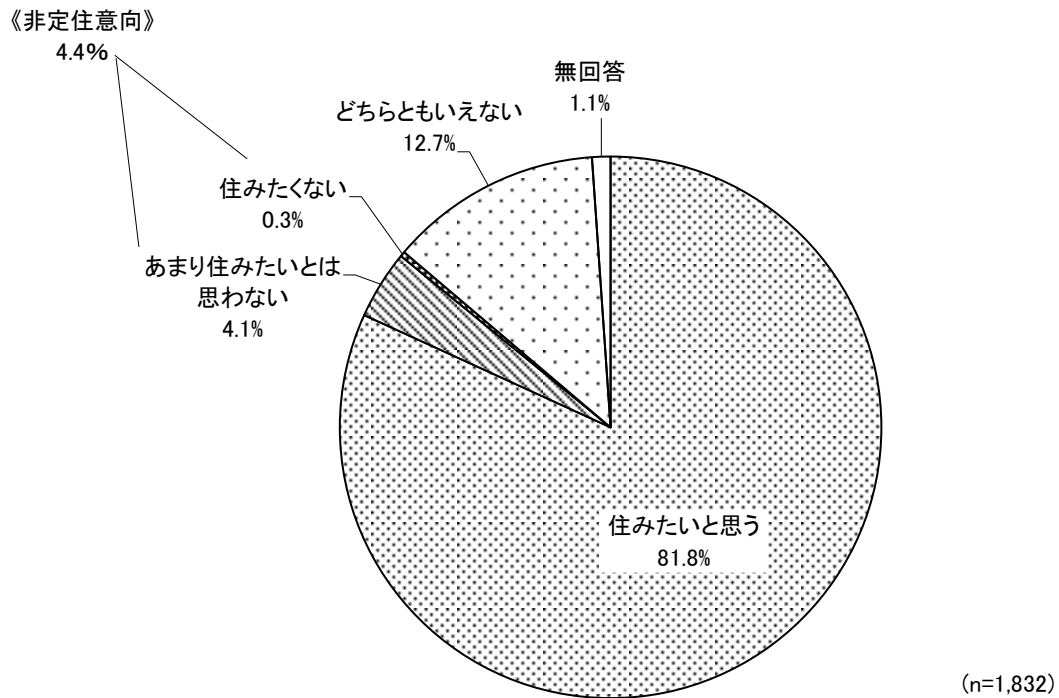
なお、基数(n)が30に満たない層については参考値とする。

## (4) 定住意向

## ◎「住みたいと思う」が8割を超える

問4 あなたは、これからも世田谷区に住みたいと思いますか。(○は1つ)

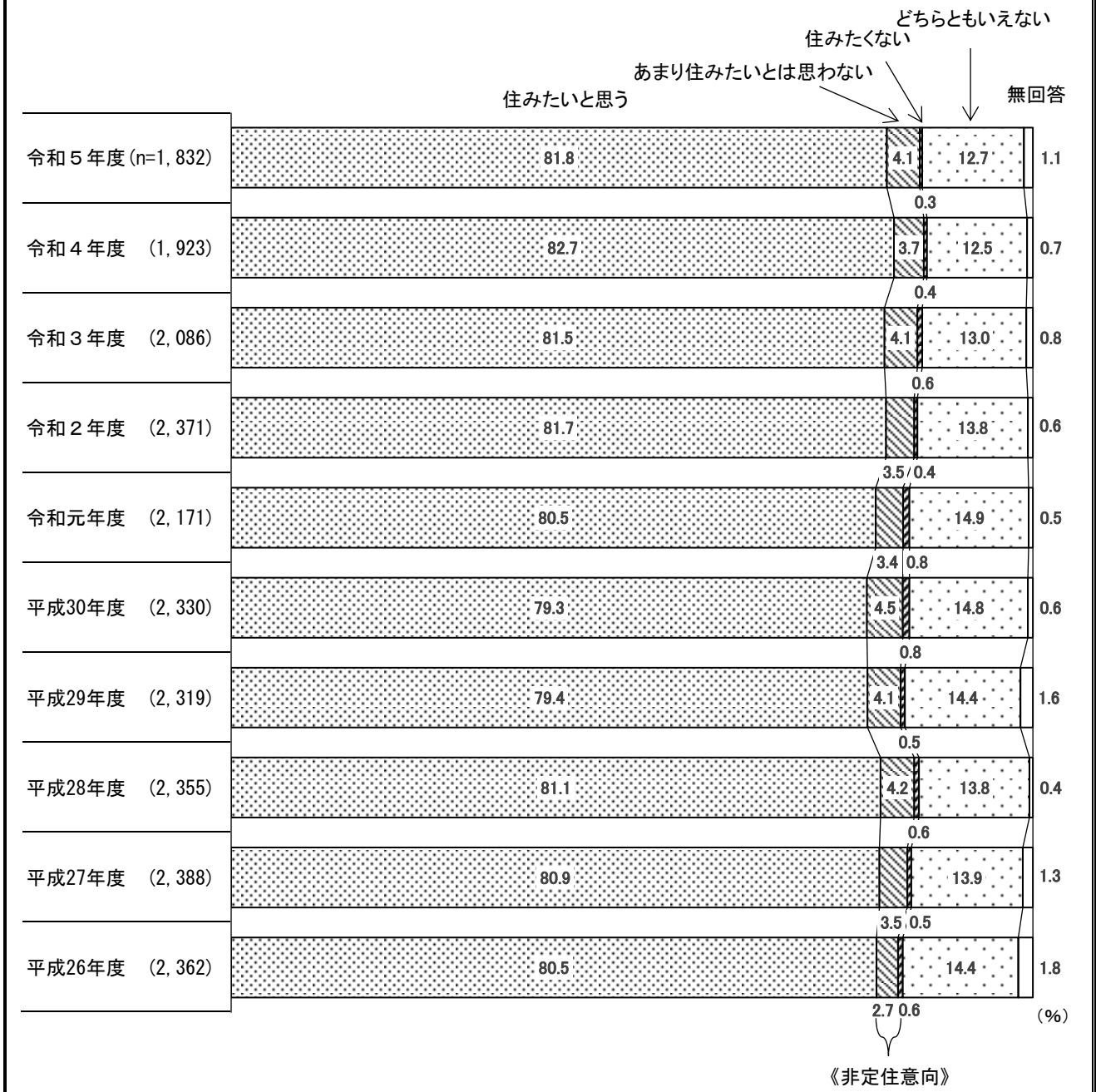
図1-4-1



今後の世田谷区への定住意向を聞いたところ、「住みたいと思う」(81.8%)が8割を超えている。「あまり住みたいとは思わない」(4.1%)と「住みたくない」(0.3%)を合わせた《非定住意向》(4.4%)は1割に満たなかった。(図1-4-1)

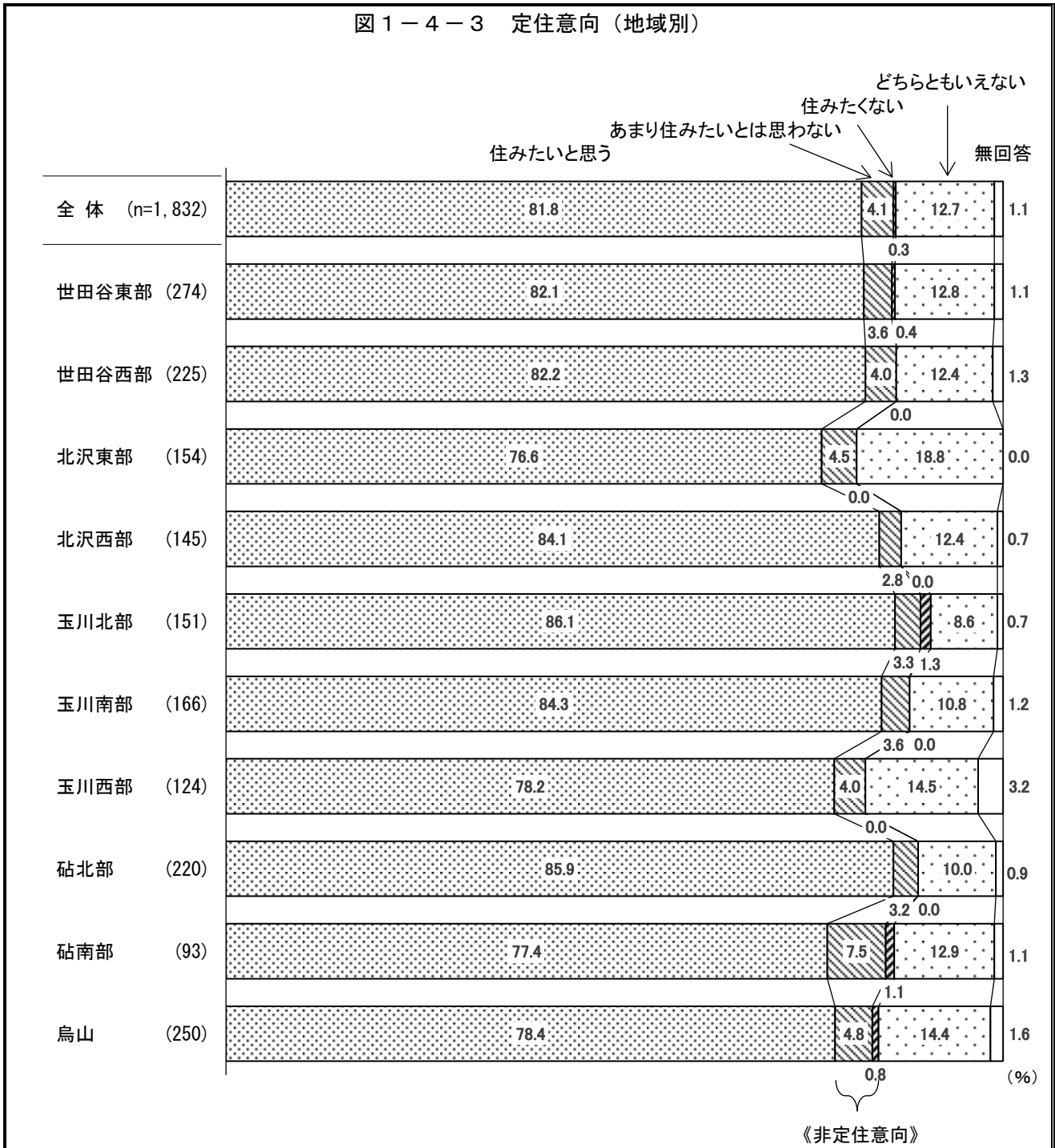


図 1-4-2 定住意向（時系列）



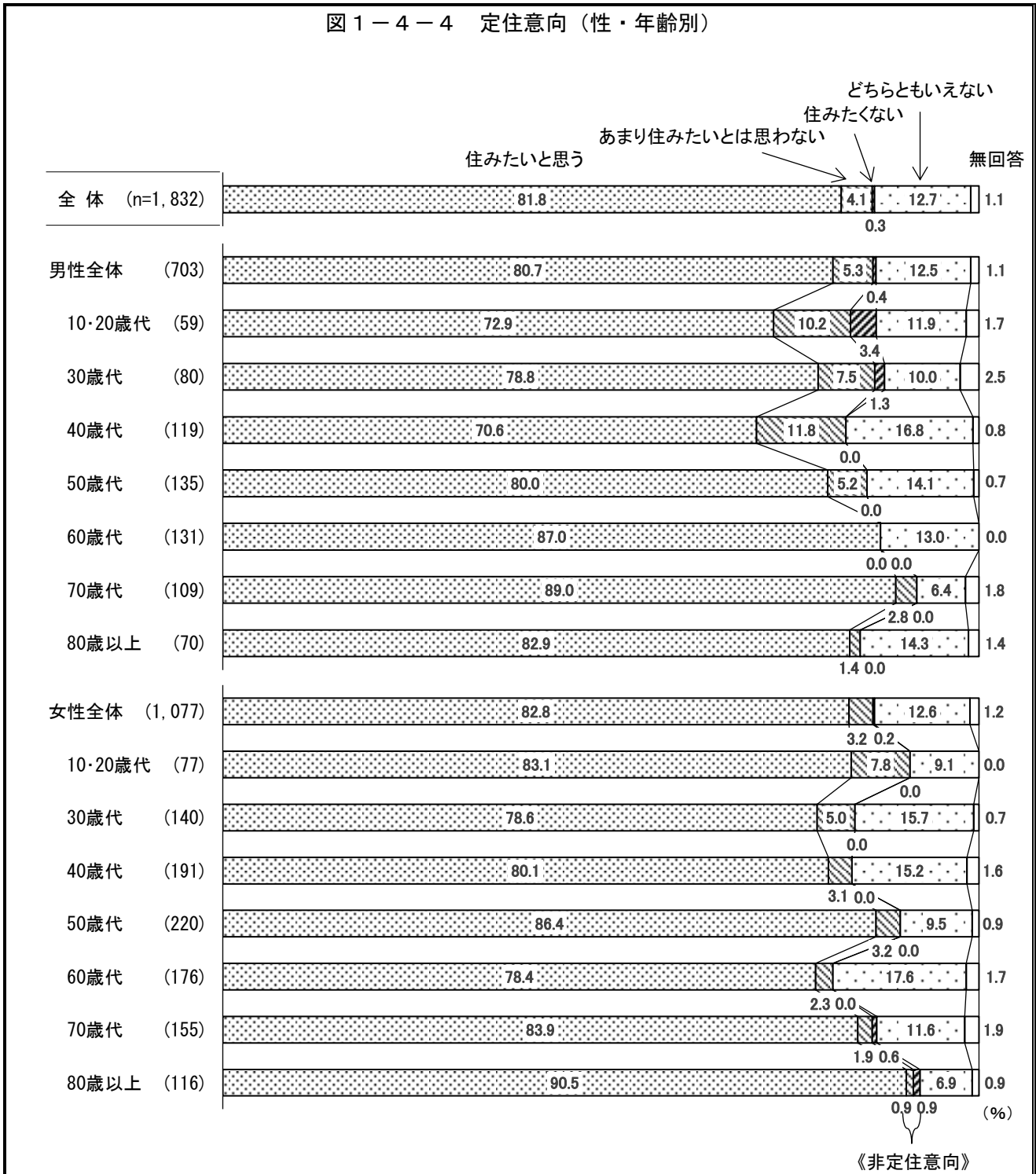
平成 26 年度からの時系列の変化をみると、「住みたいと思う」は、若干の変動はあるものの、8割前後で推移している。（図 1-4-2）

図1-4-3 定住意向（地域別）



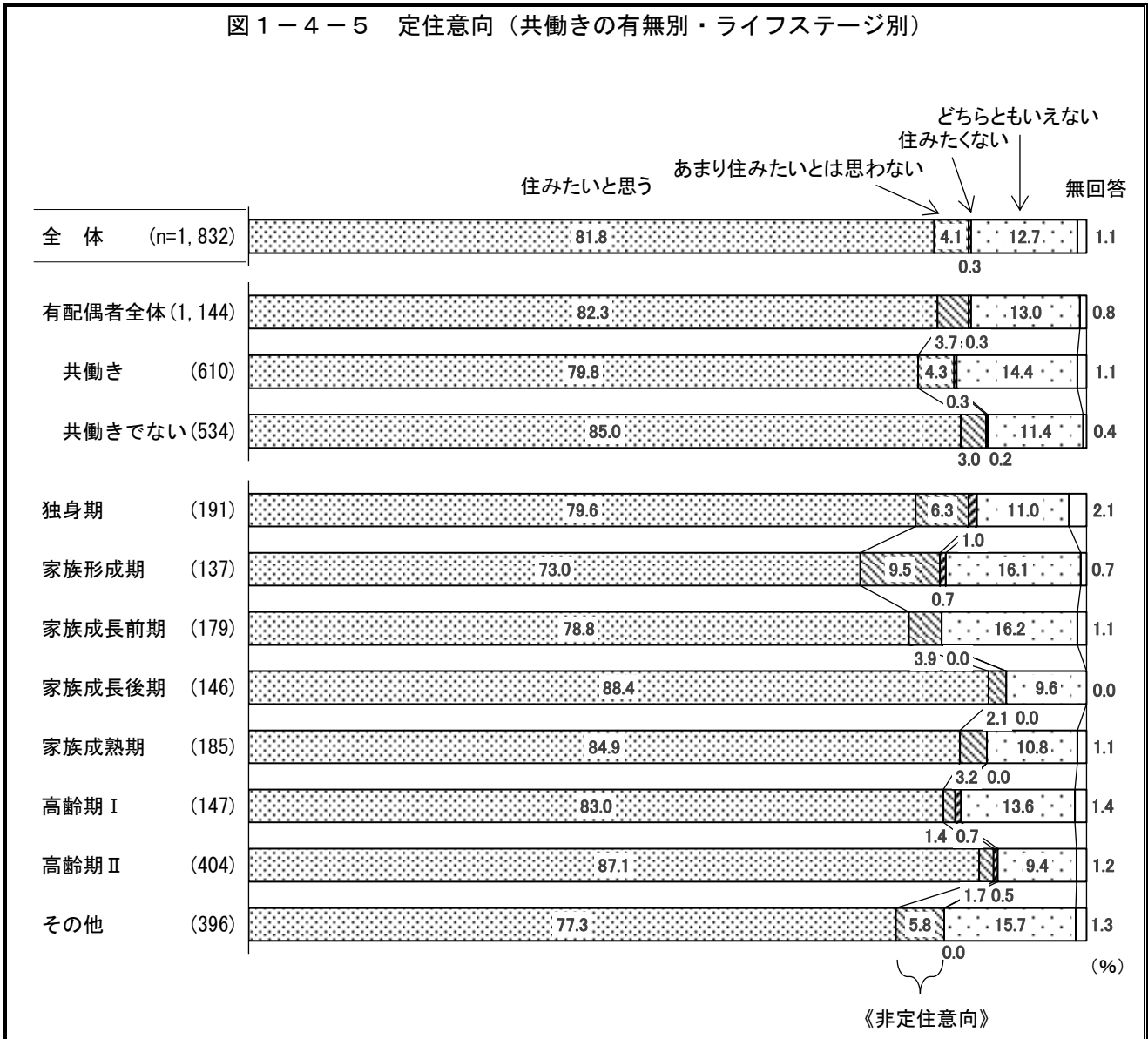
地域別にみると、「住みたいと思う」は、玉川北部、砧北部、玉川南部、北沢西部で8割半ばとなっている。いずれの地域でも《非定住意向》は1割に満たなかった。（図1-4-3）

図 1-4-4 定住意向（性・年齢別）



性・年齢別にみると、「住みたいと思う」は女性の80歳以上、男性の70歳代でほぼ9割となっている。《非定住意向》は男性の10・20歳代と40歳代で1割を超えている。定住意向は高年層で高く、若年層で低い傾向が見られる。(図1-4-4)

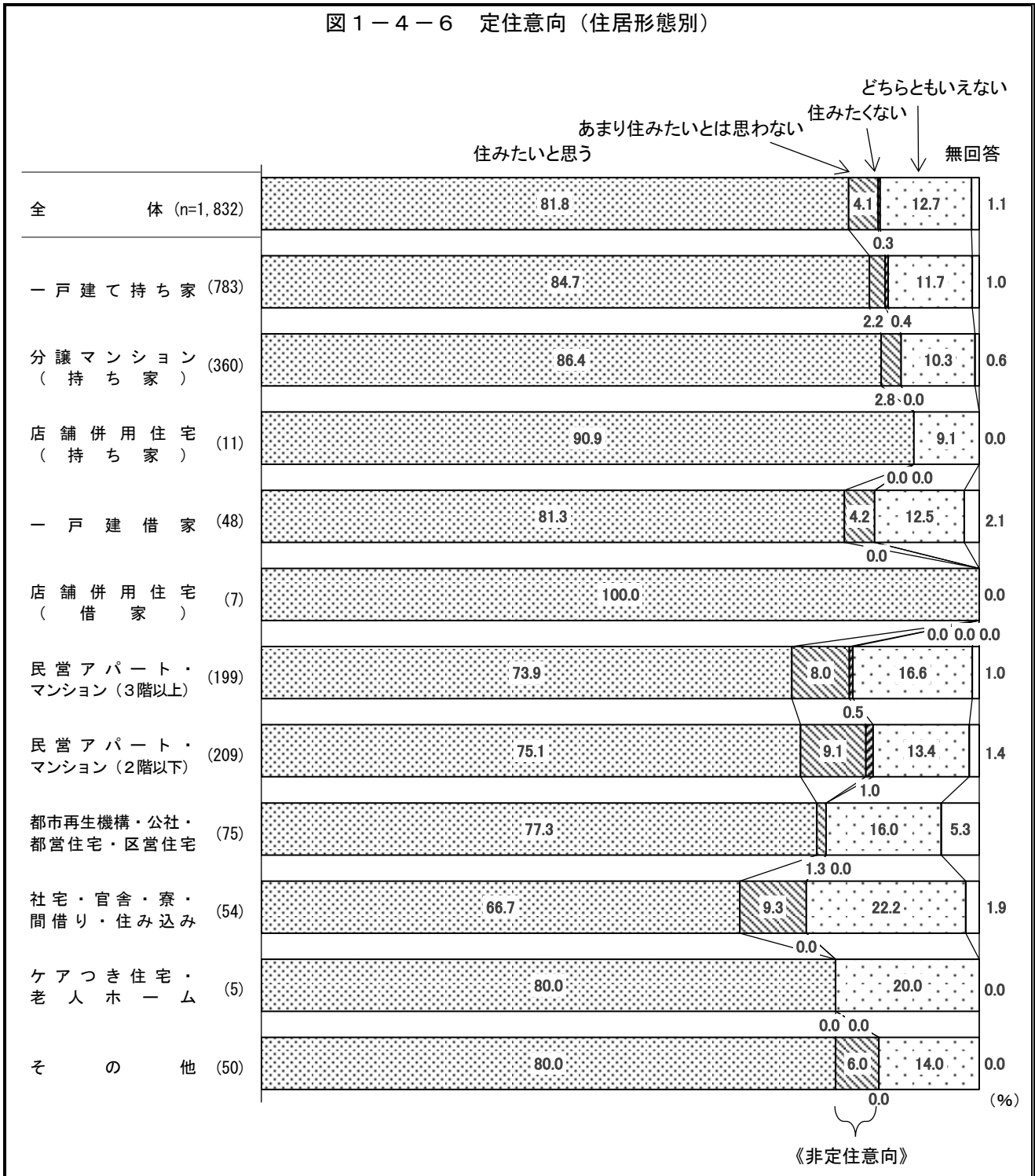
図 1-4-5 定住意向（共働きの有無別・ライフステージ別）



共働きの有無別にみると、「住みたいと思う」は共働きでない世帯で8割半ば、共働き世帯で8割となっている。《非定住意向》は共働き世帯と共働きでない世帯で大きな差はみられない。

ライフステージ別にみると、「住みたいと思う」は家族成長後期、高齢期Ⅱで9割近くとなっている。《非定住意向》は、家族形成期で1割となっている。（図1-4-5）

図1-4-6 定住意向（住居形態別）



住居形態別にみると、「住みたいと思う」は分譲マンション（持ち家）、一戸建て持ち家で8割半ば、一戸建て借家で8割を超えている。《非定住意向》は民営アパート・マンション（2階以下）で1割となっている。（図1-4-6）

なお、基数(n)が30に満たない層については参考値とする。

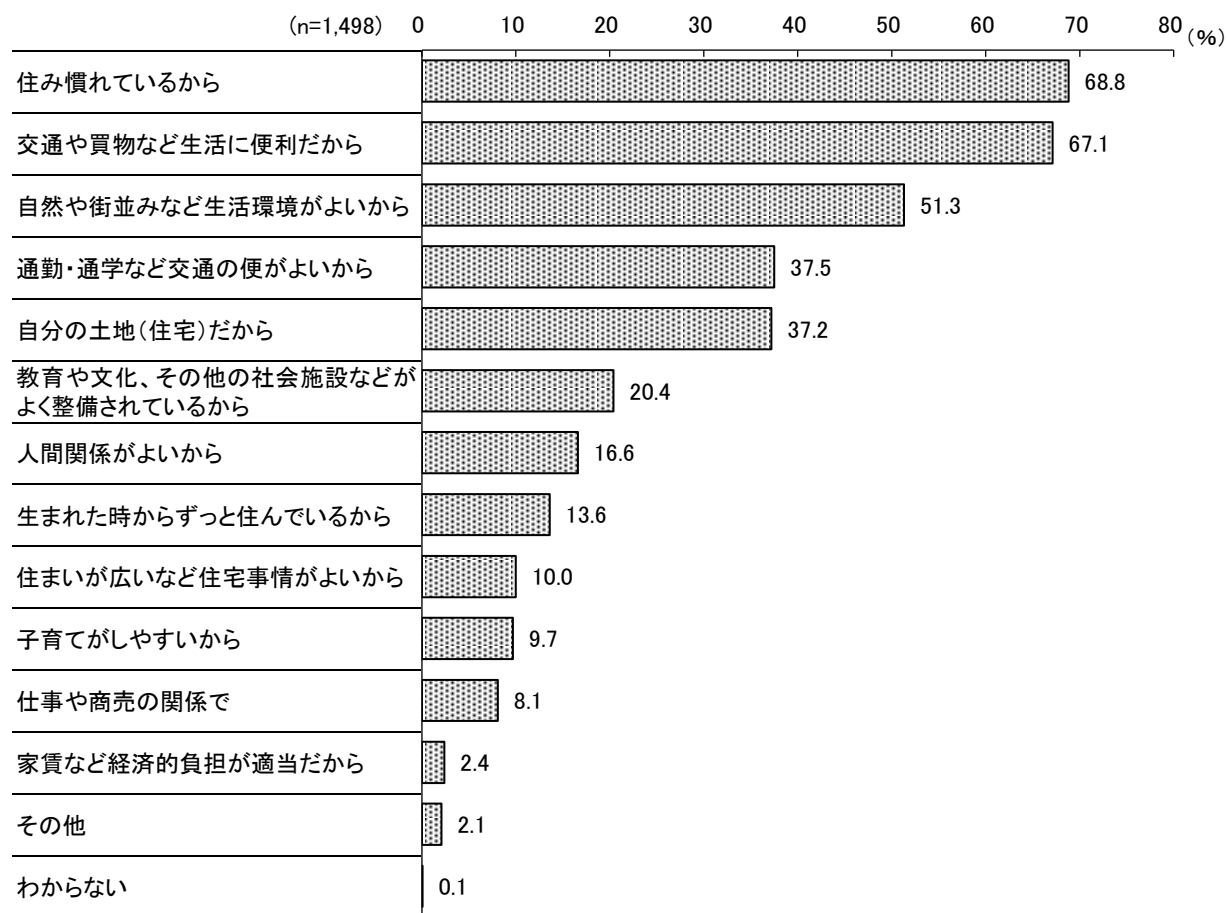
## (5) 定住意向理由

## ◎世田谷区に住みたい理由の第1位は「住み慣れているから」

(問4で「住みたいと思う」と答えた方に)

問4-1 これからも世田谷区に住みたいと思う理由はどんなことですか。(〇はいくつでも)

図1-5-1



今後も世田谷区に「住みたいと思う」と答えた方(1,498人)に、その理由を聞いたところ、「住み慣れているから」(68.8%)と「交通や買物など生活に便利だから」(67.1%)が7割近くとなっている。以下、「自然や街並みなど生活環境がよいから」(51.3%)、「通勤・通学など交通の便がよいから」(37.5%)、「自分の土地(住宅)だから」(37.2%)などと続く。(図1-5-1)

表 1-5-1 定住意向理由（時系列）

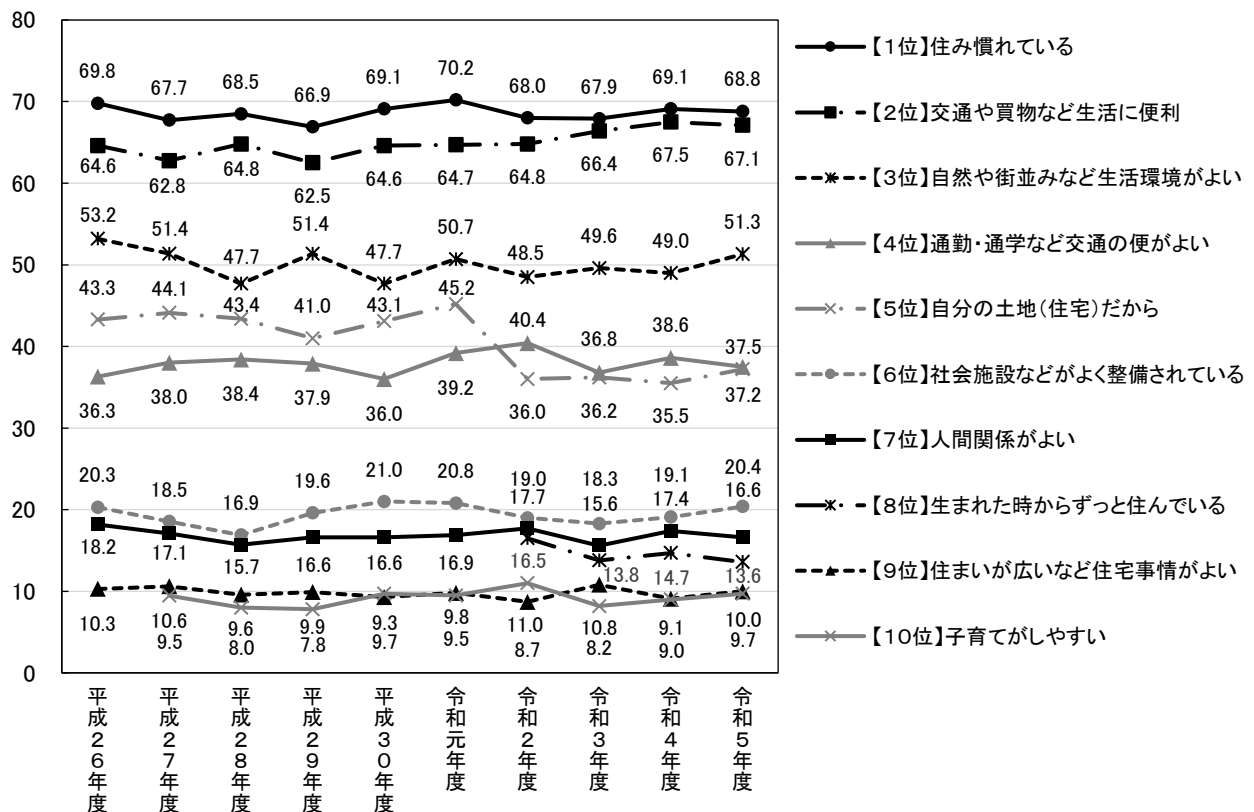
（％）

理由	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度
n	1,901	1,931	1,909	1,841	1,848	1,747	1,936	1,700	1,590	1,498
【1位】 住み慣れている	69.8	67.7	68.5	66.9	69.1	70.2	68.0	67.9	69.1	68.8
【2位】 交通や買物など生活に便利	64.6	62.8	64.8	62.5	64.6	64.7	64.8	66.4	67.5	67.1
【3位】 自然や街並みなど生活環境がよい	53.2	51.4	47.7	51.4	47.7	50.7	48.5	49.6	49.0	51.3
【4位】 通勤・通学など交通の便がよい	36.3	38.0	38.4	37.9	36.0	39.2	40.4	36.8	38.6	37.5
【5位】 自分の土地(住宅)だから	43.3	44.1	43.4	41.0	43.1	45.2	36.0	36.2	35.5	37.2
【6位】 社会施設などがよく整備されている	20.3	18.5	16.9	19.6	21.0	20.8	19.0	18.3	19.1	20.4
【7位】 人間関係がよい	18.2	17.1	15.7	16.6	16.6	16.9	17.7	15.6	17.4	16.6
【8位】 生まれた時からずっと住んでいる	-	-	-	-	-	-	16.5	13.8	14.7	13.6
【9位】 住まいが広いなど住宅事情がよい	10.3	10.6	9.6	9.9	9.3	9.8	8.7	10.8	9.1	10.0
【10位】 子育てがしやすい	-	9.5	8.0	7.8	9.7	9.5	11.0	8.2	9.0	9.7

注) 令和5年度の値で順位付けを行った。

図 1-5-2 定住意向理由（時系列）

（％）



平成 26 年度からの時系列の変化をみると、「住み慣れているから」と「交通や買物など生活に便利だから」の 2 項目が 6 割台以上で上位に挙げられ、「自然や街並みなど生活環境がよいから」が 5 割前後となっている。「自分の土地（住宅）だから」は令和元年度以前は 4 割台、令和 2 年度以降は 3 割台となっている。（表 1-5-1、図 1-5-2）

表 1-5-2 定住意向理由（地域別）

(%)

	n	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
全体	1,498	住み慣れている 68.8	交通や買物など生活に便利 67.1	自然や街並みなど生活環境がよいから 51.3	通勤・通学など交通の便がよい 37.5	自分の土地（住宅）だから 37.2	社会施設などがよく整備されている 20.4	人間関係がよい 16.6	生まれた時からずっと住んでいる 13.6	住まいが広いなど住宅事情がよい 10.0	子育てがしやすい 9.7
世田谷東部	225	交通や買物など生活に便利 71.6	住み慣れている 70.7	通勤・通学など交通の便がよい 42.7	自然や街並みなど生活環境がよいから 40.0	自分の土地（住宅）だから 32.9	人間関係がよい 16.9	社会施設などがよく整備されている 14.7	生まれた時からずっと住んでいる 13.8	仕事や商売の関係で 9.3	子育てがしやすい 8.4
世田谷西部	185	交通や買物など生活に便利 69.7	住み慣れている 68.1	自然や街並みなど生活環境がよい 54.6	通勤・通学など交通の便がよい 44.3	自分の土地（住宅）だから 40.0	人間関係がよい／社会施設などがよく整備されている 22.2	生まれた時からずっと住んでいる 9.7	子育てがしやすい 9.2	住まいが広いなど住宅事情がよい 8.6	
北沢東部	118	住み慣れている 77.1	交通や買物など生活に便利 75.4	通勤・通学など交通の便がよい 47.5	自分の土地（住宅）だから 43.2	自然や街並みなど生活環境がよいから 41.5	生まれた時からずっと住んでいる／社会施設などがよく整備されている 20.3	人間関係がよい 16.1	住まいが広いなど住宅事情がよい 14.4	仕事や商売の関係で 12.7	
北沢西部	122	交通や買物など生活に便利 72.1	住み慣れている 69.7	通勤・通学など交通の便がよい 43.4	自然や街並みなど生活環境がよい 40.2	自分の土地（住宅）だから 37.7	社会施設などがよく整備されている 23.0	人間関係がよい 15.6	生まれた時からずっと住んでいる 14.8	住まいが広いなど住宅事情がよい 9.0	仕事や商売の関係で 7.4
玉川北部	130	交通や買物など生活に便利 66.9	住み慣れている 63.8	自然や街並みなど生活環境がよい 62.3	通勤・通学など交通の便がよい 45.4	自分の土地（住宅）だから 35.4	社会施設などがよく整備されている 16.2	人間関係がよい 14.6	子育てがしやすい 11.5	住まいが広いなど住宅事情がよい 10.0	仕事や商売の関係で 6.9
玉川南部	140	交通や買物など生活に便利 67.9	自然や街並みなど生活環境がよい 64.3	住み慣れている 62.9	自分の土地（住宅）だから 39.3	通勤・通学など交通の便がよい 34.3	社会施設などがよく整備されている 20.7	人間関係がよい 17.1	生まれた時からずっと住んでいる 14.3	子育てがしやすい 12.1	住まいが広いなど住宅事情がよい 11.4
玉川西部	97	交通や買物など生活に便利 69.1	住み慣れている 64.9	自然や街並みなど生活環境がよい 59.8	自分の土地（住宅）だから 37.1	通勤・通学など交通の便がよい 32.0	社会施設などがよく整備されている 24.7	人間関係がよい 15.5	生まれた時からずっと住んでいる 13.4	子育てがしやすい 11.3	住まいが広いなど住宅事情がよい 9.3
砧北部	189	住み慣れている 69.8	交通や買物など生活に便利 59.3	自然や街並みなど生活環境がよいから 53.4	自分の土地（住宅）だから 37.0	通勤・通学など交通の便がよい 30.2	社会施設などがよく整備されている 22.8	生まれた時からずっと住んでいる／人間関係がよい 15.3	住まいが広いなど住宅事情がよい 12.7	子育てがしやすい 11.6	
砧南部	72	住み慣れている 72.2	自然や街並みなど生活環境がよい 58.3	交通や買物など生活に便利 48.6	自分の土地（住宅）だから 34.7	通勤・通学など交通の便がよい／社会施設などがよく整備されている 25.0	生まれた時からずっと住んでいる 23.6	人間関係がよい 22.2	住まいが広いなど住宅事情がよい／子育てがしやすい 12.5		
烏山	196	住み慣れている 69.4	交通や買物など生活に便利 64.3	自然や街並みなど生活環境がよい 50.0	自分の土地（住宅）だから 38.3	通勤・通学など交通の便がよい 30.6	社会施設などがよく整備されている 20.9	人間関係がよい 13.8	生まれた時からずっと住んでいる 11.7	子育てがしやすい 9.2	仕事や商売の関係で 8.2

地域別にみると、「住み慣れているから」と「交通や買物など生活に便利だから」はすべての地域で3位以内に挙げられている。「自然や街並みなど生活環境がよいから」は世田谷東部、北沢東部、北沢西部以外の地域で3位以内に挙げられている。世田谷東部、北沢東部、北沢西部は「通勤・通学など交通の便がよいから」が3位になっている。（表1-5-2）



表1-5-3 定住意向理由(性・年齢別)

(%)

	n	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
全体	1,498	住み慣れている 68.8	交通や買物など生活に便利 67.1	自然や街並みなど生活環境がよい 51.3	通勤・通学など交通の便がよい 37.5	自分の土地(住宅)だから 37.2	社会施設などがよく整備されている 20.4	人間関係がよい 16.6	生まれた時からずっと住んでいる 13.6	住まいが広いなど住宅事情がよい 10.0	子育てがしやすい 9.7
男性全体	567	住み慣れている 66.5	交通や買物など生活に便利 66.1	自然や街並みなど生活環境がよい 49.2	通勤・通学など交通の便がよい 39.5	自分の土地(住宅)だから 38.1	社会施設などがよく整備されている 22.8	人間関係がよい 15.7	生まれた時からずっと住んでいる 14.1	仕事や商売の関係で 9.7	子育てがしやすい 9.2
10・20歳代	43	住み慣れている 67.4	交通や買物など生活に便利 60.5	通勤・通学など交通の便がよい 58.1	自然や街並みなど生活環境がよい 48.8	生まれた時からずっと住んでいる 23.3	自分の土地(住宅)だから/社会施設などがよく整備されている 16.3	人間関係がよい 16.3	生まれた時からずっと住んでいる 11.6	住まいが広いなど住宅事情がよい 4.7	仕事や商売の関係で/家賃など経済的負担が適当/子育てがしやすい 4.7
30歳代	63	交通や買物など生活に便利 63.5	通勤・通学など交通の便がよい 57.1	住み慣れている 54.0	自然や街並みなど生活環境がよい 41.3	社会施設などがよく整備されている 27.0	自分の土地(住宅)だから 22.2	子育てがしやすい 20.6	仕事や商売の関係で 19.0	生まれた時からずっと住んでいる 14.3	住まいが広いなど住宅事情がよい 12.7
40歳代	84	交通や買物など生活に便利 59.5	住み慣れている/自然や街並みなど生活環境がよい 57.1	通勤・通学など交通の便がよい 48.8	自然や街並みなど生活環境がよい 48.8	自分の土地(住宅)だから 34.5	社会施設などがよく整備されている 29.8	子育てがしやすい 23.8	人間関係がよい 16.7	仕事や商売の関係で 11.9	住まいが広いなど住宅事情がよい 7.1
50歳代	108	住み慣れている 69.4	交通や買物など生活に便利 63.0	自然や街並みなど生活環境がよい 55.6	通勤・通学など交通の便がよい 44.4	自分の土地(住宅)だから 35.2	人間関係がよい/社会施設などがよく整備されている 20.4	生まれた時からずっと住んでいる 20.4	人間関係がよい 12.0	仕事や商売の関係で 10.2	子育てがしやすい 8.3
60歳代	114	交通や買物など生活に便利 76.3	住み慣れている 66.7	自分の土地(住宅)だから 50.0	自然や街並みなど生活環境がよい 45.6	通勤・通学など交通の便がよい 41.2	社会施設などがよく整備されている 20.2	生まれた時からずっと住んでいる 19.3	人間関係がよい 13.2	仕事や商売の関係で 8.8	住まいが広いなど住宅事情がよい 4.4
70歳代	97	住み慣れている 76.3	交通や買物など生活に便利 68.0	自然や街並みなど生活環境がよい 50.5	自分の土地(住宅)だから 43.3	社会施設などがよく整備されている 23.7	通勤・通学など交通の便がよい 21.6	人間関係がよい 17.5	生まれた時からずっと住んでいる 13.4	住まいが広いなど住宅事情がよい 11.3	仕事や商売の関係で 7.2
80歳以上	58	住み慣れている 70.7	交通や買物など生活に便利 65.5	自分の土地(住宅)だから 50.0	自然や街並みなど生活環境がよい 39.7	社会施設などがよく整備されている 20.7	生まれた時からずっと住んでいる 13.8	人間関係がよい 12.1	住まいが広いなど住宅事情がよい/通勤・通学など交通の便がよい 10.3	仕事や商売の関係で 10.3	子育てがしやすい 5.2
女性全体	892	住み慣れている 70.4	交通や買物など生活に便利 67.9	自然や街並みなど生活環境がよい 52.7	通勤・通学など交通の便がよい 36.9	自分の土地(住宅)だから 36.8	社会施設などがよく整備されている 19.1	人間関係がよい 17.5	生まれた時からずっと住んでいる 13.2	住まいが広いなど住宅事情がよい 10.7	子育てがしやすい 10.2
10・20歳代	64	住み慣れている 65.6	交通や買物など生活に便利 59.4	通勤・通学など交通の便がよい 54.7	自然や街並みなど生活環境がよい 45.3	生まれた時からずっと住んでいる 23.4	人間関係がよい/社会施設などがよく整備されている 12.5	自分の土地(住宅)だから/住まいが広いなど住宅事情がよい/仕事や商売の関係で 7.8			
30歳代	110	交通や買物など生活に便利 70.9	自然や街並みなど生活環境がよい 50.9	住み慣れている 46.4	通勤・通学など交通の便がよい 45.5	子育てがしやすい 25.5	自分の土地(住宅)だから 19.1	人間関係がよい/社会施設などがよく整備されている 14.5	生まれた時からずっと住んでいる 11.8	仕事や商売の関係で 7.3	
40歳代	153	住み慣れている 68.6	交通や買物など生活に便利 66.7	自然や街並みなど生活環境がよい 56.9	通勤・通学など交通の便がよい 50.3	自分の土地(住宅)だから 33.3	社会施設などがよく整備されている 24.2	子育てがしやすい 21.6	人間関係がよい 20.3	住まいが広いなど住宅事情がよい 15.0	生まれた時からずっと住んでいる 13.7
50歳代	190	住み慣れている 72.6	交通や買物など生活に便利 71.6	自然や街並みなど生活環境がよい 54.7	通勤・通学など交通の便がよい 46.3	自分の土地(住宅)だから 41.1	社会施設などがよく整備されている 21.6	人間関係がよい 18.9	生まれた時からずっと住んでいる 12.6	子育てがしやすい 9.5	仕事や商売の関係で 8.9
60歳代	138	住み慣れている 73.9	交通や買物など生活に便利 72.5	自然や街並みなど生活環境がよい 54.3	自分の土地(住宅)だから 46.4	通勤・通学など交通の便がよい 32.6	社会施設などがよく整備されている 18.8	生まれた時からずっと住んでいる 13.8	住まいが広いなど住宅事情がよい 13.0	人間関係がよい 11.6	仕事や商売の関係で 5.1
70歳代	130	住み慣れている 82.3	交通や買物など生活に便利 67.7	自然や街並みなど生活環境がよい 59.2	自分の土地(住宅)だから 43.1	社会施設などがよく整備されている 21.5	人間関係がよい 20.0	通勤・通学など交通の便がよい 14.6	生まれた時からずっと住んでいる 13.1	住まいが広いなど住宅事情がよい 11.5	仕事や商売の関係で/家賃など経済的負担が適当 3.1
80歳以上	105	住み慣れている 78.1	交通や買物など生活に便利 60.0	自分の土地(住宅)だから 50.5	自然や街並みなど生活環境がよい 39.0	人間関係がよい 21.9	住まいが広いなど住宅事情がよい/社会施設などがよく整備されている 13.3	通勤・通学など交通の便がよい 12.4	生まれた時からずっと住んでいる 8.6	子育てがしやすい 3.8	

性・年齢別にみると、各年代とも「住み慣れているから」「交通や買物など生活に便利だから」が3位以内に挙げられている。「通勤・通学など交通の便がよいから」は男性の30歳代で2位、男性の10・20歳代、女性の10・20歳代で3位となっている。(表1-5-3)

表 1-5-4 定住意向理由（共働きの有無別・ライフステージ別）

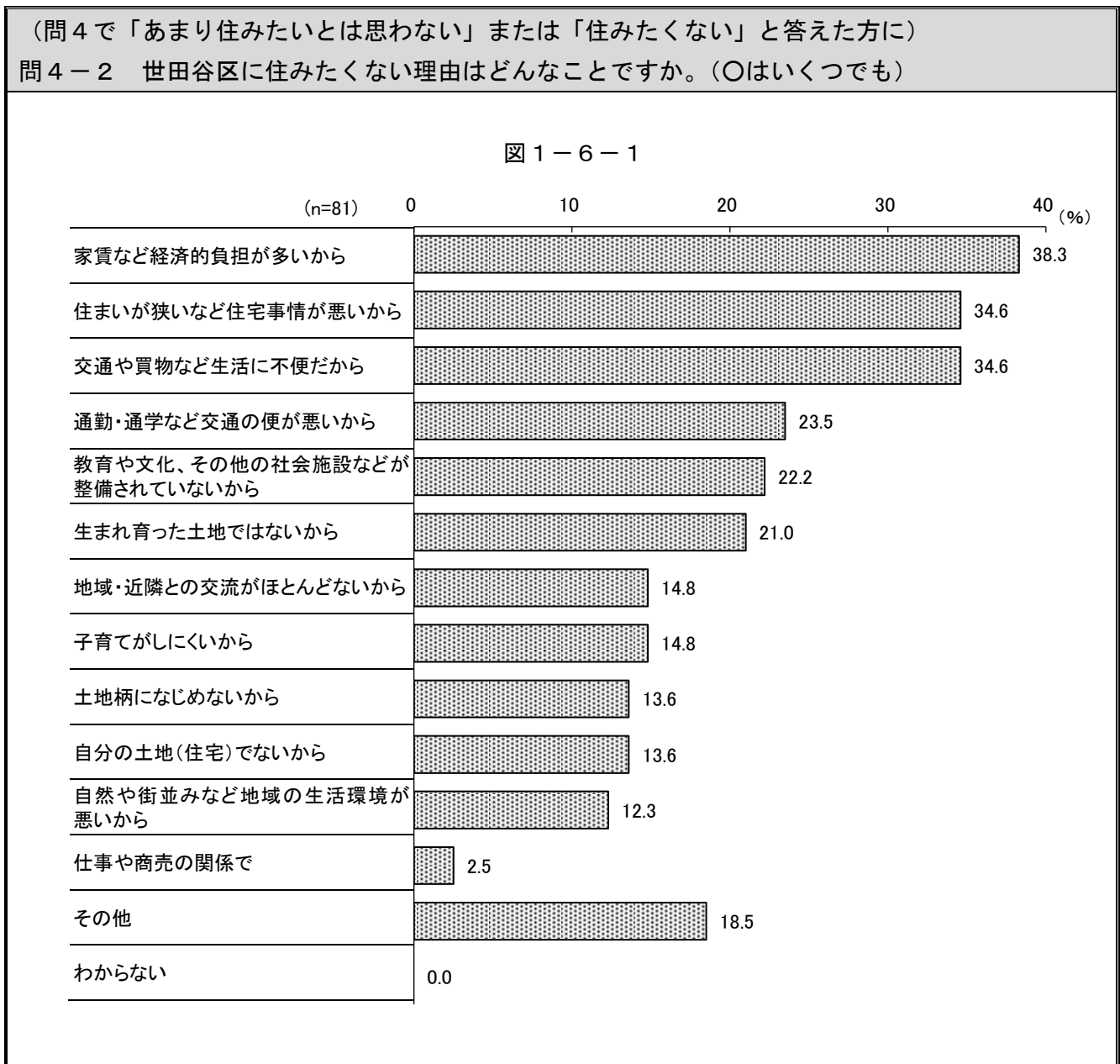
											(%)
	n	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
全体	1,498	住み慣れている 68.8	交通や買物など生活に便利 67.1	自然や街並みなど生活環境がよい 51.3	通勤・通学など交通の便がよい 37.5	自分の土地（住宅）だから 37.2	社会施設などがよく整備されている 20.4	人間関係がよい 16.6	生まれた時からずっと住んでいる 13.6	住まいが広いなど住宅事情がよい 10.0	子育てがしやすい 9.7
有配偶者全	941	交通や買物など生活に便利 70.5	住み慣れている 67.7	自然や街並みなど生活環境がよい 52.1	自分の土地（住宅）だから 43.7	通勤・通学など交通の便がよい 37.8	社会施設などがよく整備されている 24.2	人間関係がよい 18.2	子育てがしやすい 13.3	生まれた時からずっと住んでいる 9.9	住まいが広いなど住宅事情がよい 9.7
共働き	487	交通や買物など生活に便利 68.2	住み慣れている 65.3	自然や街並みなど生活環境がよい 52.4	通勤・通学など交通の便がよい 45.8	自分の土地（住宅）だから 39.0	社会施設などがよく整備されている 24.2	人間関係がよい 18.9	子育てがしやすい 16.0	仕事や商売の関係で 11.3	生まれた時からずっと住んでいる 9.2
共働きでない	454	交通や買物など生活に便利 72.9	住み慣れている 70.3	自然や街並みなど生活環境がよい 51.8	自分の土地（住宅）だから 48.7	通勤・通学など交通の便がよい 29.3	社会施設などがよく整備されている 24.2	人間関係がよい 17.4	住まいが広いなど住宅事情がよい 12.1	生まれた時からずっと住んでいる 10.6	子育てがしやすい 10.4
独身期	152	住み慣れている 66.4	交通や買物など生活に便利 63.2	通勤・通学など交通の便がよい 50.7	自然や街並みなど生活環境がよい 46.1	生まれた時からずっと住んでいる 23.0	人間関係がよい 12.5	社会施設などがよく整備されている／仕事や商売の関係で 10.5		自分の土地（住宅）だから 8.6	住まいが広いなど住宅事情がよい 7.9
家族形成期	100	交通や買物など生活に便利 65.0	自然や街並みなど生活環境がよい 54.0	通勤・通学など交通の便がよい 51.0	住み慣れている 47.0	子育てがしやすい 32.0	社会施設などがよく整備されている 25.0	自分の土地（住宅）だから 18.0	人間関係がよい 15.0	仕事や商売の関係で 10.0	生まれた時からずっと住んでいる 9.0
家族成長前	141	交通や買物など生活に便利 64.5	住み慣れている 59.6	自然や街並みなど生活環境がよい 56.7	通勤・通学など交通の便がよい 51.8	自分の土地（住宅）だから 46.1	子育てがしやすい 40.4	社会施設などがよく整備されている 34.8	人間関係がよい 22.7	生まれた時からずっと住んでいる／仕事や商売の関係で 9.9	
家族成長後	129	住み慣れている 69.0	交通や買物など生活に便利 65.9	自然や街並みなど生活環境がよい 57.4	通勤・通学など交通の便がよい 55.0	自分の土地（住宅）だから 41.1	社会施設などがよく整備されている 29.5	人間関係がよい 20.2	子育てがしやすい 19.4	住まいが広いなど住宅事情がよい 10.9	生まれた時からずっと住んでいる 9.3
家族成熟期	157	住み慣れている 75.2	交通や買物など生活に便利 69.4	自然や街並みなど生活環境がよい 49.0	自分の土地（住宅）だから 44.6	通勤・通学など交通の便がよい 40.8	人間関係がよい 21.0	社会施設などがよく整備されている 19.7	生まれた時からずっと住んでいる 15.9	仕事や商売の関係で 9.6	住まいが広いなど住宅事情がよい 6.4
高齢期Ⅰ	122	住み慣れている 76.2	交通や買物など生活に便利 66.4	自分の土地（住宅）だから 53.3	自然や街並みなど生活環境がよい 49.2	通勤・通学など交通の便がよい 21.3	社会施設などがよく整備されている 19.7	人間関係がよい 18.0	住まいが広いなど住宅事情がよい 14.8	生まれた時からずっと住んでいる 13.1	子育てがしやすい 6.6
高齢期Ⅱ	352	住み慣れている 77.3	交通や買物など生活に便利 67.0	自然や街並みなど生活環境がよい 50.9	自分の土地（住宅）だから 43.5	社会施設などがよく整備されている 20.5	通勤・通学など交通の便がよい 17.6	人間関係がよい 17.3	生まれた時からずっと住んでいる 13.6	住まいが広いなど住宅事情がよい 9.1	仕事や商売の関係で 4.8
その他	306	交通や買物など生活に便利 70.9	住み慣れている 65.0	自然や街並みなど生活環境がよい 52.0	通勤・通学など交通の便がよい 42.2	自分の土地（住宅）だから 35.6	社会施設などがよく整備されている 14.7	生まれた時からずっと住んでいる 12.7	人間関係がよい 12.4	住まいが広いなど住宅事情がよい 11.8	仕事や商売の関係で 9.2

共働きの有無別にみると、上位3位に大きな傾向の違いはみられない。共働き世帯は「通勤・通学など交通の便がよいから」が4位、共働きでない世帯は「自分の土地（住宅）だから」が4位となっている。

ライフステージ別にみると、「交通や買物など生活に便利だから」はすべてのライフステージで2位以内に入っている。「自然や街並みなど生活環境がよいから」は家族形成期で2位、「通勤・通学など交通の便がよいから」は独身期と家族形成期で3位となっている。（表1-5-4）

## (6) 非定住意向理由

## ◎世田谷区に住みたくない理由の第1位は「家賃など経済的負担が多いから」



今後は世田谷区に「あまり住みたいとは思わない」または「住みたくない」と答え、《非定住意向》を示した方(81人)に、その理由を聞いたところ、「家賃など経済的負担が多いから」(38.3%)が4割近く、「住まいが狭いなど住宅事情が悪いから」(34.6%)と「交通や買物など生活に不便だから」(34.6%)が3割半ばとなっている。以下、「通勤・通学など交通の便が悪いから」(23.5%)、「教育や文化、その他の社会施設などが整備されていないから」(22.2%)、「生まれ育った土地ではないから」(21.0%)などと続く。(図1-6-1)

表 1 - 6 - 1 非定住意向理由 (時系列)

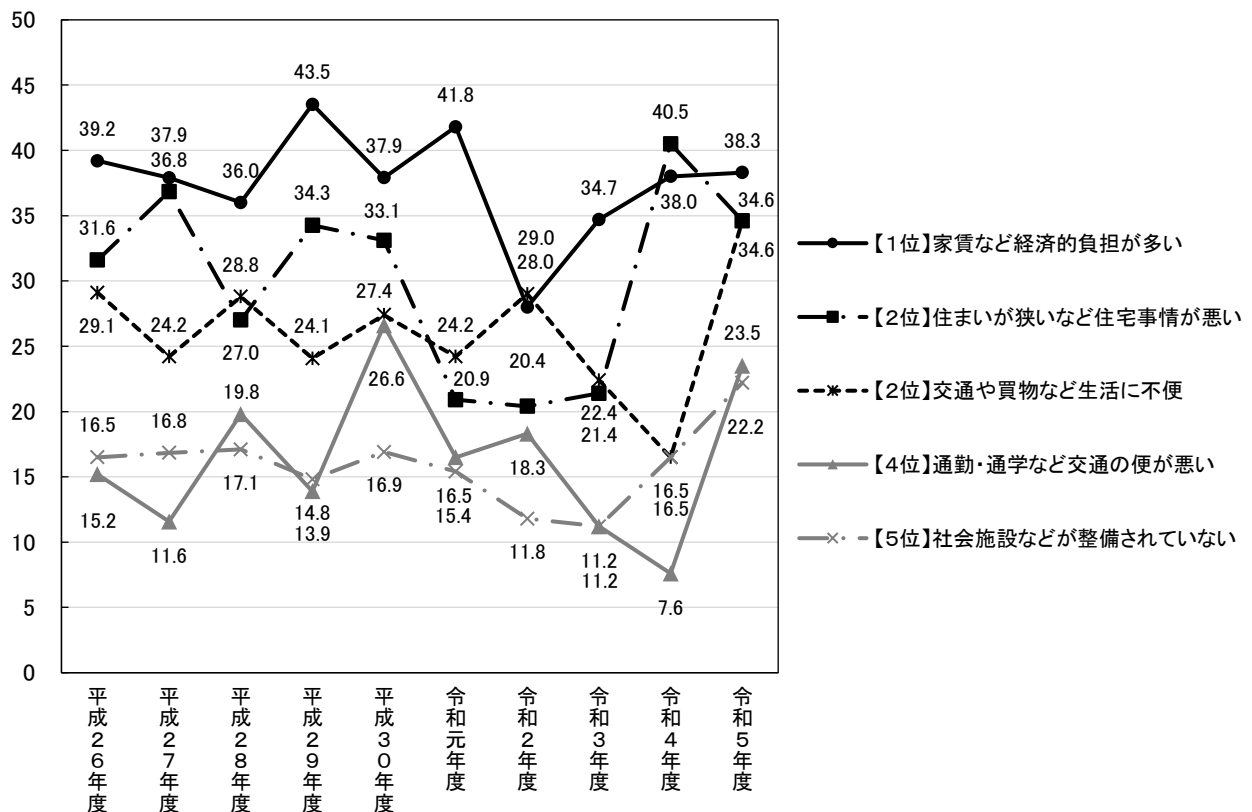
(%)

理由	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度
n	79	95	111	108	124	91	93	98	79	81
【1位】家賃など経済的負担が多い	39.2	37.9	36.0	43.5	37.9	41.8	28.0	34.7	38.0	38.3
【2位】住まいが狭いなど住宅事情が悪い	31.6	36.8	27.0	34.3	33.1	20.9	20.4	21.4	40.5	34.6
【2位】交通や買物など生活に不便	29.1	24.2	28.8	24.1	27.4	24.2	29.0	22.4	16.5	34.6
【4位】通勤・通学など交通の便が悪い	15.2	11.6	19.8	13.9	26.6	16.5	18.3	11.2	7.6	23.5
【5位】社会施設などが整備されていない	16.5	16.8	17.1	14.8	16.9	15.4	11.8	11.2	16.5	22.2
【6位】生まれ育った土地ではない	-	-	-	-	-	-	19.4	13.3	13.9	21.0
【7位】地域・近隣との交流がほとんどない	19.0	13.7	10.8	13.9	15.3	11.0	12.9	9.2	19.0	14.8
【7位】子育てがしにくい	-	22.1	15.3	13.9	21.8	16.5	9.7	17.3	16.5	14.8
【9位】土地柄になじめない	12.7	15.8	14.4	13.0	12.1	15.4	10.8	12.2	7.6	13.6
【10位】自分の土地(住宅)でない	29.1	18.9	18.9	24.1	19.4	24.2	17.2	12.2	11.4	13.6

注) 令和5年度の値で順位付けを行った。

図 1 - 6 - 2 非定住意向理由 (時系列)

(%)

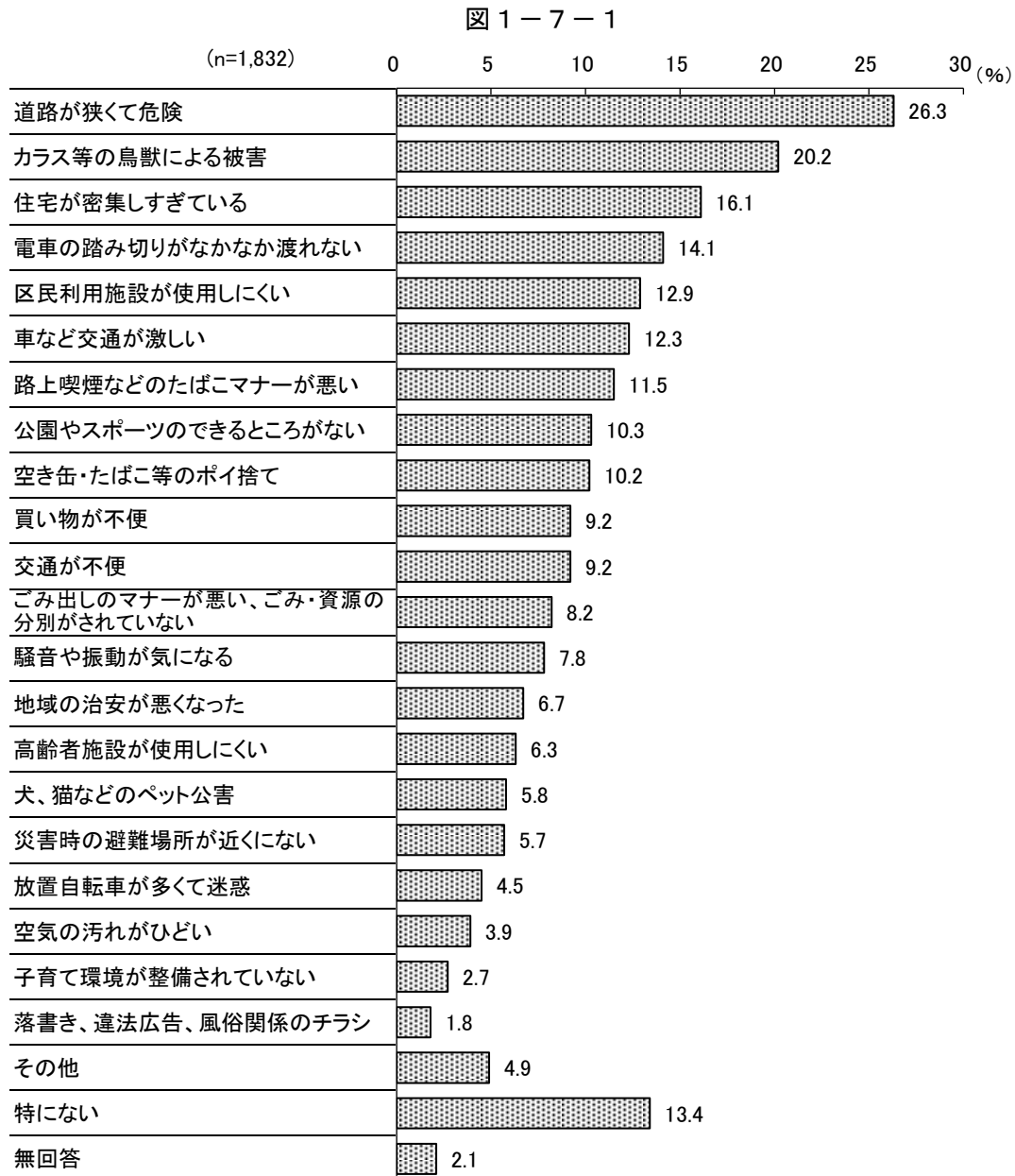


平成 26 年度からの時系列の変化をみると、「家賃など経済的負担が多いから」は令和 2 年度を除くすべての年度で 3 割～4 割台で、常に 2 位以内に挙げられている。(表 1 - 6 - 1、図 1 - 6 - 2)

## (7) 地域における日常生活での困りごと

## ◎「道路が狭くて危険」が2割半ば

問5 あなたは、普段生活していてこの地域でどんなことにお困りですか。(〇は3つまで)



地域内での日常生活で困っていることを聞いたところ、「道路が狭くて危険」(26.3%)が2割半ばで最も高く、以下、「カラス等の鳥獣による被害」(20.2%)、「住宅が密集しすぎている」(16.1%)、「電車の踏み切りがなかなか渡れない」(14.1%)、「区民利用施設が使用しにくい」(12.9%)、「車など交通が激しい」(12.3%)などと続く。(図1-7-1)

表 1-7-1 地域における日常生活での困りごと（時系列）

											(%)
	n	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位	9 位	10 位
令和5年度	1,832	道路が狭くて危険 26.3	カラス等の鳥獣による被害 20.2	住宅が密集しすぎている 16.1	電車の踏み切りがなかなか渡れない 14.1	区民利用施設が使用しにくい 12.9	車など交通が激しい 12.3	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 11.5	公園やスポーツのできる場所がない 10.3	空き缶・たばこ等のポイ捨て 10.2	買い物が不便／交通が不便 9.2
令和4年度	1,923	道路が狭くて危険 25.1	住宅が密集しすぎている 16.6	カラス等の鳥獣による被害 15.8	電車の踏み切りがなかなか渡れない 12.4	車など交通が激しい 9.9	公園やスポーツのできる場所がない 9.5	区民利用施設が使用しにくい 9.3	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 8.4	空き缶・たばこ等のポイ捨て 8.0	交通が不便 7.6
令和3年度	2,086	道路が狭くて危険 24.4	住宅が密集しすぎている 17.2	カラス等の鳥獣による被害 14.1	電車の踏み切りがなかなか渡れない 11.7	車など交通が激しい 10.7	区民利用施設が使用しにくい 10.5	公園やスポーツのできる場所がない 10.4	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 9.1	空き缶・たばこ等のポイ捨て 8.3	買い物が不便 7.6
令和2年度	2,371	道路が狭くて危険 28.2	住宅が密集しすぎている 19.3	カラス等の鳥獣による被害 18.3	電車の踏み切りがなかなか渡れない 13.6	区民利用施設が使用しにくい 13.3	車など交通が激しい 12.7	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 10.9	公園やスポーツのできる場所がない 10.0	空き缶・たばこ等のポイ捨て 9.7	騒音や振動が気になる 9.0
令和元年度	2,171	道路が狭くて危険 26.7	カラス等の鳥獣による被害 19.2	住宅が密集しすぎている 17.0	車など交通が激しい 13.8	区民利用施設が使用しにくい／電車の踏み切りがなかなか渡れない 13.7	空き缶・たばこ等のポイ捨て 12.4	騒音や振動が気になる 9.7	公園やスポーツのできる場所がない 9.5	ごみ出しのマナーが悪い 8.8	
平成29年度	2,319	道路が狭くて危険 26.0	車など交通が激しい 16.1	住宅が密集しすぎている 15.9	カラス等の鳥獣による被害 15.3	電車の踏み切りがなかなか渡れない 13.4	区民利用施設が使用しにくい 10.1	交通が不便 9.1	騒音や振動が気になる 8.8	買い物が不便 8.6	公園やスポーツのできる場所がない／空き缶・たばこ等のポイ捨て 8.1
平成28年度	2,355	道路が狭くて危険 23.4	住宅が密集しすぎている 15.1	カラス等の鳥獣による被害 14.6	電車の踏み切りがなかなか渡れない 13.6	車など交通が激しい 13.2	区民利用施設が使用しにくい 10.2	公園やスポーツのできる場所がない／交通が不便 8.0	買い物が不便 7.6	犬、猫などのペット公害 7.3	
平成27年度	2,388	道路が狭くて危険 25.3	住宅が密集しすぎている 15.7	カラス等の鳥獣による被害 14.7	車など交通が激しい 14.5	電車の踏み切りがなかなか渡れない 11.9	区民利用施設が使用しにくい 11.6	空き缶・たばこ等のポイ捨て 9.0	交通が不便／犬、猫などのペット公害 8.6	買い物が不便 8.5	
平成26年度	2,362	道路が狭くて危険 24.1	カラス等の鳥獣による被害 15.9	住宅が密集しすぎている 15.5	車など交通が激しい 15.4	区民利用施設が使用しにくい 11.5	電車の踏み切りがなかなか渡れない 11.1	放置自転車がなくて迷惑 9.6	公園やスポーツのできる場所がない 8.7	交通が不便 8.5	騒音や振動が気になる 8.4
平成25年度	2,354	道路が狭くて危険 25.9	車など交通が激しい／カラス等の鳥獣による被害 15.6	住宅が密集しすぎている 13.8	放置自転車がなくて迷惑 11.9	電車の踏み切りがなかなか渡れない 11.3	公園やスポーツのできる場所がない 10.1	区民利用施設が使用しにくい 10.0	騒音や振動が気になる 9.1	買い物が不便 9.0	

注) 平成30年度は質問項目がなかった。

平成 25 年度からの時系列の変化をみると、「道路が狭くて危険」はいずれの年も 1 位で、2 割半ば前後で推移している。「カラス等の鳥獣による被害」は、平成 29 年度の 4 位を除くと常に 3 位以内に、「住宅が密集しすぎている」は平成 26 年度以降は常に 3 位以内に挙げられている。

(表 1-7-1)

図1-7-2 地域における日常生活での困りごと一地域別（上位3項目）

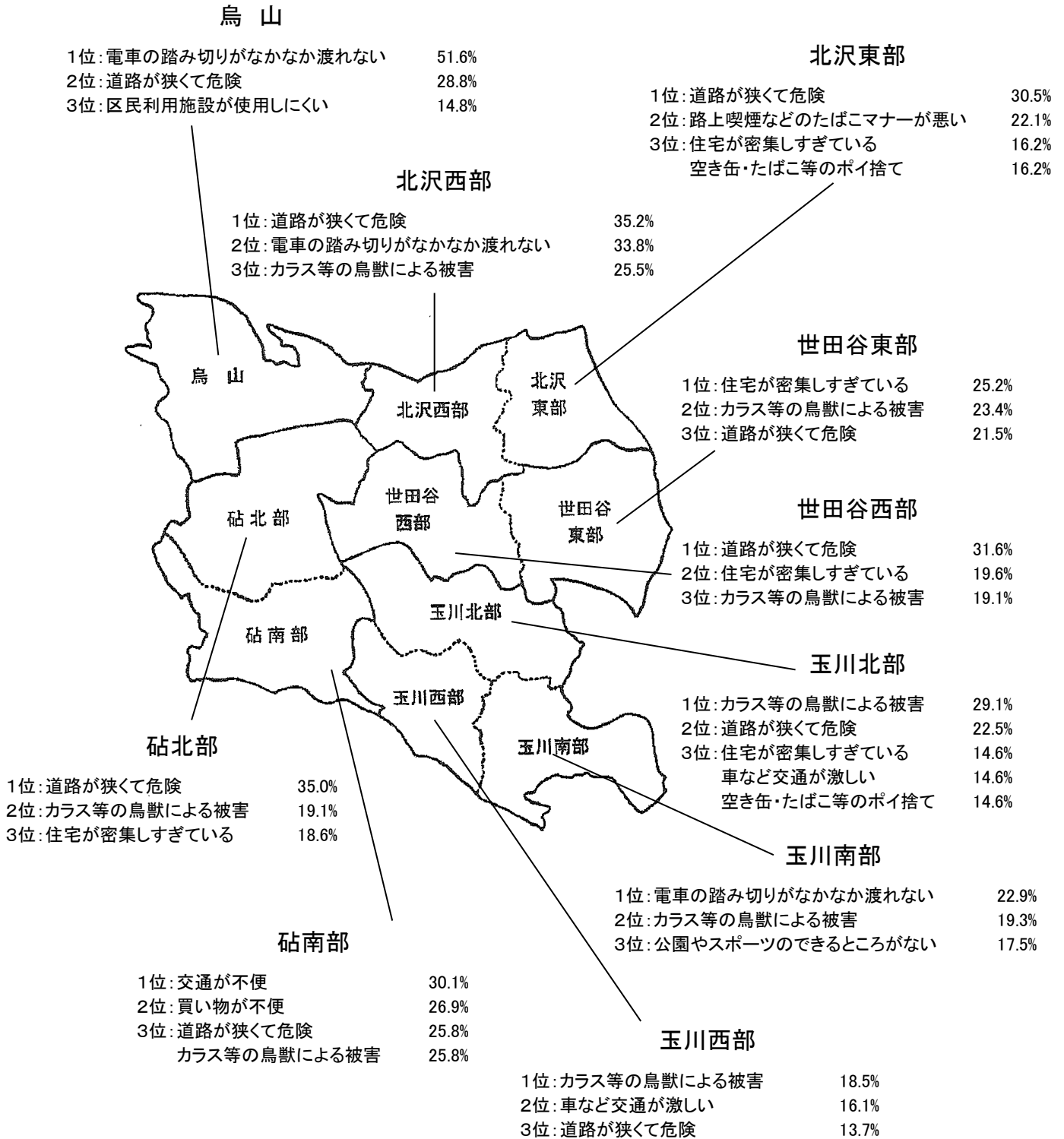


表 1-7-2 地域における日常生活での困りごと（地域別）

（％）

	n	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位	9 位	10 位
全 体	1,832	道路が狭くて危険 26.3	カラス等の鳥獣による被害 20.2	住宅が密集しすぎている 16.1	電車の踏み切りがなかなか渡れない 14.1	区民利用施設が使用しにくい 12.9	車など交通が激しい 12.3	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 11.5	公園やスポーツのできる場所がない 10.3	空き缶・たばこ等のポイ捨て 10.2	買い物が不便／交通が不便 9.2
世田谷東部	274	住宅が密集しすぎている 25.2	カラス等の鳥獣による被害 23.4	道路が狭くて危険 21.5	車など交通が激しい 20.1	ごみ出しのマナーが悪い、ごみ・資源の分別がされていない 14.6	区民利用施設が使用しにくい 13.5	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 12.4	空き缶・たばこ等のポイ捨て 12.0	騒音や振動が気になる 11.7	公園やスポーツのできる場所がない／地域の治安が悪くなった 6.6
世田谷西部	225	道路が狭くて危険 31.6	住宅が密集しすぎている 19.6	カラス等の鳥獣による被害 19.1	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 14.2	公園やスポーツのできる場所がない 13.8	区民利用施設が使用しにくい 13.3	空き缶・たばこ等のポイ捨て 12.0	地域の治安が悪くなった／交通が不便 9.3	車など交通が激しい 8.4	
北 沢 東 部	154	道路が狭くて危険 30.5	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 22.1	住宅が密集しすぎている／空き缶・たばこ等のポイ捨て 16.2	カラス等の鳥獣による被害 15.6	公園やスポーツのできる場所がない 14.9	地域の治安が悪くなった 12.3	騒音や振動が気になる 11.0	区民利用施設が使用しにくい 10.4		
北 沢 西 部	145	道路が狭くて危険 35.2	電車の踏み切りがなかなか渡れない 33.8	カラス等の鳥獣による被害 25.5	住宅が密集しすぎている 19.3	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 13.8	空き缶・たばこ等のポイ捨て 12.4	区民利用施設が使用しにくい 11.7	公園やスポーツのできる場所がない 10.3	買い物が不便 9.7	車など交通が激しい 8.3
玉 川 北 部	151	カラス等の鳥獣による被害 29.1	道路が狭くて危険 22.5	住宅が密集しすぎている／車など交通が激しい／空き缶・たばこ等のポイ捨て 14.6	交通が不便 12.6	区民利用施設が使用しにくい 11.9	ごみ出しのマナーが悪い、ごみ・資源の分別がされていない 10.6	犬、猫などのペット公害 9.9	騒音や振動が気になる／路上喫煙などのたばこマナーが悪い 7.9		
玉 川 南 部	166	電車の踏み切りがなかなか渡れない 22.9	カラス等の鳥獣による被害 19.3	公園やスポーツのできる場所がない 17.5	道路が狭くて危険 16.9	区民利用施設が使用しにくい 13.3	買い物が不便 11.4	住宅が密集しすぎている 10.8	空き缶・たばこ等のポイ捨て 10.2	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 8.4	騒音や振動が気になる 7.8
玉 川 西 部	124	カラス等の鳥獣による被害 18.5	車など交通が激しい 16.1	道路が狭くて危険 13.7	区民利用施設が使用しにくい 12.1	交通が不便 11.3	住宅が密集しすぎている 9.7	公園やスポーツのできる場所がない／買い物が不便／騒音や振動が気になる／空気の汚れがひどい 8.9			
砧北部	220	道路が狭くて危険 35.0	カラス等の鳥獣による被害 19.1	住宅が密集しすぎている 18.6	区民利用施設が使用しにくい／車など交通が激しい 13.2	交通が不便 11.4	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 10.5	買い物が不便 9.1	空き缶・たばこ等のポイ捨て 8.6	公園やスポーツのできる場所がない 7.7	
砧南部	93	交通が不便 30.1	買い物が不便 26.9	道路が狭くて危険／カラス等の鳥獣による被害 25.8	高齢者施設が使用しにくい 11.8	車など交通が激しい 10.8	区民利用施設が使用しにくい 9.7	犬、猫などのペット公害 8.6	公園やスポーツのできる場所がない 7.5	住宅が密集しすぎている／路上喫煙などのたばこマナーが悪い 6.5	
烏 山	250	電車の踏み切りがなかなか渡れない 51.6	道路が狭くて危険 28.8	区民利用施設が使用しにくい 14.8	車など交通が激しい／カラス等の鳥獣による被害 12.4	住宅が密集しすぎている 11.6	放置自転車がなくて迷惑 11.2	公園やスポーツのできる場所がない／路上喫煙などのたばこマナーが悪い 10.4	交通が不便 9.2		

地域別にみると、「道路が狭くて危険」は世田谷西部、北沢東部、北沢西部、砧北部の4つの地域で1位となっている。「カラス等の鳥獣による被害」は玉川北部、玉川西部の2つの地域で、「電車の踏み切りがなかなか渡れない」は玉川南部、烏山の2つの地域で1位となっている。世田谷東部は「住宅が密集しすぎている」、砧南部は「交通が不便」が1位となっている。（表1-7-2）



表 1-7-3 地域における日常生活での困りごと（性・年齢別）

(%)

	n	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位	9 位	10 位
全 体	1,832	道路が狭くて危険 26.3	カラス等の鳥獣による被害 20.2	住宅が密集しすぎている 16.1	電車の踏み切りがなかなか渡れない 14.1	区民利用施設が使用しにくい 12.9	車など交通が激しい 12.3	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 11.5	公園やスポーツのできる場所がない 10.3	空き缶・たばこ等のポイ捨て 10.2	買い物が不便／交通が不便 9.2
男 性 全 体	703	道路が狭くて危険 28.6	カラス等の鳥獣による被害 20.8	住宅が密集しすぎている 17.6	電車の踏み切りがなかなか渡れない 15.4	車など交通が激しい 12.8	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 12.7	公園やスポーツのできる場所がない 12.1	区民利用施設が使用しにくい／空き缶・たばこ等のポイ捨て 11.2		交通が不便 9.1
10・20歳代	59	公園やスポーツのできる場所がない 37.3	道路が狭くて危険 25.4	住宅が密集しすぎている 22.0	電車の踏み切りがなかなか渡れない 18.6	カラス等の鳥獣による被害 16.9	交通が不便 15.3	買い物が不便 13.6	騒音や振動が気になる 10.2	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 8.5	区民利用施設が使用しにくい／車など交通が激しい 6.8
30歳代	80	道路が狭くて危険 33.8	住宅が密集しすぎている 18.8	車など交通が激しい 16.3	公園やスポーツのできる場所がない／路上喫煙などのたばこマナーが悪い 15.0	カラス等の鳥獣による被害 13.8	電車の踏み切りがなかなか渡れない 12.5	空き缶・たばこ等のポイ捨て 11.3	地域の治安が悪くなった 10.0	騒音や振動が気になる 8.8	
40歳代	119	道路が狭くて危険 37.8	車など交通が激しい 27.7	住宅が密集しすぎている 23.5	電車の踏み切りがなかなか渡れない 20.2	カラス等の鳥獣による被害 18.5	区民利用施設が使用しにくい 12.6	公園やスポーツのできる場所がない 11.8	騒音や振動が気になる 10.9	交通が不便／空き缶・たばこ等のポイ捨て／路上喫煙などのたばこマナーが悪い 10.1	
50歳代	135	道路が狭くて危険 28.1	カラス等の鳥獣による被害 24.4	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 16.3	住宅が密集しすぎている 15.6	電車の踏み切りがなかなか渡れない 14.1	地域の治安が悪くなった／車など交通が激しい 13.3	交通が不便 10.4	区民利用施設が使用しにくい 9.6	公園やスポーツのできる場所がない／買い物が不便／空き缶・たばこ等のポイ捨て 8.9	
60歳代	131	カラス等の鳥獣による被害 29.0	道路が狭くて危険 26.0	空き缶・たばこ等のポイ捨て 17.6	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 16.0	電車の踏み切りがなかなか渡れない 15.3	住宅が密集しすぎている 14.5	区民利用施設が使用しにくい 13.0	犬、猫などのペット公害 9.9	公園やスポーツのできる場所がない 9.2	地域の治安が悪くなった／買い物が不便／ごみ・資源の分別がされていない 8.4
70歳代	109	道路が狭くて危険 28.4	高齢者施設が使用しにくい／カラス等の鳥獣による被害 19.3	ごみ出しのマナーが悪い、ごみ・資源の分別がされていない 16.5	住宅が密集しすぎている 15.6	区民利用施設が使用しにくい 13.8	電車の踏み切りがなかなか渡れない／空き缶・たばこ等のポイ捨て 12.8	路上喫煙などのたばこマナーが悪い／犬、猫などのペット公害 11.0			
80歳以上	70	高齢者施設が使用しにくい 20.0	住宅が密集しすぎている／道路が狭くて危険／カラス等の鳥獣による被害 15.7	災害時の避難場所が近くにない／電車の踏み切りがなかなか渡れない 14.3	区民利用施設が使用しにくい 12.9	交通が不便 11.4	車など交通が激しい 10.0	空き缶・たばこ等のポイ捨て 8.6			
女 性 全 体	1,077	道路が狭くて危険 25.3	カラス等の鳥獣による被害 20.1	住宅が密集しすぎている 15.5	区民利用施設が使用しにくい／電車の踏み切りがなかなか渡れない 13.6	車など交通が激しい 12.0	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 11.0	買い物が不便／空き缶・たばこ等のポイ捨て 9.7	公園やスポーツのできる場所がない 9.4		
10・20歳代	77	道路が狭くて危険 29.9	車など交通が激しい 19.5	公園やスポーツのできる場所がない 15.6	住宅が密集しすぎている／電車の踏み切りがなかなか渡れない 14.3	空き缶・たばこ等のポイ捨て 13.0	買い物が不便／騒音や振動が気になる／路上喫煙などのたばこマナーが悪い 10.4	地域の治安が悪くなった／カラス等の鳥獣による被害 9.1			
30歳代	140	道路が狭くて危険 35.0	住宅が密集しすぎている／車など交通が激しい 17.1	カラス等の鳥獣による被害 16.4	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 15.0	交通が不便 14.3	子育て環境が整備されていない 13.6	公園やスポーツのできる場所がない 12.1	電車の踏み切りがなかなか渡れない 11.4	買い物が不便 10.0	
40歳代	191	道路が狭くて危険 23.0	カラス等の鳥獣による被害 22.5	住宅が密集しすぎている 18.8	公園やスポーツのできる場所がない 15.2	電車の踏み切りがなかなか渡れない 14.1	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 13.6	区民利用施設が使用しにくい／車など交通が激しい／ごみ出しのマナーが悪い、ごみ・資源の分別がされていない 13.1	空き缶・たばこ等のポイ捨て 11.5		
50歳代	220	道路が狭くて危険 29.5	カラス等の鳥獣による被害 23.6	住宅が密集しすぎている 18.2	電車の踏み切りがなかなか渡れない 17.7	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 14.5	区民利用施設が使用しにくい 13.6	買い物が不便 10.9	交通が不便 9.1	公園やスポーツのできる場所がない／空き缶・たばこ等のポイ捨て 8.6	
60歳代	176	カラス等の鳥獣による被害 26.7	道路が狭くて危険 26.1	区民利用施設が使用しにくい 21.0	住宅が密集しすぎている 19.9	電車の踏み切りがなかなか渡れない 12.5	高齢者施設が使用しにくい 11.9	車など交通が激しい 11.4	災害時の避難場所が近くにない 10.8	空き缶・たばこ等のポイ捨て 10.2	騒音や振動が気になる 9.1
70歳代	155	カラス等の鳥獣による被害 21.3	道路が狭くて危険 17.4	区民利用施設が使用しにくい 14.8	買い物が不便 14.2	災害時の避難場所が近くにない／交通が不便 12.3	高齢者施設が使用しにくい 11.0	ごみ出しのマナーが悪い、ごみ・資源の分別がされていない 9.7	住宅が密集しすぎている 9.0	車など交通が激しい／電車の踏み切りがなかなか渡れない／空き缶・たばこ等のポイ捨て 8.4	
80歳以上	116	高齢者施設が使用しにくい 16.4	電車の踏み切りがなかなか渡れない／道路が狭くて危険 15.5	区民利用施設が使用しにくい 14.7	災害時の避難場所が近くにない 12.9	買い物が不便／車など交通が激しい 11.2	空き缶・たばこ等のポイ捨て 10.3	ごみ出しのマナーが悪い、ごみ・資源の分別がされていない／カラス等の鳥獣による被害／犬、猫などのペット公害 8.6			

性・年齢別にみると、各年代とも「道路が狭くて危険」が2位以内に挙げられている。「カラス等の鳥獣による被害」は男性の60歳代、女性の60歳代と70歳代で1位、男性の10・20歳代は「公園やスポーツのできる場所がない」が1位、男女とも80歳以上は「高齢者施設が使用しにくい」が1位となっている。（表1-7-3）

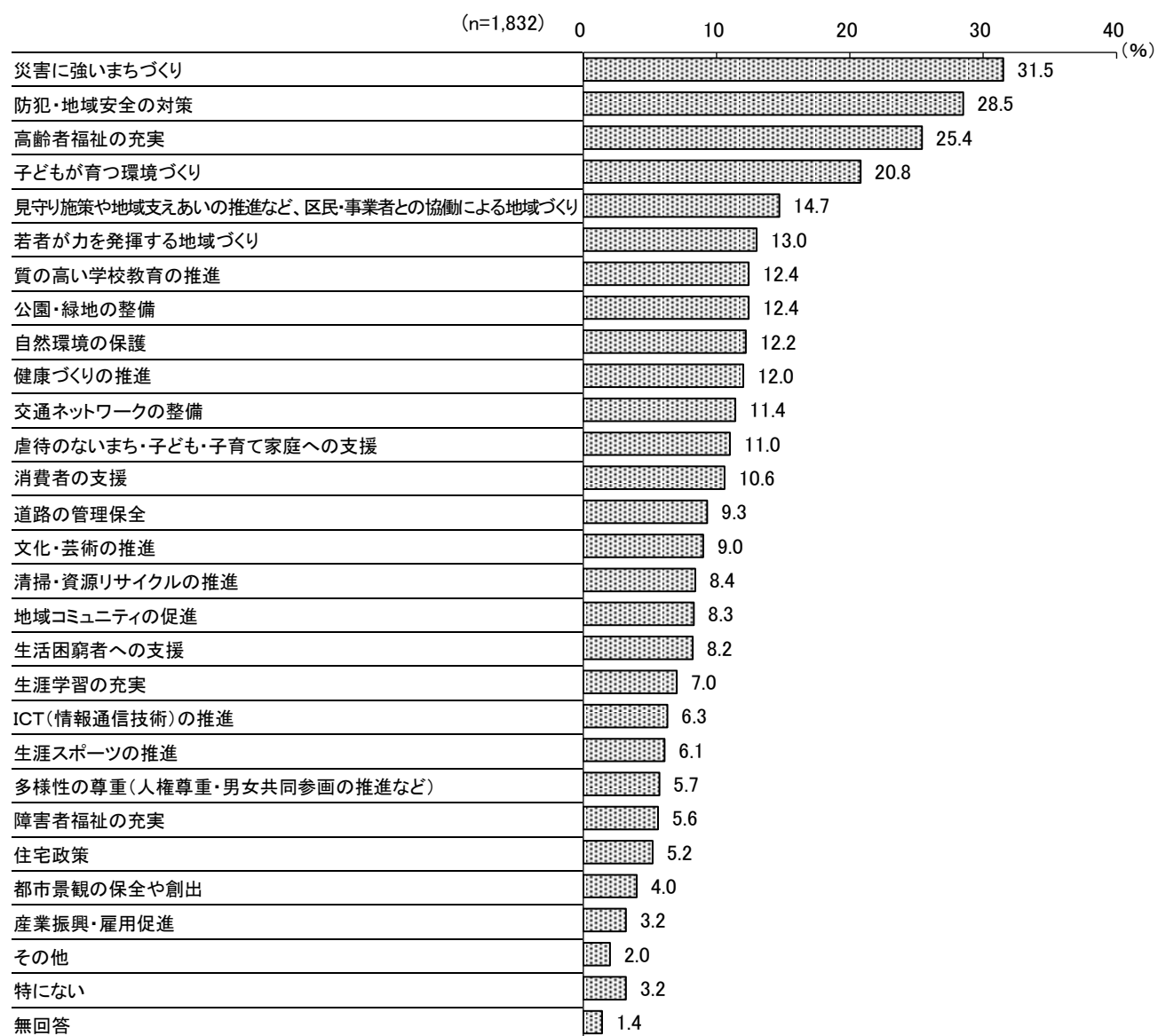
## 2. 区政

### (1) 区が積極的に取り組むべき事業

◎「災害に強いまちづくり」が第1位、「防犯・地域安全の対策」が第2位、「高齢者福祉の充実」が第3位

問6 あなたは、今後世田谷区が積極的に取り組む事業として、どれが必要だと思いますか。  
(○は3つまで)

図2-1-1



今後区が積極的に取り組むべき事業について聞いたところ、「災害に強いまちづくり」(31.5%)が3割を超え、「防犯・地域安全の対策」(28.5%)が3割近く、「高齢者福祉の充実」(25.4%)が2割半ば、「子どもが育つ環境づくり」(20.8%)がほぼ2割となっている。(図2-1-1)

表 2-1-1 区が積極的に取り組むべき事業（時系列）

(%)

	n	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
令和5年度	1,832	災害に強いまちづくり 31.5	防犯・地域安全の対策 28.5	高齢者福祉の充実 25.4	子どもが育つ環境づくり 20.8	区民・事業者との協働による地域づくり 14.7	若者が力を発揮する地域づくり 13.0	質の高い学校教育の推進／公園・緑地の整備 12.4	健康づくりの推進 12.2	自然環境の保護 12.0	健康づくりの推進 12.0
令和4年度	1,923	災害に強いまちづくり 28.1	高齢者福祉の充実 21.1	防犯・地域安全の対策 18.7	子どもが育つ環境づくり 16.5	区民・事業者との協働による地域づくり 11.2	若者が力を発揮する地域づくり 10.5	質の高い学校教育の推進 10.1	健康づくりの推進 9.4	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援／交通ネットワークの整備 9.0	9.0
令和3年度	2,086	災害に強いまちづくり 29.8	防犯・地域安全の対策 21.3	高齢者福祉の充実 19.4	子どもが育つ環境づくり 16.9	区民・事業者との協働による地域づくり 9.8	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援／交通ネットワークの整備 9.4	健康づくりの推進 9.3	質の高い学校教育の推進 9.0	ICT(情報通信技術)の推進 8.7	8.7
令和2年度	2,371	災害に強いまちづくり 42.9	防犯・地域安全の対策 26.9	高齢者福祉の充実 25.3	子どもが育つ環境づくり 18.6	ICT(情報通信技術)の推進 13.6	健康づくりの推進 13.1	自然環境の保護 12.4	区民・事業者との協働による地域づくり 12.2	質の高い学校教育の推進／交通ネットワークの整備 12.1	12.1
令和元年度	2,171	災害に強いまちづくり 32.8	高齢者福祉の充実 31.3	防犯・地域安全の対策 31.2	子どもが育つ環境づくり 21.1	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援 15.3	区民・事業者との協働による地域づくり 13.4	質の高い学校教育の推進 12.2	健康づくりの推進 11.7	交通ネットワークの整備 11.3	公園・緑地の整備／自然環境の保護 10.6
平成30年度	2,330	防犯・地域安全の対策 35.7	高齢者福祉の充実 35.2	災害に強いまちづくり 34.6	子どもが育つ環境づくり 27.8	健康づくりの推進／区民・事業者との協働による地域づくり 16.1	自然環境の保護 13.6	交通ネットワークの整備 13.4	質の高い学校教育の推進 13.0	公園・緑地の整備 12.7	12.7
平成28年度	2,355	災害に強いまちづくり 32.0	高齢者福祉の充実 31.3	防犯・地域安全の対策 26.2	子どもが育つ環境づくり 22.9	区民・事業者との協働による地域づくり 13.0	健康づくりの推進 11.6	質の高い学校教育の推進 9.9	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援 9.3	交通ネットワークの整備 8.8	若者が力を発揮する地域づくり 8.3
平成27年度	2,388	高齢者福祉の充実 33.8	災害に強いまちづくり 27.2	防犯・地域安全の対策 24.0	子ども子育て家庭への支援 16.8	児童(保育)福祉の充実 16.0	区民・事業者との協働による地域づくり／若者が力を発揮する地域づくり 11.9	自然環境の保護 11.6	健康づくりの推進 10.7	交通ネットワークの整備 10.2	10.2
平成26年度	2,362	災害に強いまちづくり 46.3	防犯・地域安全の対策 37.9	高齢者福祉の充実 29.2	児童(保育)福祉の充実 19.3	自然環境の保護 18.0	道路の管理保全 14.9	公園・緑地の整備 12.1	消費者の支援 8.1	住宅施策 8.0	健康づくり 7.7
平成25年度	2,354	災害に強いまちづくり 49.9	防犯・地域安全の対策 41.6	高齢者福祉の充実 28.8	自然環境の保護 18.9	児童(保育)福祉の充実 15.5	道路の管理保全 15.4	公園・緑地の整備 11.4	消費者の支援 7.9	住宅施策 7.6	健康づくり 7.4

注)平成29年度は質問項目がなかった。

平成25年度からの時系列の変化をみると、「災害に強いまちづくり」、「防犯・地域安全の対策」、「高齢者福祉の充実」が常に3位以内に挙げられている。また、「子どもが育つ環境づくり」は平成28年度以降、4位となっている。(表2-1-1)

表 2-1-2 区が積極的に取り組むべき事業（地域別）

（%）

	n	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
全体	1,832	災害に強いまちづくり 31.5	防犯・地域安全の対策 28.5	高齢者福祉の充実 25.4	子どもが育つ環境づくり 20.8	区民・事業者との協働による地域づくり 14.7	若者が力を発揮する地域づくり 13.0	質の高い学校教育の推進／公園・緑地の整備	健康づくりの推進	自然環境の保護 12.2	健康づくりの推進 12.0
世田谷東部	274	災害に強いまちづくり 33.2	防犯・地域安全の対策 27.0	高齢者福祉の充実 24.5	子どもが育つ環境づくり 24.1	区民・事業者との協働による地域づくり 15.3	若者が力を発揮する地域づくり／公園・緑地の整備 12.8	健康づくりの推進／質の高い学校教育の推進	健康づくりの推進	自然環境の保護 12.4	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援 11.7
世田谷西部	225	災害に強いまちづくり 34.2	防犯・地域安全の対策 28.0	高齢者福祉の充実 20.4	子どもが育つ環境づくり 19.6	区民・事業者との協働による地域づくり 16.0	公園・緑地の整備 14.7	健康づくりの推進 14.2	道路の管理保全 13.8	若者が力を発揮する地域づくり 13.3	地域コミュニティの促進 11.6
北沢東部	154	防犯・地域安全の対策 33.1	高齢者福祉の充実 31.2	災害に強いまちづくり 27.9	子どもが育つ環境づくり 22.1	自然環境の保護 16.2	公園・緑地の整備 14.9	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援 14.3	区民・事業者との協働による地域づくり／文化・芸術の推進	区民・事業者との協働による地域づくり／自然環境の保護 13.6	生活困窮者への支援 13.0
北沢西部	145	災害に強いまちづくり 33.1	防犯・地域安全の対策 31.7	高齢者福祉の充実 24.8	子どもが育つ環境づくり 18.6	若者が力を発揮する地域づくり 14.5	消費者の支援 13.8	質の高い学校教育の推進／公園・緑地の整備 13.1	区民・事業者との協働による地域づくり	区民・事業者との協働による地域づくり／自然環境の保護 12.4	
玉川北部	151	災害に強いまちづくり 32.5	防犯・地域安全の対策 31.8	高齢者福祉の充実 25.8	子どもが育つ環境づくり 17.2	若者が力を発揮する地域づくり／質の高い学校教育の推進 13.9	自然環境の保護 13.2	健康づくりの推進／区民・事業者との協働による地域づくり 12.6	ICT(情報通信技術)の推進 11.9		
玉川南部	166	災害に強いまちづくり 38.0	防犯・地域安全の対策 30.7	高齢者福祉の充実 25.9	子どもが育つ環境づくり 22.9	健康づくりの推進 15.1	区民・事業者との協働による地域づくり 14.5	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援／文化・芸術の推進 13.3	交通ネットワークの整備 12.7	公園・緑地の整備／自然環境の保護 11.4	
玉川西部	124	災害に強いまちづくり 37.9	防犯・地域安全の対策 29.0	高齢者福祉の充実 24.2	区民・事業者との協働による地域づくり 21.8	子どもが育つ環境づくり 21.0	若者が力を発揮する地域づくり／自然環境の保護 17.7	公園・緑地の整備 13.7	質の高い学校教育の推進／生涯スポーツの推進 11.3		
砧北部	220	災害に強いまちづくり 30.0	防犯・地域安全の対策 27.3	高齢者福祉の充実／子どもが育つ環境づくり 23.6	区民・事業者との協働による地域づくり 15.0	質の高い学校教育の推進 15.0	区民・事業者との協働による地域づくり／自然環境の保護 13.2	若者が力を発揮する地域づくり／消費者の支援／交通ネットワークの整備 12.3			
砧南部	93	防犯・地域安全の対策 32.3	高齢者福祉の充実 30.1	災害に強いまちづくり 24.7	交通ネットワークの整備 17.2	健康づくりの推進／子どもが育つ環境づくり 16.1	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援 15.1	区民・事業者との協働による地域づくり 14.0	生活困窮者への支援／質の高い学校教育の推進 12.9		
烏山	250	災害に強いまちづくり 25.6	高齢者福祉の充実 25.2	防犯・地域安全の対策 24.0	子どもが育つ環境づくり 18.4	交通ネットワークの整備 16.0	若者が力を発揮する地域づくり 15.6	区民・事業者との協働による地域づくり 14.4	消費者の支援 13.2	道路の管理保全 12.4	健康づくりの推進／公園・緑地の整備 12.0

地域別にみると、「災害に強いまちづくり」、「防犯・地域安全の対策」、「高齢者福祉の充実」がすべての地域において3位以内に挙げられている。砧北部は「子どもが育つ環境づくり」が「高齢者福祉の充実」と同率3位となっている。（表2-1-2）

表 2-1-3 区が積極的に取り組むべき事業（性・年齢別）

(%)

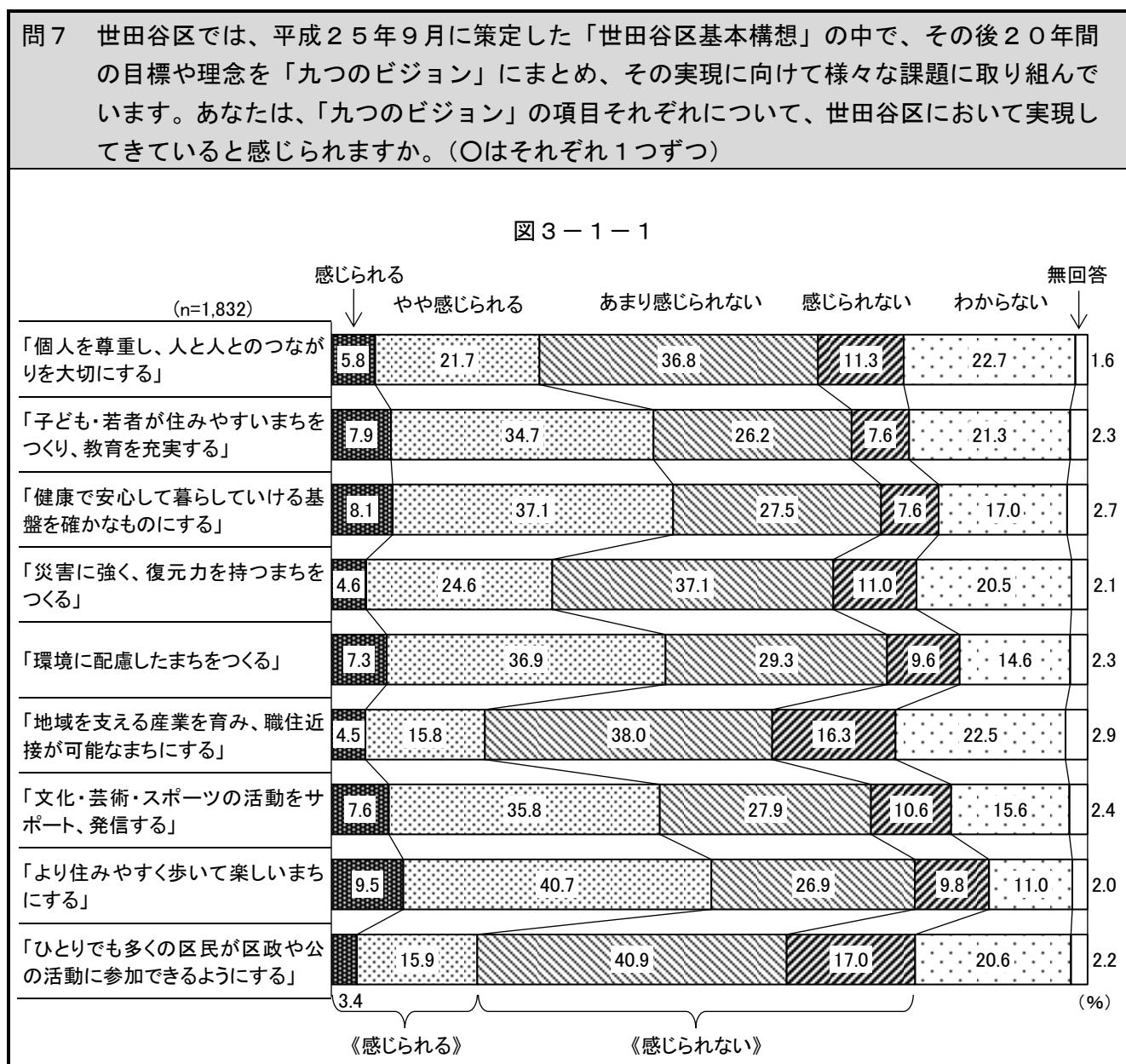
	n	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位	9 位	10 位
全体	1,832	災害に強いまちづくり 31.5	防犯・地域安全の対策 28.5	高齢者福祉の充実 25.4	子どもが育つ環境づくり 20.8	区民・事業者との協働による地域づくり 14.7	若者が力を発揮する地域づくり 13.0	質の高い学校教育の推進/公園・緑地の整備 12.4	自然環境の保護 12.2	健康づくりの推進 12.0	
男性全体	703	災害に強いまちづくり 28.0	防犯・地域安全の対策 27.6	高齢者福祉の充実 26.3	子どもが育つ環境づくり 21.2	公園・緑地の整備 14.9	健康づくりの推進 13.5	交通ネットワークの整備 13.2	若者が力を発揮する地域づくり 13.1	質の高い学校教育の推進 12.1	区民・事業者との協働による地域づくり 11.5
10・20歳代	59	子どもが育つ環境づくり 30.5	若者が力を発揮する地域づくり 27.1	ICT(情報通信技術)の推進 25.4	消費者の支援 20.3	災害に強いまちづくり 18.6	防犯・地域安全の対策 16.9	質の高い学校教育の推進/公園・緑地の整備/交通ネットワークの整備 13.6	健康づくりの推進 11.9		
30歳代	80	子どもが育つ環境づくり 36.3	災害に強いまちづくり 22.5	若者が力を発揮する地域づくり 21.3	質の高い学校教育の推進/公園・緑地の整備 18.8	交通ネットワークの整備 17.5	防犯・地域安全の対策 16.3	健康づくりの推進 15.0	ICT(情報通信技術)の推進/消費者の支援 11.3		
40歳代	119	防犯・地域安全の対策 29.4	子どもが育つ環境づくり 27.7	災害に強いまちづくり 26.9	交通ネットワークの整備 18.5	質の高い学校教育の推進/公園・緑地の整備 17.6	若者が力を発揮する地域づくり 16.0	消費者の支援 15.1	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援/文化・芸術の推進 10.9		
50歳代	135	防犯・地域安全の対策 32.6	災害に強いまちづくり 28.9	高齢者福祉の充実 22.2	子どもが育つ環境づくり 15.6	区民・事業者との協働による地域づくり/交通ネットワークの整備 14.1	健康づくりの推進/質の高い学校教育の推進/公園・緑地の整備 11.9	若者が力を発揮する地域づくり 11.1			
60歳代	131	高齢者福祉の充実 35.1	災害に強いまちづくり 33.6	防犯・地域安全の対策 31.3	健康づくりの推進 17.6	子どもが育つ環境づくり 15.3	区民・事業者との協働による地域づくり 14.5	文化・芸術の推進/生涯スポーツの推進 13.0	公園・緑地の整備 12.2	自然環境の保護 11.5	
70歳代	109	高齢者福祉の充実 46.8	災害に強いまちづくり 31.2	防犯・地域安全の対策 26.6	区民・事業者との協働による地域づくり 20.2	生活困窮者への支援/子どもが育つ環境づくり 18.3	公園・緑地の整備 17.4	健康づくりの推進/虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援 14.7	交通ネットワークの整備 13.8		
80歳以上	70	高齢者福祉の充実 55.7	防犯・地域安全の対策 31.4	災害に強いまちづくり 27.1	健康づくりの推進 20.0	自然環境の保護 17.1	生活困窮者への支援 15.7	公園・緑地の整備 14.3	子どもが育つ環境づくり/地域コミュニティの促進 11.4	区民・事業者との協働による地域づくり/清掃・資源リサイクルの推進 10.0	
女性全体	1,077	災害に強いまちづくり 34.6	防犯・地域安全の対策 30.1	高齢者福祉の充実 24.0	子どもが育つ環境づくり 20.8	区民・事業者との協働による地域づくり 17.1	自然環境の保護 13.9	若者が力を発揮する地域づくり 13.2	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援 12.9	質の高い学校教育の推進 12.6	健康づくりの推進 11.0
10・20歳代	77	災害に強いまちづくり 23.4	若者が力を発揮する地域づくり 19.5	子どもが育つ環境づくり/公園・緑地の整備 16.9	防犯・地域安全の対策/消費者の支援 13.0	ICT(情報通信技術)の推進/質の高い学校教育の推進/文化・芸術の推進/交通ネットワークの整備 11.7					
30歳代	140	子どもが育つ環境づくり 50.0	災害に強いまちづくり 28.6	質の高い学校教育の推進 25.7	防犯・地域安全の対策 24.3	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援 16.4	消費者の支援 15.0	公園・緑地の整備 14.3	若者が力を発揮する地域づくり/道路の管理保全 11.4	区民・事業者との協働による地域づくり 9.3	
40歳代	191	災害に強いまちづくり 33.5	防犯・地域安全の対策 26.7	子どもが育つ環境づくり 26.2	質の高い学校教育の推進 22.0	区民・事業者との協働による地域づくり 16.8	公園・緑地の整備 15.2	高齢者福祉の充実/交通ネットワークの整備 12.0	自然環境の保護 11.5	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援 11.0	
50歳代	220	災害に強いまちづくり 40.5	防犯・地域安全の対策 33.6	高齢者福祉の充実 24.5	区民・事業者との協働による地域づくり 17.7	若者が力を発揮する地域づくり 13.6	子どもが育つ環境づくり/交通ネットワークの整備 12.7	自然環境の保護 12.3	健康づくりの推進/虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援/消費者の支援 10.0		
60歳代	176	災害に強いまちづくり 41.5	高齢者福祉の充実 33.0	防犯・地域安全の対策 29.5	区民・事業者との協働による地域づくり 21.0	子どもが育つ環境づくり 18.2	自然環境の保護 14.8	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援 14.2	健康づくりの推進/地域コミュニティの促進 12.5	文化・芸術の推進 11.4	
70歳代	155	防犯・地域安全の対策 42.6	災害に強いまちづくり 41.9	高齢者福祉の充実 40.0	区民・事業者との協働による地域づくり 25.8	自然環境の保護 20.6	若者が力を発揮する地域づくり/虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援 18.1	健康づくりの推進 16.8	地域コミュニティの促進 16.1	生活困窮者への支援/子どもが育つ環境づくり 12.9	
80歳以上	116	高齢者福祉の充実 44.0	防犯・地域安全の対策 31.9	災害に強いまちづくり/自然環境の保護 20.7	区民・事業者との協働による地域づくり 17.2	若者が力を発揮する地域づくり 13.8	道路の管理保全 11.2	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援/文化・芸術の推進/清掃・資源リサイクルの推進 10.3			

性・年齢別にみると、男性の10・20歳代を除き、すべての年代で「災害に強いまちづくり」が3位以内に挙げられている。「子どもが育つ環境づくり」は男女とも40歳代以下で3位以内に挙げられている。(表2-1-3)

### 3. 区の基本構想

#### (1) 「世田谷区基本構想」九つのビジョンの達成状況

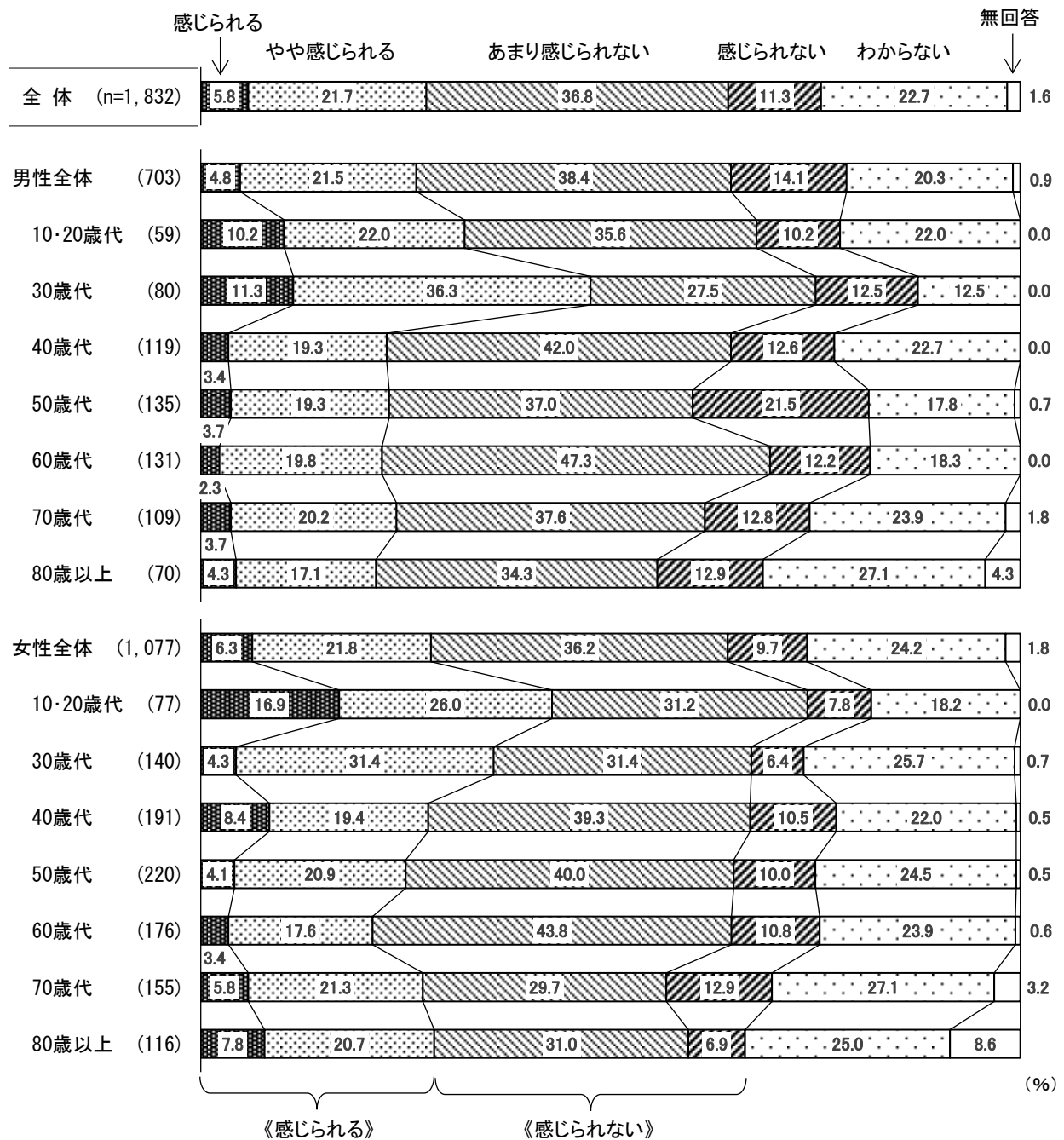
- ◎ 《感じられる》は「より住みやすく歩いて楽しいまちにする」が5割、  
「健康で安心して暮らしていける基盤を確かなものにする」と「環境に配慮したまちをつくる」が4割半ば



「世田谷区基本構想」九つのビジョンの達成状況を聞いたところ、「感じられる」と「やや感じられる」を合わせた《感じられる》は「より住みやすく歩いて楽しいまちにする」(50.2%)が5割で最も高く、「健康で安心して暮らしていける基盤を確かなものにする」(45.2%)、「環境に配慮したまちをつくる」(44.2%)が4割半ばとなっている。一方、「あまり感じられない」と「感じられない」を合わせた《感じられない》は「ひとりでも多くの区民が区政や公の活動に参加できるようにする」(57.9%)が6割近くで最も高く、「地域を支える産業を育み、職住近接が可能なまちにする」(54.3%)が5割半ばとなっている。(図3-1-1)

図3-1-2 「世田谷区基本構想」九つのビジョンの達成状況

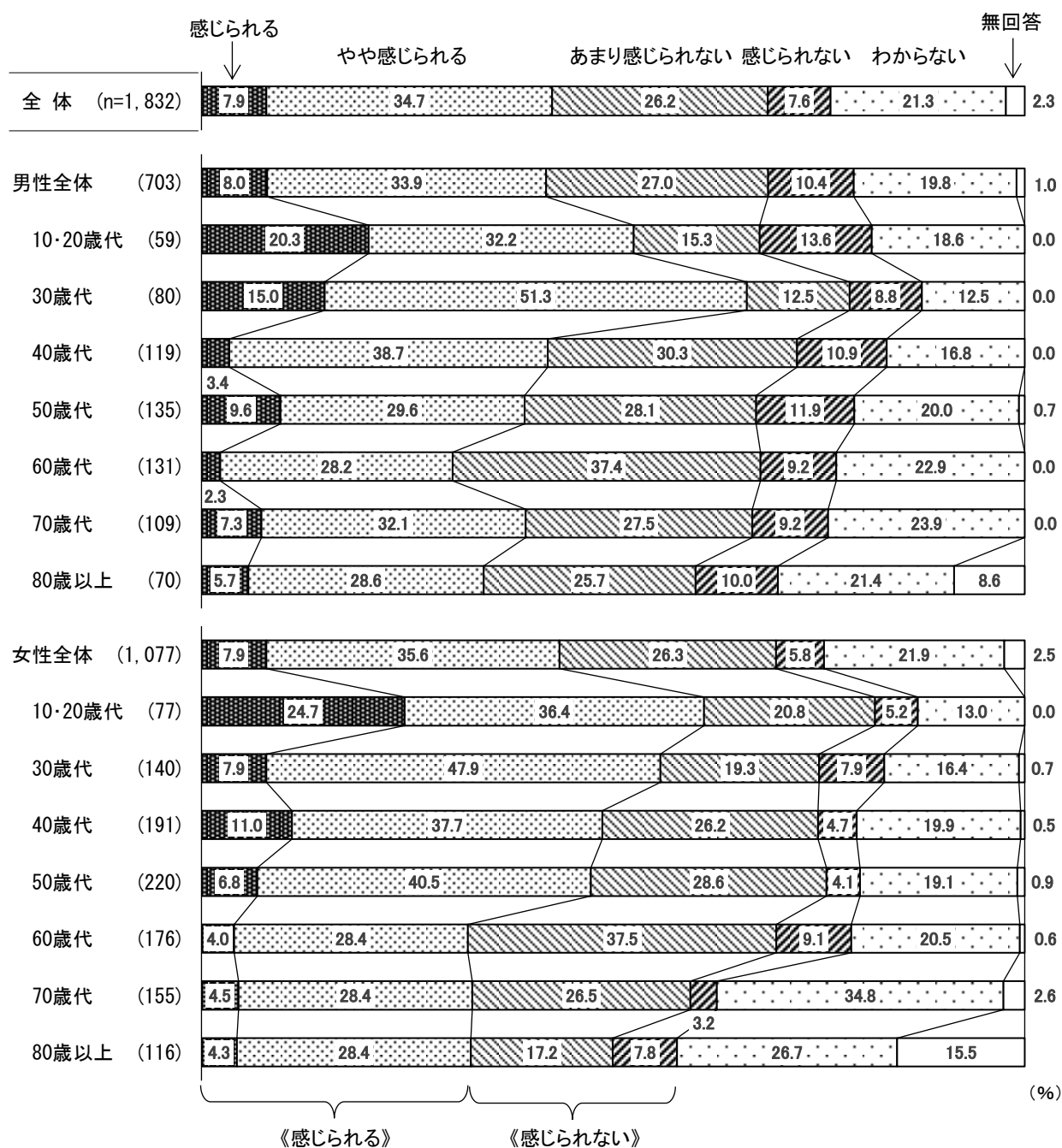
「個人を尊重し、人と人とのつながりを大切にする」(性・年齢別)



性・年齢別にみると、《感じられる》は男性の30歳代で5割近く、女性の10・20歳代で4割を超えている。一方、《感じられない》は男性の60歳代で6割、男性の50歳代で6割近く、男性の40歳代、女性の60歳代で5割半ばとなっている。(図3-1-2)

図3-1-3 「世田谷区基本構想」九つのビジョンの達成状況

「子ども・若者が住みやすいまちをつくり、教育を充実する」(性・年齢別)

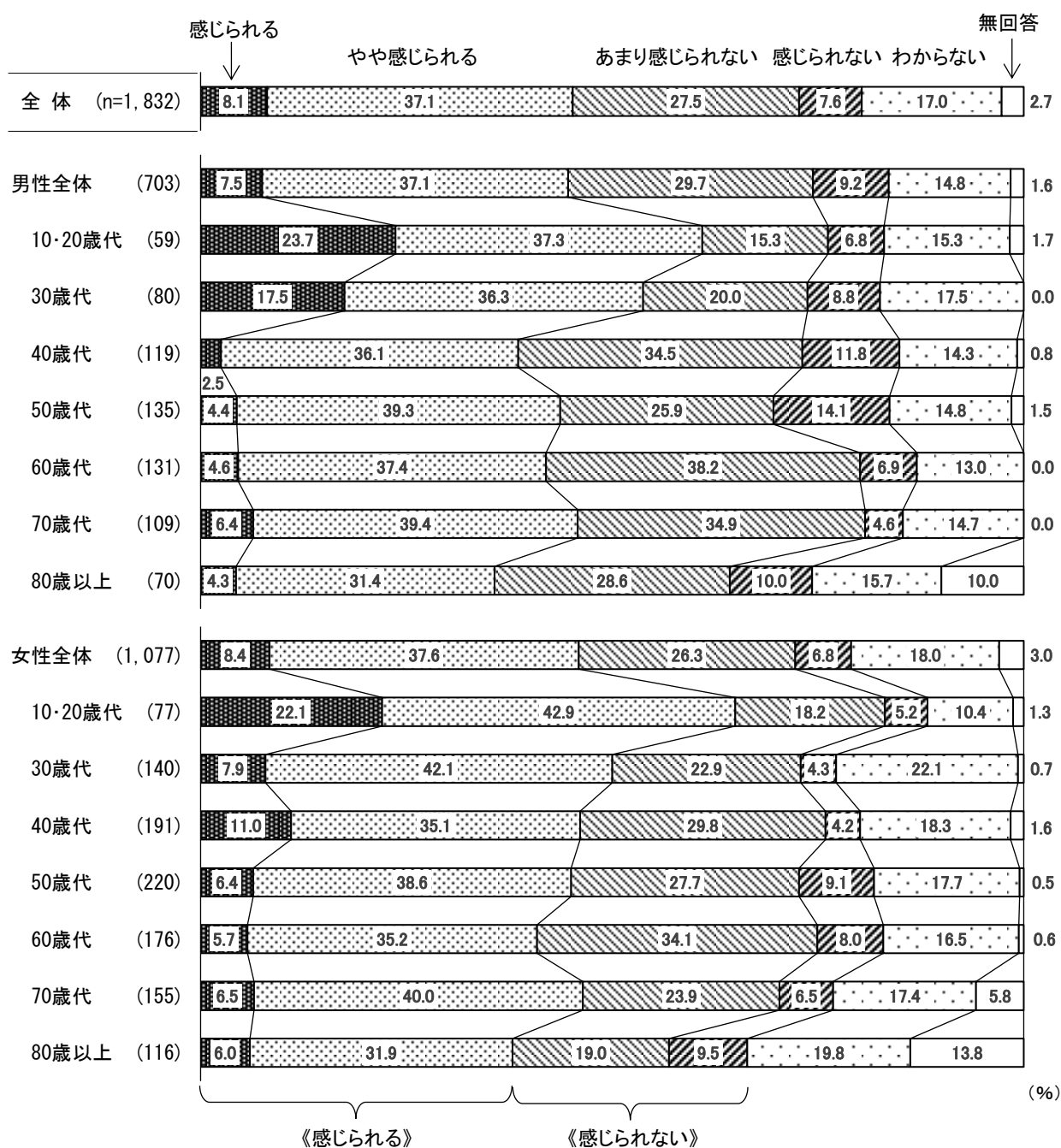


性・年齢別にみると、《感じられる》は高齢層より若年層が高く、男性の30歳代で6割半ば、女性の10・20歳代で6割を超え、男性の10・20歳代、女性の30歳代も5割台となっている。一方、《感じられない》は男女とも60歳代で5割近くとなっている。(図3-1-3)



図3-1-4 「世田谷区基本構想」九つのビジョンの達成状況

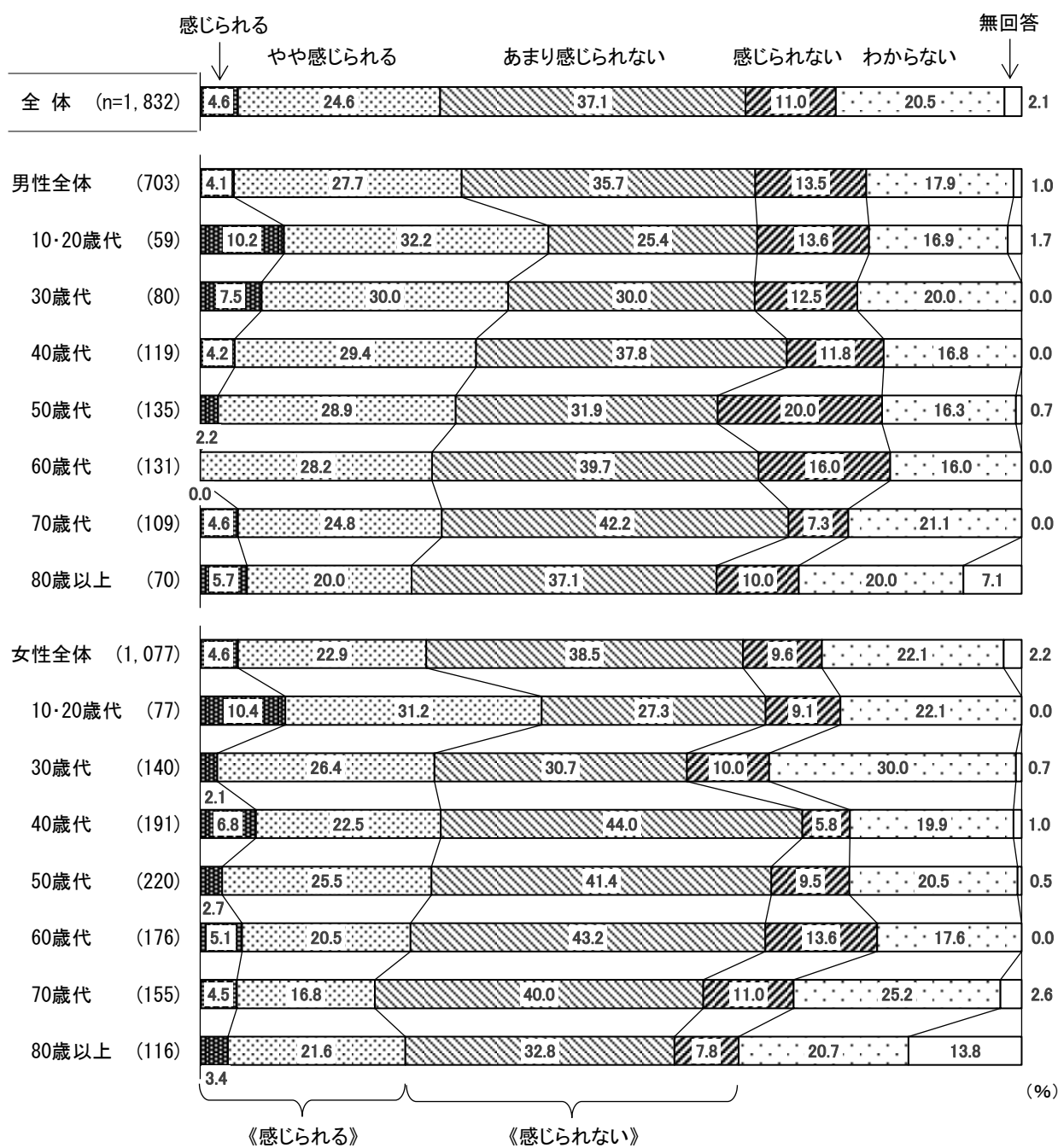
「健康で安心して暮らしていける基盤を確かなものにする」(性・年齢別)



性・年齢別にみると、《感じられる》は女性の10・20歳代で6割半ば、男性の10・20歳代で6割を超え、男性の30歳代、女性の30歳代で5割台となっている。一方、《感じられない》は男性の40歳代と60歳代で4割半ばとなっている。(図3-1-4)

図3-1-5 「世田谷区基本構想」九つのビジョンの達成状況

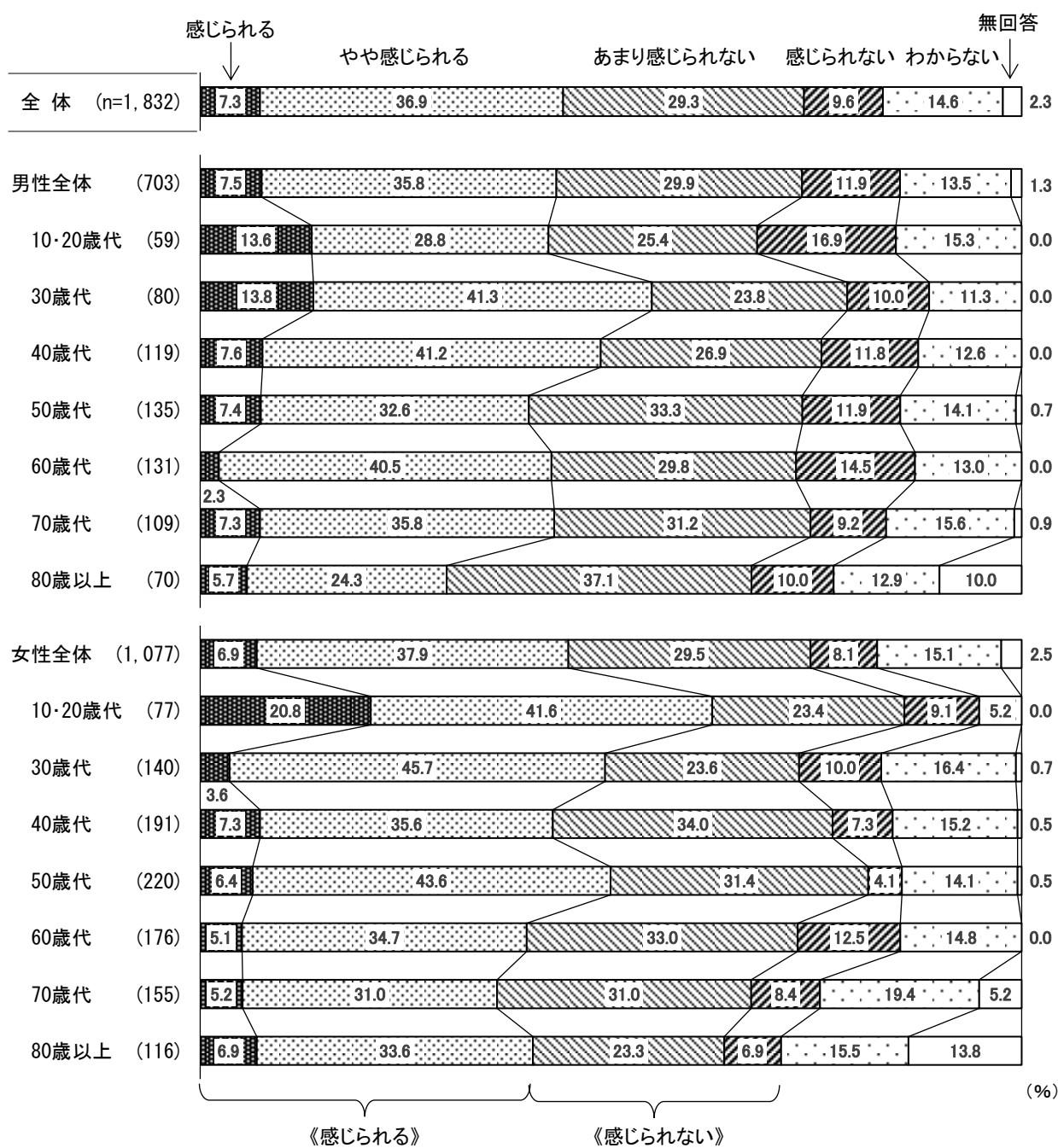
「災害に強く、復元力を持つまちをつくる」(性・年齢別)



性・年齢別にみると、《感じられる》は男女とも10・20歳代で4割を超えている。一方、《感じられない》は女性の60歳代で6割近く、男性の60歳代で5割半ば、男性の50歳代、女性の70歳代で5割を超えている。(図3-1-5)

図3-1-6 「世田谷区基本構想」九つのビジョンの達成状況

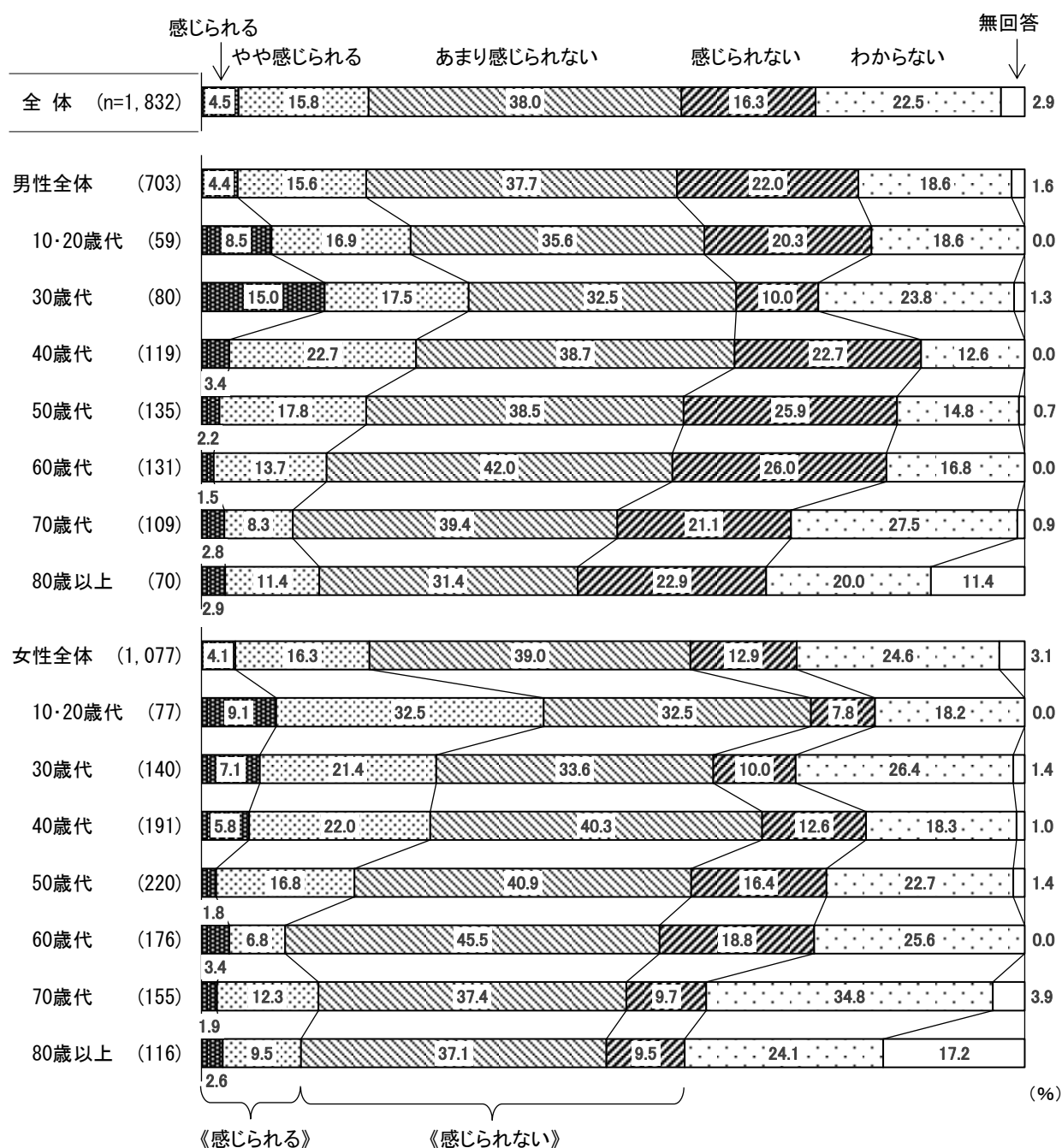
## 「環境に配慮したまちをつくる」(性・年齢別)



性・年齢別にみると、《感じられる》は女性の10・20歳代で6割を超え、男性の30歳代で5割半ば、女性の50歳代で5割となっている。一方、《感じられない》は男性の80歳以上で5割近くとなっている。(図3-1-6)

図3-1-7 「世田谷区基本構想」九つのビジョンの達成状況

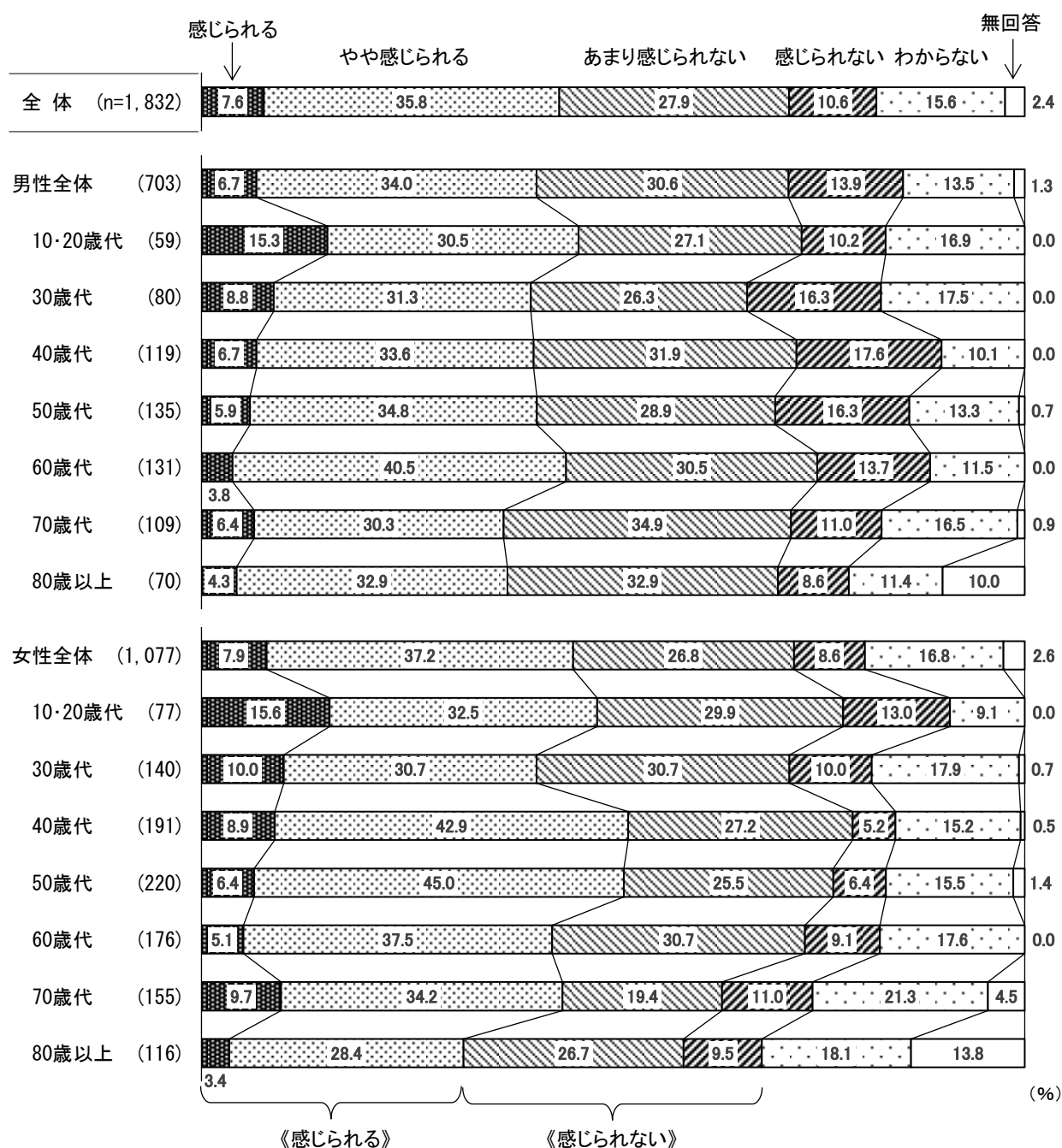
「地域を支える産業を育み、職住近接が可能なまちにする」(性・年齢別)



性・年齢別にみると、《感じられる》は女性の10・20歳代で4割を超えている。一方、《感じられない》は男性の40歳代～70歳代と女性の60歳代で6割台となっており、特に男性の60歳代で7割近くとなっている。(図3-1-7)

図3-1-8 「世田谷区基本構想」九つのビジョンの達成状

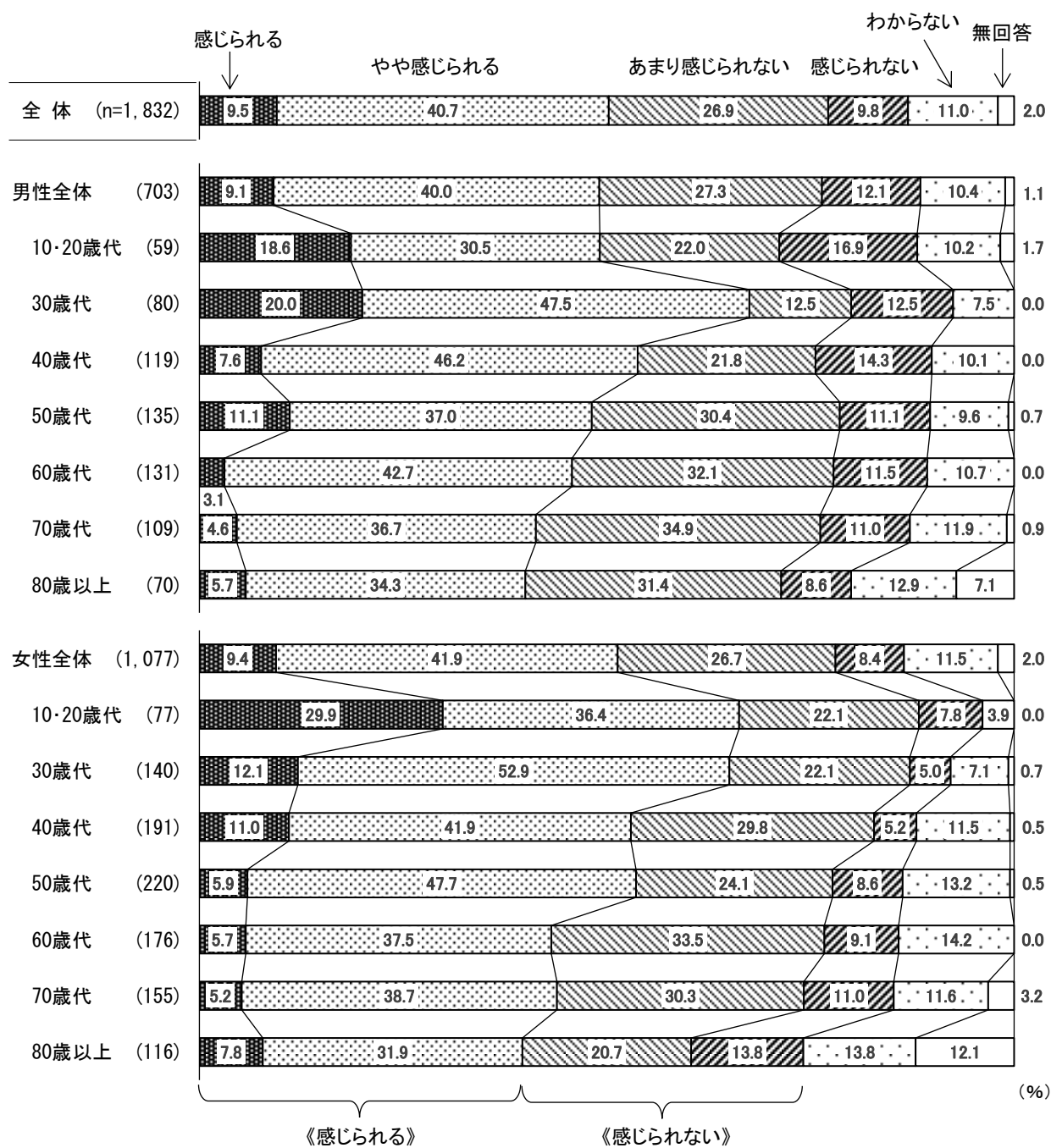
「文化・芸術・スポーツの活動をサポート、発信する」(性・年齢別)



性・年齢別にみると、《感じられる》は女性の40歳代と50歳代で5割を超え、女性の10・20歳代で5割近くとなっている。一方、《感じられない》は男性の40歳代で5割、男性の50歳代～70歳代で4割半ばとなっている。(図3-1-8)

図3-1-9 「世田谷区基本構想」九つのビジョンの達成状況

「より住みやすく歩いて楽しいまちにする」(性・年齢別)

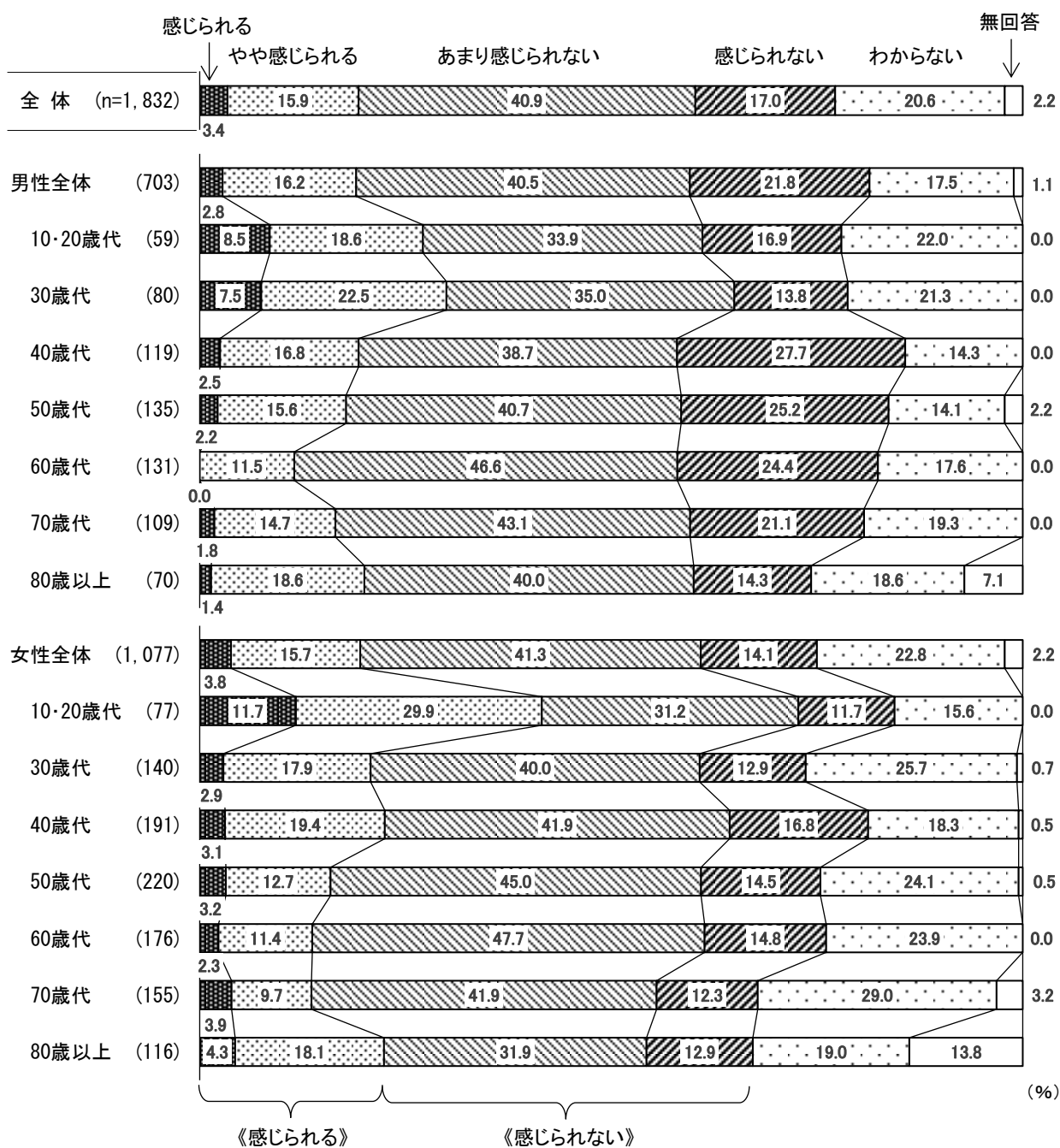


性・年齢別にみると、《感じられる》は男性の30歳代で7割近く、女性の10・20歳代と30歳代で6割半ば、男性の40歳代、女性の40歳代と50歳代も5割を超えている。一方、《感じられない》は男性の70歳代で4割半ば、男性の50歳代と60歳代、女性の60歳代と70歳代で4割を超えている。

(図3-1-9)

図 3-1-10 「世田谷区基本構想」九つのビジョンの達成状況

「ひとりでも多くの区民が区政や公の活動に参加できるようにする」(性・年齢別)

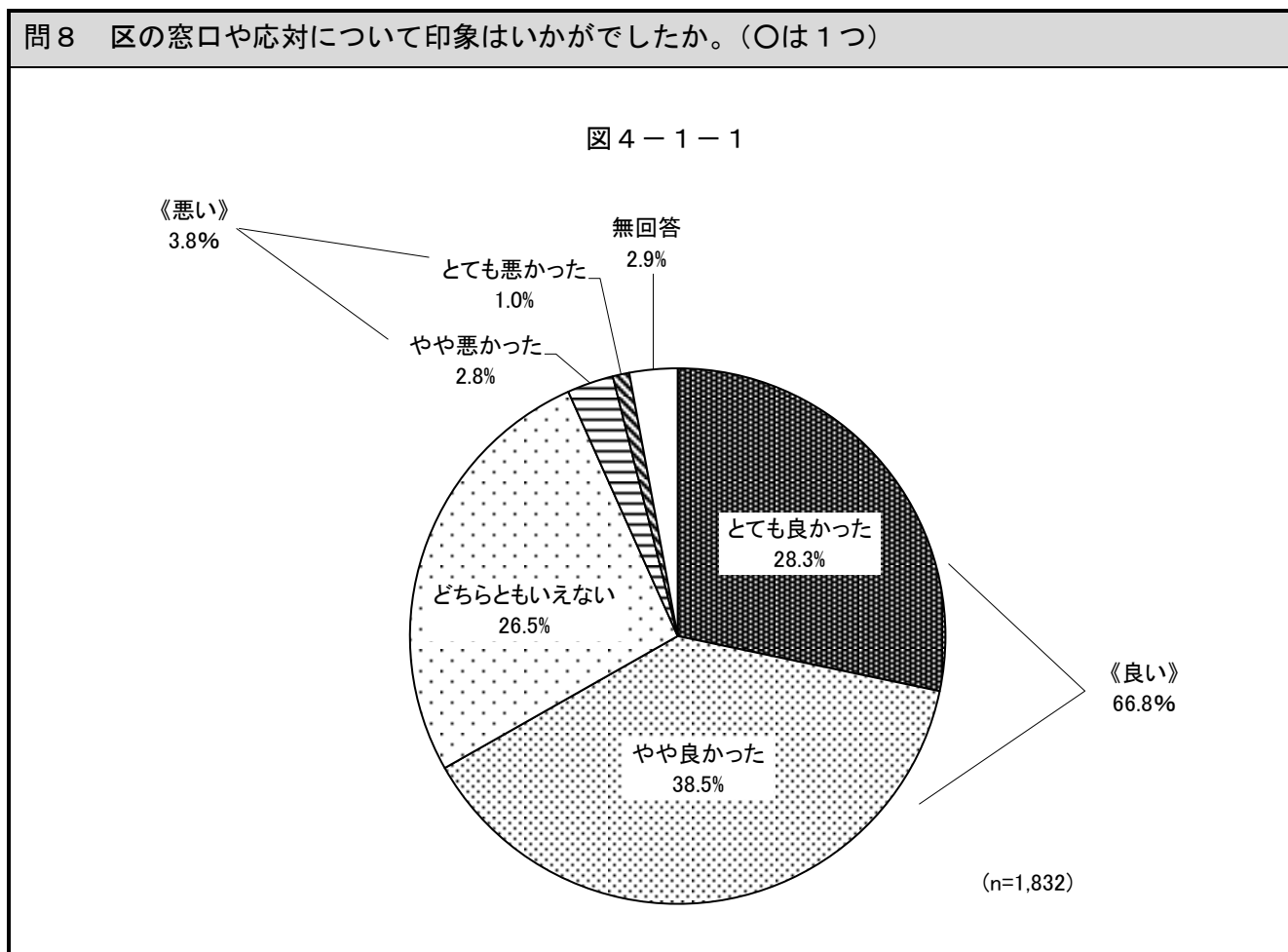


性・年齢別にみると、《感じられる》は女性の10・20歳代で4割を超えている。一方、《感じられない》は男性の60歳代で7割を超え、男性の40歳代、50歳代、70歳代で6割半ば、女性の60歳代で6割を超え、女性の50歳代で6割となっている。(図3-1-10)

## 4. 職員対応

### (1) 窓口対応

◎窓口対応が《良い》と感じている人が7割近く

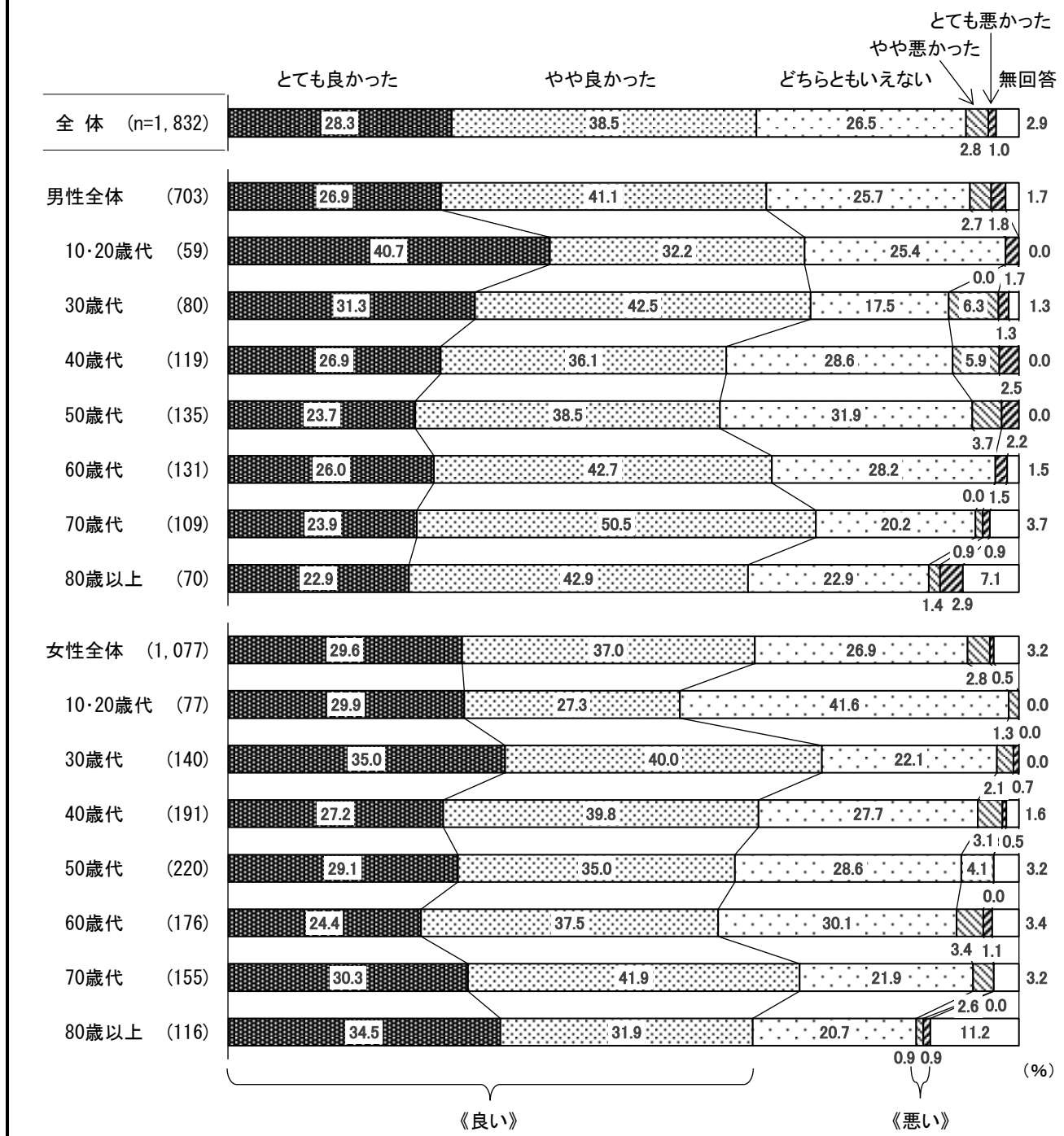


世田谷区の窓口や対応についての印象を聞いたところ、「とても良かった」(28.3%)と「やや良かった」(38.5%)を合わせた《良い》(66.8%)が7割近くとなっている。「どちらともいえない」(26.5%)は3割近く、「やや悪かった」(2.8%)と「とても悪かった」(1.0%)を合わせた《悪い》(3.8%)は1割に満たない。(図4-1-1)





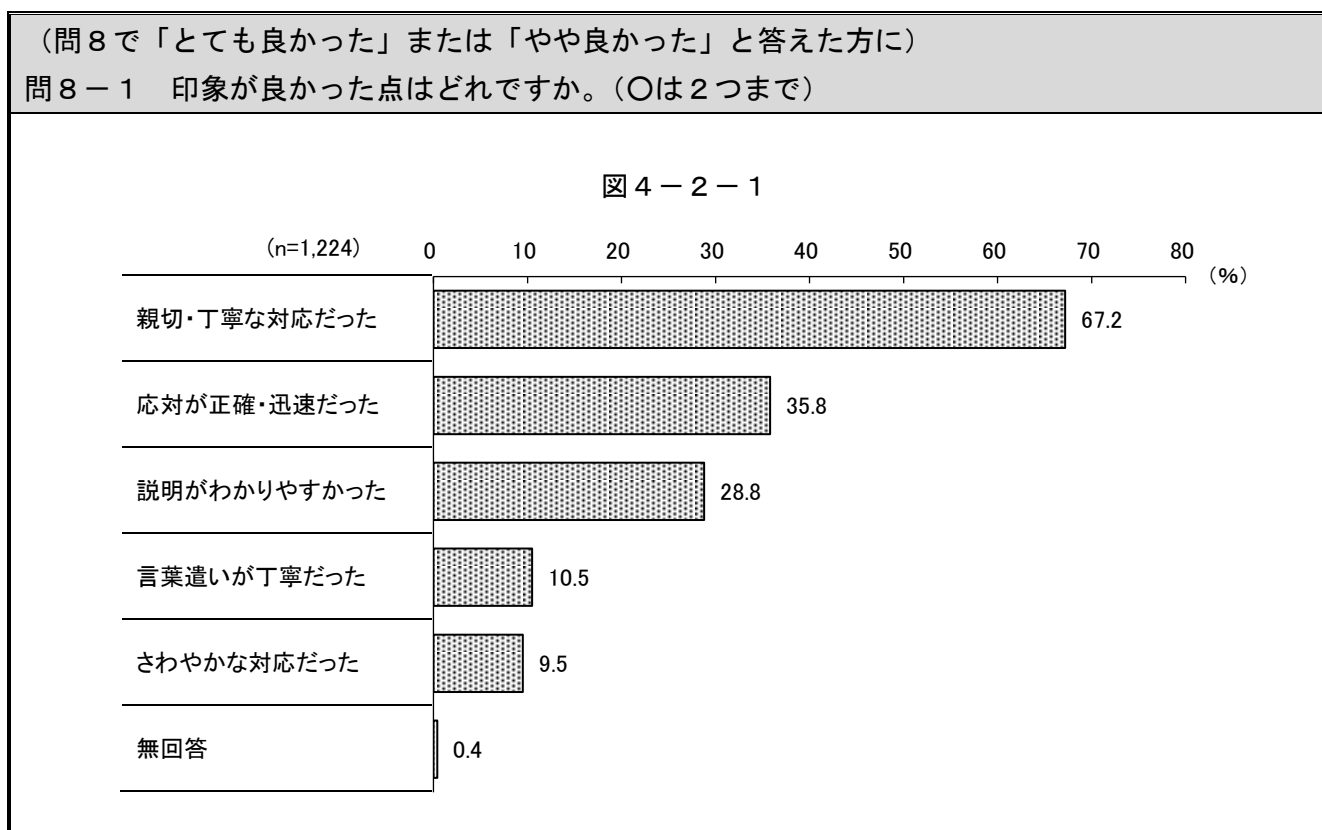
図4-1-3 窓口対応（性・年齢別）



性・年齢別にみると、《良い》は男性の70歳代、女性の30歳代で7割半ば、男性の10・20歳代と30歳代、女性の70歳代で7割を超えている。「とても良かった」は男性の10・20歳代がほぼ4割、女性の30歳代と80歳以上で3割半ばとなっている。（図4-1-3）

## (2) 印象が良かった点

◎印象が良かった点としては「親切・丁寧な対応だった」が7割近く



区の窓口や対応について「とても良かった」または「やや良かった」と答えた方(1,224人)に、印象の良かった点を聞いたところ、「親切・丁寧な対応だった」(67.2%)が7割近くで最も高い。以下、「対応が正確・迅速だった」(35.8%)、「説明がわかりやすかった」(28.8%)、「言葉遣いが丁寧だった」(10.5%)、「さわやかな対応だった」(9.5%)と続く。(図4-2-1)

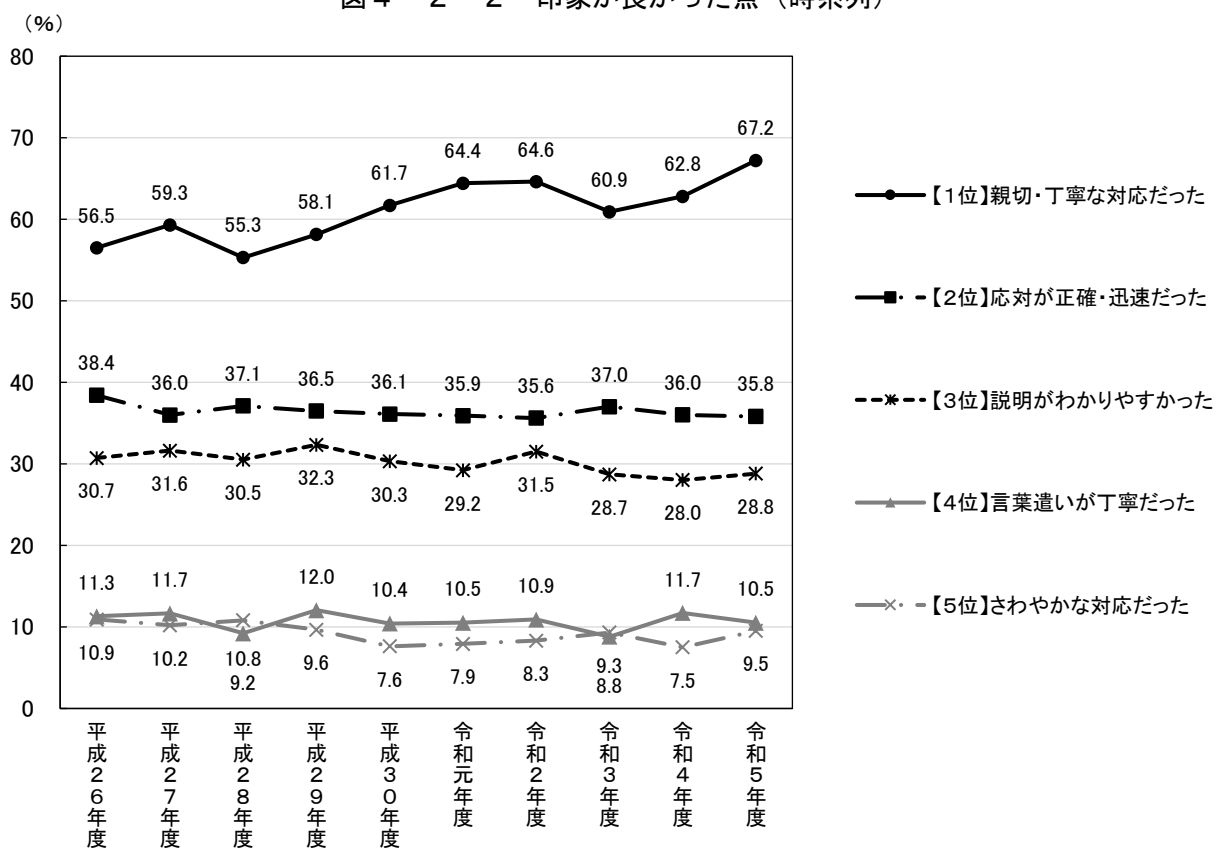
表4-2-1 印象が良かった点（時系列）

（％）

理由	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度
n	1,382	1,373	1,386	1,371	1,399	1,319	1,473	1,344	1,320	1,224
【1位】親切・丁寧な対応だった	56.5	59.3	55.3	58.1	61.7	64.4	64.6	60.9	62.8	67.2
【2位】対応が正確・迅速だった	38.4	36.0	37.1	36.5	36.1	35.9	35.6	37.0	36.0	35.8
【3位】説明がわかりやすかった	30.7	31.6	30.5	32.3	30.3	29.2	31.5	28.7	28.0	28.8
【4位】言葉遣いが丁寧だった	11.3	11.7	9.2	12.0	10.4	10.5	10.9	8.8	7.5	9.5
【5位】さわやかな対応だった	10.9	10.2	10.8	9.6	7.6	7.9	8.3	9.3	7.5	9.5

注) 令和5年度の値で順位付けを行った。

図4-2-2 印象が良かった点（時系列）



平成26年度からの時系列での変化をみると、「親切・丁寧な対応だった」がいずれの年度も1位で、特に令和5年度は過去最も高くなっている。以下、3位まではすべて同じ順位になっている。「言葉遣いが丁寧だった」は令和4年度に引き続き4位となっている。（表4-2-1、図4-2-2）

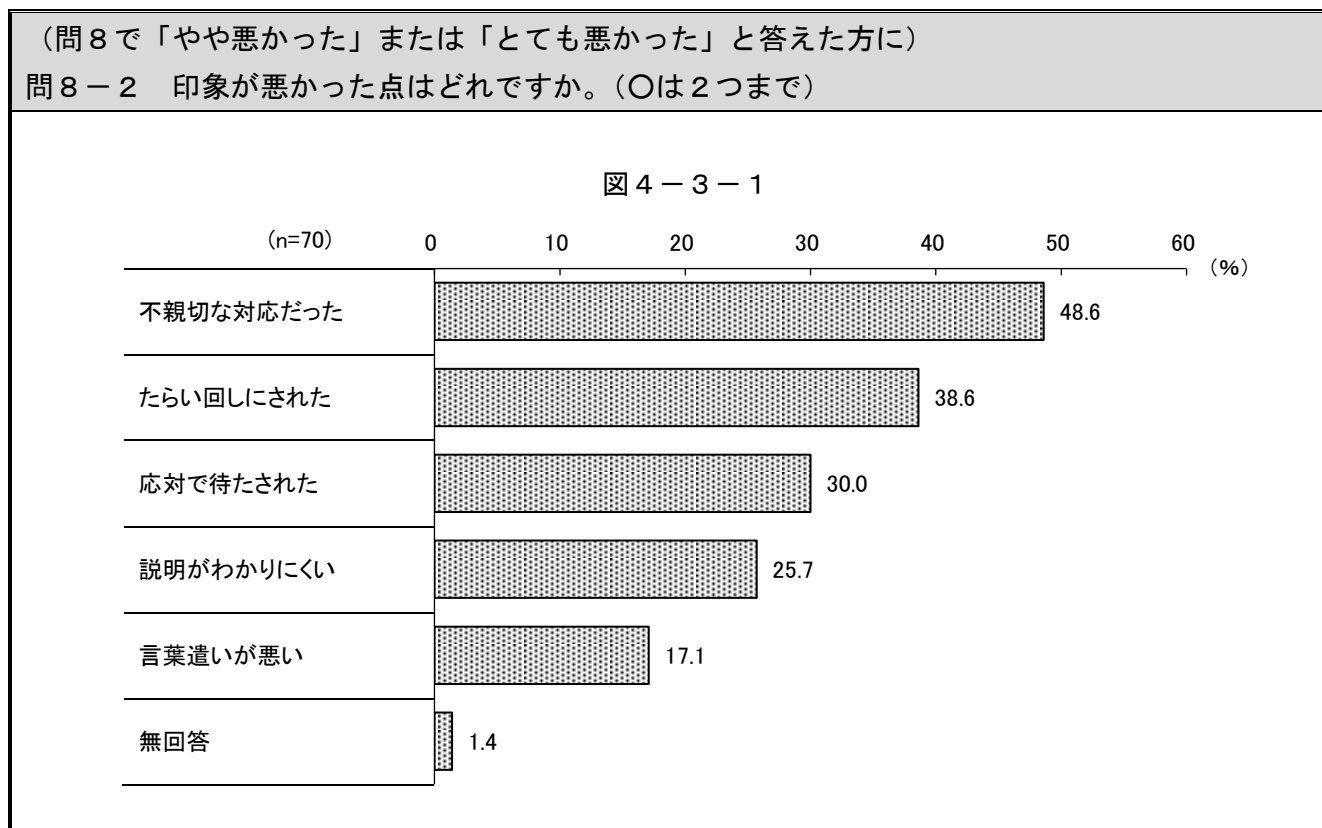
表 4-2-2 印象が良かった点（性・年齢別）

		(%)						
		n	親切・丁寧な対応だった	対応が正確・迅速だった	説明がわかりやすかった	言葉遣いが丁寧だった	さわやかな対応だった	無回答
全 体		1,224	67.2	35.8	28.8	10.5	9.5	0.4
性・年齢別	男性全体	478	69.5	36.4	26.8	11.7	11.7	-
	10・20歳代	43	60.5	34.9	25.6	23.3	11.6	-
	30歳代	59	57.6	42.4	28.8	6.8	15.3	-
	40歳代	75	65.3	33.3	29.3	20.0	16.0	-
	50歳代	84	76.2	29.8	22.6	14.3	10.7	-
	60歳代	90	67.8	44.4	26.7	6.7	6.7	-
	70歳代	81	76.5	32.1	30.9	8.6	12.3	-
	80歳以上	46	78.3	39.1	21.7	4.3	10.9	-
	女性全体	717	66.0	36.1	30.0	9.9	8.1	0.7
	10・20歳代	44	52.3	27.3	43.2	9.1	11.4	-
	30歳代	105	63.8	36.2	22.9	11.4	11.4	1.0
	40歳代	128	67.2	43.8	22.7	12.5	9.4	-
	50歳代	141	70.9	40.4	25.5	9.2	6.4	1.4
	60歳代	109	70.6	41.3	31.2	8.3	5.5	0.9
70歳代	112	58.0	30.4	35.7	9.8	7.1	0.9	
80歳以上	77	70.1	22.1	41.6	7.8	7.8	-	

性・年齢別にみると、「親切・丁寧な対応だった」はいずれの性別・年代でも最も高く、男性の70歳代と80歳以上で8割近く、男性の50歳代で7割半ば、女性の50歳代と60歳代でほぼ7割、女性の80歳以上で7割となっている。「対応が正確・迅速だった」は男性の60歳代で4割半ばとなっている。（表4-2-2）

## (3) 印象が悪かった点

◎印象が悪かった点としては「不親切な対応だった」が5割近く



区の窓口や対応について「やや悪かった」または「とても悪かった」と答えた方(70人)に、対応の印象が悪かった点を聞いたところ、「不親切な対応だった」(48.6%)が5割近くで最も高い。以下、「たらい回しにされた」(38.6%)、「対応で待たされた」(30.0%)、「説明がわかりにくい」(25.7%)、「言葉遣いが悪い」(17.1%)と続く。(図4-3-1)

表4-3-1 印象が悪かった点（時系列）

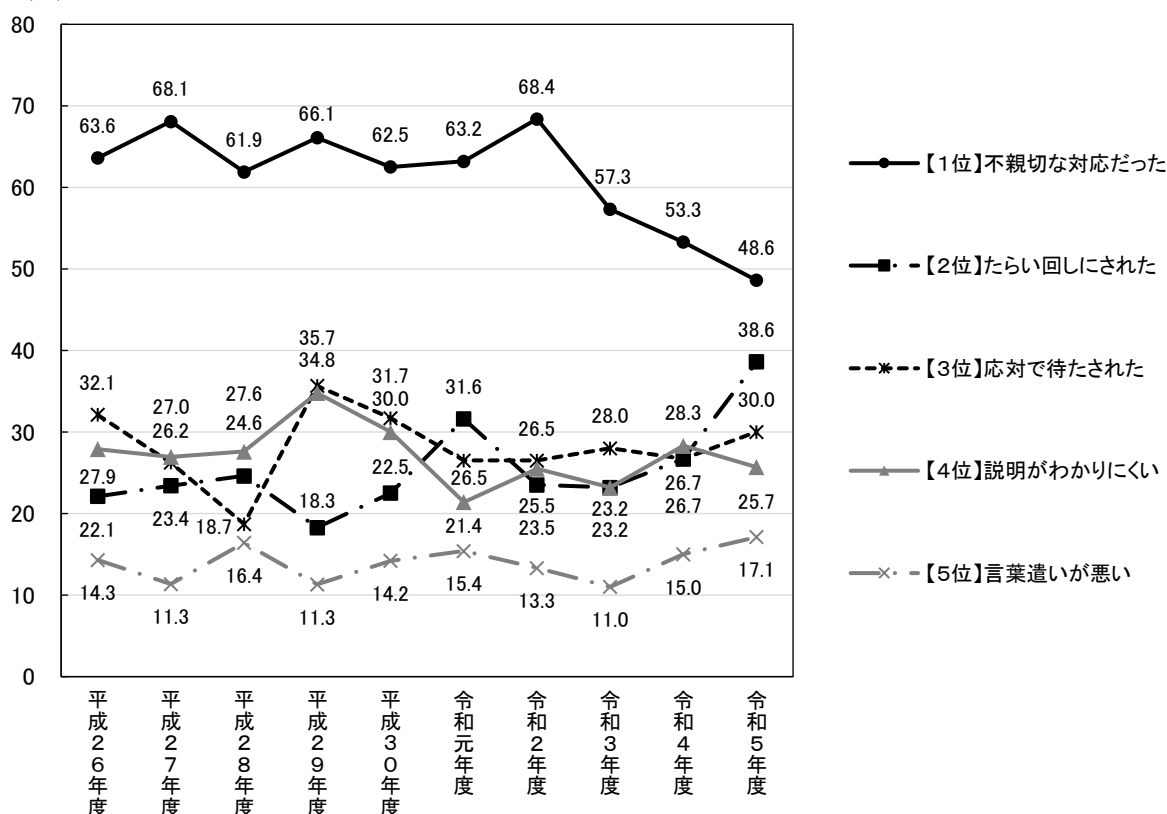
（％）

理由	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度
n	140	141	134	115	120	117	98	82	60	70
【1位】不親切な対応だった	63.6	68.1	61.9	66.1	62.5	63.2	68.4	57.3	53.3	48.6
【2位】たらい回しにされた	22.1	23.4	24.6	18.3	22.5	31.6	23.5	23.2	26.7	38.6
【3位】応対で待たされた	32.1	26.2	18.7	35.7	31.7	26.5	26.5	28.0	26.7	30.0
【4位】説明がわかりにくい	27.9	27.0	27.6	34.8	30.0	21.4	25.5	23.2	28.3	25.7
【5位】言葉遣いが悪い	14.3	11.3	16.4	11.3	14.2	15.4	13.3	11.0	15.0	17.1

注) 令和5年度の値で順位付けを行った。

図4-3-2 印象が悪かった点（時系列）

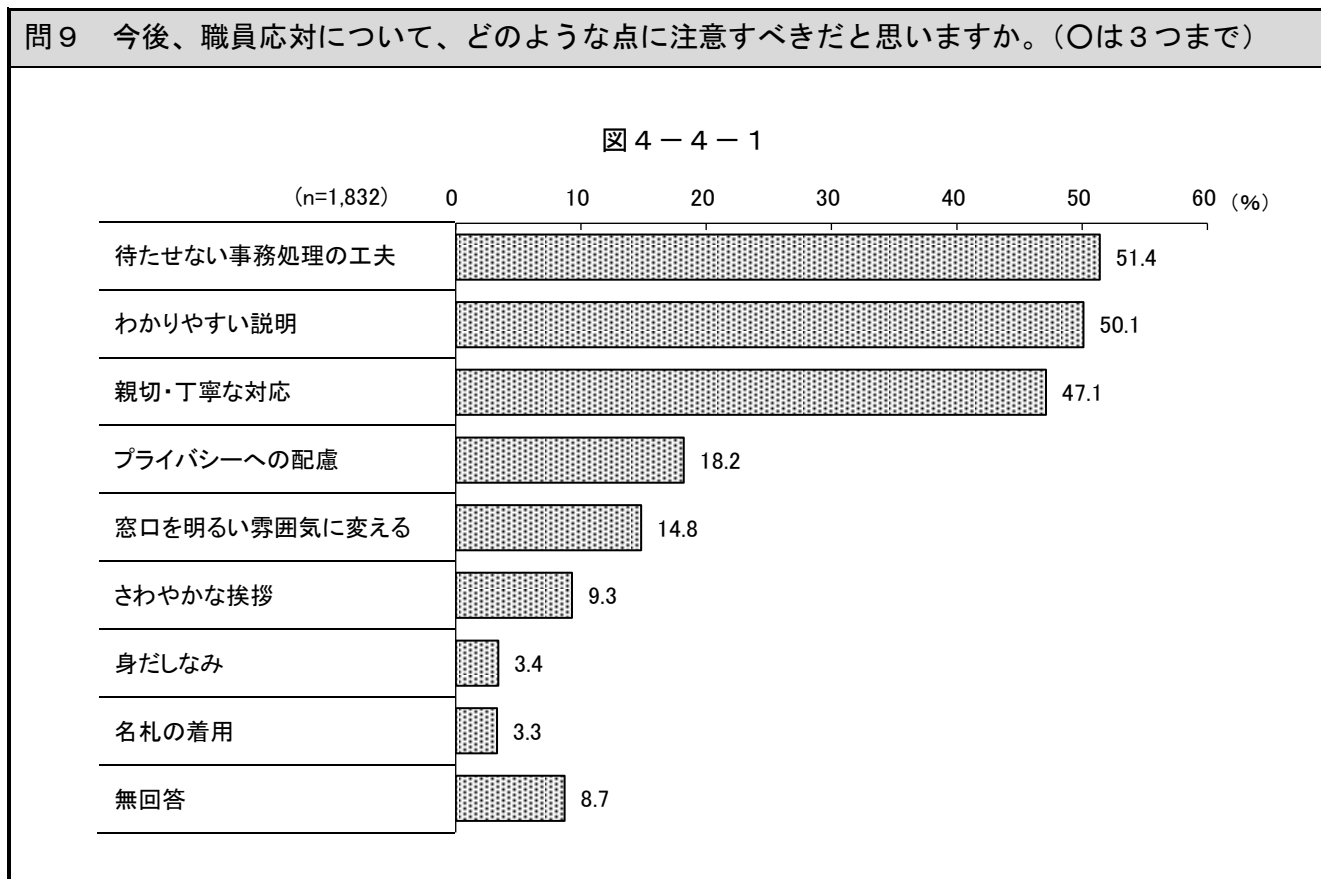
（％）



平成26年度からの時系列での変化をみると、「不親切な対応だった」がいずれの年度も1位となっているが、令和2年度以降は年々割合が減少し、令和5年度は5割を下回っている。「たらい回しにされた」は令和5年度が過去最も高く、4割近くとなっている。（表4-3-1、図4-3-2）

## (4) 職員対応での注意点

◎「待たせない事務処理の工夫」「わかりやすい説明」「親切・丁寧な対応」の3点が高い



今後の職員対応で注意すべき点を聞いたところ、「待たせない事務処理の工夫」(51.4%)が5割を超え、「わかりやすい説明」(50.1%)が5割、「親切・丁寧な対応」(47.1%)が5割近くとなっている。以下、「プライバシーへの配慮」(18.2%)、「窓口を明るい雰囲気に変える」(14.8%)、「さわやかな挨拶」(9.3%)などと続いている。(図4-4-1)

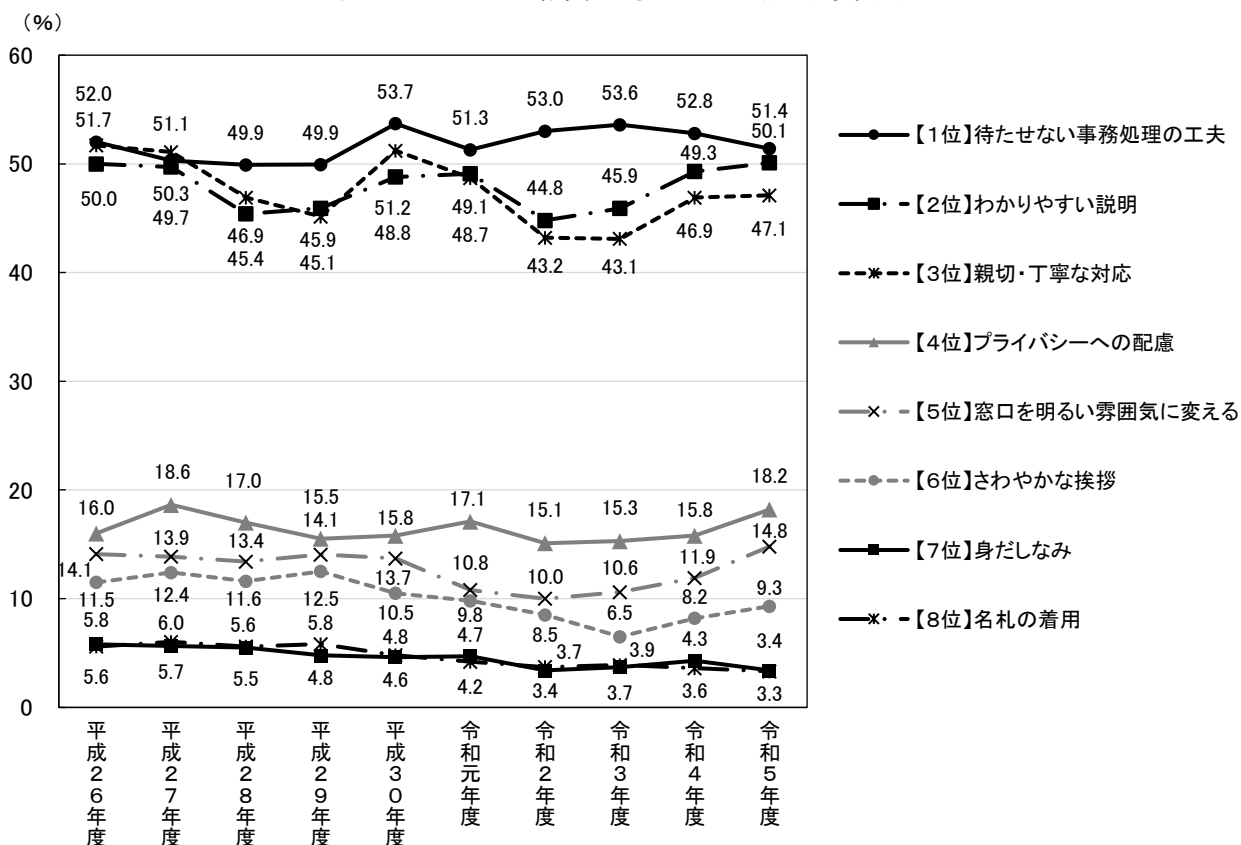


表 4-4-1 職員対応での注意点（時系列）

理由	(%)									
	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度
n	2,362	2,388	2,355	2,319	2,330	2,171	2,371	2,086	1,923	1,832
【1位】 待たせない事務処理の工夫	52.0	50.3	49.9	49.9	53.7	51.3	53.0	53.6	52.8	51.4
【2位】 わかりやすい説明	50.0	49.7	45.4	45.9	48.8	49.1	44.8	45.9	49.3	50.1
【3位】 親切・丁寧な対応	51.7	51.1	46.9	45.1	51.2	48.7	43.2	43.1	46.9	47.1
【4位】 プライバシーへの配慮	16.0	18.6	17.0	15.5	15.8	17.1	15.1	15.3	15.8	18.2
【5位】 窓口を明るい雰囲気に変える	14.1	13.9	13.4	14.1	13.7	10.8	10.0	10.6	11.9	14.8
【6位】 さわやかな挨拶	11.5	12.4	11.6	12.5	10.5	9.8	8.5	6.5	8.2	9.3
【7位】 身だしなみ	5.8	5.7	5.5	4.8	4.6	4.7	3.4	3.7	4.3	3.4
【8位】 名札の着用	5.6	6.0	5.6	5.8	4.8	4.2	3.7	3.9	3.6	3.3

注) 令和5年度の値で順位付けを行った。

図 4-4-2 職員対応での注意点（時系列）



平成 26 年度からの時系列での変化をみると、「待たせない事務処理の工夫」、「わかりやすい説明」、「親切・丁寧な対応」の 3 項目がいずれの年度でも 4 割台から 5 割台で推移している。

(表 4-4-1、図 4-4-2)

表 4-4-2 職員対応での注意点（性・年齢別）

		(%)									
		n	待たせない事務処理の工夫	わかりやすい説明	親切・丁寧な対応	プライバシーへの配慮	窓口を明るい雰囲気に変える	さわやかな挨拶	身だしなみ	名札の着用	無回答
全 体		1,832	51.4	50.1	47.1	18.2	14.8	9.3	3.4	3.3	8.7
性・年齢別	男性全体	703	53.8	47.2	44.8	14.5	16.2	10.5	4.4	4.6	8.1
	10・20歳代	59	44.1	33.9	35.6	10.2	27.1	10.2	1.7	1.7	13.6
	30歳代	80	62.5	38.8	32.5	25.0	22.5	7.5	1.3	-	8.8
	40歳代	119	56.3	44.5	44.5	15.1	17.6	10.1	5.9	5.0	5.9
	50歳代	135	50.4	46.7	51.1	18.5	12.6	11.1	1.5	3.0	6.7
	60歳代	131	60.3	51.1	45.8	9.9	18.3	11.5	6.1	3.8	6.1
	70歳代	109	46.8	54.1	44.0	11.9	11.9	11.0	8.3	9.2	10.1
	80歳以上	70	52.9	55.7	54.3	10.0	7.1	11.4	4.3	8.6	10.0
	女性全体	1,077	50.8	52.5	48.8	20.6	14.1	8.3	2.8	2.6	8.4
	10・20歳代	77	42.9	39.0	45.5	15.6	14.3	9.1	1.3	-	7.8
	30歳代	140	53.6	40.7	36.4	18.6	16.4	6.4	5.0	0.7	11.4
	40歳代	191	52.4	46.1	51.8	23.6	20.9	8.9	2.6	1.6	7.3
	50歳代	220	51.4	52.7	53.6	22.7	13.2	8.2	2.3	1.8	9.1
	60歳代	176	56.3	58.0	49.4	21.6	14.8	6.3	4.0	2.8	6.3
70歳代	155	49.7	64.5	49.0	23.9	5.8	8.4	2.6	3.9	5.8	
80歳以上	116	42.2	61.2	50.9	11.2	12.1	12.1	0.9	7.8	12.9	

性・年齢別にみると、「待たせない事務処理の工夫」は男性の30歳代で6割超え、男性の60歳代で6割となっている。「わかりやすい説明」は年代が上がるにつれ高くなる傾向にあり、女性の70歳代で6割半ば、女性の80歳以上で6割を超えている。（表4-4-2）

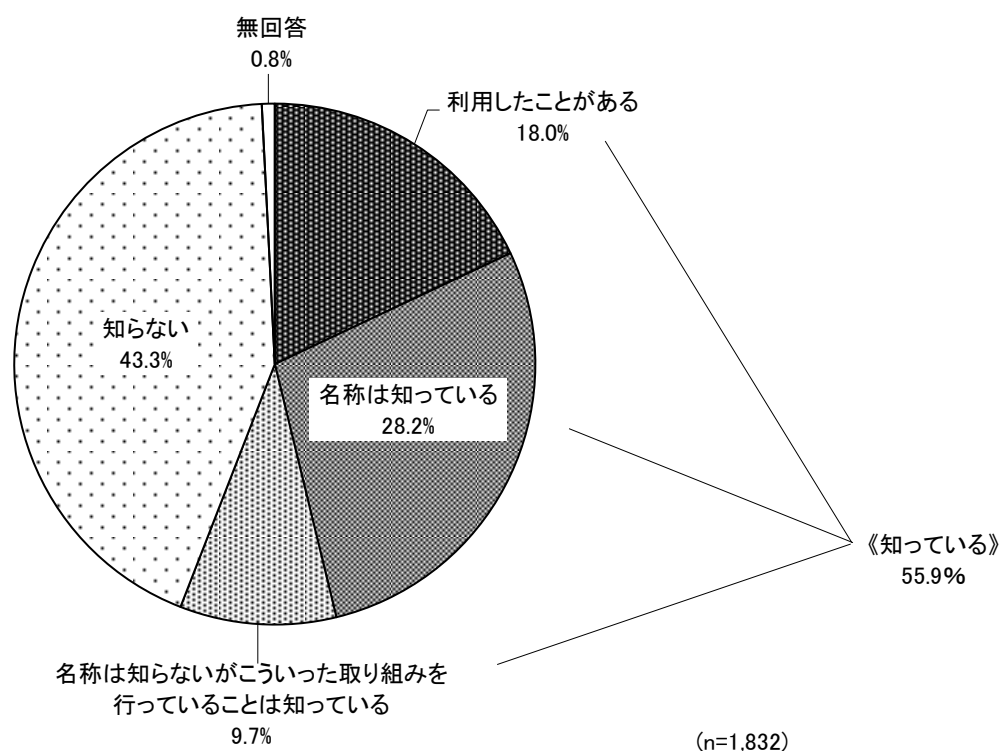
## 5. 福祉と医療

### (1) 「福祉の相談窓口」の認知度

◎ 《知っている》が5割半ば、「利用したことがある」は2割近く

問10 あなたは、区内28地区で実施しているまちづくりセンター、あんしんすこやかセンター（地域包括支援センター）、社会福祉協議会が連携して相談を受ける「福祉の相談窓口」を知っていますか。（〇は1つ）

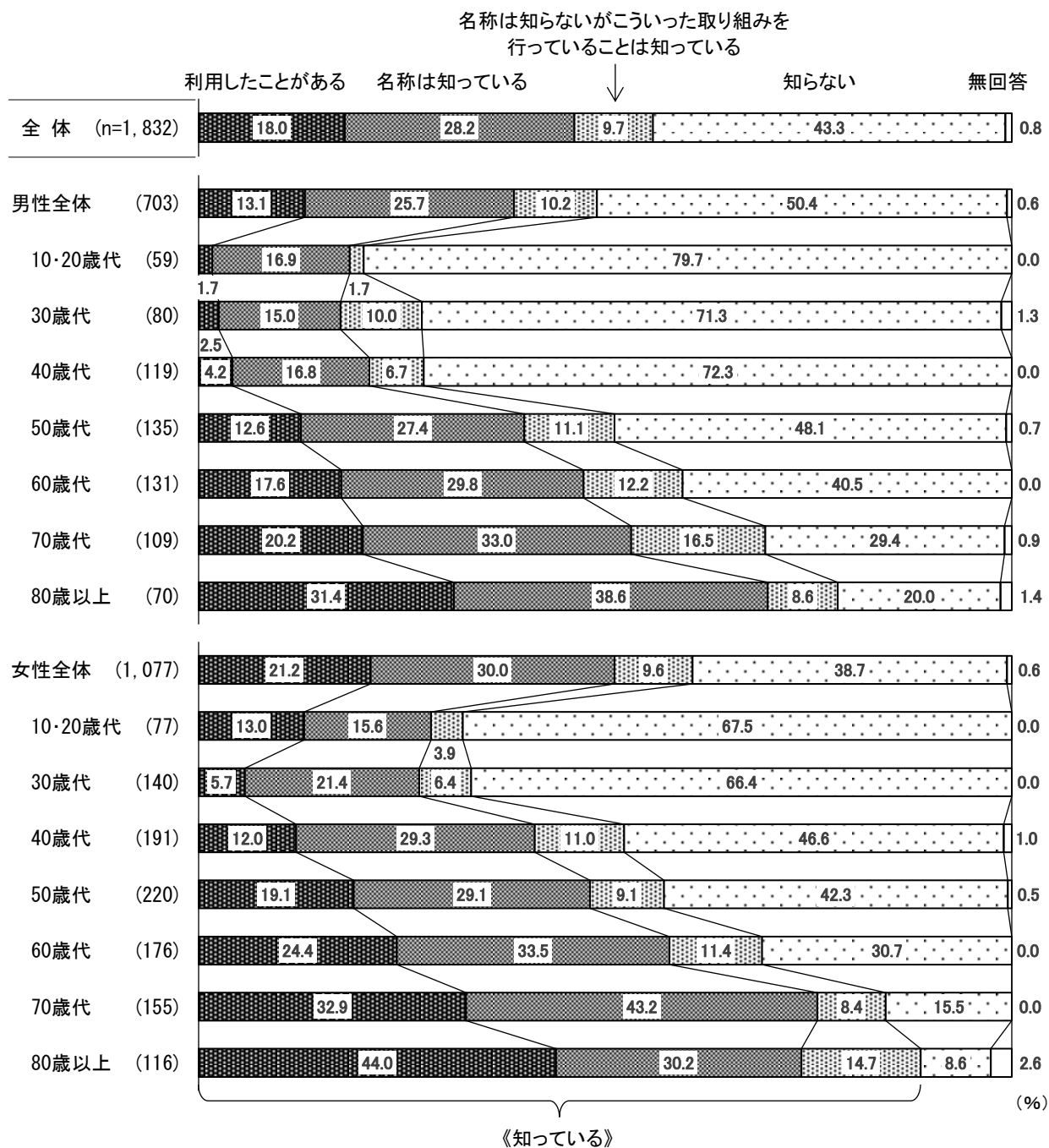
図5-1-1



「福祉の相談窓口」の認知度を聞いたところ、「名称は知っている」（28.2%）、「利用したことがある」（18.0%）、「名称は知らないがこういった取り組みを行っていることは知っている」（9.7%）を合わせた《知っている》（55.9%）が5割半ば、「知らない」（43.3%）が4割を超えている。

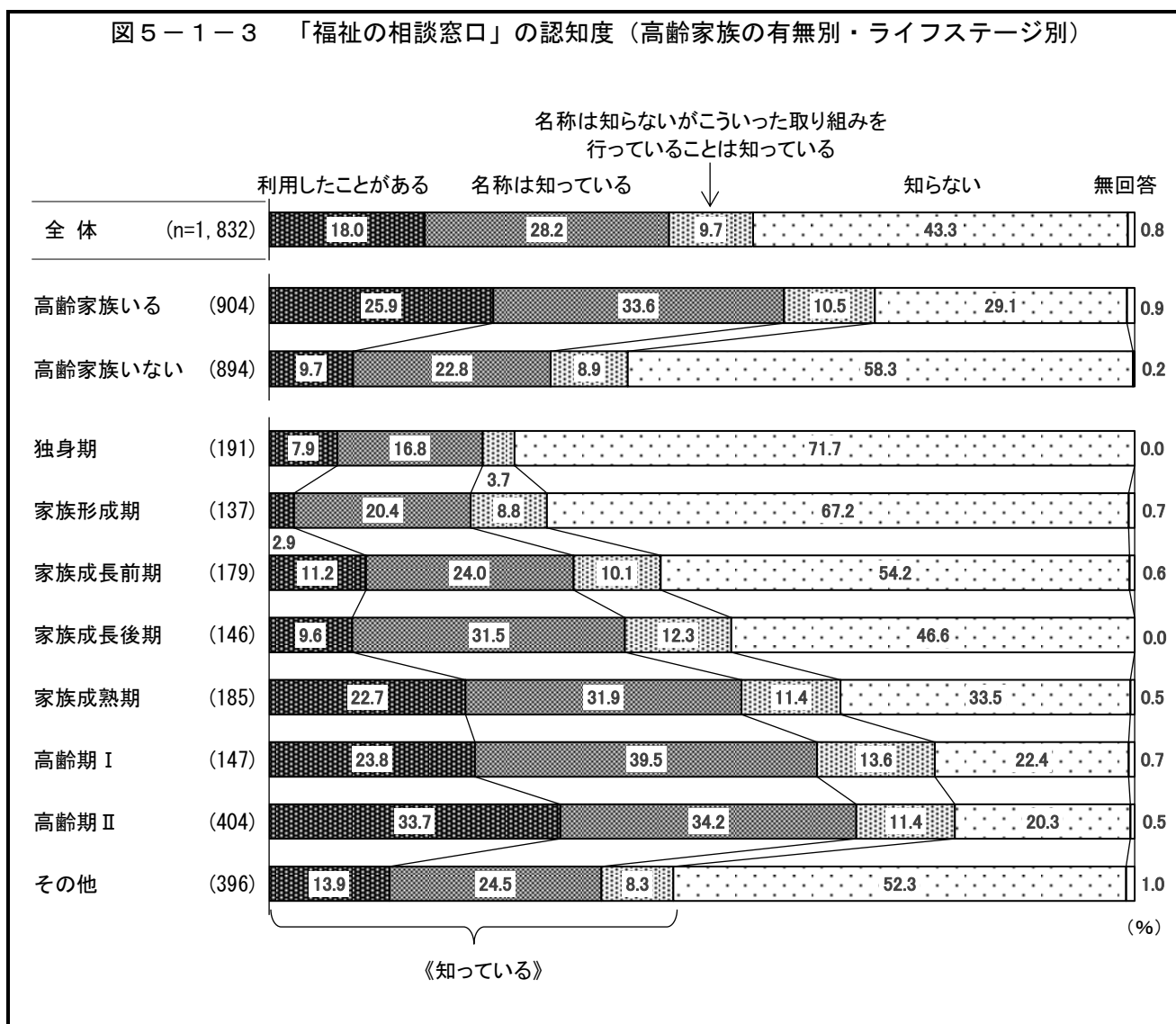
（図5-1-1）

図5-1-2 「福祉の相談窓口」の認知度（性・年齢別）



性・年齢別にみると、《知っている》は男女ともに年代が上がるにつれ高くなる傾向がみられ、女性の80歳以上で9割近く、女性の70歳代で8割半ば、男性の80歳以上で8割近くとなっている。「利用したことがある」は女性の80歳以上で4割半ばとなっている。（図5-1-2）

図5-1-3 「福祉の相談窓口」の認知度（高齢家族の有無別・ライフステージ別）



高齢家族の有無別にみると、高齢家族がいる世帯は「利用したことがある」が2割半ば、「名称は知っている」が3割を超え、高齢家族がいない世帯より高い。

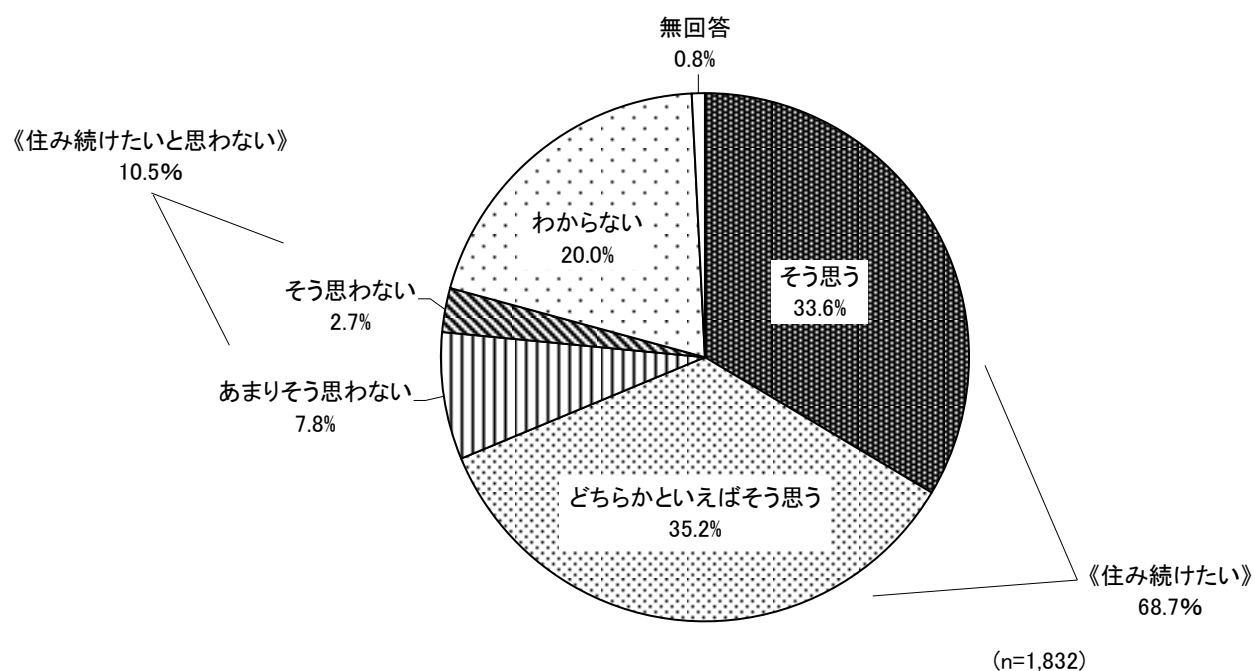
ライフステージ別にみると、「利用したことがある」は高齢期Ⅱで3割を超え、高齢期Ⅰと家族成熟期で2割を超えている。《知っている》は高齢期Ⅱでほぼ8割、高齢期Ⅰで8割近く、家族成熟期で6割半ばとなっている。（図5-1-3）

## (2) 介護や医療必要時の居留意向

## ◎ 《住み続けたい》が7割近く

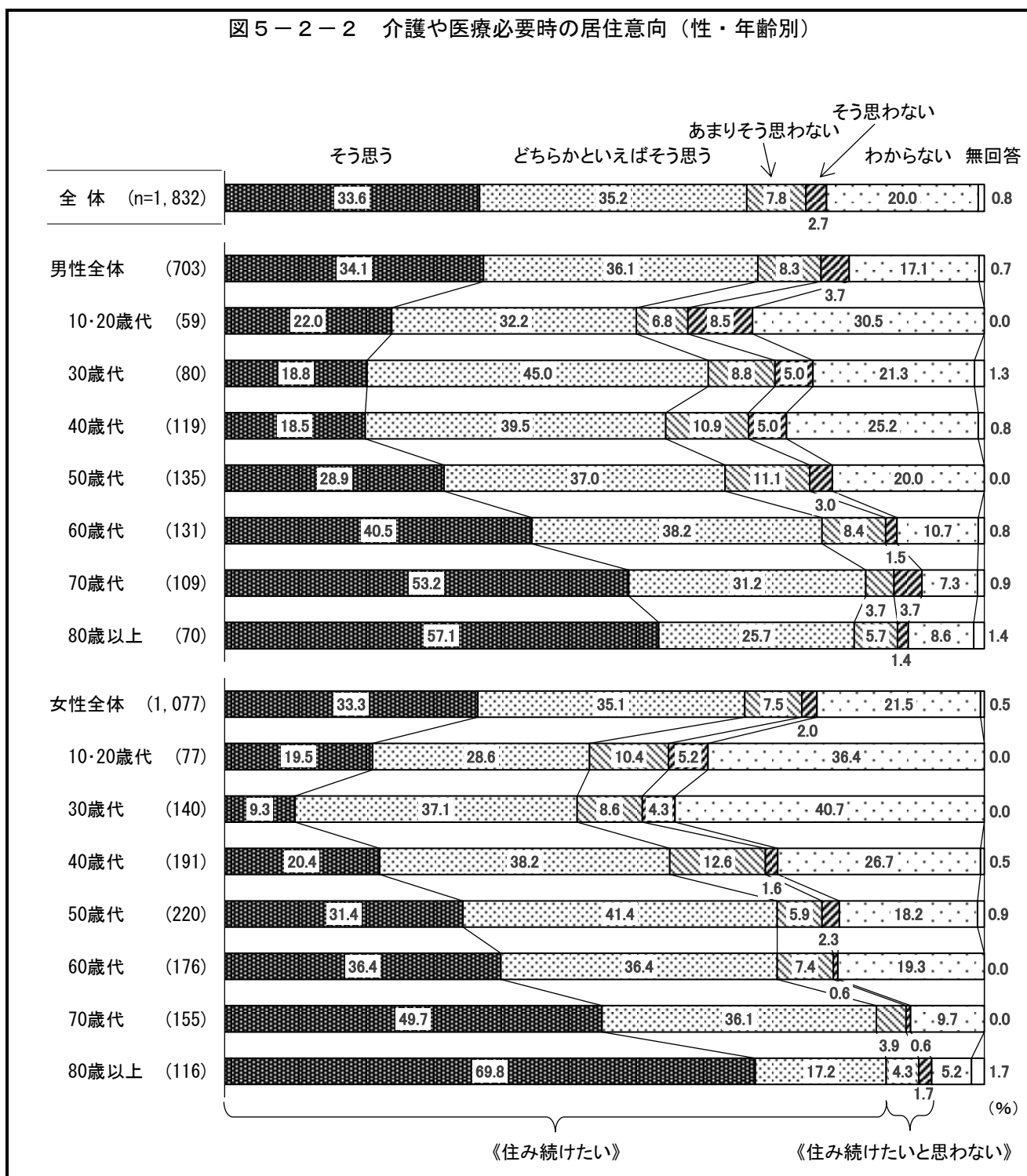
問11 あなたは、介護や医療が必要になっても世田谷区に住み続けたいですか。(〇は1つ)

図5-2-1



介護や医療必要時の世田谷区への居留意向について聞いたところ、「そう思う」（33.6%）と「どちらかといえばそう思う」（35.2%）を合わせた《住み続けたい》（68.7%）が7割近く、「あまりそう思わない」（7.8%）と「そう思わない」（2.7%）を合わせた《住み続けたいと思わない》（10.5%）はほぼ1割となっている。（図5-2-1）

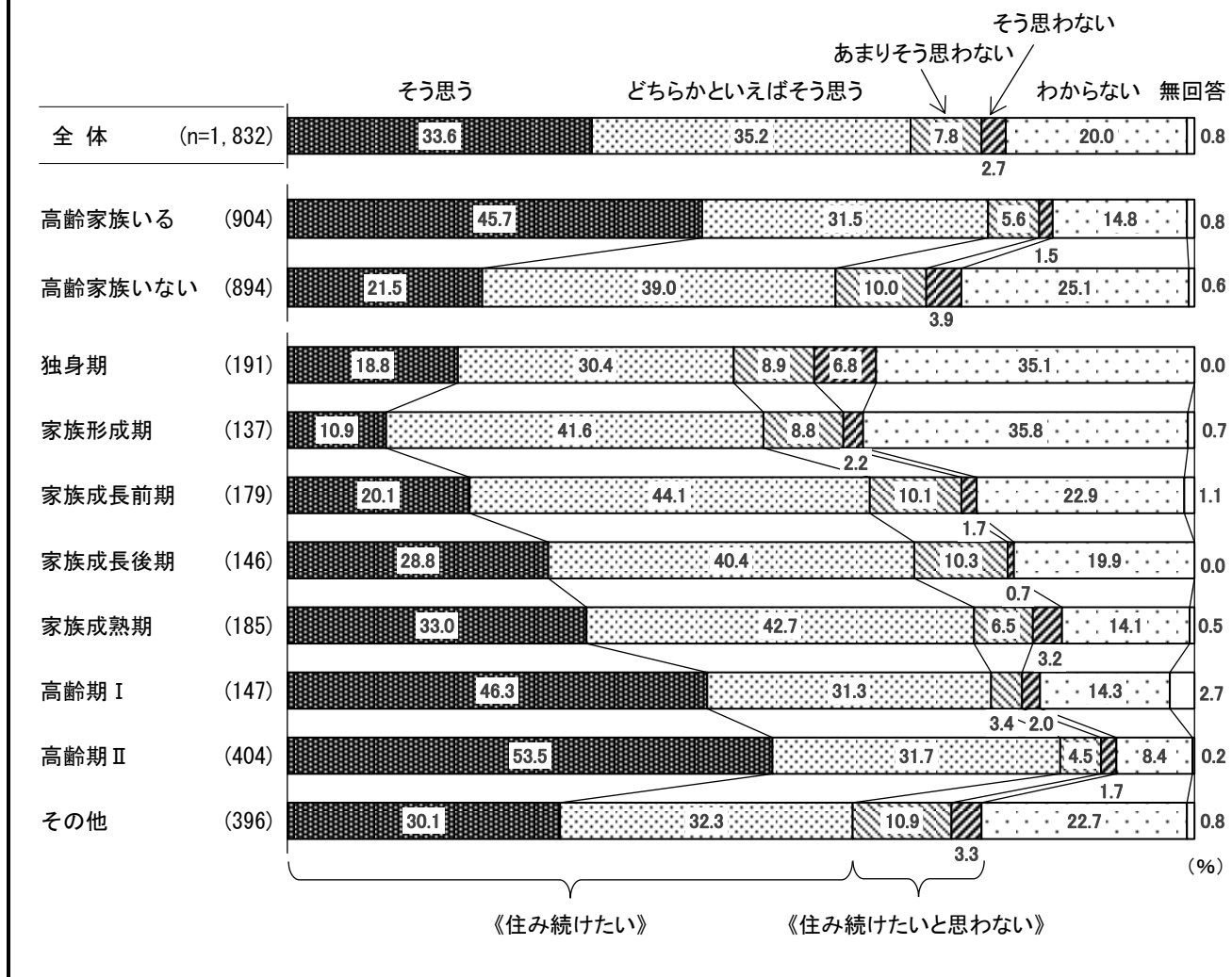
図5-2-2 介護や医療必要時の居留意向（性・年齢別）



性・年齢別にみると、年代が上がるにつれ《住みたい》が高くなる傾向にあり、女性の80歳以上で9割近く、男性の70歳代、女性の70歳代で8割半ば、男性の80歳以上で8割を超えている。《住みたいと思わない》は男性の50歳代以下、女性の40歳代以下で1割台となっている。

(図5-2-2)

図5-2-3 介護や医療必要時の居留意向（高齢家族の有無別・ライフステージ別）



高齢家族の有無別にみると、「住み続けたい」は高齢家族がいる世帯で8割近く、高齢家族がいない世帯でほぼ6割となっている。「そう思う」は高齢家族がいる世帯で4割半ばとなっている。

ライフステージ別にみると、「住み続けたい」は高齢期IIで8割半ば、高齢期Iで8割近くで、そのうち、「そう思う」は高齢期IIで5割を超え、高齢期Iで4割半ばとなっている。「住み続けたいと思わない」は独身期とその他で1割半ばとなっている。（図5-2-3）

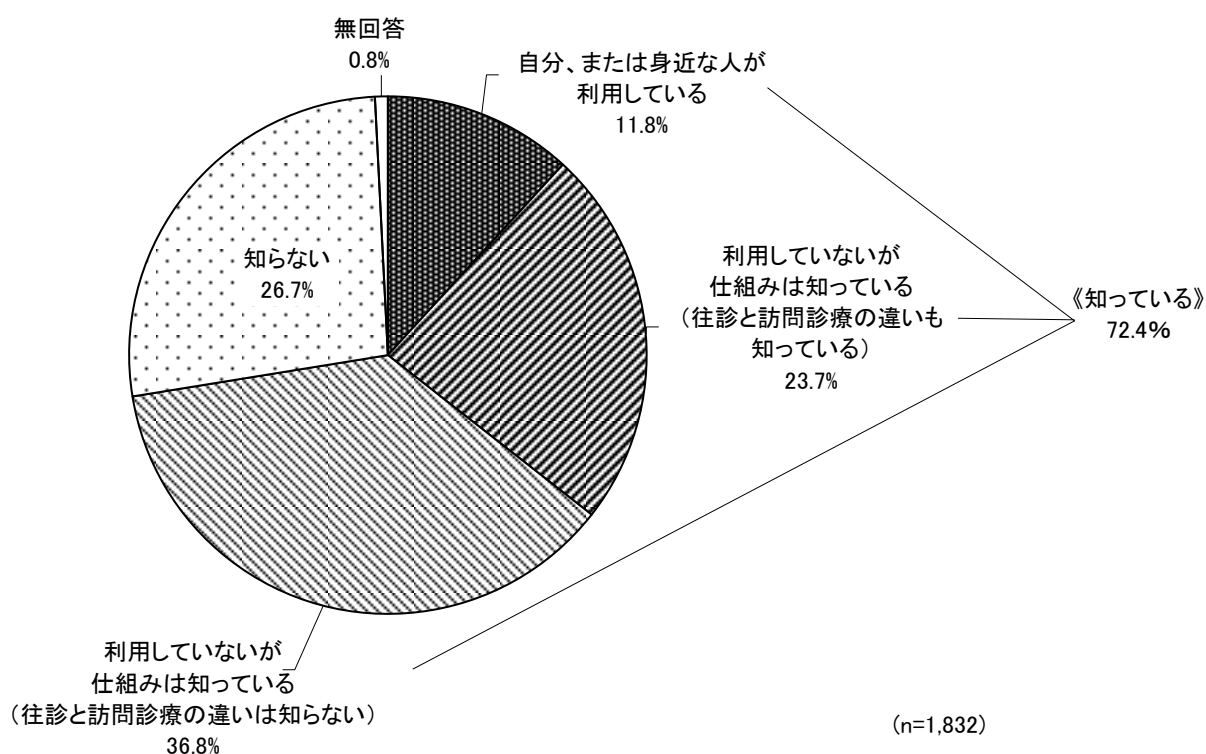


### (3) 「在宅医療」の認知度

◎ 《知っている》が7割を超え、「自分、または身近な人が利用している」は1割を超える

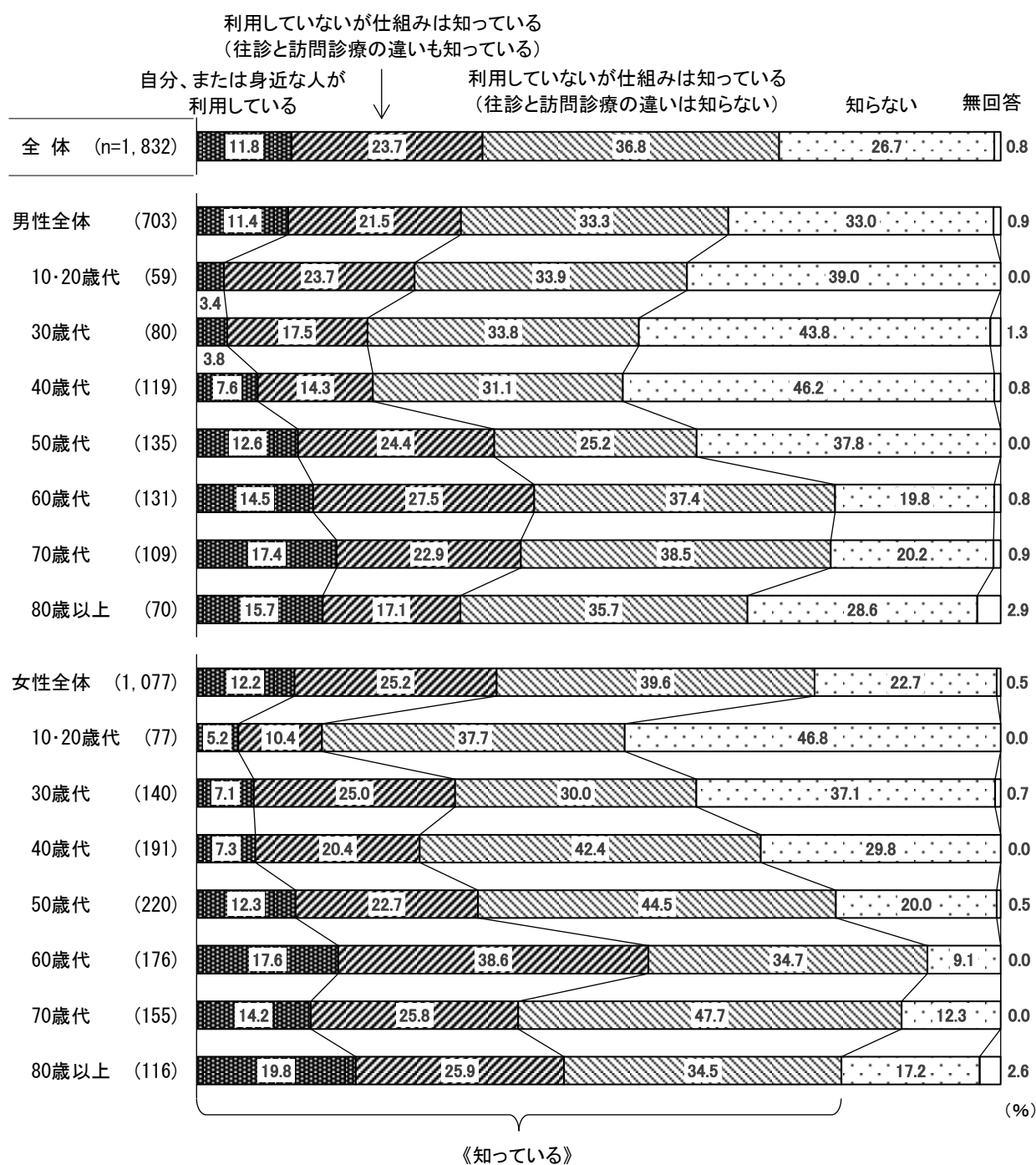
問12 あなたは、訪問診療や訪問看護を受けながら自宅で療養する「在宅医療」を知っていますか。(〇は1つ)

図5-3-1



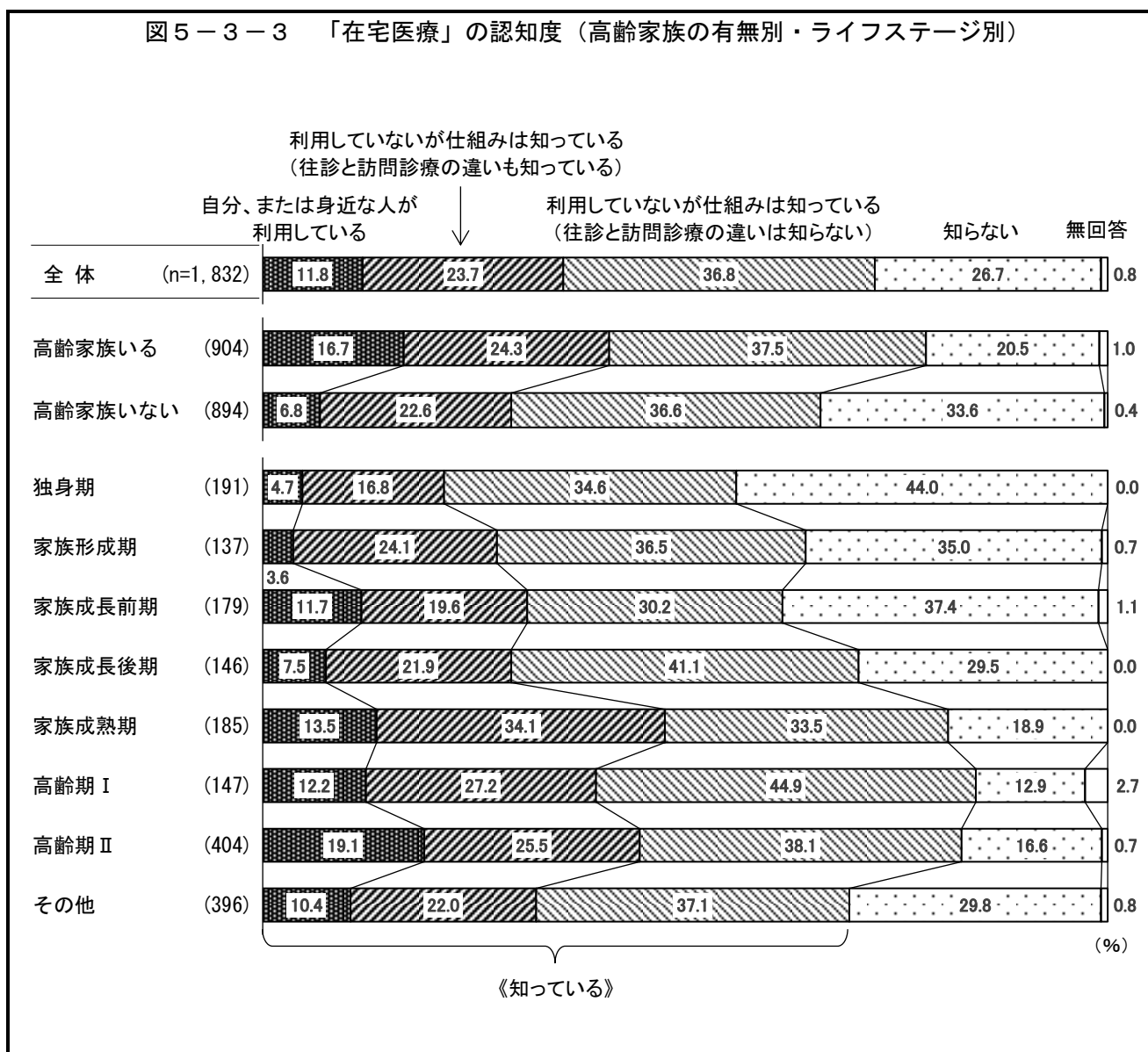
「在宅医療」の認知度を聞いたところ、「利用していないが仕組みは知っている(往診と訪問診療の違いは知らない)」(36.8%)が4割近く、「利用していないが仕組みは知っている(往診と訪問診療の違いも知っている)」(23.7%)、「自分、または身近な人が利用している」(11.8%)と合わせた《知っている》(72.4%)が7割を超えている。(図5-3-1)

図5-3-2 「在宅医療」の認知度（性・年齢別）



性・年齢別にみると、《知っている》は10・20歳代を除くすべての年代で男性より女性の方が高く、特に女性の60歳代でほぼ9割となっている。「自分、または身近な人が利用している」は女性の80歳以上で2割となっている。(図5-3-2)

図5-3-3 「在宅医療」の認知度（高齢家族の有無別・ライフステージ別）



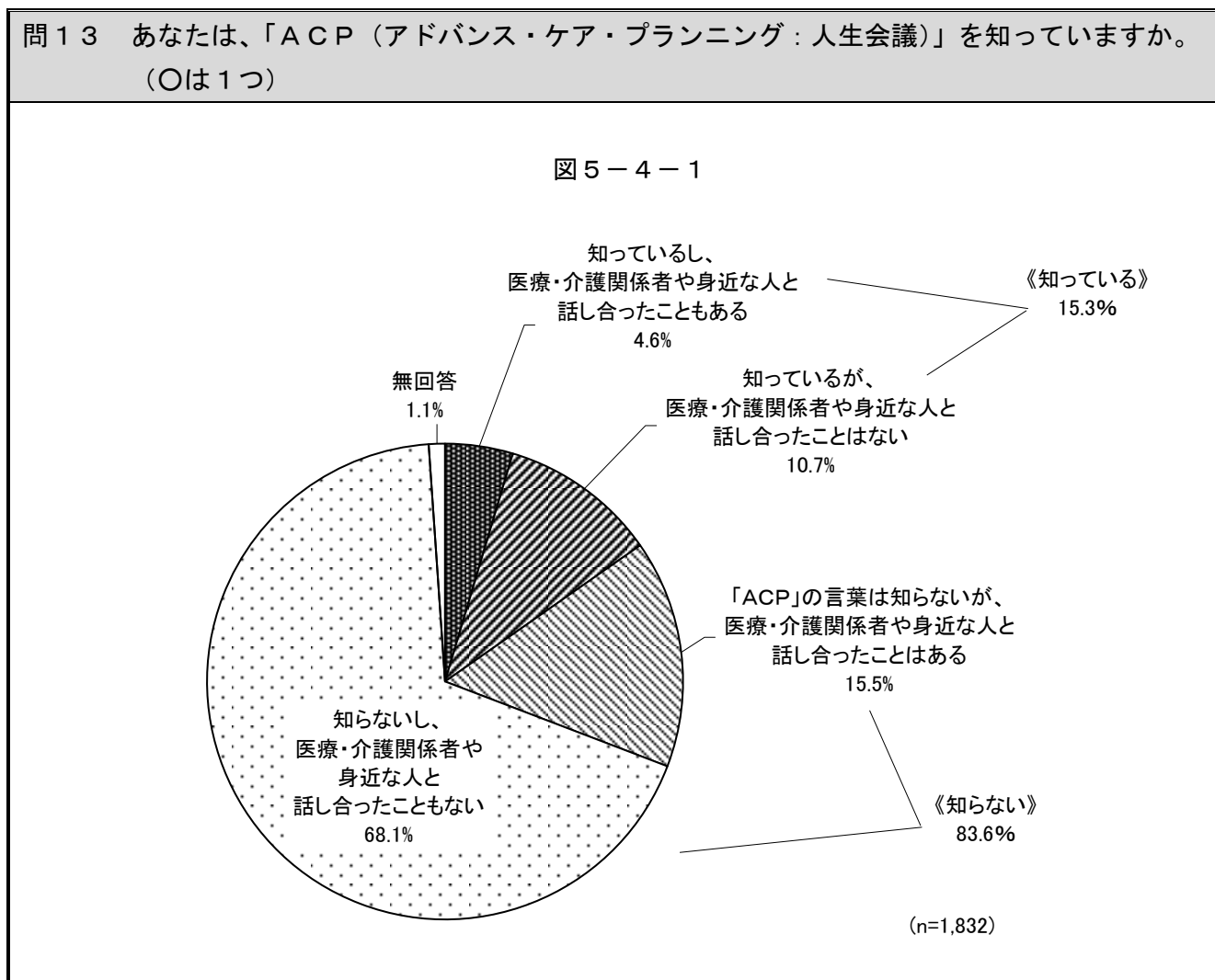
高齢家族の有無別にみると、「自分、または身近な人が利用している」は高齢家族がいる世帯が2割近くで、高齢家族がいない世帯より高くなっている。

ライフステージ別にみると、《知っている》は家族成熟期、高齢期Ⅰ、高齢期Ⅱで8割台と高くなっている。「自分、または身近な人が利用している」は高齢期Ⅱでほぼ2割となっている。

(図5-3-3)

#### (4) 「ACP」(アドバンス・ケア・プランニング：人生会議)の認知度

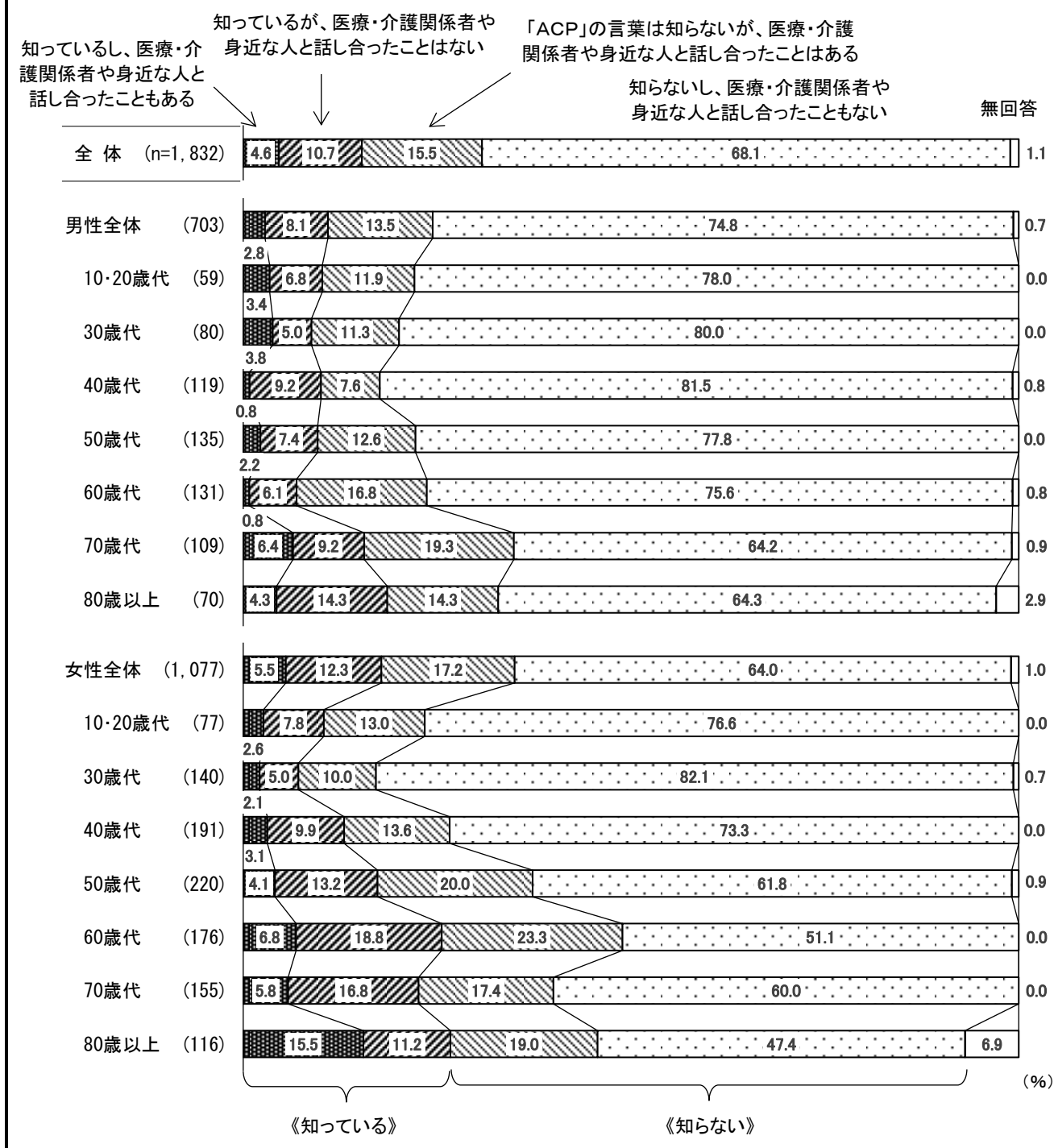
◎ 《知らない》が8割を超え、《知っている》は1割半ば



「ACP」の認知度を聞いたところ、「知らないし、医療・介護関係者や身近な人と話し合ったこともない」(68.1%)が7割近くと最も高く、「「ACP」の言葉は知らないが、医療・介護関係者や身近な人と話し合ったことはある」(15.5%)を合わせた《知らない》(83.6%)は8割を超えている。「知っているし、医療・介護関係者や身近な人と話し合ったこともある」(4.6%)と「知っているが、医療・介護関係者や身近な人と話し合ったことはない」(10.7%)を合わせた《知っている》(15.3%)は1割半ばとなっている。

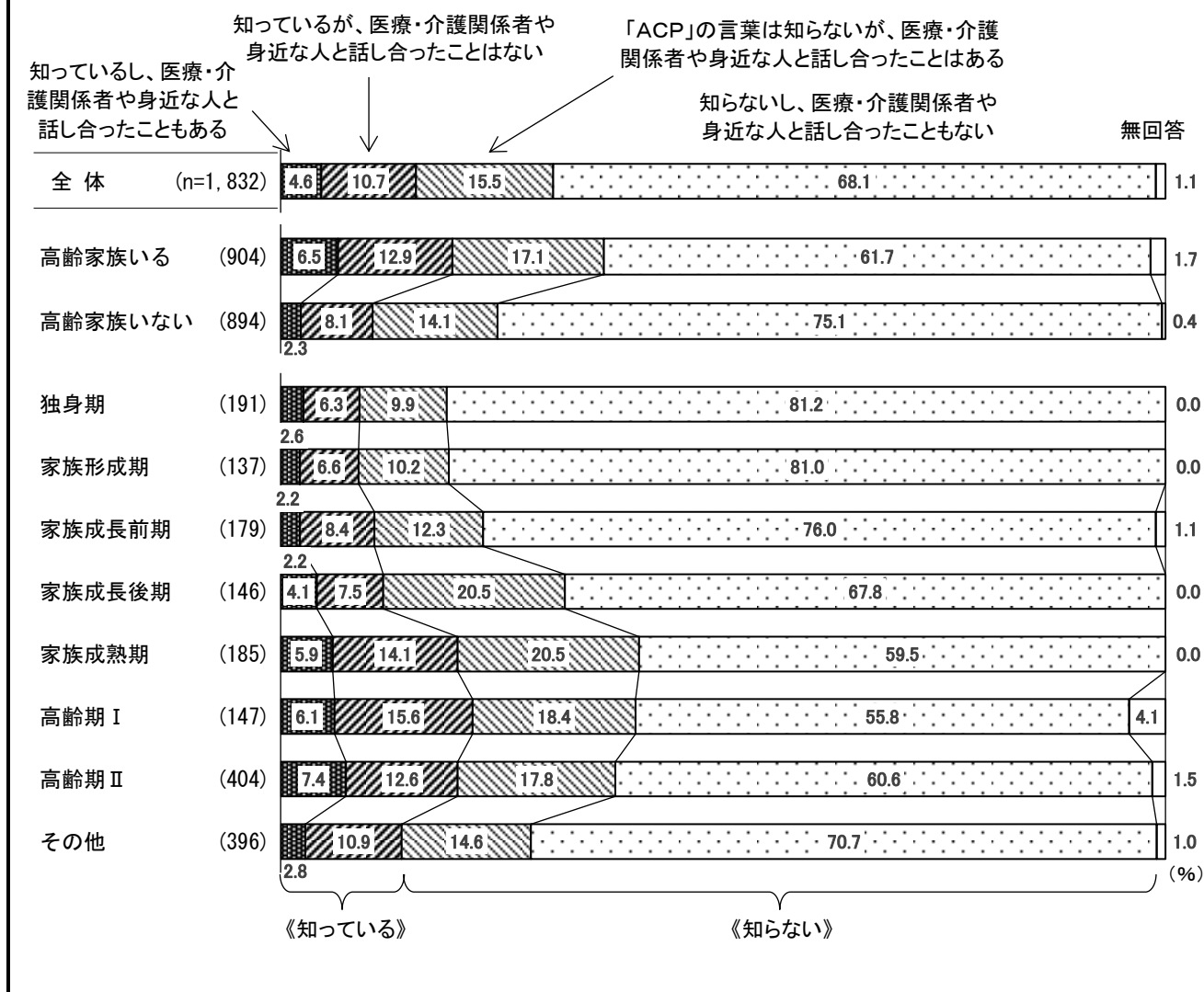
「知っているし、医療・介護関係者や身近な人と話し合ったこともある」と「「ACP」の言葉は知らないが、医療・介護関係者や身近な人と話し合ったことはある」を合わせた《話し合ったことがある》(20.1%)は2割となっている。(図5-4-1)

図5-4-2 「ACP」の認知度（性・年齢別）



性・年齢別にみると、《知らない》は男性の30歳代と60歳代、女性の30歳代で9割を超えている。《知っている》は女性の60歳代～80歳以上で2割台と高くなっている。《話し合ったことがある》は女性の80歳以上で3割半ば、女性の60歳代で3割となっている。（図5-4-2）

図5-4-3 「ACP」の認知度（高齢家族の有無別・ライフステージ別）



高齢家族の有無別にみると、高齢家族がいる世帯は《知っている》が2割、《話し合ったことがある》が2割を超え、高齢家族がいない世帯より高くなっている。

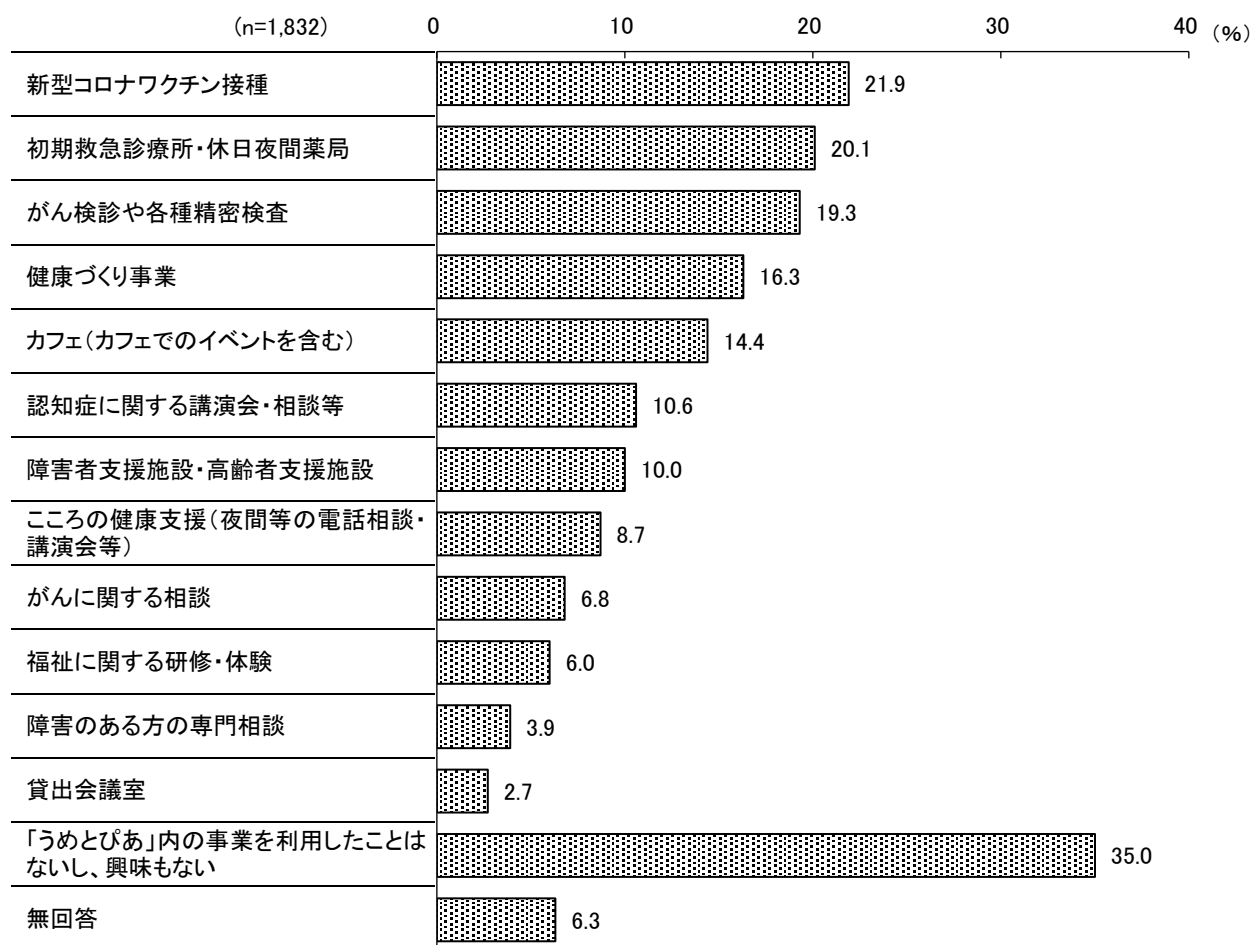
ライフステージ別にみると、《知らない》は独身期、家族形成期で9割を超えている。《知っている》は高齢期Ⅰで2割を超え、《話し合ったことがある》は家族成熟期で3割近く、家族成長後期、高齢期Ⅰ、高齢期Ⅱで2割半ばとなっている。（図5-4-3）

## (5) 「うめとぴあ」の利用または関心のある事業

## ◎ 「新型コロナワクチン接種」が2割を超える

問14 「うめとぴあ」内施設で行われている事業について、利用したことのある事業または関心がある事業を教えてください。(〇はいくつでも)

図5-5-1



「うめとぴあ」内施設の事業で利用したことのある事業または関心がある事業を聞いたところ、「新型コロナワクチン接種」(21.9%)が2割を超えて最も高く、以下、「初期救急診療所・休日夜間薬局」(20.1%)、「がん検診や各種精密検査」(19.3%)、「健康づくり事業」(16.3%)、「カフェ(カフェでのイベントを含む)」(14.4%)などと続く。一方、「「うめとぴあ」内の事業を利用したことはないし、興味もない」(35.0%)は3割半ばとなっている。(図5-5-1)

表5-5-1 「うめとぴあ」の利用または関心のある事業（性・年齢別）

(%)

		n	新型コロナワクチン接種	初期救急診療所・休日夜間薬局	がん検診や各種精密検査	健康づくり事業	カフェ（カフェでのイベントを含む）	認知症に関する講演会・相談等	障害者支援施設・高齢者支援施設	講演会等	このころの健康支援（夜間等の電話相談・	がんに関する相談	福祉に関する研修・体験	障害のある方の専門相談	貸出会議室	「うめとぴあ」内の事業を利用したことはないし、興味もない	無回答
全体		1,832	21.9	20.1	19.3	16.3	14.4	10.6	10.0	8.7	6.8	6.0	3.9	2.7	35.0	6.3	
性・年齢別	男性全体	703	23.8	16.4	17.1	13.8	11.0	8.7	8.8	6.7	6.4	3.8	3.0	2.7	40.0	6.1	
	10・20歳代	59	18.6	6.8	1.7	5.1	15.3	3.4	-	3.4	-	1.7	-	8.5	57.6	10.2	
	30歳代	80	21.3	15.0	12.5	8.8	11.3	6.3	10.0	10.0	5.0	5.0	6.3	1.3	51.3	7.5	
	40歳代	119	21.8	16.8	15.1	10.9	7.6	6.7	1.7	5.9	6.7	3.4	1.7	1.7	44.5	5.0	
	50歳代	135	22.2	19.3	21.5	8.1	8.9	11.9	10.4	7.4	11.1	5.9	2.2	5.2	40.0	5.9	
	60歳代	131	19.8	26.0	26.0	19.1	9.2	9.2	10.7	7.6	8.4	4.6	4.6	2.3	33.6	1.5	
	70歳代	109	32.1	9.2	18.3	21.1	18.3	8.3	15.6	6.4	3.7	0.9	3.7	-	30.3	5.5	
	80歳以上	70	31.4	12.9	11.4	21.4	8.6	12.9	10.0	4.3	4.3	4.3	1.4	1.4	31.4	12.9	
	女性全体	1,077	21.1	22.9	21.2	18.3	17.0	11.8	11.0	9.9	7.1	7.3	4.5	2.7	31.9	5.5	
	10・20歳代	77	10.4	9.1	10.4	6.5	19.5	1.3	5.2	6.5	3.9	2.6	-	2.6	54.5	2.6	
	30歳代	140	15.7	21.4	23.6	11.4	19.3	5.7	5.0	13.6	5.7	6.4	4.3	2.9	45.7	5.0	
	40歳代	191	16.8	29.3	22.0	14.7	15.2	14.1	7.9	12.0	7.3	9.4	3.7	4.2	34.0	6.8	
	50歳代	220	19.1	27.3	25.9	20.5	25.9	15.5	12.3	13.6	13.2	10.5	7.7	2.7	29.1	2.7	
	60歳代	176	21.0	23.3	21.0	26.7	12.5	11.4	14.8	8.0	5.1	8.0	5.7	3.4	26.7	4.5	
70歳代	155	34.8	20.0	23.9	26.5	13.5	14.8	14.8	5.8	7.1	4.5	3.2	1.3	20.0	1.9		
80歳以上	116	27.6	17.2	11.2	12.1	9.5	12.1	14.7	6.0	2.6	4.3	3.4	0.9	26.7	17.2		

性・年齢別にみると、「新型コロナワクチン接種」は女性の70歳代で3割半ば、男性の70歳代と80歳以上で3割を超えている。「初期救急診療所・休日夜間薬局」は女性の40歳代でほぼ3割、女性の50歳代で3割近く、「健康づくり事業」は女性の60歳代と70歳代で3割近くとなっている。「がん検診や各種精密検査」は男性の60歳代、女性の50歳代で2割半ば、「カフェ（カフェでのイベントを含む）」は女性の50歳代で2割半ばとなっている。一方、「「うめとぴあ」内の事業を利用したことはないし、興味もない」は男性の10・20歳代と30歳代、女性の10・20歳代で5割台となっている。（表5-5-1）



表5-5-2 「うめとびあ」の利用または関心のある事業  
 (高齢家族の有無別・ライフステージ別)

		(%)															
		n	新型コロナワクチン接種	初期救急診療所・休日夜間薬局	がん検診や各種精密検査	健康づくり事業	カフェ（カフェでのイベントを含む）	認知症に関する講演会・相談等	障害者支援施設・高齢者支援施設	講演会等	このころの健康支援（夜間等の電話相談・	がんに関する相談	福祉に関する研修・体験	障害のある方の専門相談	貸出会議室	「うめとびあ」内の事業を利用したことはないし、興味もない	無回答
全 体		1,832	21.9	20.1	19.3	16.3	14.4	10.6	10.0	8.7	6.8	6.0	3.9	2.7	35.0	6.3	
高齢家族別	いる	904	26.7	18.8	19.4	19.0	12.8	12.1	12.8	7.2	5.6	5.6	3.8	2.3	30.3	6.3	
	いない	894	17.6	21.9	19.6	13.5	16.1	9.2	7.5	10.3	7.9	6.3	4.1	3.0	39.9	5.6	
ライフステージ別	独身期	191	16.8	11.0	10.5	7.3	16.2	5.8	5.8	8.9	4.7	4.7	2.6	4.7	51.8	5.8	
	家族形成期	137	19.7	25.5	21.2	10.9	17.5	4.4	5.1	12.4	4.4	3.6	3.6	1.5	43.8	5.8	
	家族成長前期	179	17.3	18.4	17.3	7.8	14.5	4.5	5.0	6.1	7.3	5.6	4.5	3.9	41.9	6.1	
	家族成長後期	146	25.3	24.7	19.9	16.4	16.4	16.4	8.9	13.0	9.6	11.0	3.4	3.4	26.0	7.5	
	家族成熟期	185	17.8	23.8	21.1	17.8	16.2	11.4	14.1	8.1	10.8	9.2	6.5	2.7	34.6	1.1	
	高齢期Ⅰ	147	28.6	23.1	24.5	25.2	15.0	8.2	10.9	7.5	6.1	4.1	3.4	4.1	17.0	10.2	
	高齢期Ⅱ	404	29.0	16.1	17.8	19.6	11.1	13.4	15.1	6.2	4.2	5.0	3.5	0.7	29.0	6.7	
	その他	396	18.2	23.7	23.0	19.4	14.6	14.1	9.8	10.6	8.6	6.1	4.0	2.8	37.6	5.3	

高齢家族の有無別にみると、高齢家族がいる世帯は「新型コロナワクチン接種」が3割近くで最も高く、高齢家族がいない世帯は「初期救急診療所・休日夜間薬局」が2割を超えて最も高くなっている。

ライフステージ別にみると、「新型コロナワクチン接種」は、高齢期Ⅱでほぼ3割、高齢期Ⅰで3割近く、家族成長後期で2割半ばとなっている。「初期救急診療所・休日夜間薬局」は家族形成期と家族成長後期が2割半ば、「がん検診や各種精密検査」と「健康づくり事業」は高齢期Ⅰが2割半ばとなっている。「うめとびあ」内の事業を利用したことはないし、興味もない」は独身期で5割を超えている。（表5-5-2）

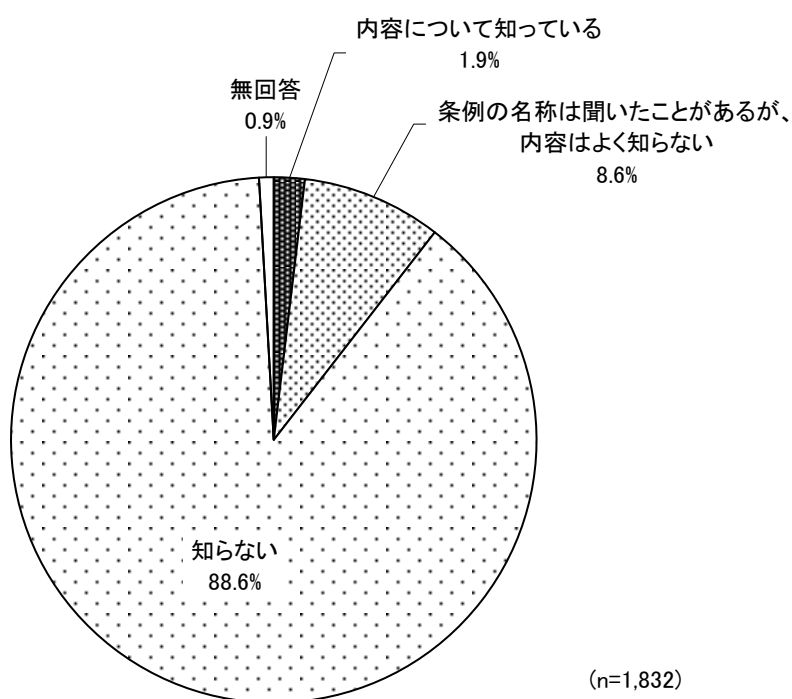
## 6. 認知症

### (1) 「世田谷区認知症とともに生きる希望条例」の認知度

#### ◎ 「知らない」が9割近く

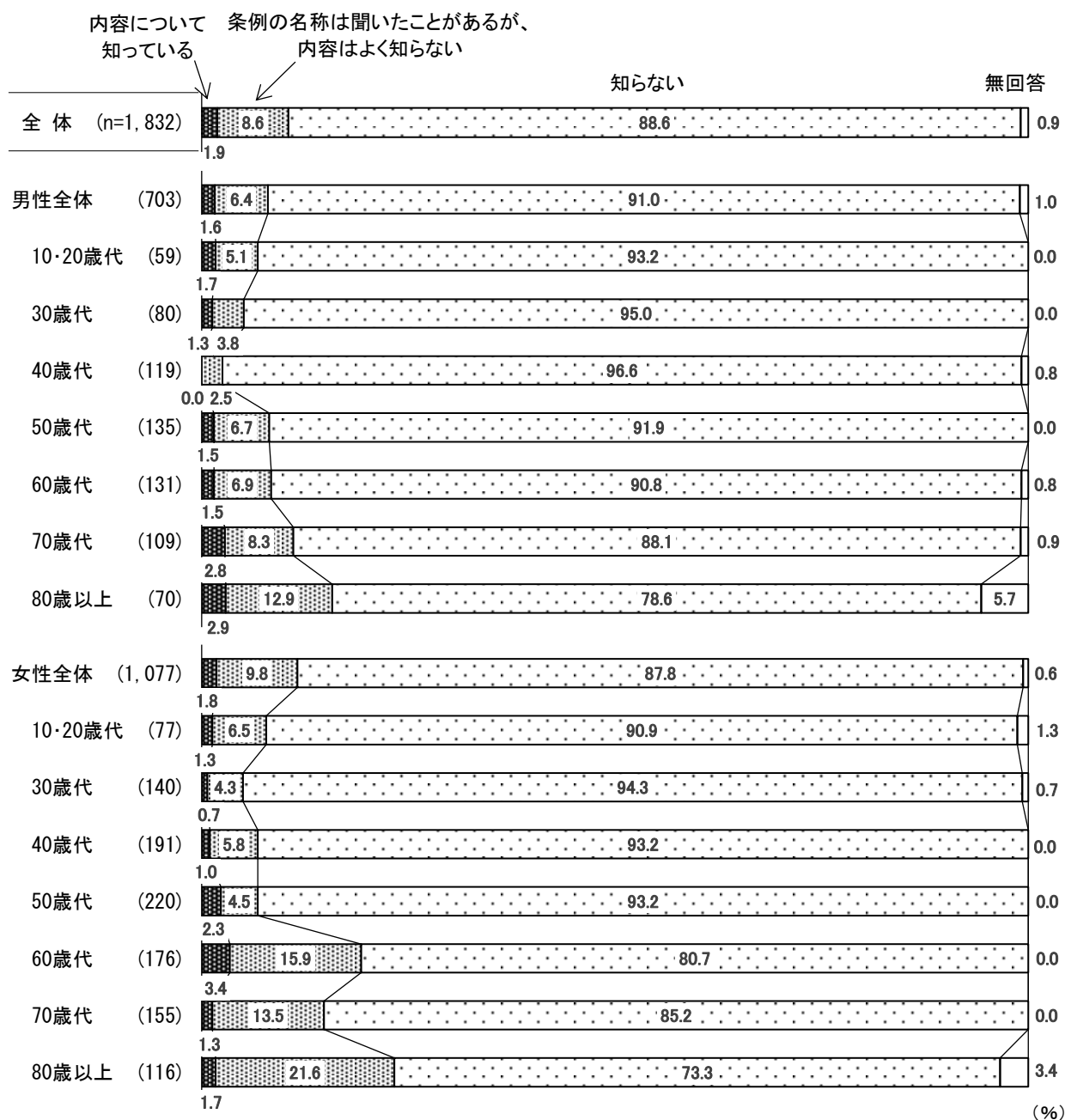
問15 区では、一人ひとりの希望及び権利が尊重され、ともに安心して自分らしく暮らせるまち、世田谷を目指して、令和2年10月に「世田谷区認知症とともに生きる希望条例」を施行しました。あなたは、この条例を知っていますか。(〇は1つ)

図6-1-1



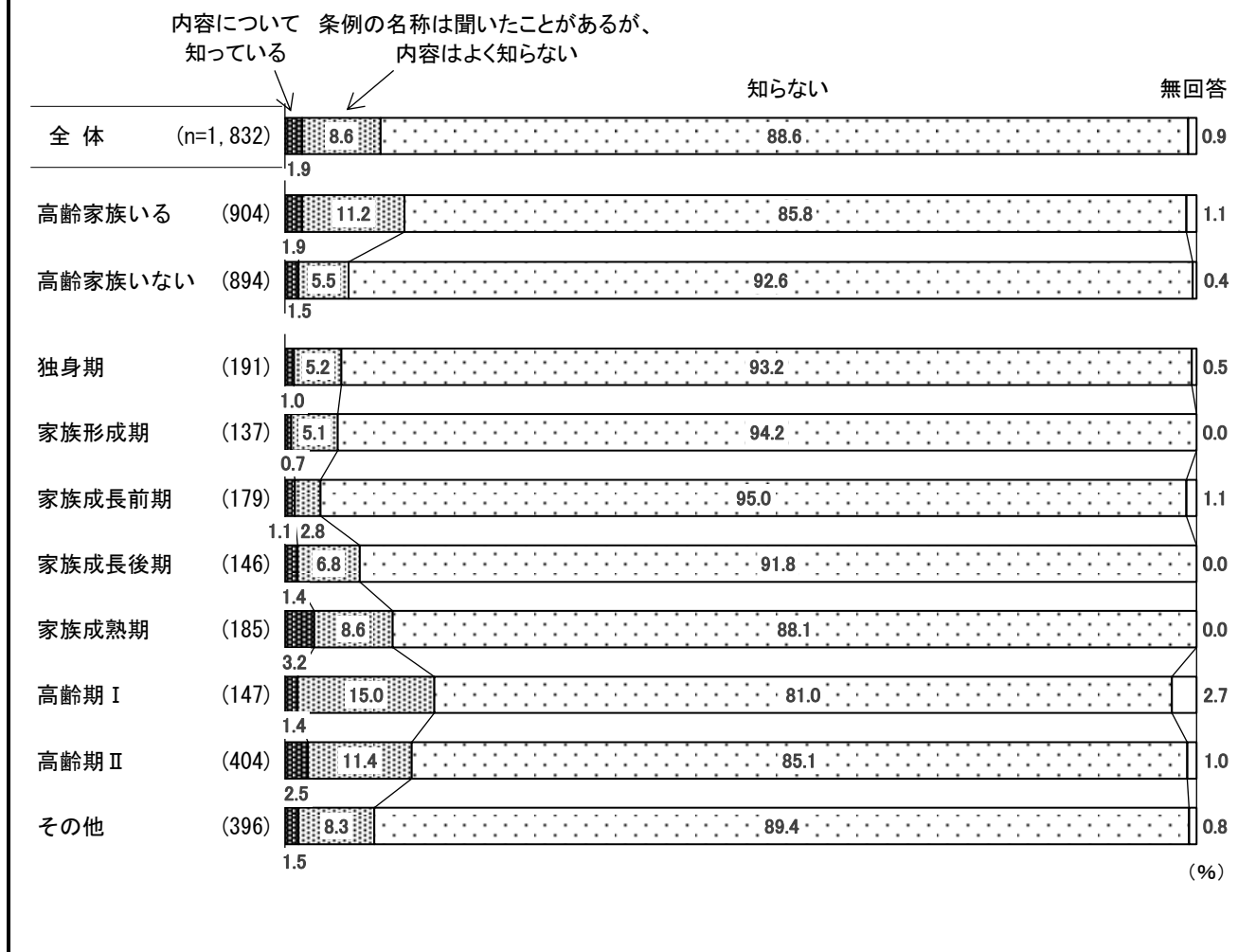
「世田谷区認知症とともに生きる希望条例」の認知度を聞いたところ、「知らない」(88.6%)が9割近くと最も高く、以下、「条例の名称は聞いたことがあるが、内容はよく知らない」(8.6%)、「内容について知っている」(1.9%)と続いている。(図6-1-1)

図 6-1-2 「世田谷区認知症とともに生きる希望条例」の認知度（性・年齢別）



性・年齢別にみると、「条例の名称は聞いたことがあるが、内容はよく知らない」は、女性の80歳以上で2割を超え、女性の60歳代で1割半ばとなっている。(図6-1-2)

図6-1-3 「世田谷区認知症とともに生きる希望条例」の認知度  
(高齢家族の有無別・ライフステージ別)

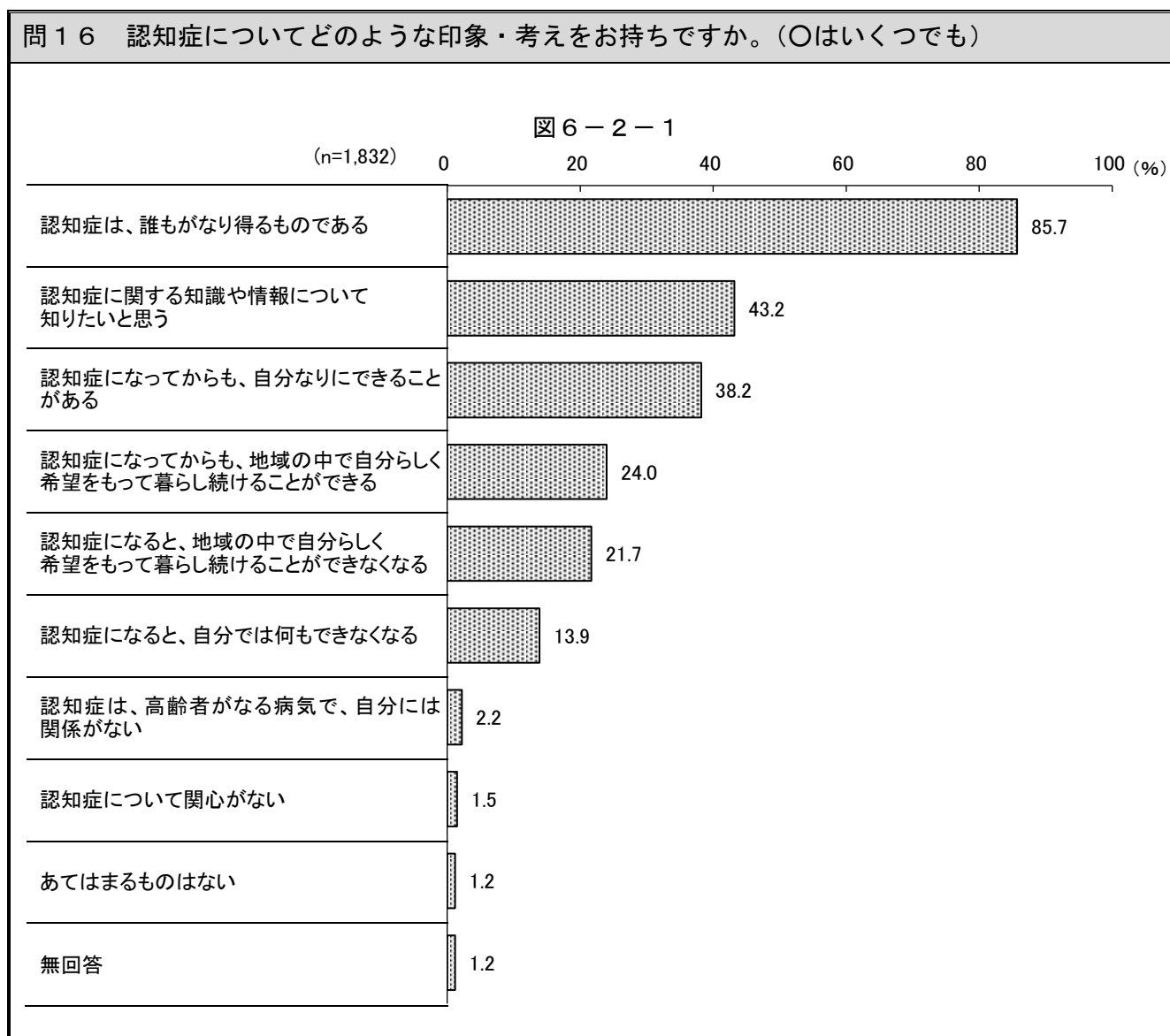


高齢家族の有無別にみると、「内容について知っている」、「条例の名称は聞いたことがあるが、内容はよく知らない」を合わせた《知っている》は高齢家族がいる世帯で1割を超え、高齢家族がいない世帯より高くなっている。

ライフステージ別にみると、《知っている》は高齢期 I で1割半ば、家族成熟期と高齢期 II で1割を超えている。(図6-1-3)

## (2) 認知症についての印象

◎「認知症は、誰もがなり得るものである」と考えている方が8割半ば



認知症についての印象・考えを聞いたところ、「認知症は、誰もがなり得るものである」(85.7%)が8割半ばで最も高く、以下、「認知症に関する知識や情報について知りたいと思う」(43.2%)、「認知症になってからも、自分なりにできることがある」(38.2%)、「認知症になってからも、地域の中で自分らしく希望をもって暮らし続けることができる」(24.0%)、「認知症になると、地域の中で自分らしく希望をもって暮らし続けることができなくなる」(21.7%)などと続いている。

(図6-2-1)

表6-2-1 認知症についての印象（性・年齢別）

（％）

	n	認知症は、誰もがなり得るものである	認知症に関する知識や情報について知りたいと思う	認知症になってからも、自分なりにできることがある	認知症になってからも、地域の中で自分らしく暮らし続けることができる	認知症になると、地域の中で自分らしく暮らし続けることができなくなる	認知症になると、自分では何もできなくなる	認知症は、高齢者がなる病気、自分には関係がない	認知症について関心がない	あてはまるものはない	無回答	
全体	1,832	85.7	43.2	38.2	24.0	21.7	13.9	2.2	1.5	1.2	1.2	
性・年齢別	男性全体	703	85.6	40.8	34.7	21.2	23.6	16.9	2.8	2.0	1.4	1.1
	10・20歳代	59	74.6	40.7	16.9	15.3	15.3	25.4	11.9	6.8	3.4	-
	30歳代	80	85.0	31.3	23.8	16.3	28.8	28.8	5.0	1.3	1.3	-
	40歳代	119	87.4	42.9	26.1	13.4	26.1	17.6	3.4	0.8	0.8	0.8
	50歳代	135	87.4	37.0	37.0	19.3	23.7	17.0	2.2	0.7	0.7	2.2
	60歳代	131	87.0	48.1	38.9	26.7	22.1	11.5	-	1.5	1.5	0.8
	70歳代	109	91.7	39.4	45.9	26.6	23.9	11.9	0.9	3.7	0.9	-
	80歳以上	70	77.1	44.3	47.1	30.0	22.9	12.9	1.4	1.4	2.9	4.3
	女性全体	1,077	86.5	45.5	40.9	26.3	20.6	12.0	1.8	1.1	0.8	0.9
	10・20歳代	77	81.8	29.9	14.3	9.1	16.9	20.8	7.8	6.5	1.3	1.3
	30歳代	140	83.6	40.7	25.0	11.4	22.9	19.3	4.3	0.7	2.1	1.4
	40歳代	191	87.4	40.3	33.0	20.4	22.5	13.6	2.6	0.5	1.0	-
	50歳代	220	92.7	55.5	45.9	30.0	19.5	5.9	-	0.5	-	-
	60歳代	176	88.1	40.9	52.3	34.1	20.5	8.0	-	0.6	-	2.3
70歳代	155	85.2	52.9	54.8	36.8	20.6	10.3	-	-	-	0.6	
80歳以上	116	79.3	49.1	45.7	32.8	19.0	13.8	1.7	2.6	2.6	1.7	

性・年齢別にみると、「認知症は、誰もがなり得るものである」はいずれの年代も7割～9割台と高くなっている。「認知症に関する知識や情報について知りたいと思う」は女性の50歳代で5割半ば、女性の70歳代で5割を超え、「認知症になってからも、自分なりにできることがある」は女性の70歳代で5割半ば、女性の60歳代で5割を超えている。（表6-2-1）

表6-2-2 認知症についての印象（高齢家族の有無別・ライフステージ別）

(%)

	n	認知症は、誰もがなり得るものである	認知症に関する知識や情報について知りたいと思う	認知症になってからも、自分なりにできることがある	認知症になってからも、地域の中で自分らしく暮らして続けることができる	認知症になると、地域の中で自分らしく暮らして続けることができなくなる	認知症になると、自分では何もできなくなる	認知症は、高齢者がなる病気で、自分には関係がない	認知症について関心がない	あてはまるものはない	無回答	
全 体	1,832	85.7	43.2	38.2	24.0	21.7	13.9	2.2	1.5	1.2	1.2	
高齢家族別	いる	904	86.6	45.8	43.4	27.8	21.3	12.1	1.3	1.3	0.9	1.3
	いない	894	85.7	41.3	33.4	20.4	22.3	15.9	2.9	1.7	1.3	0.7
ライフステージ別	独身期	191	80.6	35.1	19.9	12.6	20.4	23.0	7.3	4.7	2.6	1.0
	家族形成期	137	85.4	42.3	27.7	16.8	27.0	21.2	5.8	1.5	0.7	-
	家族成長前期	179	84.4	39.1	29.1	17.3	29.6	17.3	1.7	0.6	1.1	0.6
	家族成長後期	146	89.7	43.2	36.3	22.6	20.5	10.3	1.4	0.7	-	-
	家族成熟期	185	89.7	46.5	43.8	24.3	17.8	7.6	1.1	0.5	0.5	-
	高齢期Ⅰ	147	88.4	44.2	43.5	26.5	23.8	10.2	0.7	2.0	1.4	-
	高齢期Ⅱ	404	84.2	47.0	49.5	32.2	22.3	12.1	0.7	2.0	1.0	1.5
その他	396	88.9	45.2	40.2	25.8	17.9	13.4	1.3	0.5	1.3	2.0	

高齢家族の有無別にみると、「認知症になってからも、自分なりにできることがある」は、高齢家族がいる世帯で4割を超え、高齢家族がいない世帯に比べ高くなっている。

ライフステージ別にみると、「認知症に関する知識や情報について知りたいと思う」はいずれのライフステージも3割～4割台となっている。「認知症になってからも、自分なりにできることがある」は高齢期Ⅱで5割、家族成熟期と高齢期Ⅰで4割を超えている。（表6-2-2）

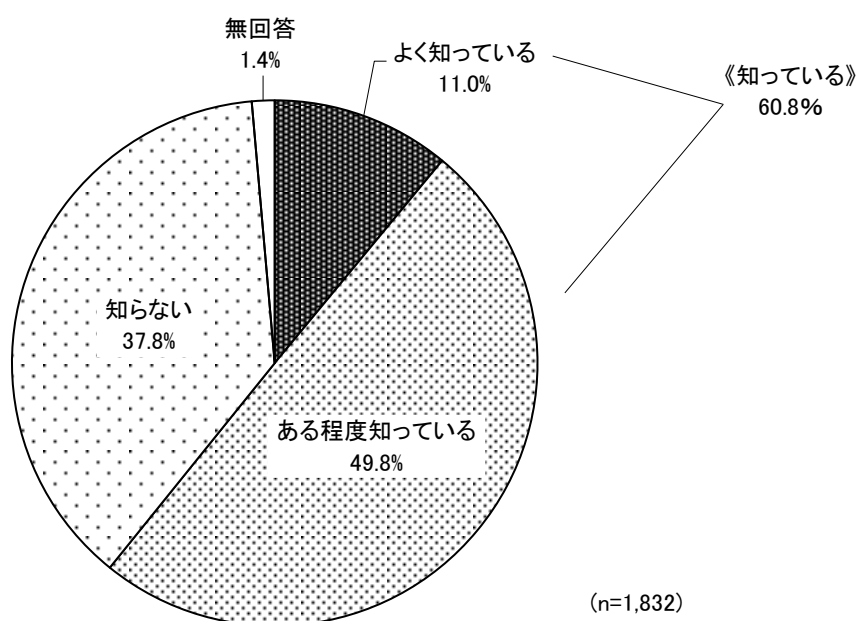
## 7. 障害者を支える取り組み

### (1) 手話が独自の言語であることの認知度

◎ 《知っている》がほぼ6割

問17 あなたは、手話が、日本語や英語などの言語とは異なる、独自の文法を持つ言語であることを知っていますか。(○は1つ)

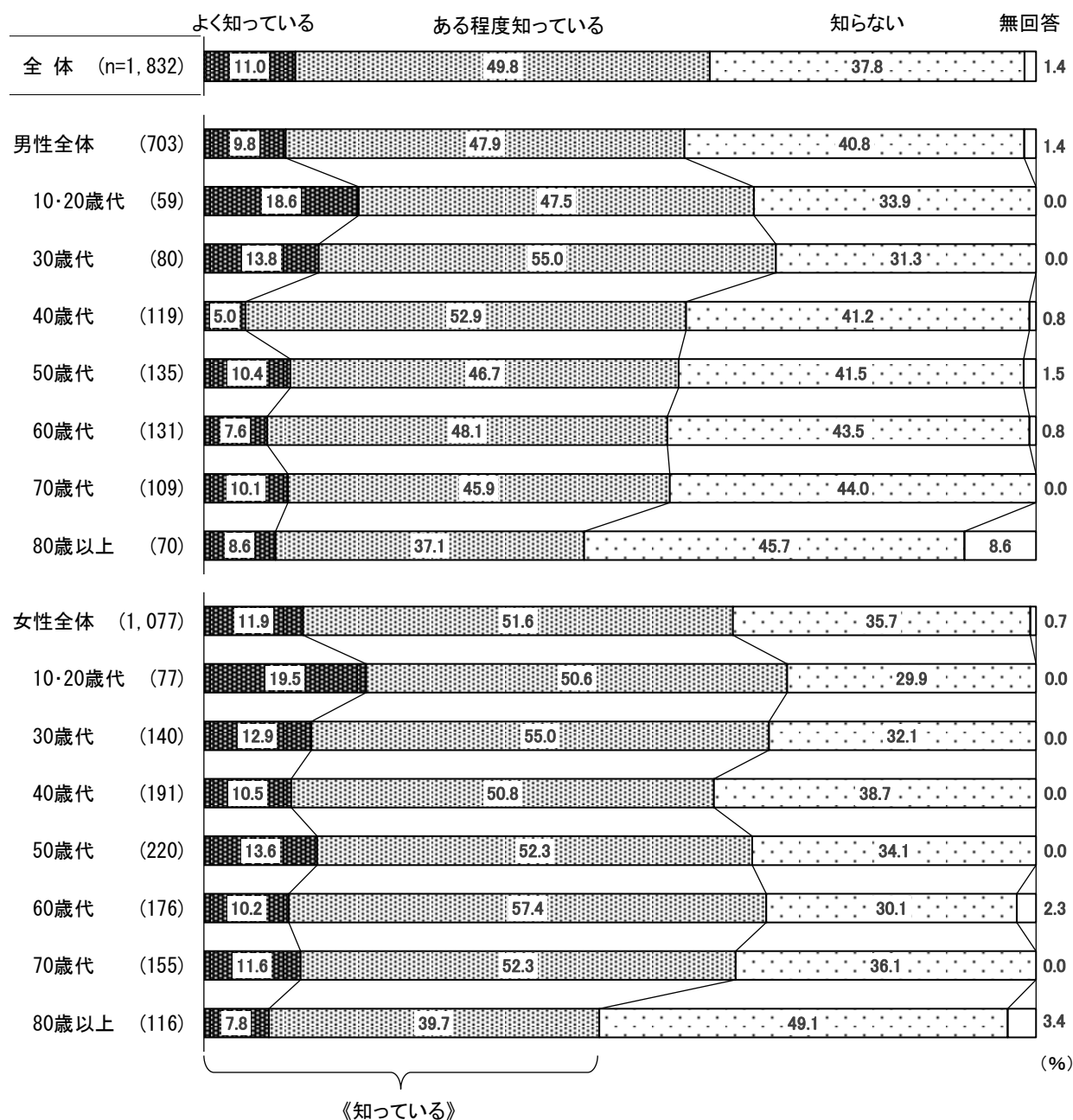
図7-1-1



手話が独自の文法を持つ言語であることの認知度を聞いたところ、「ある程度知っている」(49.8%)が5割と最も高く、「よく知っている」(11.0%)を合わせた《知っている》(60.8%)がほぼ6割となっている。「知らない」(37.8%)は4割近くとなっている。(図7-1-1)



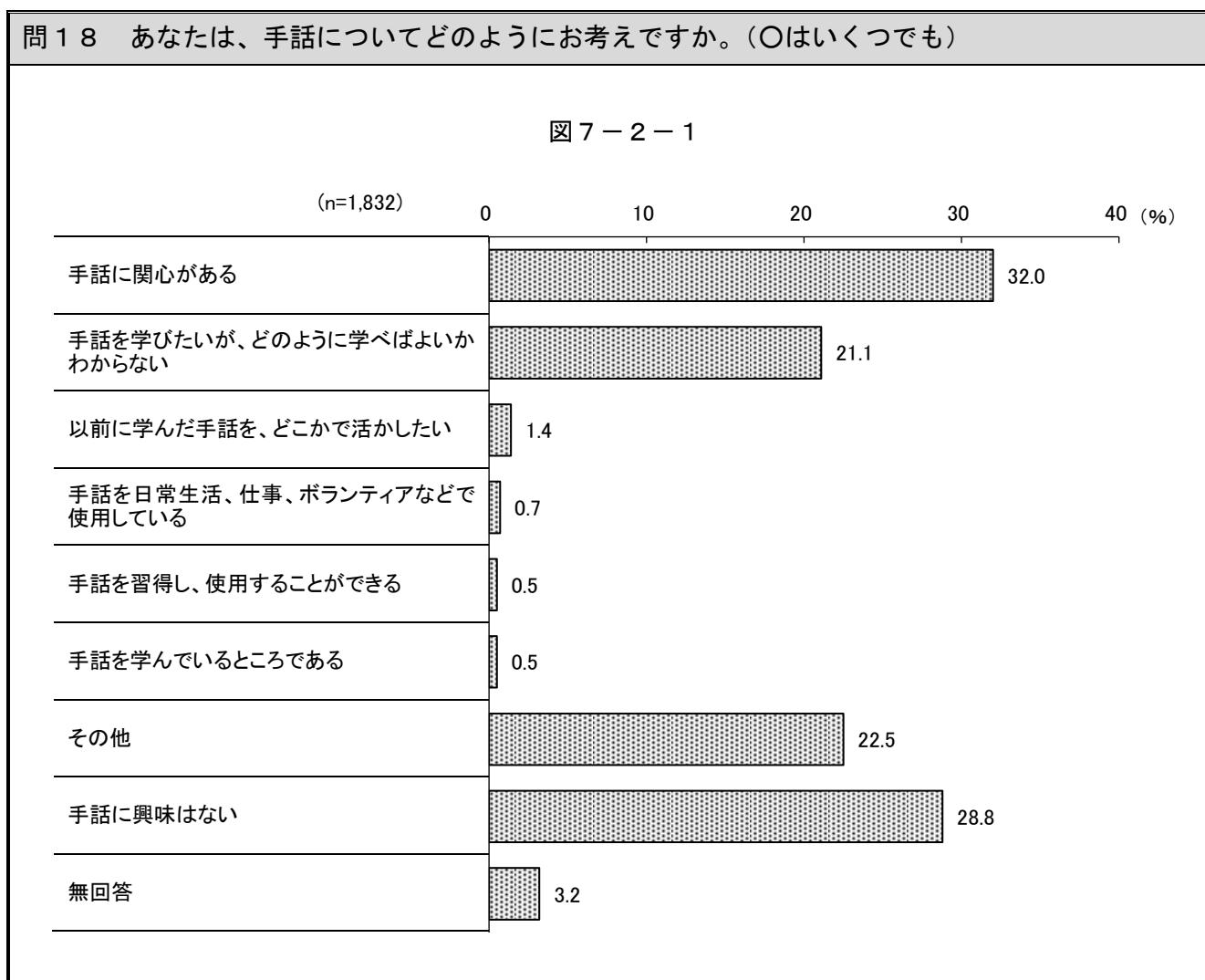
図 7-1-2 手話が独自の言語であることの認知度（性・年齢別）



性・年齢別にみると、「よく知っている」は、男女とも10・20歳代が最も高くなっている。《知っている》は女性の10・20歳代で7割、男性の30歳代、女性の30歳代と60歳代で7割近くとなっている。（図7-1-2）

## (2) 手話についての考え

### ◎「手話に関心がある」が3割を超える



手話についての考えを聞いたところ、「手話に関心がある」(32.0%)が3割を超えて最も高く、「手話を学びたいが、どのように学べばよいかわからない」(21.1%)も2割を超えている。一方、「手話に興味はない」(28.8%)も3割近くとなっている。(図7-2-1)

表 7-2-1 手話についての考え（性・年齢別）

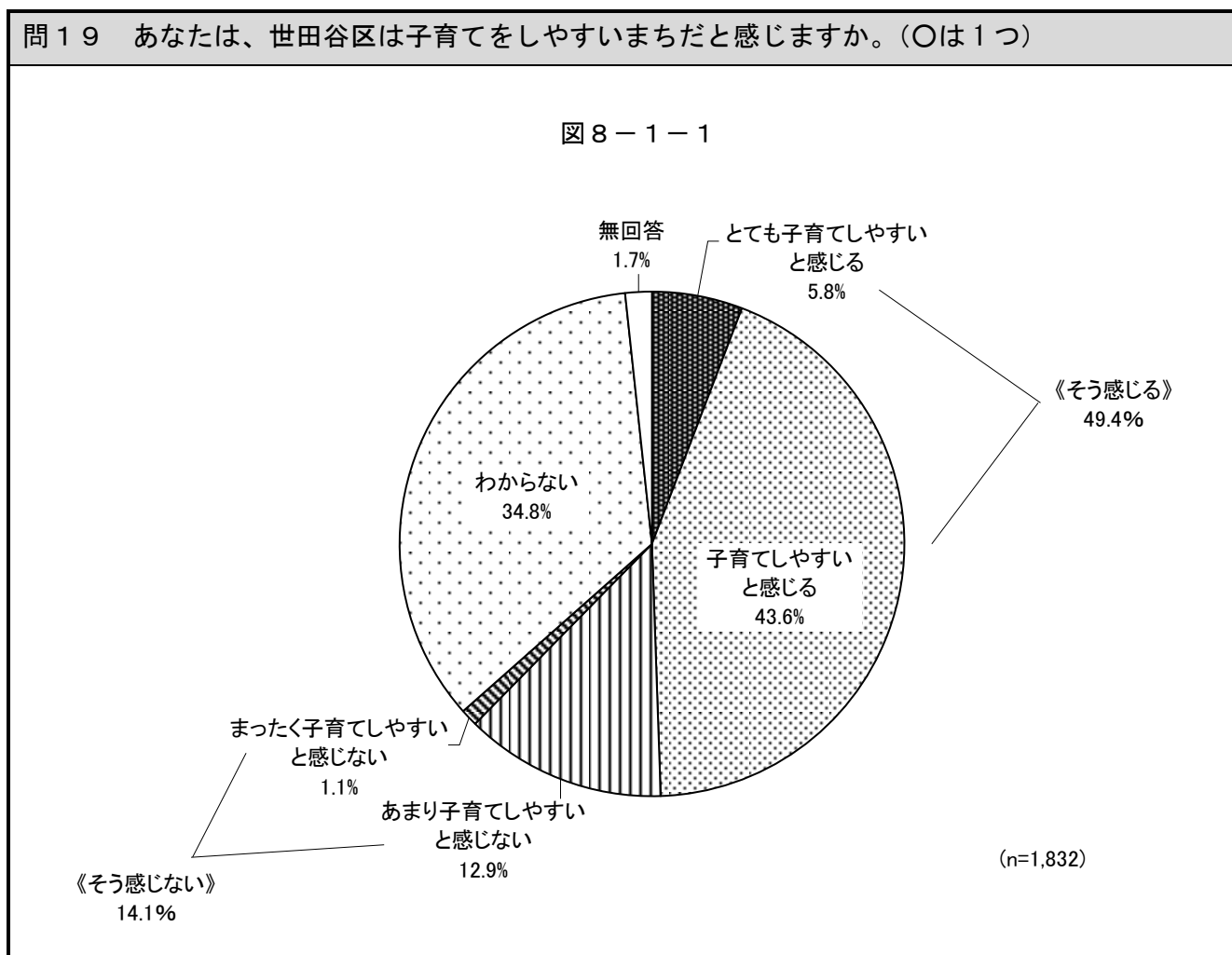
		(%)									
		n	手話に関心がある	手話を学びたいが、どのように学べばよいかわからない	以前に学んだ手話を、どこかで活かしたい	手話を日常生活、仕事、ボランティアなどで使用している	手話を習得し、使用することができる	手話を学んでいるところである	その他	手話に興味はない	無回答
全体		1,832	32.0	21.1	1.4	0.7	0.5	0.5	22.5	28.8	3.2
性・年齢別	男性全体	703	25.0	19.5	0.6	0.7	0.3	0.3	20.8	38.3	2.1
	10・20歳代	59	25.4	15.3	-	-	1.7	-	11.9	47.5	1.7
	30歳代	80	18.8	22.5	-	-	-	1.3	13.8	48.8	1.3
	40歳代	119	26.9	20.2	-	-	-	-	12.6	46.2	2.5
	50歳代	135	25.2	22.2	0.7	-	-	0.7	22.2	31.9	3.0
	60歳代	131	26.7	18.3	2.3	1.5	0.8	-	21.4	36.6	0.8
	70歳代	109	23.9	20.2	-	0.9	-	-	31.2	31.2	-
	80歳以上	70	27.1	14.3	-	2.9	-	-	30.0	31.4	7.1
	女性全体	1,077	36.6	22.7	1.9	0.6	0.7	0.6	23.6	22.7	3.4
	10・20歳代	77	35.1	28.6	6.5	-	-	1.3	9.1	28.6	1.3
	30歳代	140	35.7	25.7	2.1	-	-	1.4	15.0	32.9	1.4
	40歳代	191	35.1	26.2	2.6	1.0	2.1	0.5	22.5	24.1	1.6
	50歳代	220	42.7	26.8	1.4	0.9	0.5	0.9	28.2	15.0	-
	60歳代	176	38.6	19.3	2.3	1.1	0.6	0.6	27.8	17.0	4.0
70歳代	155	31.0	20.6	-	-	-	-	29.0	23.2	4.5	
80歳以上	116	34.5	9.5	0.9	0.9	1.7	-	22.4	26.7	14.7	

性・年齢別にみると、「手話に関心がある」は男性より女性の方が高く、女性の50歳代で4割を超え、その他の年代も3割台となっている。「手話を学びたいが、どのように学べばよいかわからない」は女性の10・20歳代と50歳代で3割近く、女性の30歳代と40歳代で2割半ばとなっている。一方、「手話に興味はない」は男性の40歳代以下が4割台と高くなっている。（表7-2-1）

## 8. 子育て・子どもを取り巻く環境

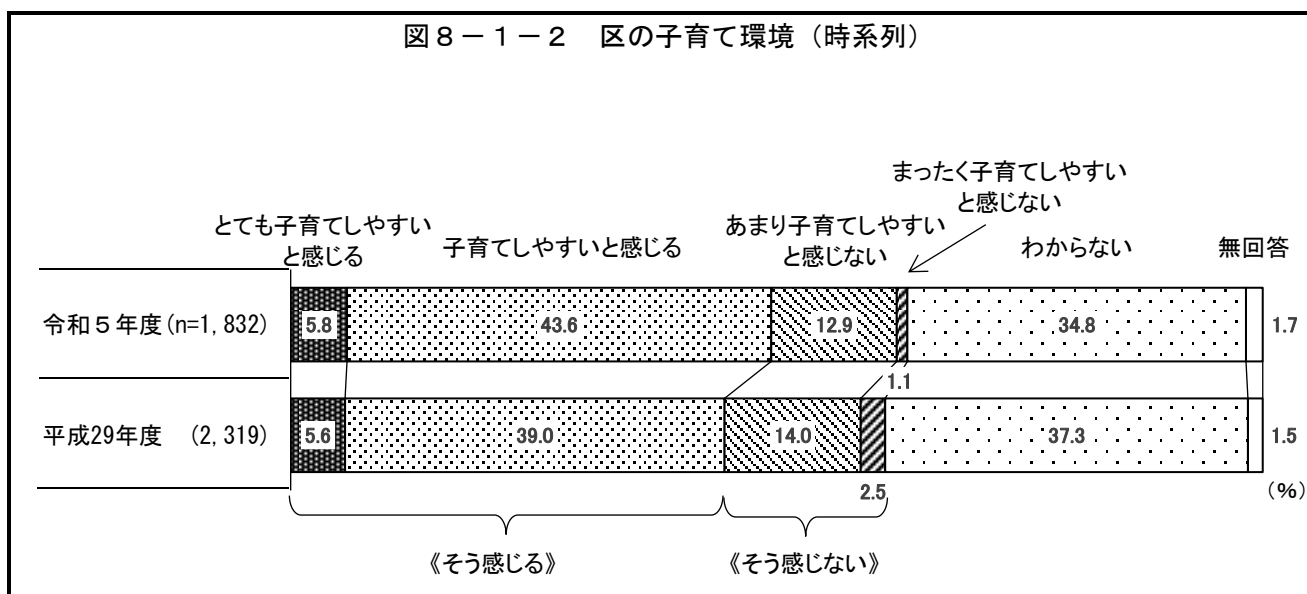
### (1) 区の子育て環境

◎「とても子育てしやすいと感じる」と「子育てしやすいと感じる」を合わせるとほぼ5割



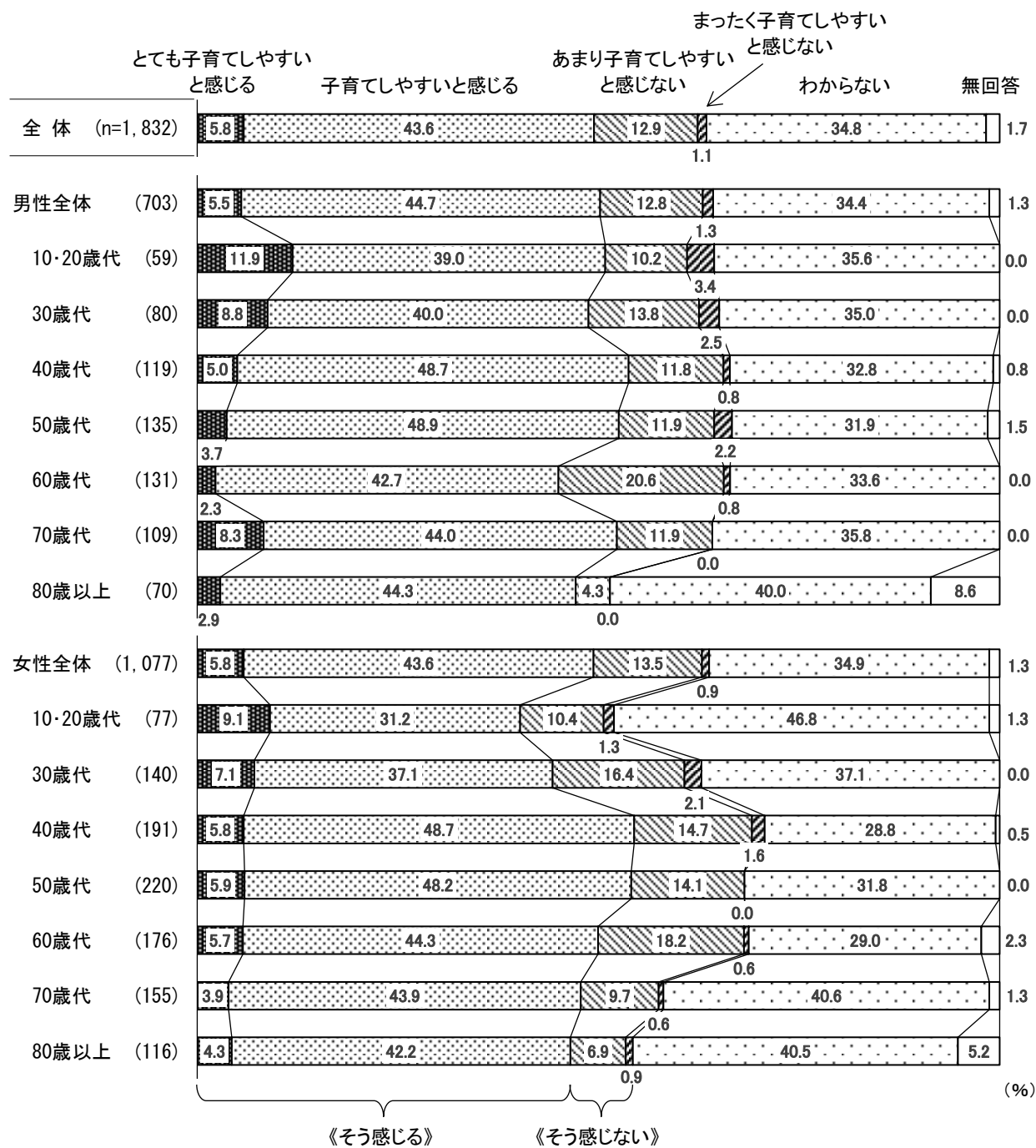
世田谷区の子育て環境について聞いたところ、「子育てしやすいと感じる」(43.6%)が4割を超え、「とても子育てしやすいと感じる」(5.8%)と合わせた《そう感じる》(49.4%)がほぼ5割、「あまり子育てしやすいと感じない」(12.9%)と「まったく子育てしやすいと感じない」(1.1%)を合わせた《そう感じない》(14.1%)が1割半ばとなっている。(図8-1-1)

図 8-1-2 区の子育て環境（時系列）



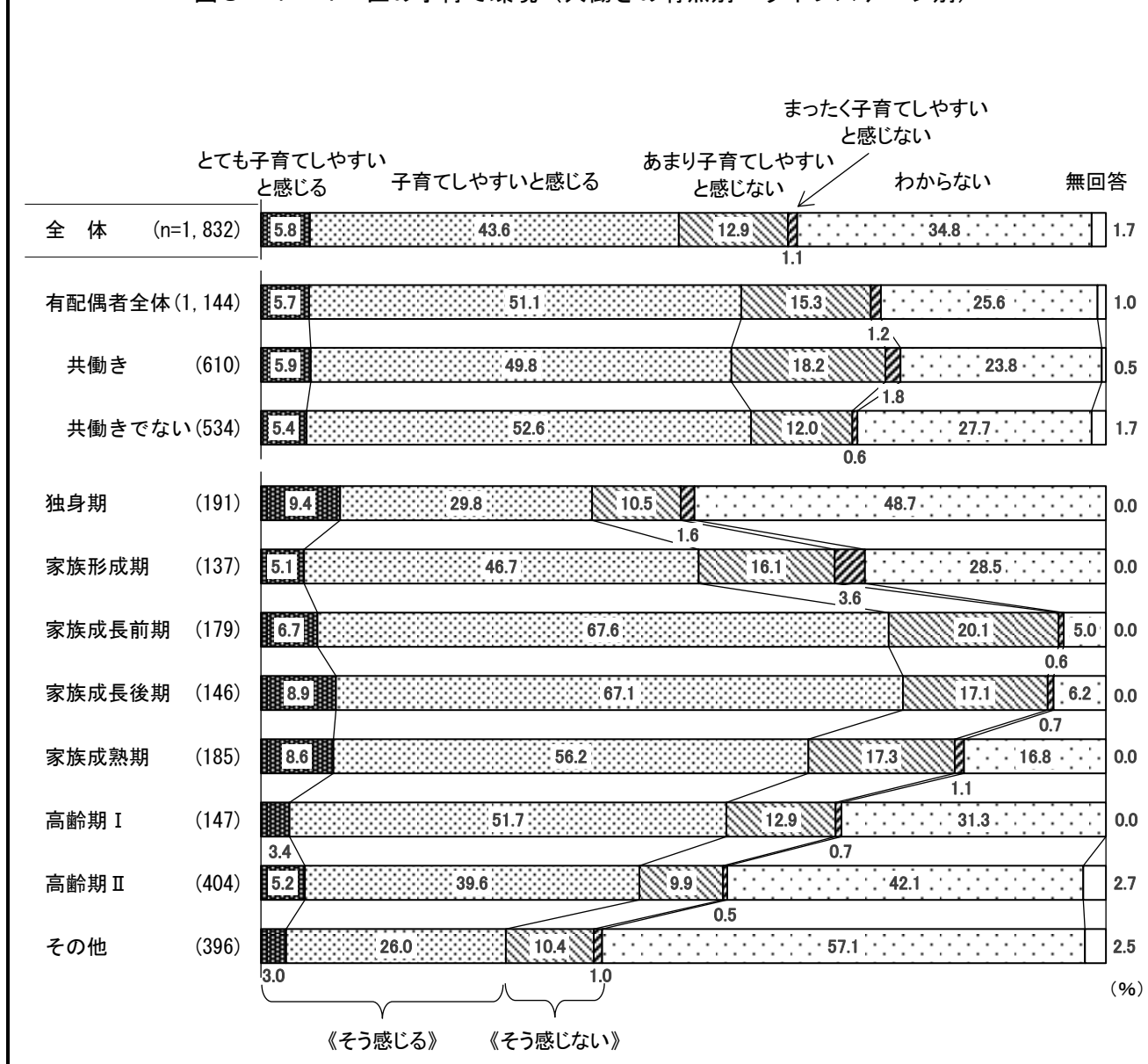
平成 29 年度からの時系列の変化をみると、《そう感じる》は平成 29 年度（44.6%）から令和 5 年度（49.4%）で増加している。《そう感じない》は平成 29 年度（16.5%）から令和 5 年度（14.1%）でやや減少している。（図 8-1-2）

図 8-1-3 区の子育て環境（性・年齢別）



性・年齢別にみると、《そう感じる》は女性の40歳代と50歳代で5割半ば、男性の40歳代、50歳代、70歳代で5割を超えている。《そう感じない》は男性の60歳代で2割を超え、女性の30歳代と60歳代で2割近くとなっている。(図8-1-3)

図 8-1-4 区の子育て環境（共働きの有無別・ライフステージ別）



共働きの有無別にみると、共働き世帯は《そう感じない》が2割で共働きでない世帯より高くなっている。

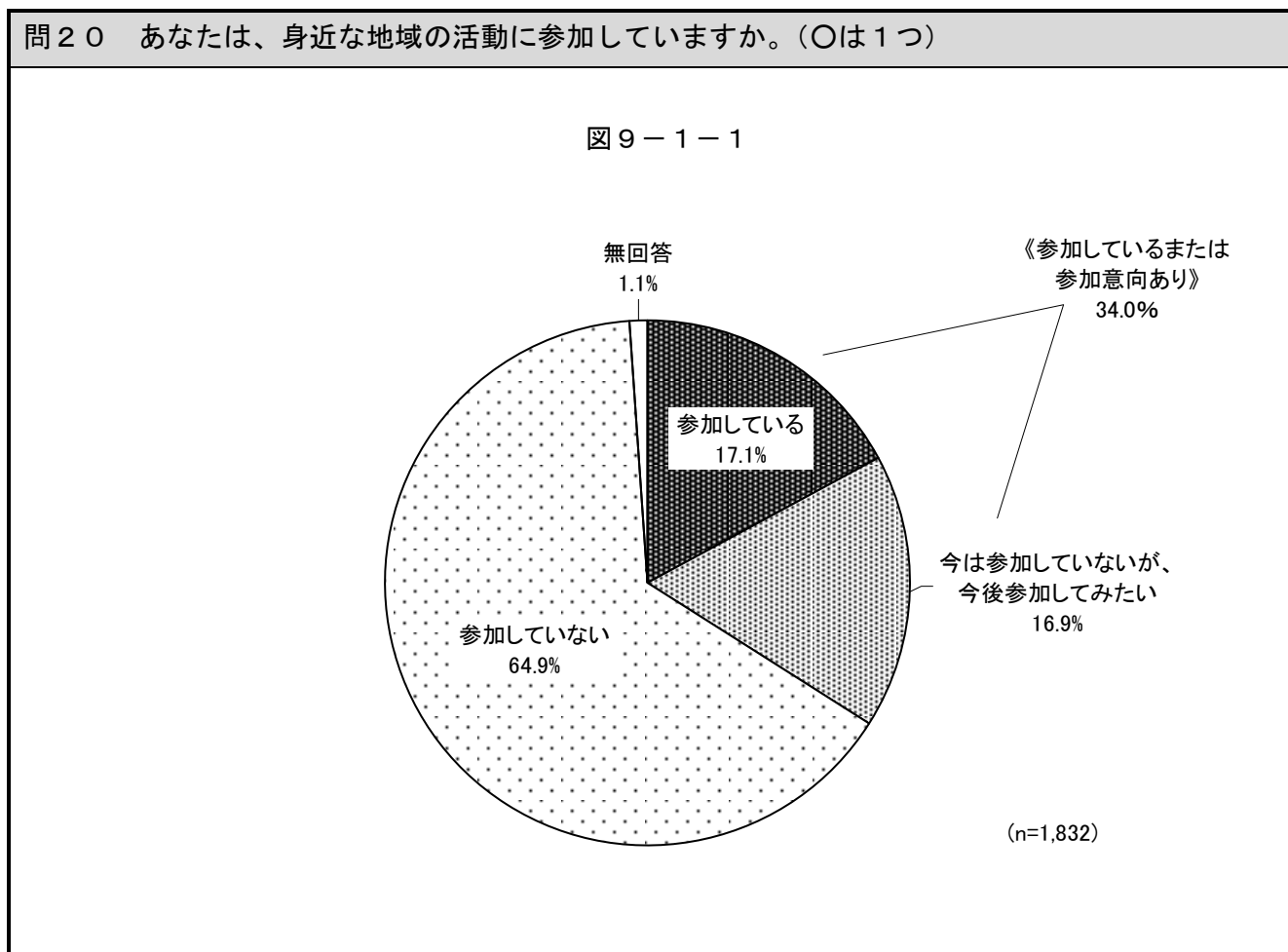
ライフステージ別にみると、《そう感じる》は家族成長前期、家族成長後期で7割半ばとなっている。一方、《そう感じない》は家族成長前期でほぼ2割、家族形成期で2割となっている。

(図 8-1-4)

## 9. 地域コミュニティ

### (1) 地域活動への参加経験・参加意向

◎ 《参加しているまたは参加意向あり》が3割半ば

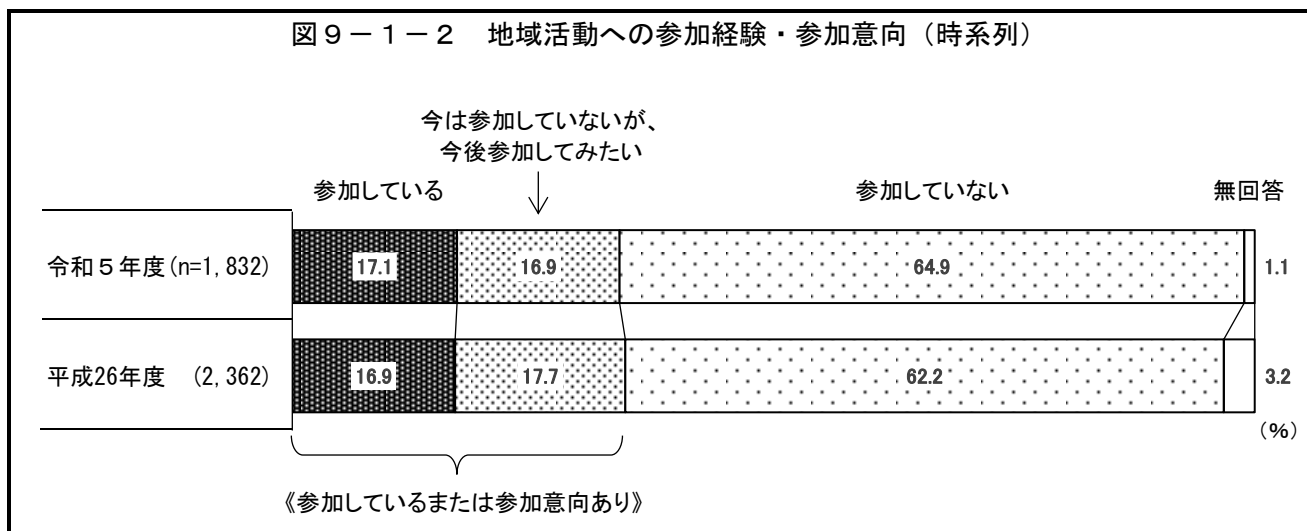


身近な地域の活動に参加しているかどうかを聞いたところ、「参加している」(17.1%)と「今は参加していないが、今後参加してみたい」(16.9%)を合わせた《参加しているまたは参加意向あり》(34.0%)が3割半ばとなっている。「参加していない」(64.9%)は6割半ばとなっている。

(図9-1-1)

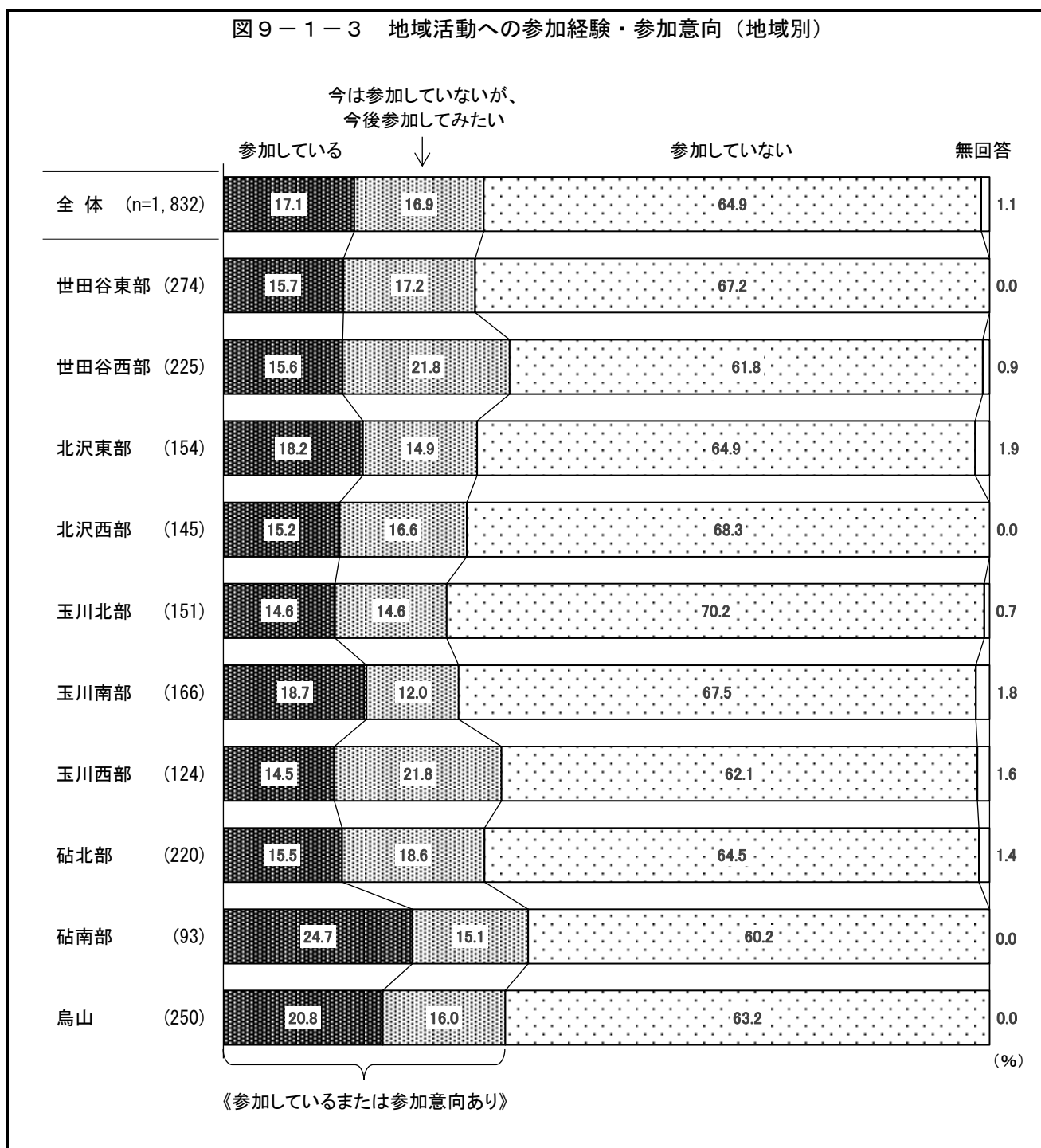


図 9-1-2 地域活動への参加経験・参加意向（時系列）



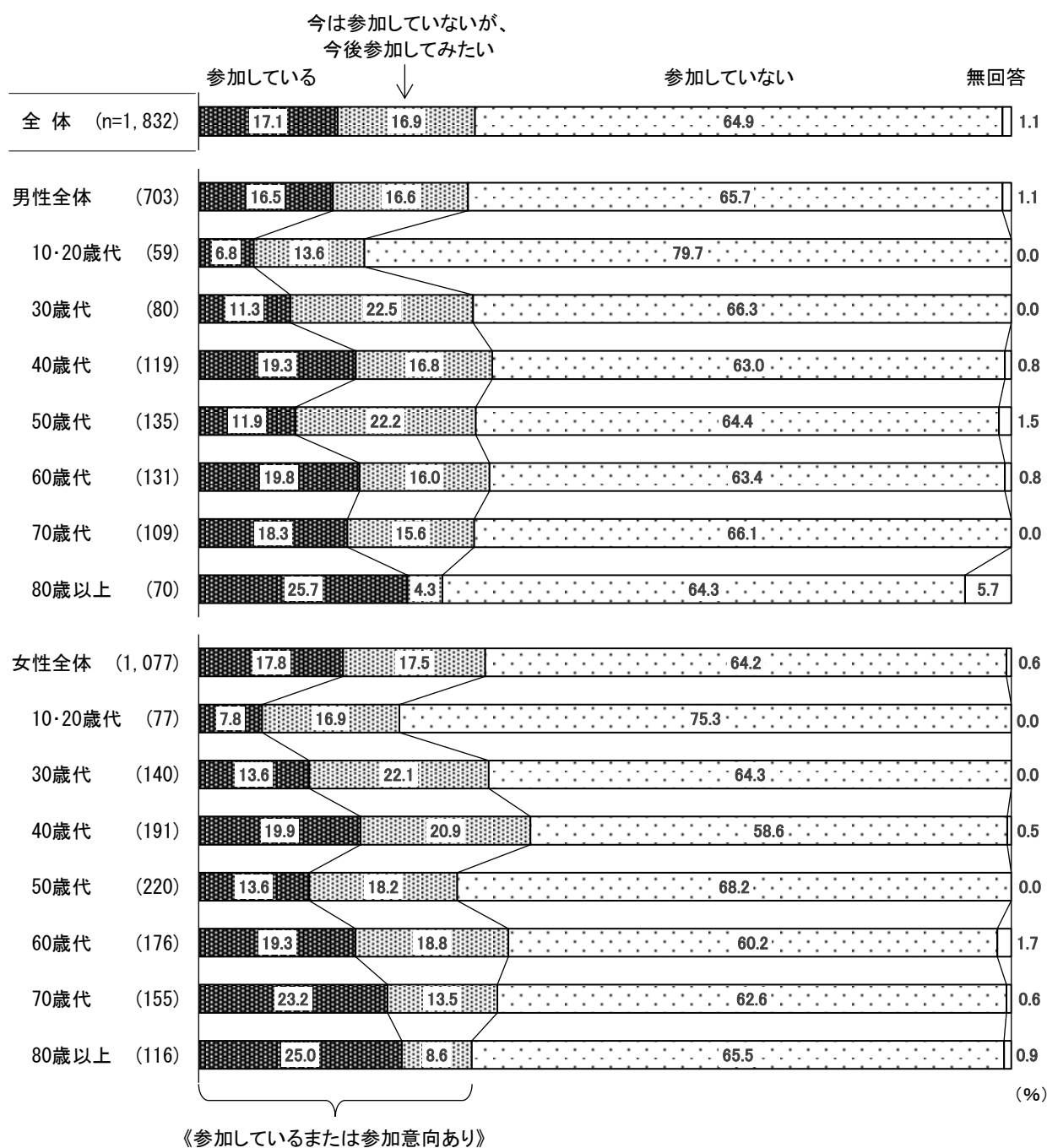
平成 26 年度からの時系列の変化をみると、《参加しているまたは参加意向あり》は平成 26 年度 (34.6%) と令和 5 年度 (34.0%) で変化はみられない。(図 9-1-2)

図9-1-3 地域活動への参加経験・参加意向（地域別）



地域別にみると、「参加している」は砧南部で2割半ば、烏山でほぼ2割、「今は参加していないが、今後参加してみたい」は世田谷西部、玉川西部で2割を超えている。《参加しているまたは参加意向あり》は砧南部で4割、世田谷西部、烏山で4割近くとなっている。（図9-1-3）

図 9-1-4 地域活動への参加経験・参加意向（性・年齢別）



性・年齢別にみると、「参加している」は男女とも80歳以上で2割半ば、女性の70歳代で2割を超えている。「今は参加していないが、今後参加してみたい」は男性の30歳代と50歳代、女性の30歳代で2割を超え、女性の40歳代でほぼ2割となっている。《参加しているまたは参加意向あり》は女性の40歳代でほぼ4割、女性の60歳代と70歳代で4割近くとなっている。(図9-1-4)

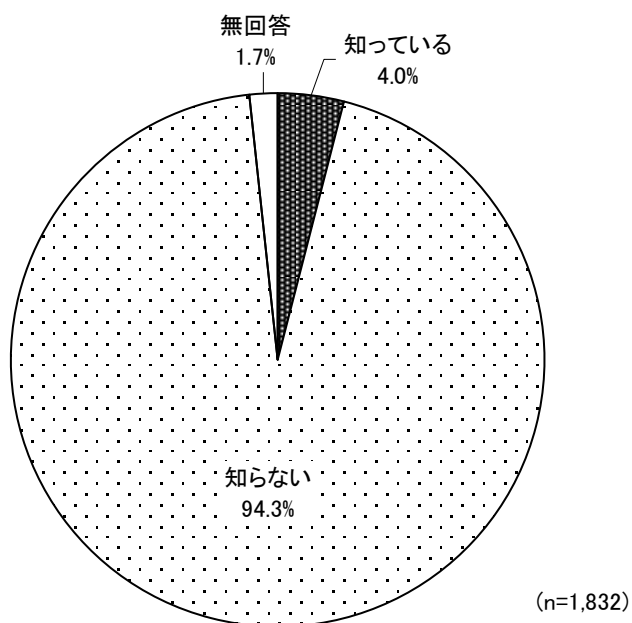
## 10. 区民交流スペース

### (1) 区民交流スペース開設時期の認知度

◎ 「知らない」が9割半ば

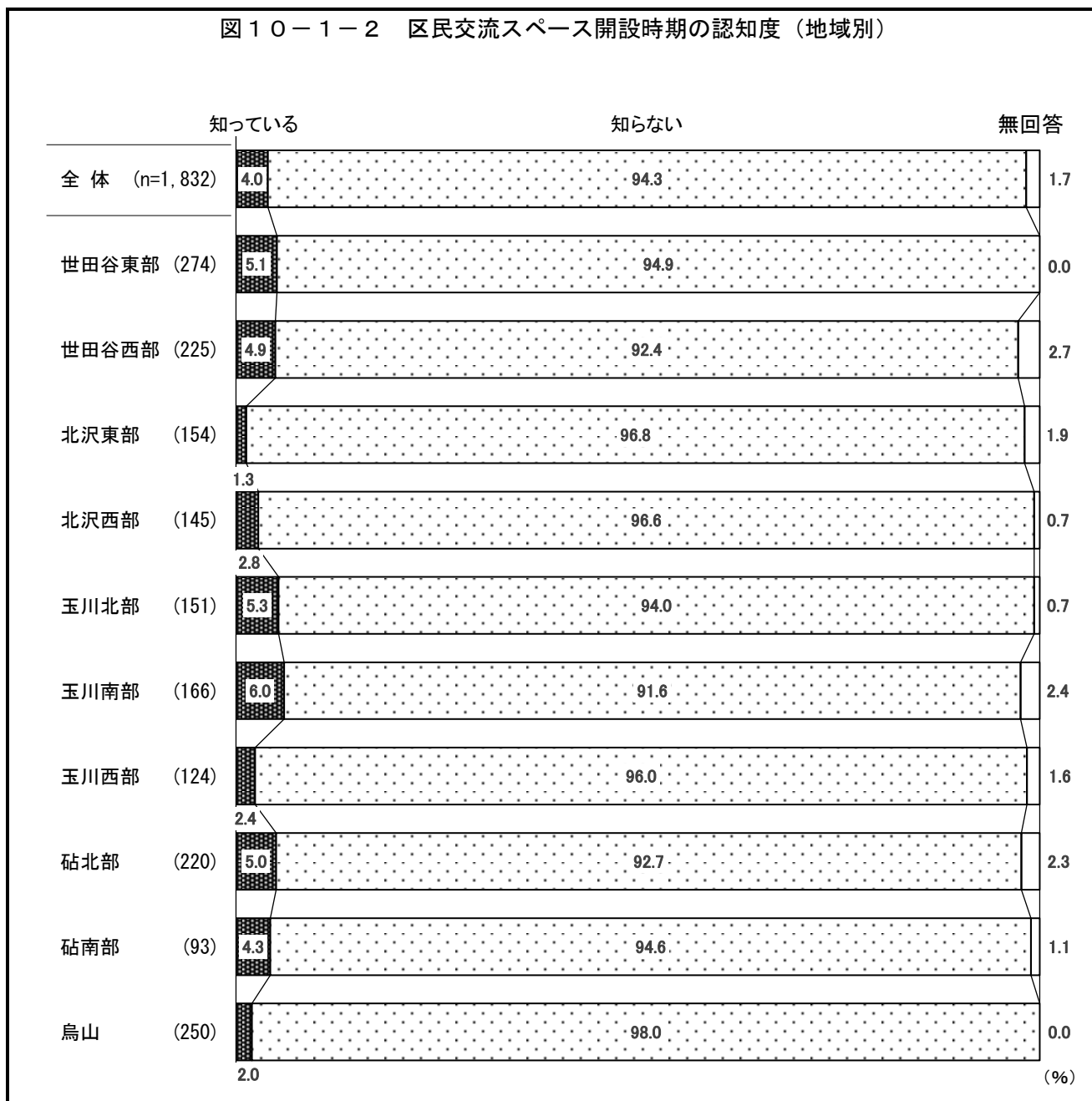
問21 区民交流スペースが令和7年度に開設することを知っていますか。(○は1つ)

図10-1-1



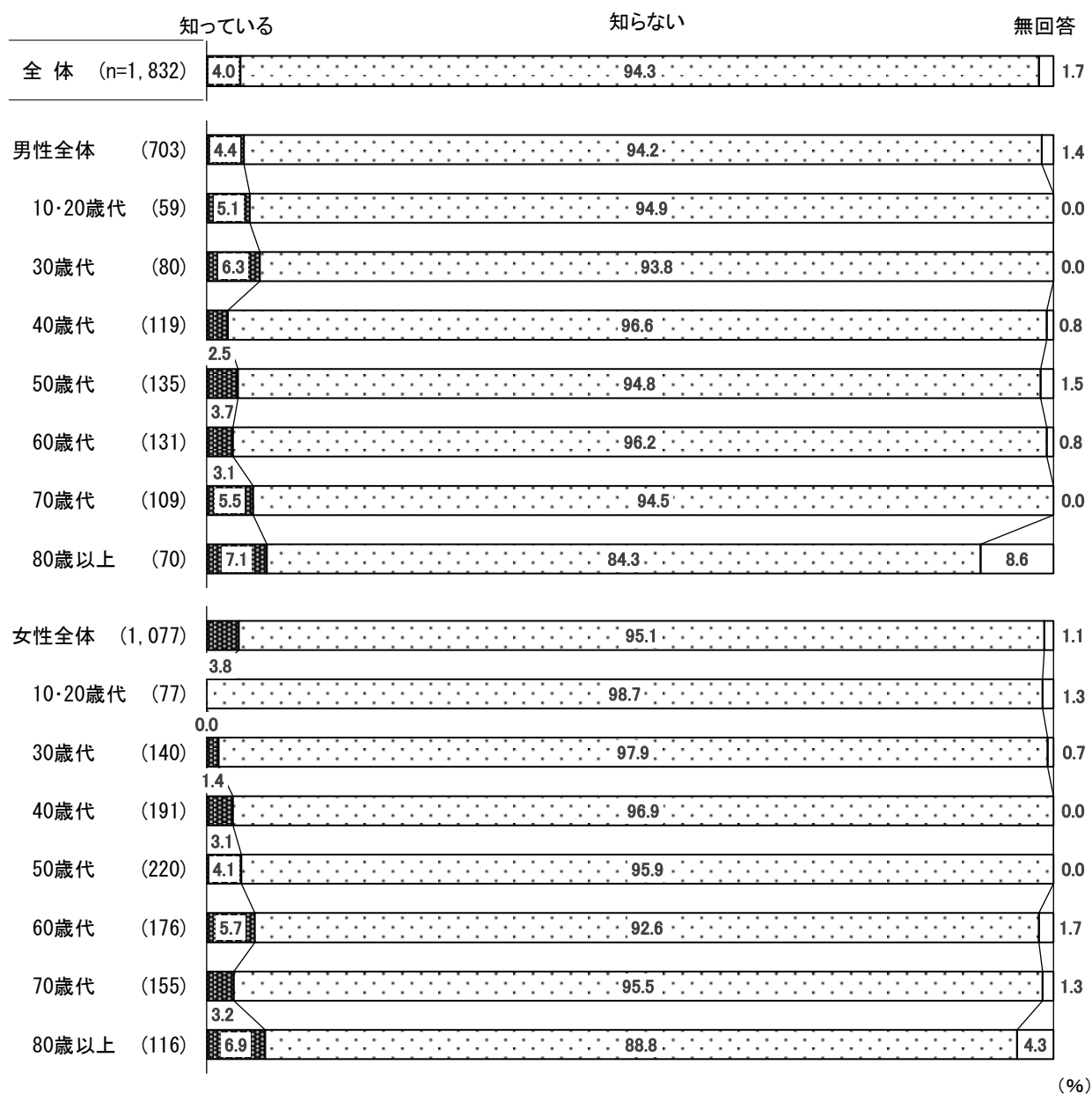
区民交流スペースの開設時期の認知度を聞いたところ、「知らない」(94.3%)が9割半ば、「知っている」(4.0%)は1割未満となっている。(図10-1-1)

図10-1-2 区民交流スペース開設時期の認知度（地域別）



地域別にみると、いずれの地域も「知らない」が9割台となっている。（図10-1-2）

図 10-1-3 区民交流スペース開設時期の認知度（性・年齢別）

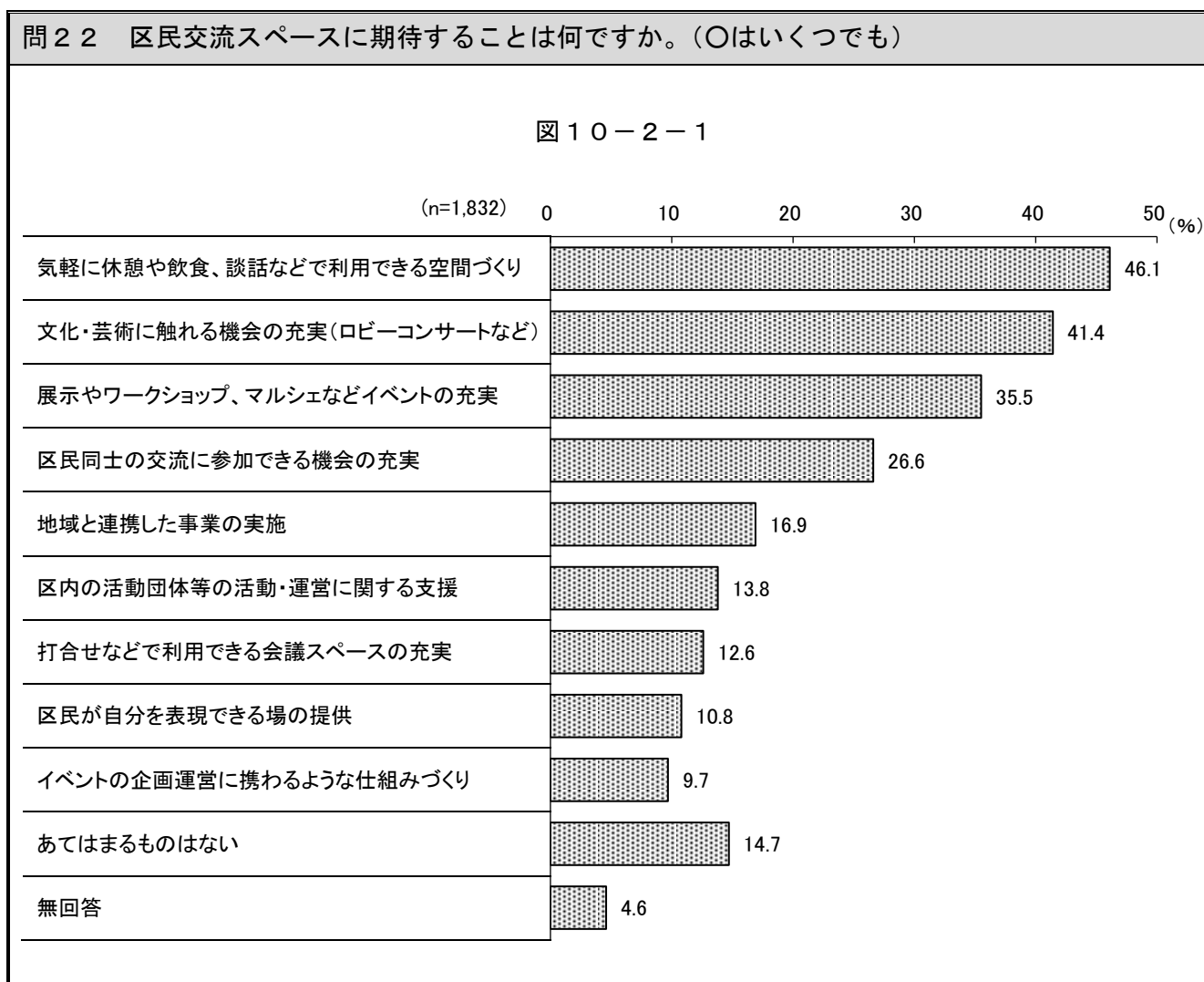


(%)

性・年齢別にみると、男女とも 80 歳以上を除くすべての年代で「知らない」が 9 割台となっている。(図 10-1-3)

## (2) 区民交流スペースに期待すること

◎「気軽に休憩や飲食、談話などで利用できる空間づくり」が4割半ば



区民交流スペースに期待することを聞いたところ、「気軽に休憩や飲食、談話などで利用できる空間づくり」(46.1%)が4割半ばで最も高く、以下、「文化・芸術に触れる機会の充実(ロビーコンサートなど)」(41.4%)、「展示やワークショップ、マルシェなどイベントの充実」(35.5%)、「区民同士の交流に参加できる機会の充実」(26.6%)などと続いている。(図10-2-1)

表 10-2-1 区民交流スペースに期待すること（性・年齢別）

		(%)											
		n	気軽に休憩や飲食、談話などで利用できる空間づくり	文化・芸術に触れる機会の充実 (ロビーコンサートなど)	展示やワークショップ、マルシェなどイベントの充実	区民同士の交流に参加できる機会の充実	地域と連携した事業の実施	区内の活動団体等の活動・運営に関する支援	打合せなどで利用できる会議スペースの充実	区民が自分を表現できる場の提供	イベントの企画運営に携わるような仕組みづくり	あてはまるものはない	無回答
全 体		1,832	46.1	41.4	35.5	26.6	16.9	13.8	12.6	10.8	9.7	14.7	4.6
性・年齢別	男性全体	703	44.4	36.7	29.7	26.0	20.2	14.4	12.9	14.8	12.7	16.4	4.7
	10・20歳代	59	59.3	28.8	20.3	28.8	16.9	6.8	18.6	10.2	18.6	13.6	8.5
	30歳代	80	38.8	30.0	38.8	31.3	21.3	20.0	10.0	23.8	11.3	16.3	5.0
	40歳代	119	52.1	42.9	37.0	25.2	25.2	11.8	14.3	15.1	16.8	15.1	2.5
	50歳代	135	30.4	33.3	29.6	26.7	23.0	14.1	12.6	14.8	13.3	19.3	3.7
	60歳代	131	42.0	40.5	38.9	20.6	22.1	19.8	14.5	13.7	11.5	17.6	-
	70歳代	109	50.5	39.4	21.1	31.2	16.5	14.7	11.9	14.7	9.2	11.9	4.6
	80歳以上	70	47.1	35.7	11.4	20.0	10.0	8.6	8.6	10.0	8.6	20.0	15.7
	女性全体	1,077	48.2	45.0	40.4	27.7	15.5	13.8	12.8	8.4	8.1	12.9	3.9
	10・20歳代	77	40.3	36.4	32.5	13.0	6.5	1.3	11.7	6.5	13.0	28.6	2.6
	30歳代	140	50.0	40.0	47.1	20.0	14.3	8.6	12.9	6.4	7.9	16.4	2.1
	40歳代	191	41.9	42.9	52.4	26.2	23.0	14.1	17.8	11.5	7.3	13.1	1.0
	50歳代	220	51.4	51.8	50.0	35.5	19.5	20.0	14.5	9.5	11.8	7.7	1.4
	60歳代	176	44.3	45.5	38.6	31.8	20.5	18.2	9.1	9.7	9.1	10.2	4.5
70歳代	155	58.1	53.5	29.0	31.0	8.4	12.9	12.3	7.1	4.5	9.7	5.2	
80歳以上	116	48.3	35.3	18.1	24.1	4.3	11.2	8.6	4.3	2.6	15.5	13.8	

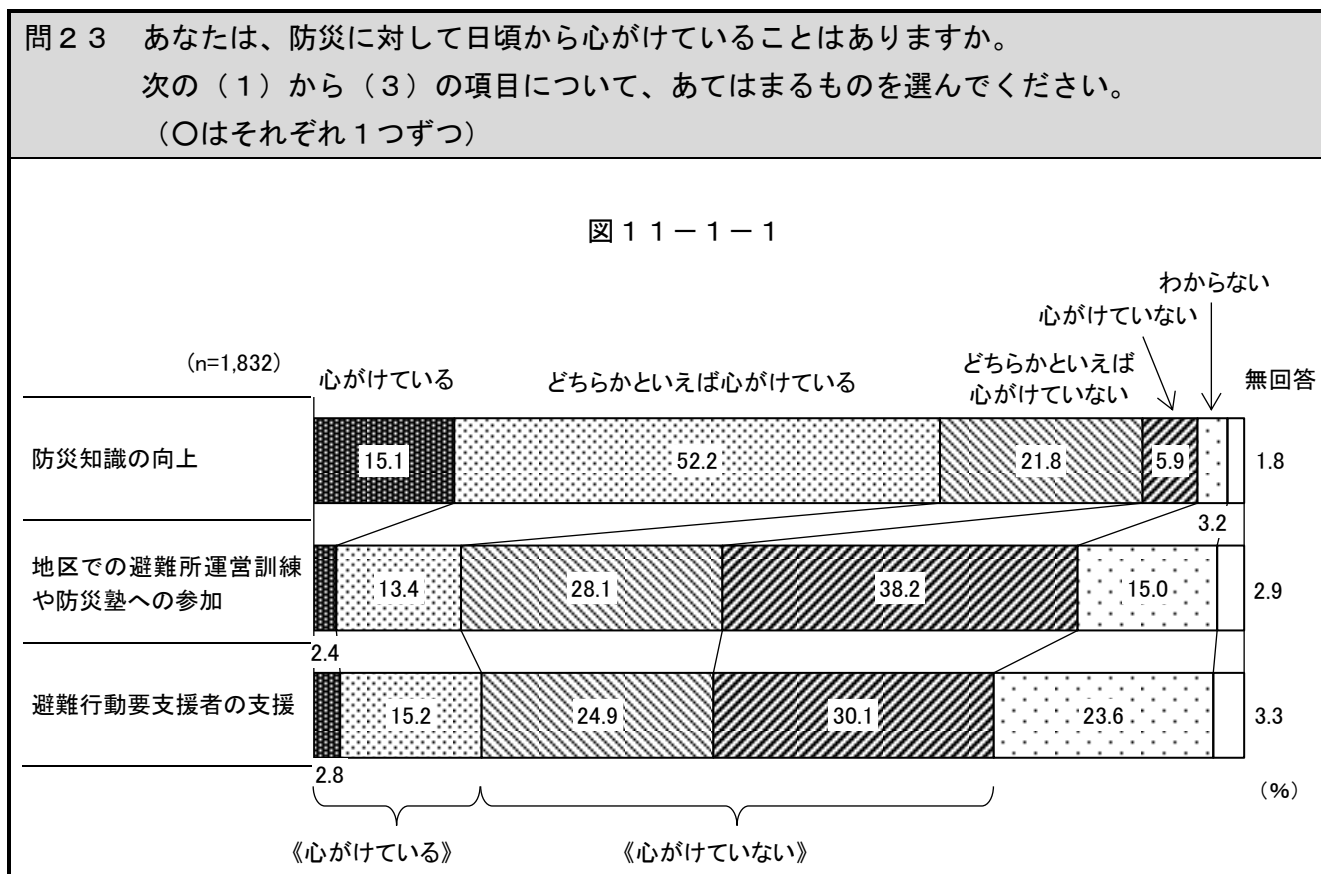
性・年齢別にみると、「気軽に休憩や飲食、談話などで利用できる空間づくり」は男性の10・20歳代ではほぼ6割、女性の70歳代で6割近くとなっている。「文化・芸術に触れる機会の充実（ロビーコンサートなど）」は女性の50歳代と70歳代で5割を超えている。「展示やワークショップ、マルシェなどイベントの充実」は60歳代を除くといずれの年代も男性より女性の方が高く、特に女性の40歳代と50歳代は5割台となっている。（表10-2-1）



## 11. 災害時の備え

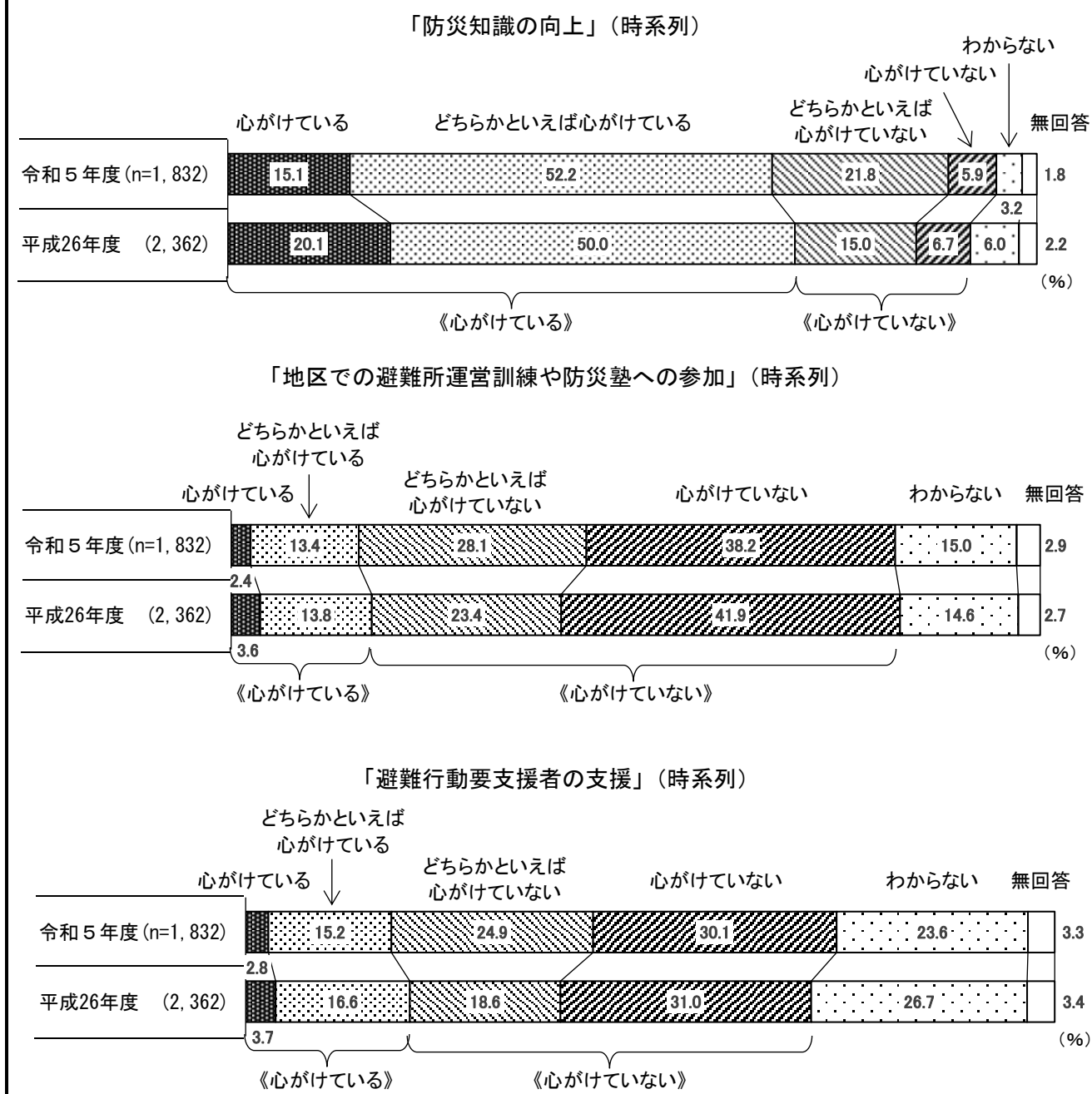
### (1) 防災への対処

◎「防災知識の向上」は《心がけている》が7割近く



防災に対して日頃から心がけていることがあるか聞いたところ、「心がけている」と「どちらかといえば心がけている」を合わせた《心がけている》は「防災知識の向上」(67.3%)が7割近く、「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」(15.8%)が1割半ば、「避難行動要支援者の支援」(18.1%)が2割近くとなっており、「防災知識の向上」を心がけている人が多い。「どちらかといえば心がけていない」と「心がけていない」を合わせた《心がけていない》は「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」(66.3%)が6割半ばで、他の2項目より高くなっている。(図11-1-1)

図 1 1 - 1 - 2 防災への対処（時系列）



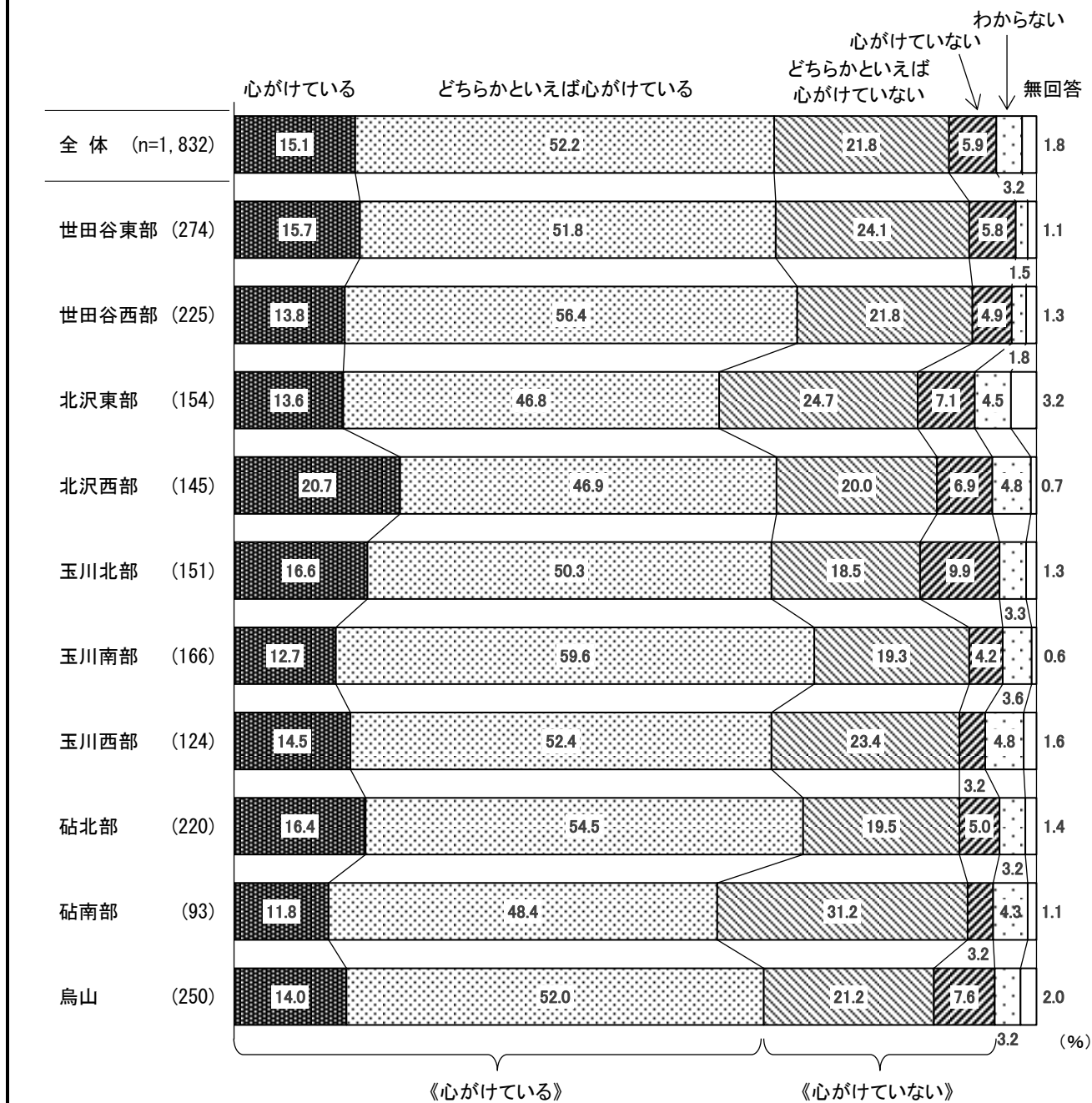
「防災知識の向上」について平成26年度からの時系列の変化をみると、《心がかけています》は平成26年度（70.1%）から令和5年度（67.3%）で大きな違いはみられない。《心がかけていない》は平成26年度（21.7%）から令和5年度（27.7%）で増加している。

「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」について平成26年度からの時系列の変化をみると、《心がかけています》は平成26年度（17.4%）から令和5年度（15.8%）、《心がかけていない》は平成26年度（65.3%）から令和5年度（66.3%）で大きな違いはみられない。

「避難行動要支援者の支援」について平成26年度からの時系列の変化をみると、《心がかけています》は平成26年度（20.3%）から令和5年度（18.1%）で大きな違いはみられない。《心がかけていない》は平成26年度（49.6%）から令和5年度（55.0%）で増加している。（図1 1 - 1 - 2）

図 1 1 - 1 - 3 防災への対処

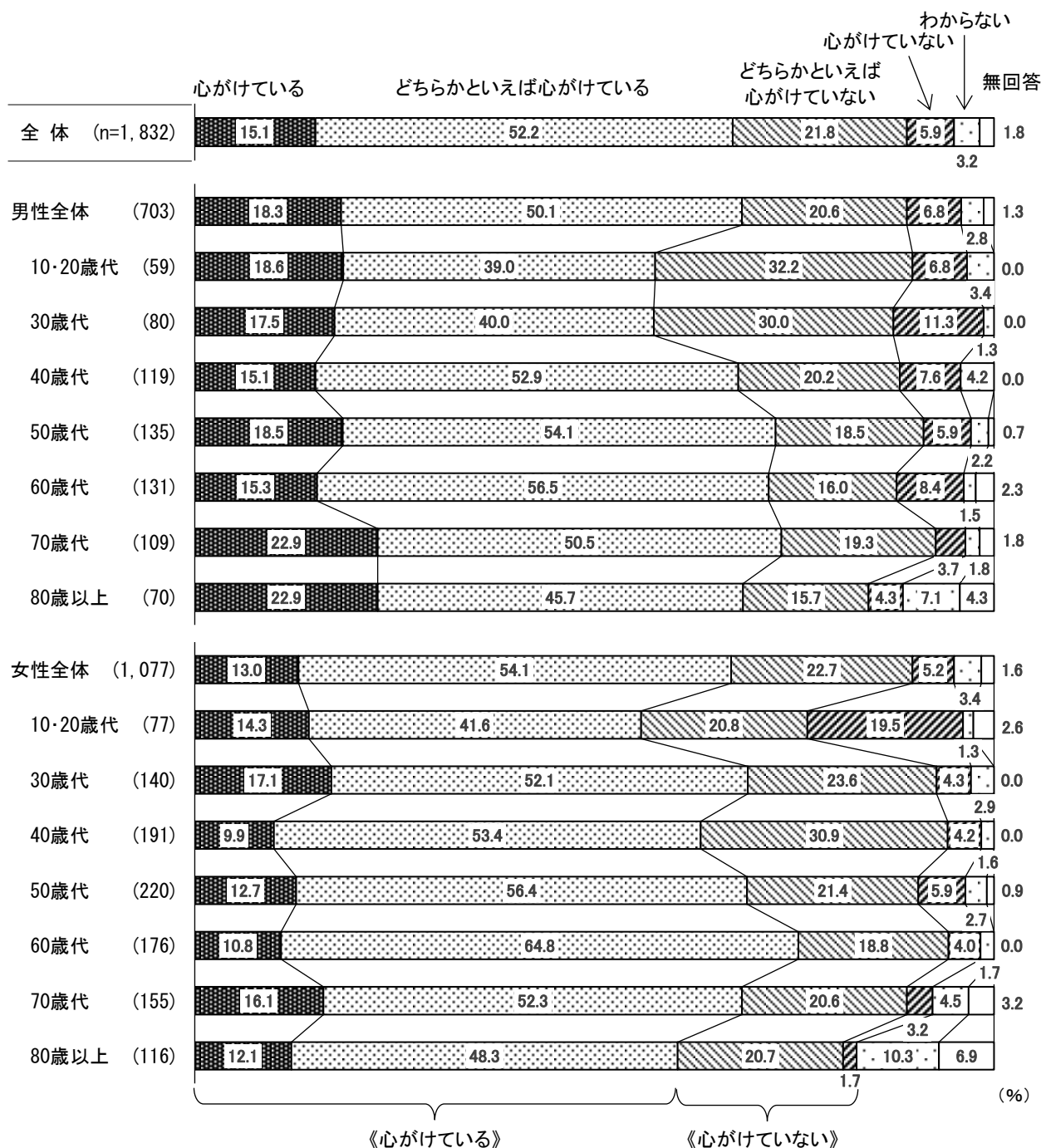
## 「防災知識の向上」(地域別)



「防災知識の向上」について地域別にみると、「心がけている」は北沢西部でほぼ2割となっている。《心がけている》は玉川南部で7割を超え、砧北部でほぼ7割、世田谷西部で7割となっている。《心がけていない》は砧南部で3割半ば、北沢東部で3割を超えている。(図1 1 - 1 - 3)

図 1 1 - 1 - 4 防災への対処

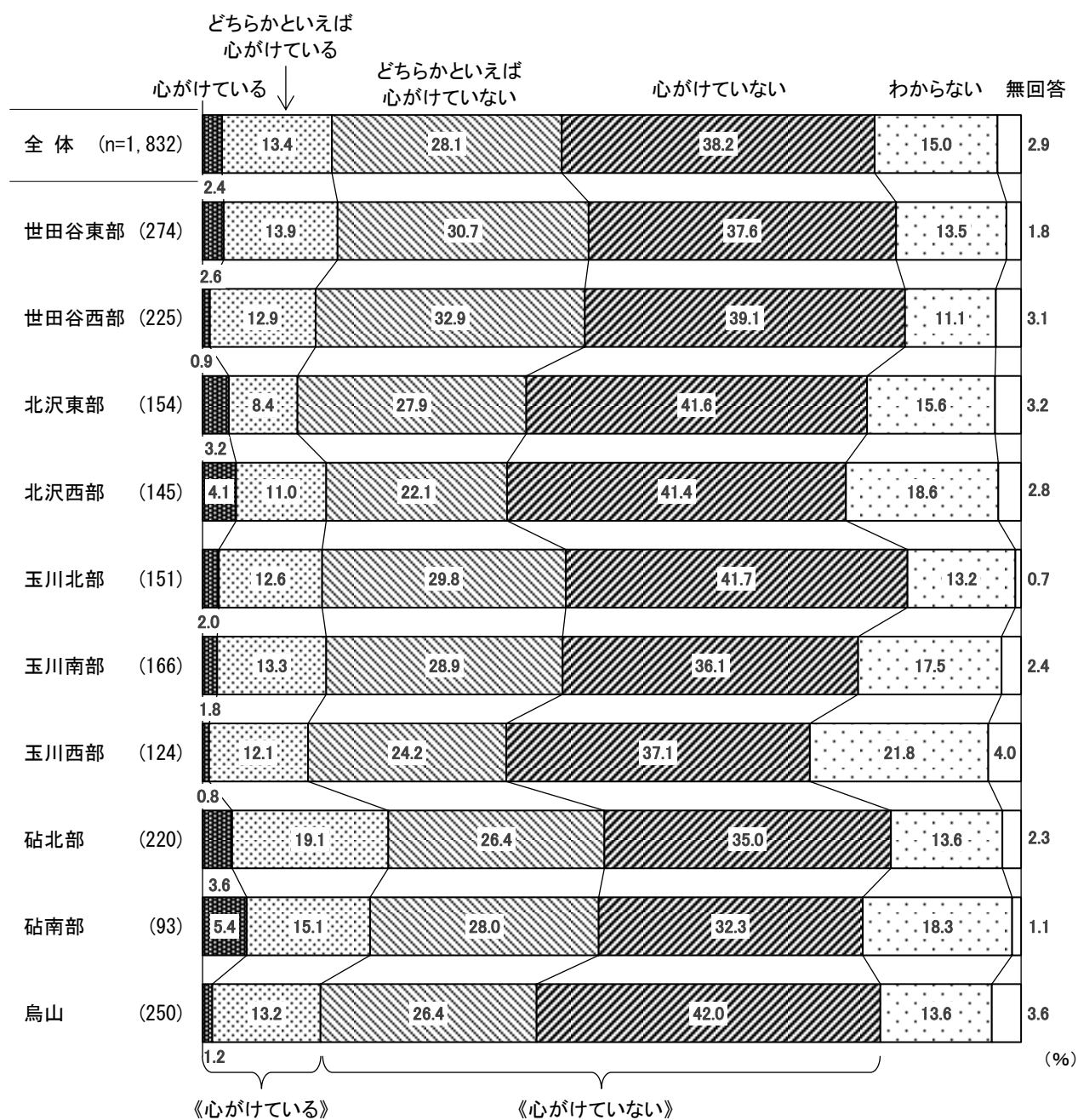
「防災知識の向上」(性・年齢別)



「防災知識の向上」について性・年齢別にみると、《心がかけている》は女性の60歳代で7割半ば、男性の50歳代～70歳代で7割を超えている。一方、《心がかけていない》は男性の30歳代で4割を超え、女性の10・20歳代で4割、男性の10・20歳代でほぼ4割となっている。(図1 1 - 1 - 4)

図 1 1 - 1 - 5 防災への対処

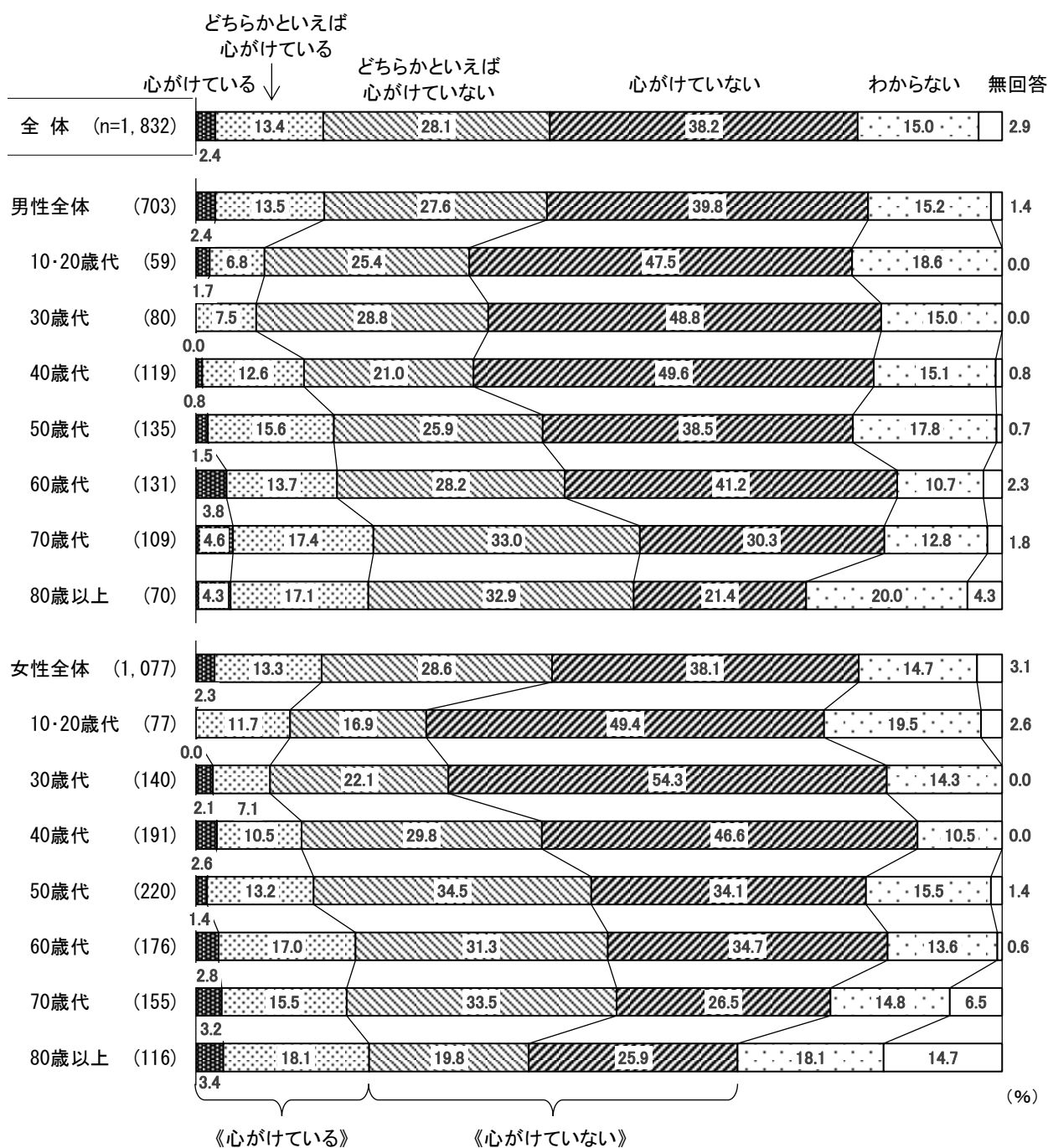
「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」(地域別)



「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」について地域別にみると、《心がけている》は砧北部で2割を超え、砧南部で2割となっている。《心がけていない》は世田谷西部と玉川北部で7割を超え、北沢東部で7割となっている。(図 1 1 - 1 - 5)

図 1 1 - 1 - 6 防災への対処

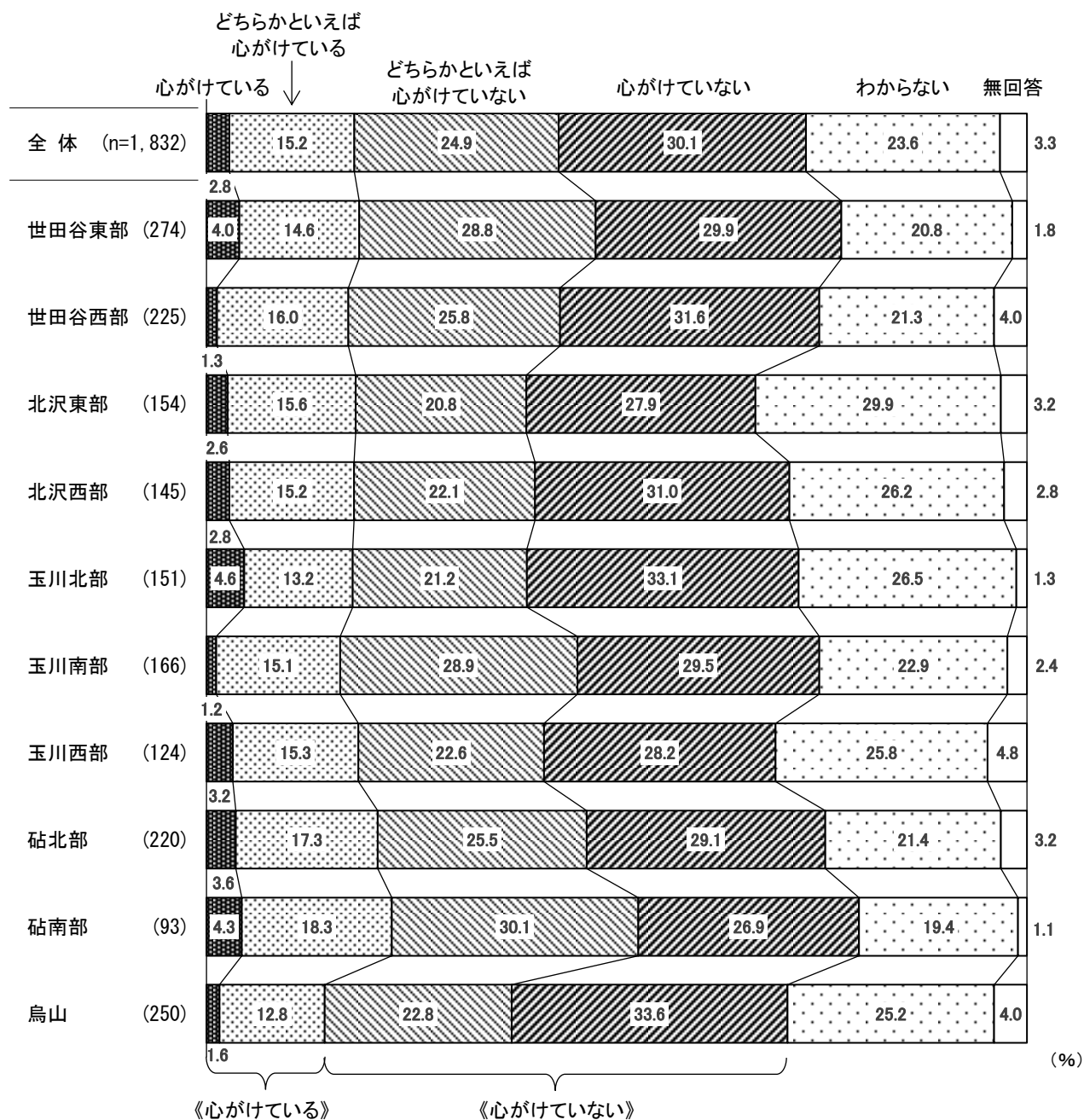
「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」(性・年齢別)



「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」について性・年齢別にみると、《心がけている》は男性の70歳代と80歳以上、女性の80歳以上で2割を超え、女性の60歳代で2割となっている。《心がけていない》は男性の30歳代で8割近く、女性の30歳代と40歳代で7割半ば、男性の10・20歳代で7割を超えている。(図1 1 - 1 - 6)

図 11-1-7 防災への対処

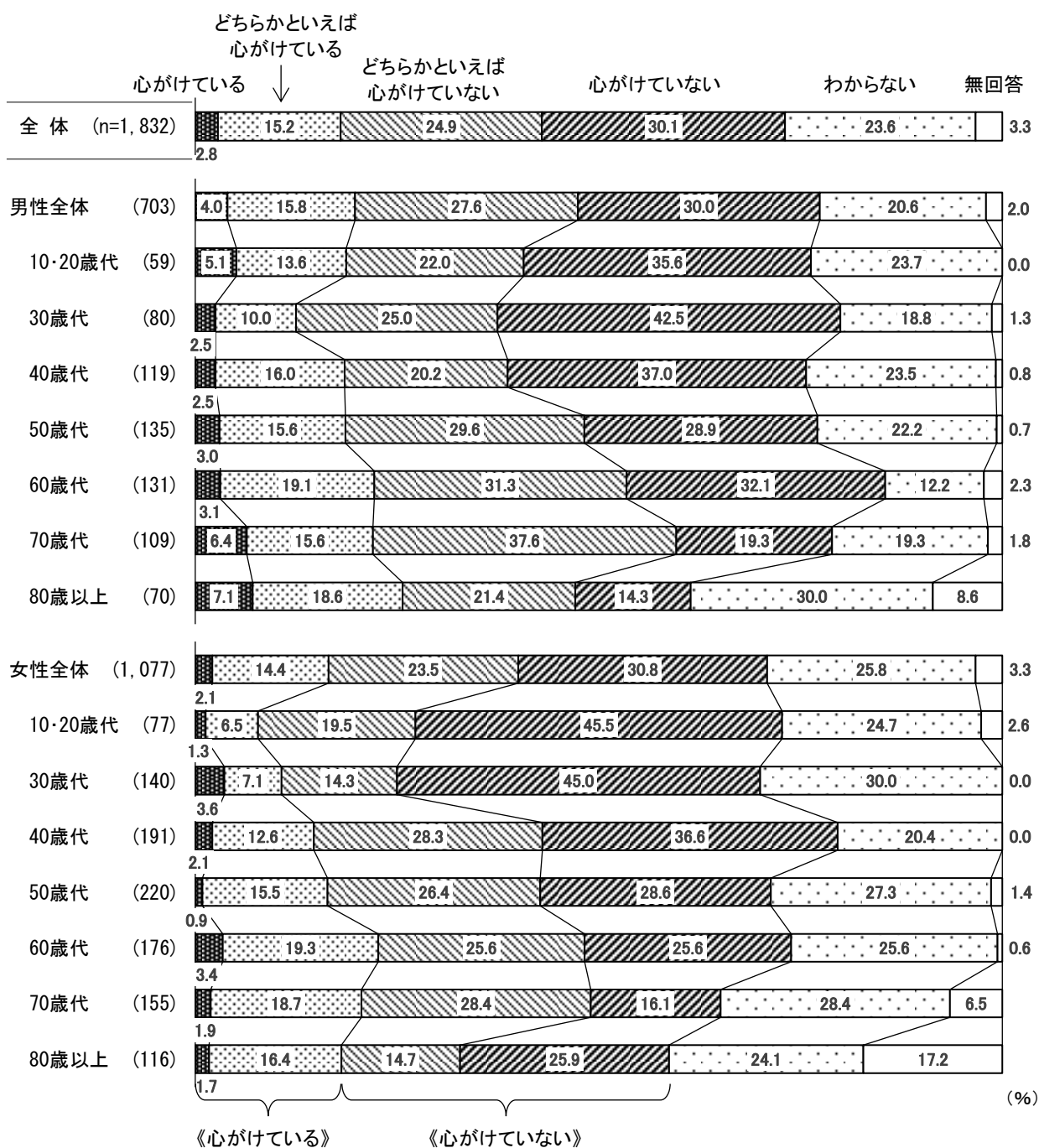
## 「避難行動要支援者の支援」(地域別)



「避難行動要支援者の支援」について地域別にみると、《心がけている》は砧南部で2割を超え、砧北部でほぼ2割となっている。《心がけていない》は世田谷東部、玉川南部、世田谷西部、砧南部で6割近くとなっている。(図11-1-7)

図 11-1-8 防災への対処

## 「避難行動要支援者の支援」(性・年齢別)



「避難行動要支援者の支援」について性・年齢別にみると、《心がけている》は男性の80歳以上で2割半ば、男性の60歳代と70歳代、女性の60歳代で2割を超えている。《心がけていない》は男性の30歳代で7割近く、女性の10・20歳代と40歳代で6割半ばとなっている。(図11-1-8)

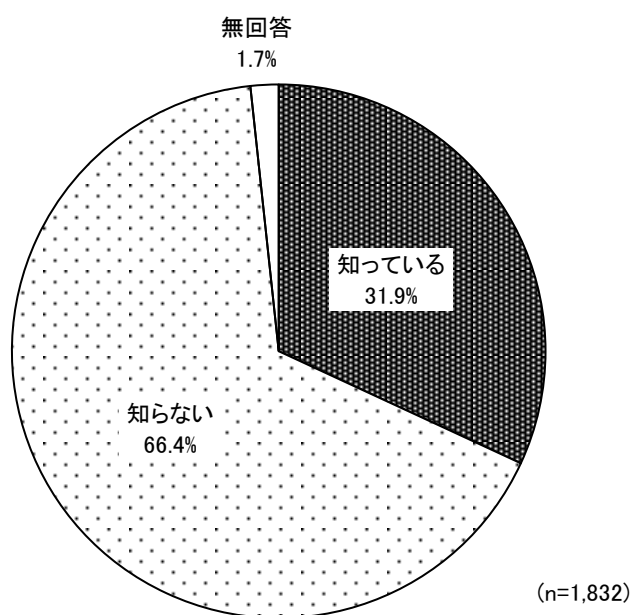


## (2) 在宅避難推奨の認知度

◎「知っている」が3割を超え、「知らない」が6割半ば

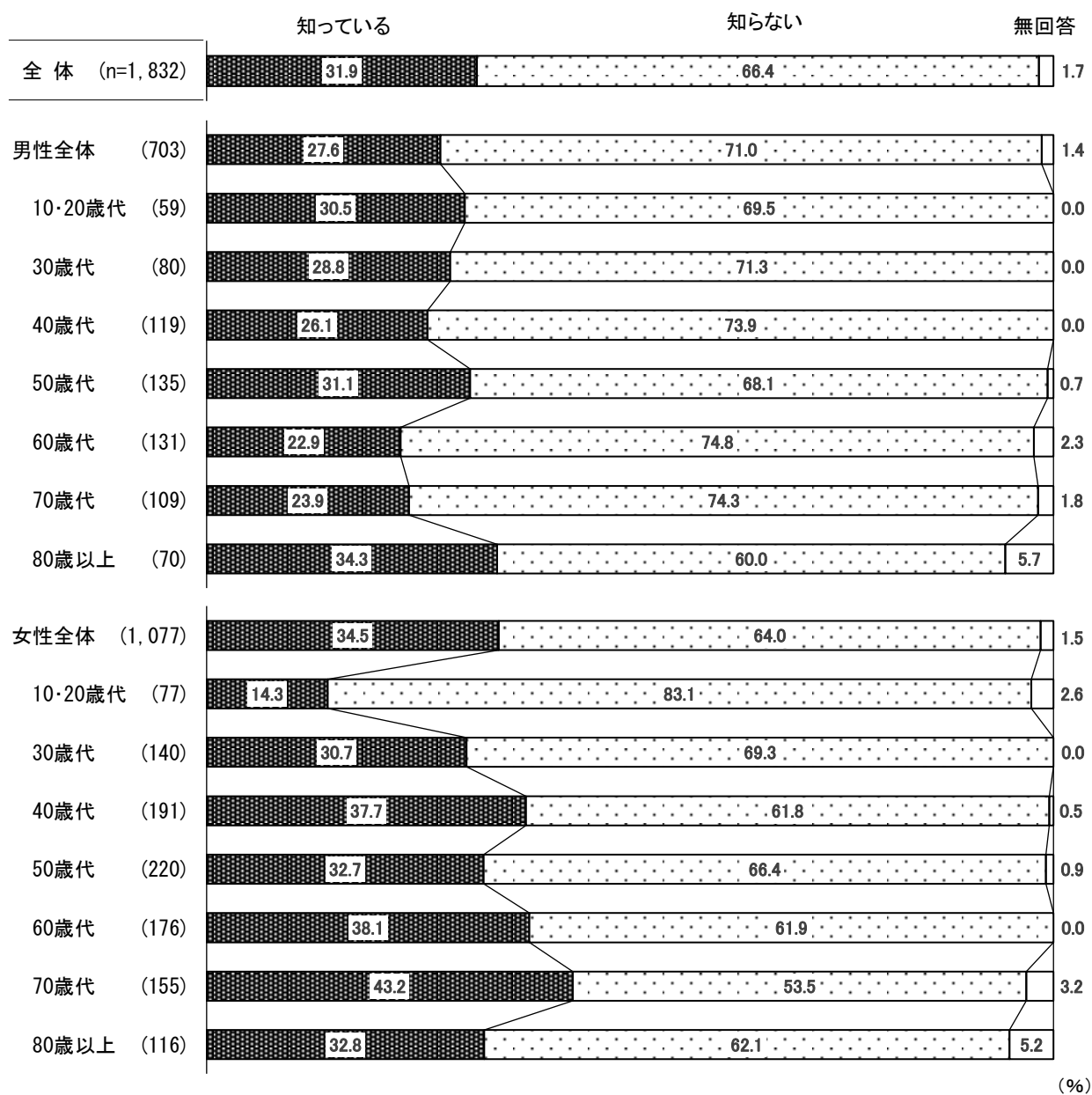
問24 あなたは区が在宅避難を推奨していることを知っていましたか。(○は1つ)

図11-2-1



区が在宅避難を推奨していることを知っているか聞いたところ、「知っている」(31.9%)が3割を超え、「知らない」(66.4%)が6割半ばとなっている。(図11-2-1)

図 1 1 - 2 - 2 在宅避難推奨の認知度（性・年齢別）

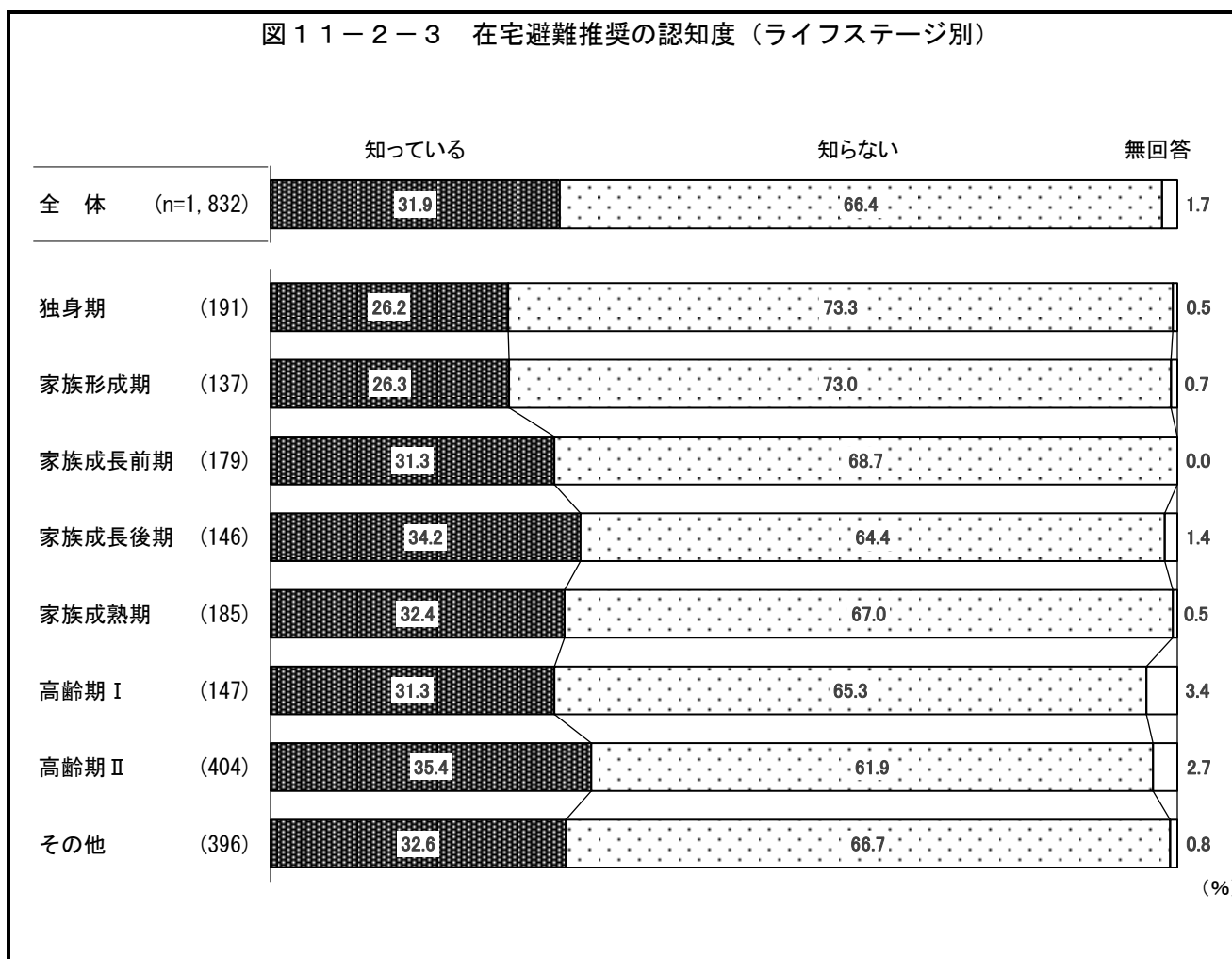


(%)

性・年齢別にみると、いずれの年代も「知っている」より「知らない」の方が高くなっている。「知っている」は女性の70歳代で4割を超え、女性の40歳代と60歳代で4割近くとなっている。

(図 1 1 - 2 - 2)

図 1 1 - 2 - 3 在宅避難推奨の認知度（ライフステージ別）



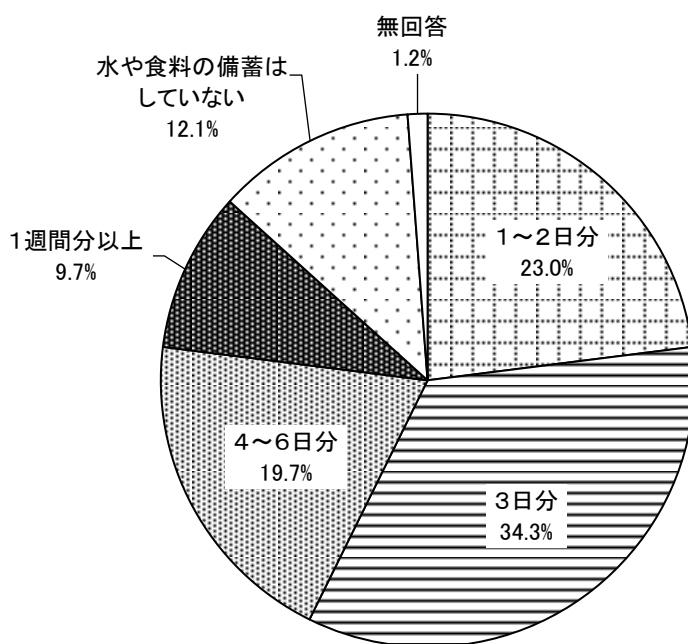
ライフステージ別にみると、「知っている」は家族成長後期と高齢期Ⅱで3割半ばとなっている。一方、「知らない」は独身期と家族形成期で7割を超えている。（図 1 1 - 2 - 3）

## (3) 水や食料の備蓄について

## ◎水や食料の備蓄は「3日分」が3割半ば

問25 あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。(〇は1つ)

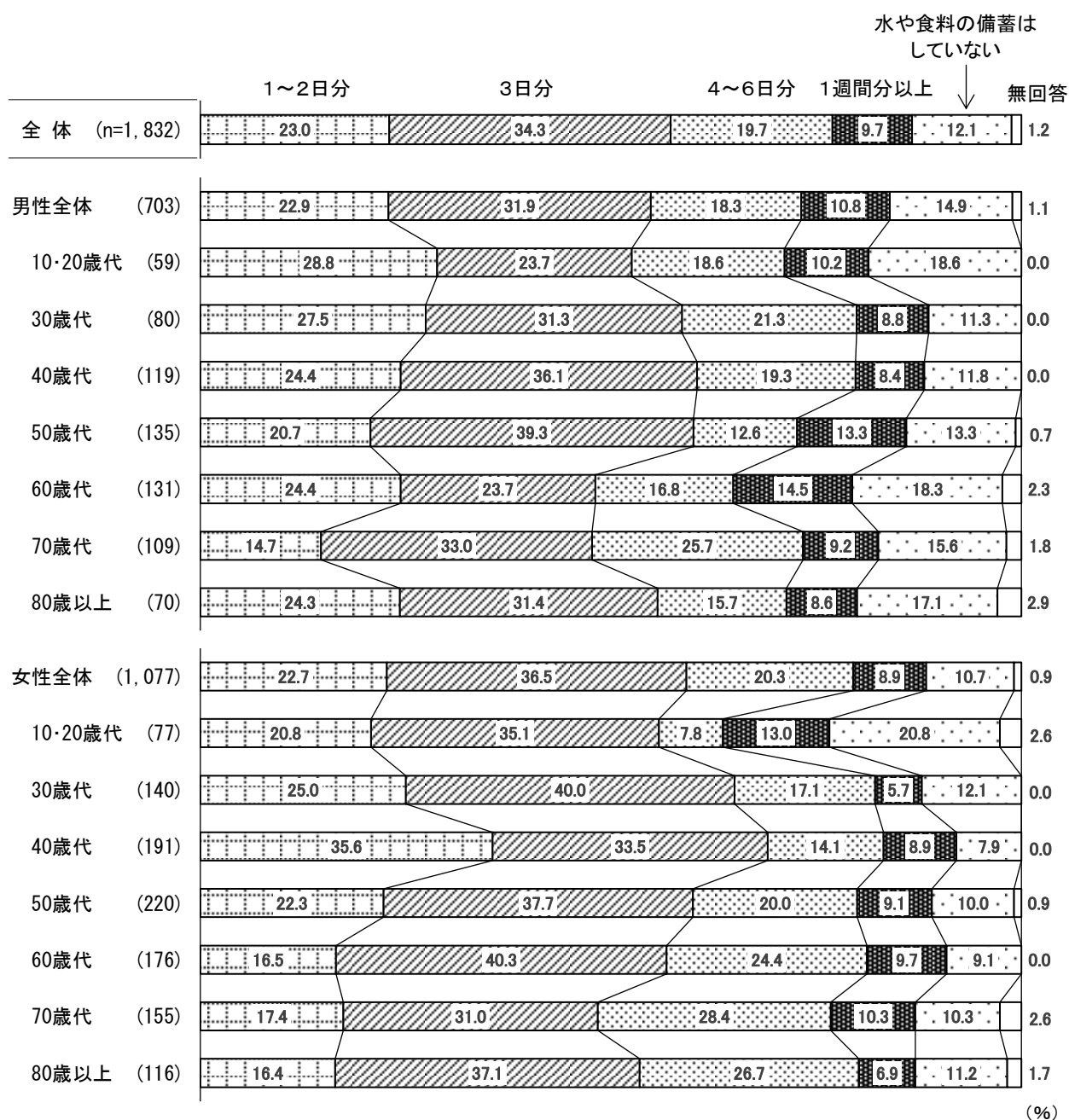
図11-3-1



(n=1,832)

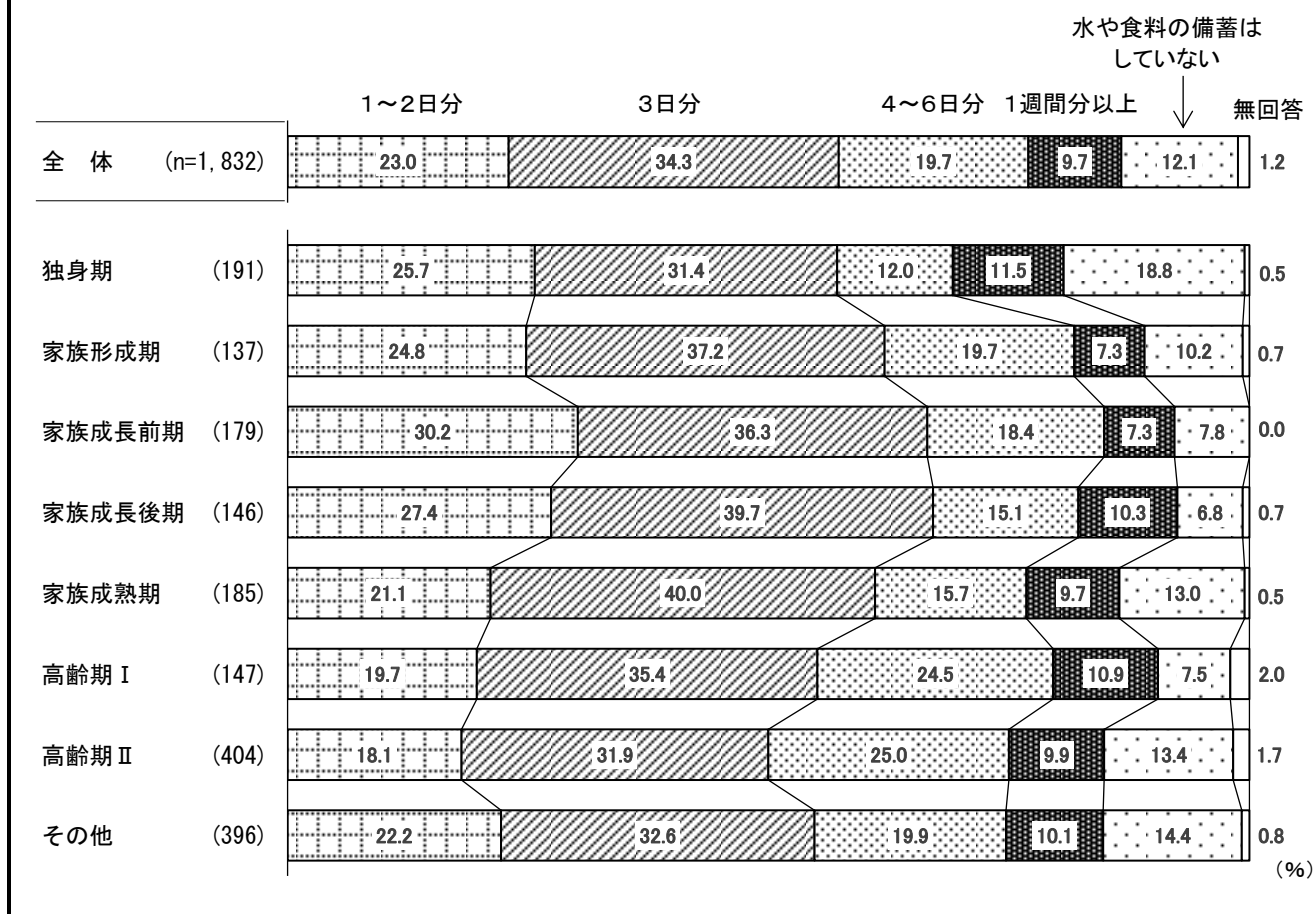
災害に備えて水や食料を何日分備蓄しているかを聞いたところ、「3日分」(34.3%)が3割半ばで最も高く、以下、「1~2日分」(23.0%)、「4~6日分」(19.7%)などと続いている。「水や食料の備蓄はしていない」(12.1%)は1割を超えている。(図11-3-1)

図 1 1 - 3 - 2 水や食料の備蓄について (性・年齢別)



性・年齢別にみると、3日分以上（「3日分」＋「4～6日分」＋「1週間分以上」）の水や食料を備蓄している割合は、いずれの年代も5割を超えており、特に女性の60歳代は7割半ばとなっている。「水や食料の備蓄はしていない」は男女ともに10・20歳代が他の年代に比べ高く、女性の10・20歳代ではほぼ2割、男性の10・20歳代で2割近くとなっている。（図11-3-2）

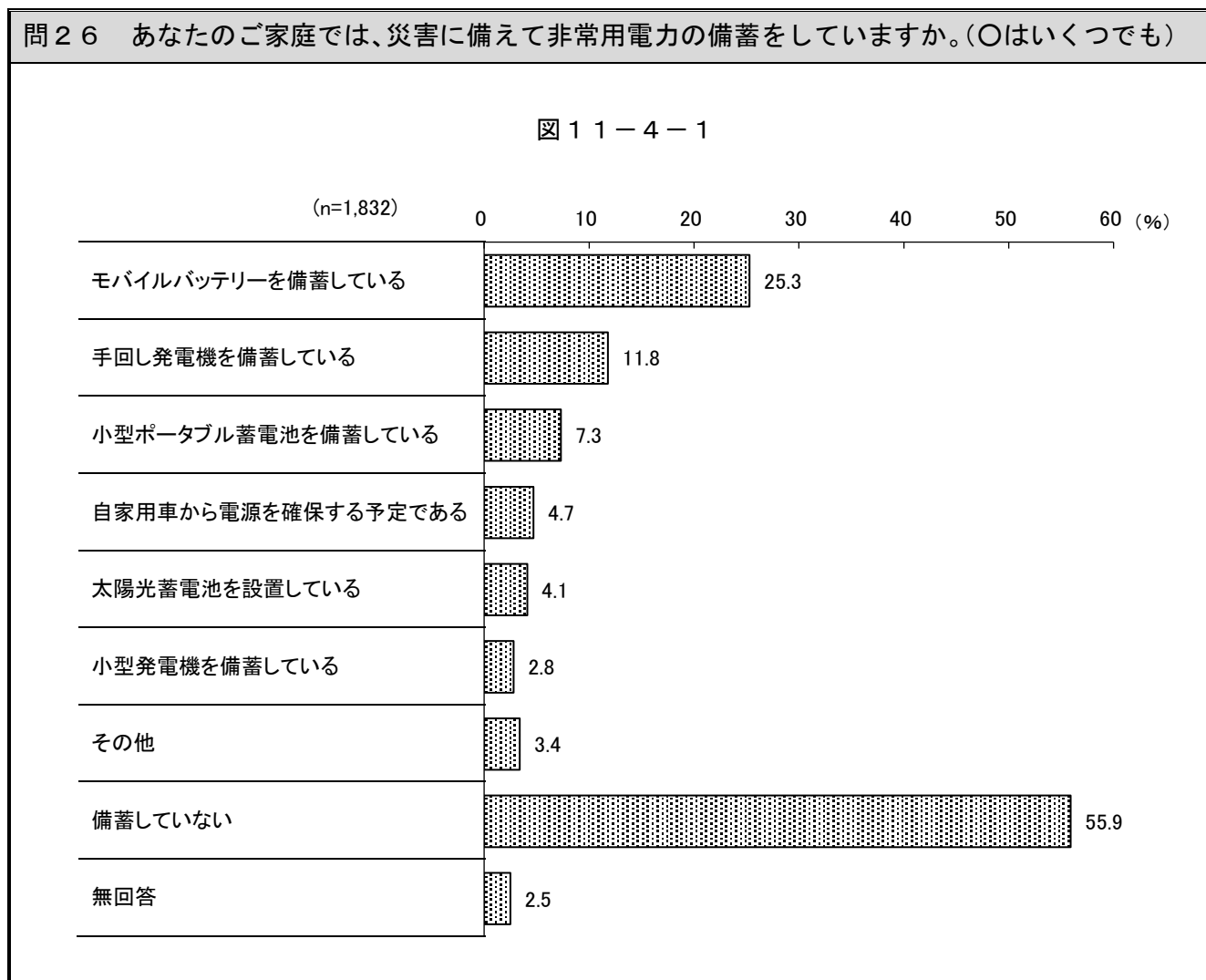
図 1 1 - 3 - 3 水や食料の備蓄について（ライフステージ別）



ライフステージ別にみると、3日分以上（「3日分」＋「4～6日分」＋「1週間分以上」）の水や食料を備蓄している割合は高齢期 I でほぼ7割となっている。一方、独身期で3日分以上備蓄している割合は5割半ばと他のライフステージに比べ低い。（図 1 1 - 3 - 3）

## (4) 非常用電力の備蓄について

## ◎「備蓄していない」が5割半ば



災害時に備えた非常用電力を備蓄しているか聞いたところ、「備蓄していない」(55.9%)が5割半ばで最も高い。備蓄している中では、「モバイルバッテリーを備蓄している」(25.3%)が2割半ばで最も高く、以下、「手回し発電機を備蓄している」(11.8%)、「小型ポータブル蓄電池を備蓄している」(7.3%)などと続いている。(図11-4-1)

表 1 1 - 4 - 1 非常用電力の備蓄について（性・年齢別）

		(%)									
		n	モバイルバッテリーを備蓄している	手回し発電機を備蓄している	小型ポータブル蓄電池を備蓄している	自家用車から電源を確保する予定である	太陽光蓄電池を設置している	小型発電機を備蓄している	その他	備蓄していない	無回答
全 体		1,832	25.3	11.8	7.3	4.7	4.1	2.8	3.4	55.9	2.5
性・年齢別	男性全体	703	26.2	11.0	8.1	5.5	4.0	2.7	3.4	57.6	1.8
	10・20歳代	59	39.0	13.6	3.4	3.4	5.1	1.7	5.1	54.2	1.7
	30歳代	80	32.5	11.3	18.8	3.8	6.3	3.8	2.5	51.3	-
	40歳代	119	42.0	12.6	12.6	6.7	6.7	2.5	0.8	43.7	0.8
	50歳代	135	30.4	13.3	9.6	5.9	3.0	0.7	3.0	55.6	1.5
	60歳代	131	17.6	12.2	6.9	8.4	2.3	3.1	3.8	61.8	3.1
	70歳代	109	15.6	7.3	2.8	5.5	3.7	4.6	5.5	64.2	1.8
	80歳以上	70	5.7	4.3	-	1.4	1.4	2.9	4.3	77.1	4.3
	女性全体	1,077	24.8	12.7	6.6	4.2	4.4	2.8	3.0	55.5	2.4
	10・20歳代	77	42.9	18.2	3.9	-	2.6	1.3	5.2	40.3	2.6
	30歳代	140	39.3	13.6	7.9	4.3	2.9	2.9	2.1	44.3	2.9
	40歳代	191	32.5	16.2	7.9	5.2	5.2	3.7	0.5	48.7	2.1
	50歳代	220	34.1	13.6	8.6	4.1	4.5	5.0	3.6	47.3	0.9
	60歳代	176	17.0	14.2	9.1	5.1	8.0	1.7	2.8	58.5	0.6
70歳代	155	7.1	7.7	2.6	2.6	3.2	1.3	2.6	74.8	3.9	
80歳以上	116	0.9	5.2	2.6	6.0	1.7	1.7	6.0	75.0	6.0	

性・年齢別にみると、「備蓄していない」は男性の80歳以上で8割近く、女性の70歳代と80歳以上で7割半ばとなっている。「モバイルバッテリーを備蓄している」は男女とも50歳代以下が高く、男性の40歳代、女性の10・20歳代で4割を超えている。「手回し発電機を備蓄している」は男女とも60歳代以下で1割台となっている。（表11-4-1）



表 11-4-2 非常用電力の備蓄について（ライフステージ別）

		(%)									
	n	モバイルバッテリーを備蓄している	手回し発電機を備蓄している	小型ポータブル蓄電池を備蓄している	自家用車から電源を確保する予定である	太陽光蓄電池を設置している	小型発電機を備蓄している	その他	備蓄していない	無回答	
全 体		1,832	25.3	11.8	7.3	4.7	4.1	2.8	3.4	55.9	2.5
ライフステージ別	独身期	191	39.3	12.6	7.3	2.1	3.7	1.6	4.2	49.2	1.6
	家族形成期	137	38.0	15.3	11.7	4.4	4.4	4.4	2.9	45.3	1.5
	家族成長前期	179	38.0	18.4	11.7	7.3	8.4	3.9	0.6	41.3	1.1
	家族成長後期	146	35.6	18.5	8.2	6.8	3.4	1.4	2.7	46.6	1.4
	家族成熟期	185	29.2	14.6	11.4	5.9	2.7	3.2	2.7	52.4	0.5
	高齢期Ⅰ	147	8.2	8.8	2.7	6.1	6.8	3.4	8.8	61.2	3.4
	高齢期Ⅱ	404	9.9	7.7	3.2	2.7	2.7	2.5	3.2	72.5	3.5
	その他	396	26.5	9.3	7.6	5.3	4.0	2.5	2.5	55.6	2.5

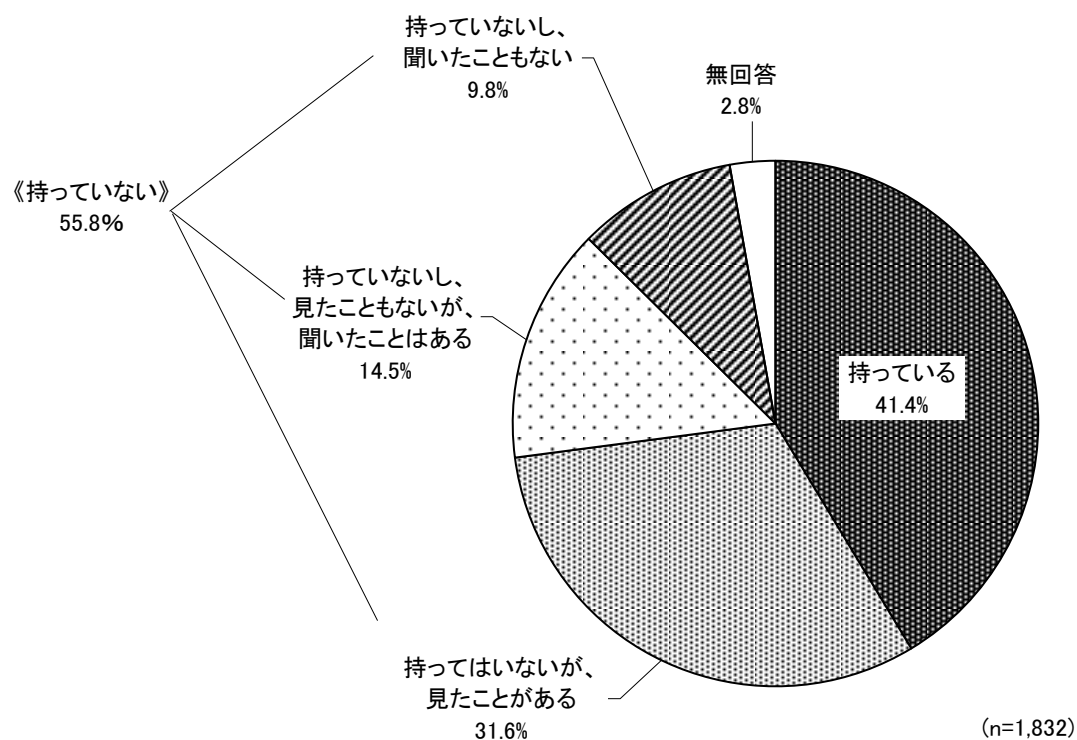
ライフステージ別にみると、「備蓄していない」は高齢期Ⅱで7割を超え、高齢期Ⅰで6割を超えている。「モバイルバッテリーを備蓄している」は独身期ではほぼ4割、家族形成期と家族成長前期で4割近く、家族成長後期で3割半ば、「手回し発電機を備蓄している」は家族成長前期と家族成長後期で2割近くとなっている。（表 11-4-2）

## (5) ハザードマップの認知度

◎「世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ」を「持っている」が4割を超える

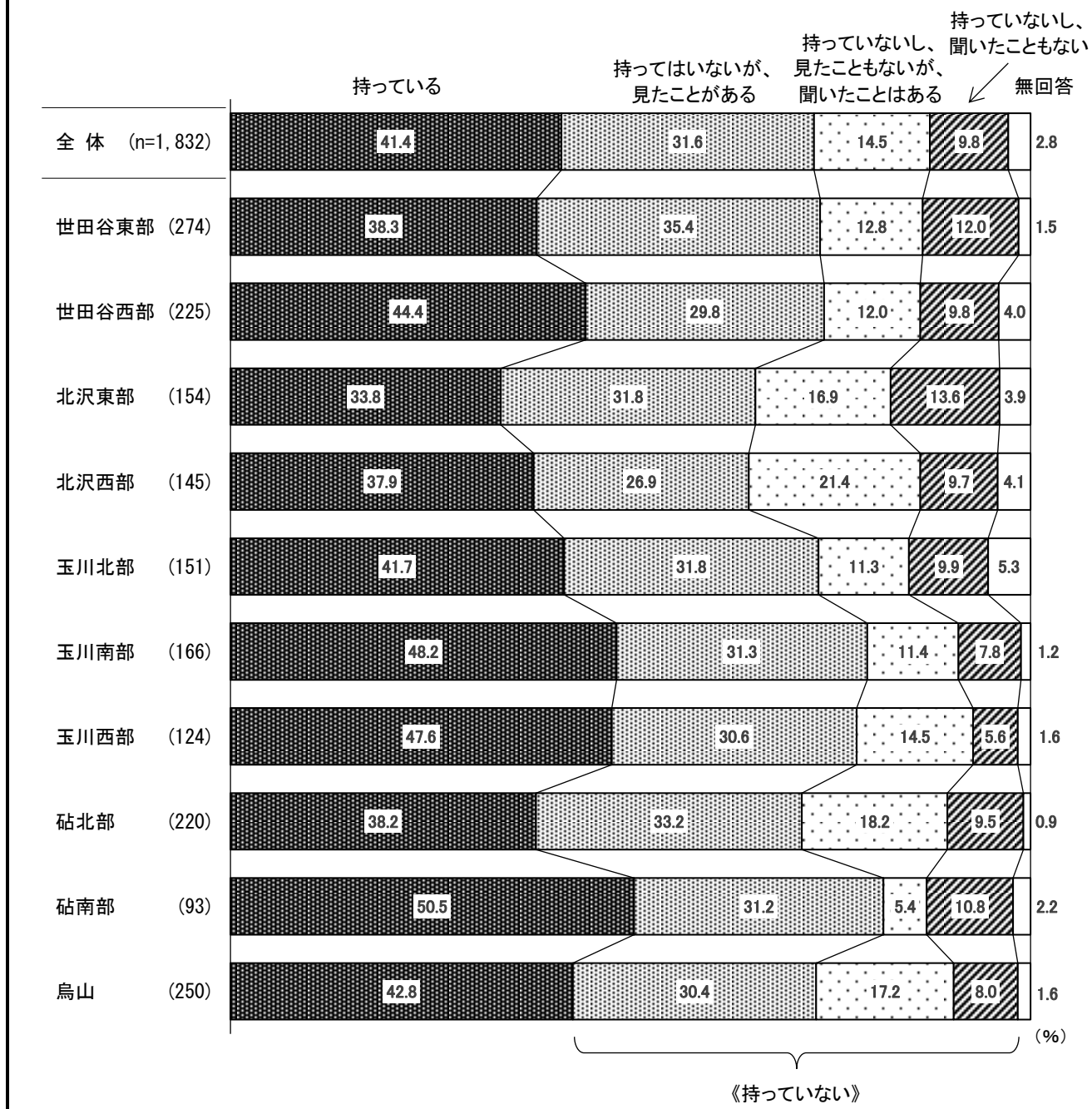
問27 あなたは、「世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ」を持っていますか。(○は1つ)

図11-5-1



ハザードマップの認知度を聞いたところ、「持っている」(41.4%)が4割を超え、「持っているが、見たことがある」(31.6%)と「持っているし、聞いたことはある」(14.5%)と「持っているし、聞いたこともない」(9.8%)を合わせた《持っていない》(55.8%)が5割半ばとなっている。(図11-5-1)

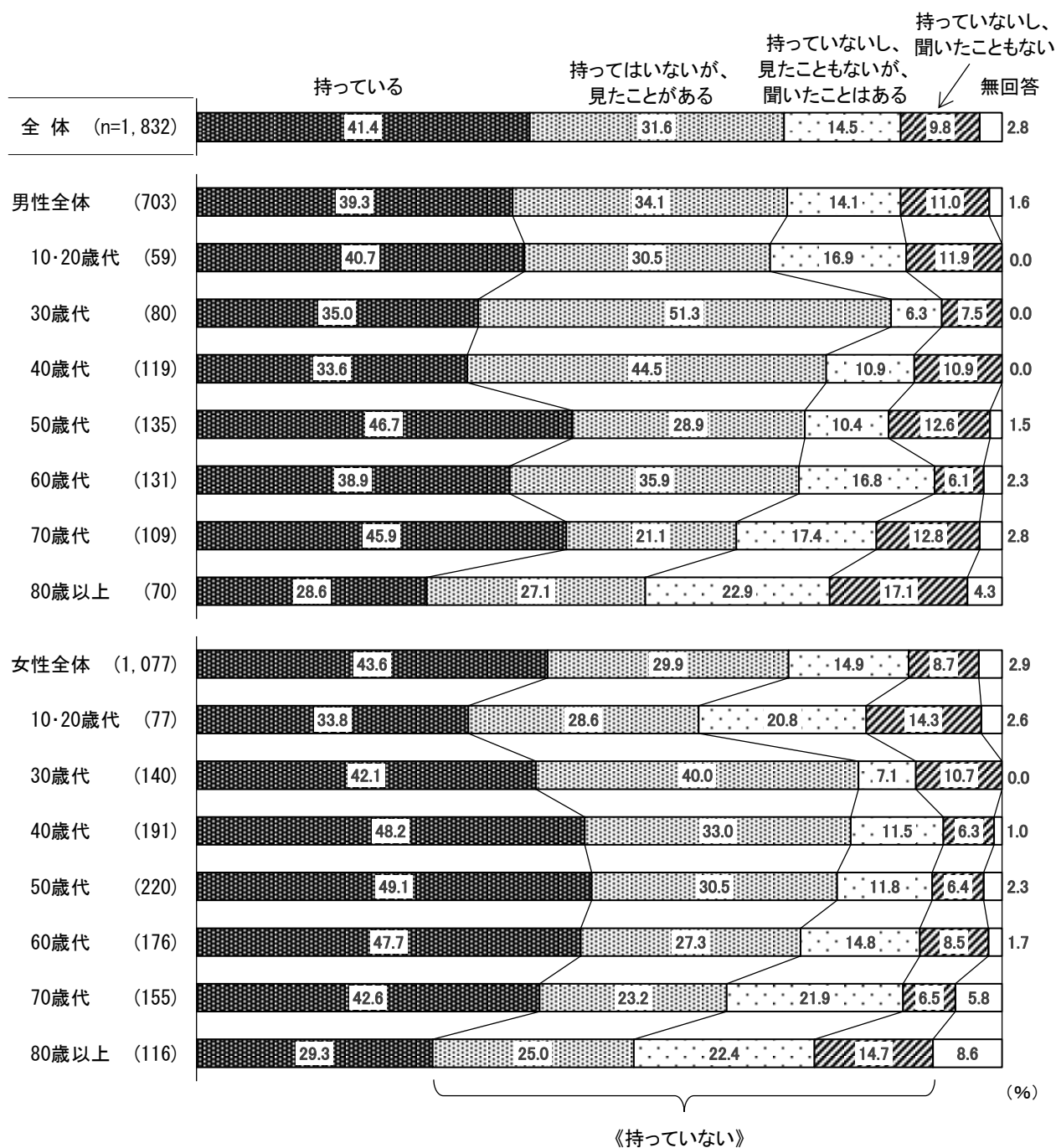
図 11-5-2 ハザードマップの認知度（地域別）



地域別にみると、「持っている」は砧南部でほぼ5割、玉川南部と玉川西部で5割近くとなっている。「持っていないし、見たこともないが、聞いたことはある」と「持っていないし、聞いたこともない」を合わせた《見たことがない》は北沢西部で3割を超え、北沢東部でほぼ3割となっている。

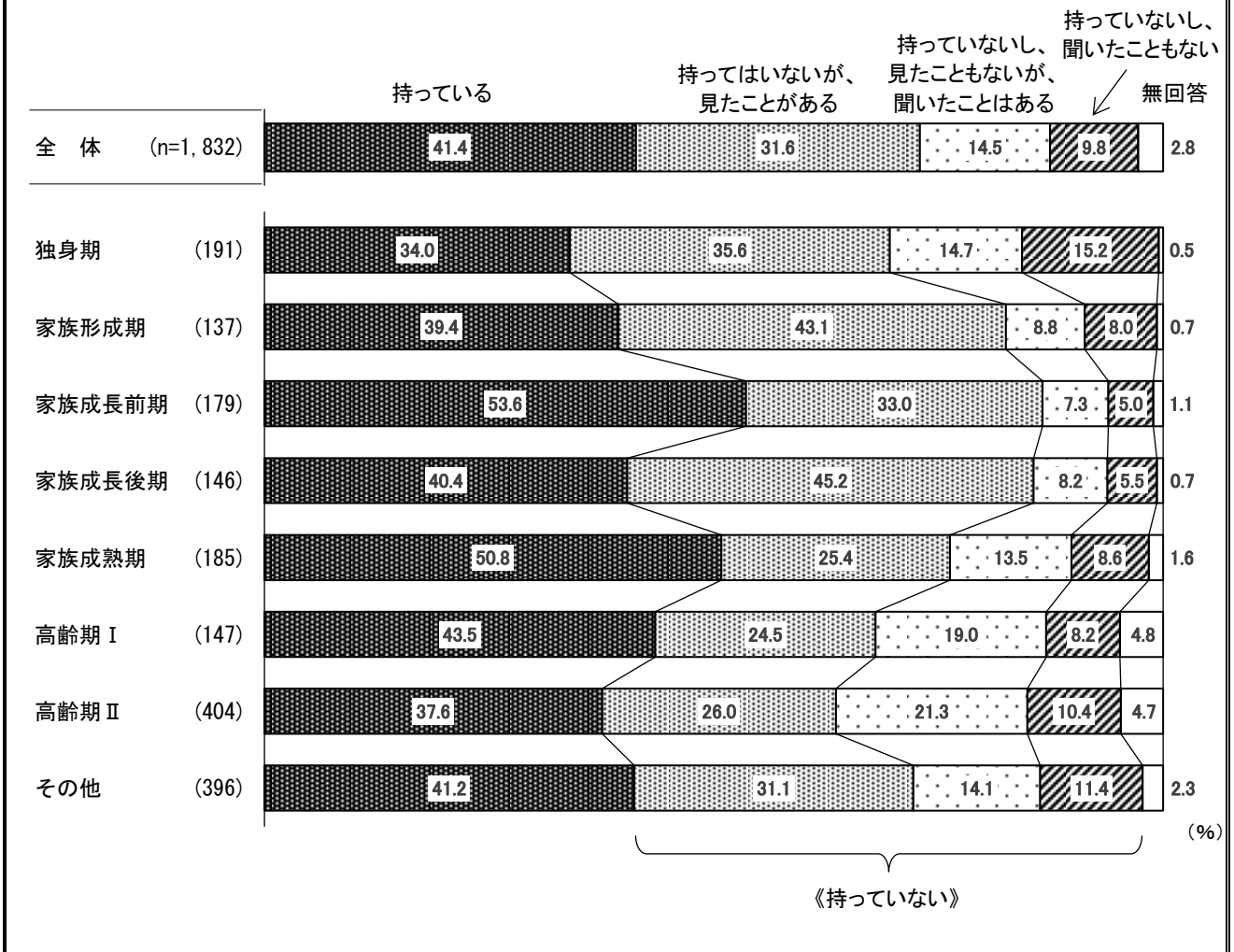
(図 11-5-2)

図 1 1 - 5 - 3 ハザードマップの認知度 (性・年齢別)



性・年齢別にみると、「持っている」は女性の50歳代でほぼ5割、男性の50歳代、女性の40歳代と60歳代で5割近くとなっている。《持っていない》は男性の80歳以上で7割近く、男性の30歳代と40歳代で6割半ばとなっている。「持っていないし、見たこともないが、聞いたことはある」と「持っていないし、聞いたこともない」を合わせた《見たことがない》は男性の80歳以上で4割、女性の80歳以上で4割近くとなっている。(図11-5-3)

図 1 1 - 5 - 4 ハザードマップの認知度 (ライフステージ別)



ライフステージ別にみると、「持っている」は家族成長前期で5割を超え、家族成熟期でほぼ5割となっている。《持っていない》は独身期で6割半ば、家族形成期で6割、家族成長後期で6割近くとなっている。「持っていないし、見たこともないが、聞いたことはある」と「持っていないし、聞いたこともない」を合わせた《見たことがない》は高齢期IIで3割を超え、独身期で3割となっている。(図 1 1 - 5 - 4)

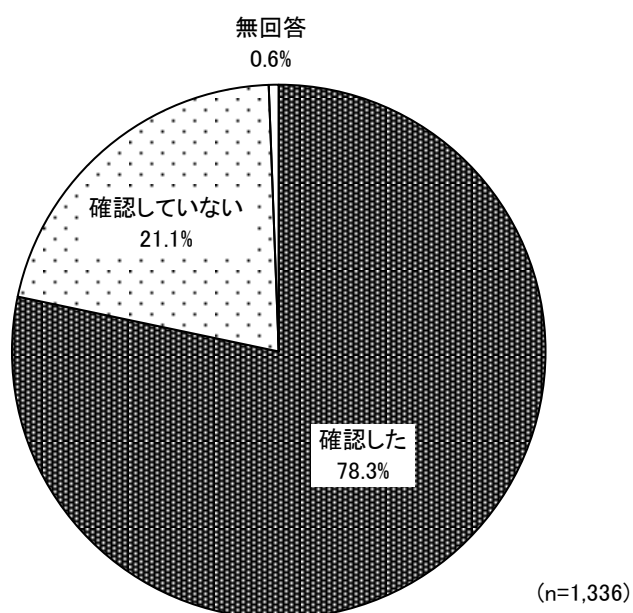
## (6) ハザードマップの活用状況

◎「世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ」を「確認した」が8割近く

(問27で「持っている」「持ってはいないが、見たことがある」と答えた方に)

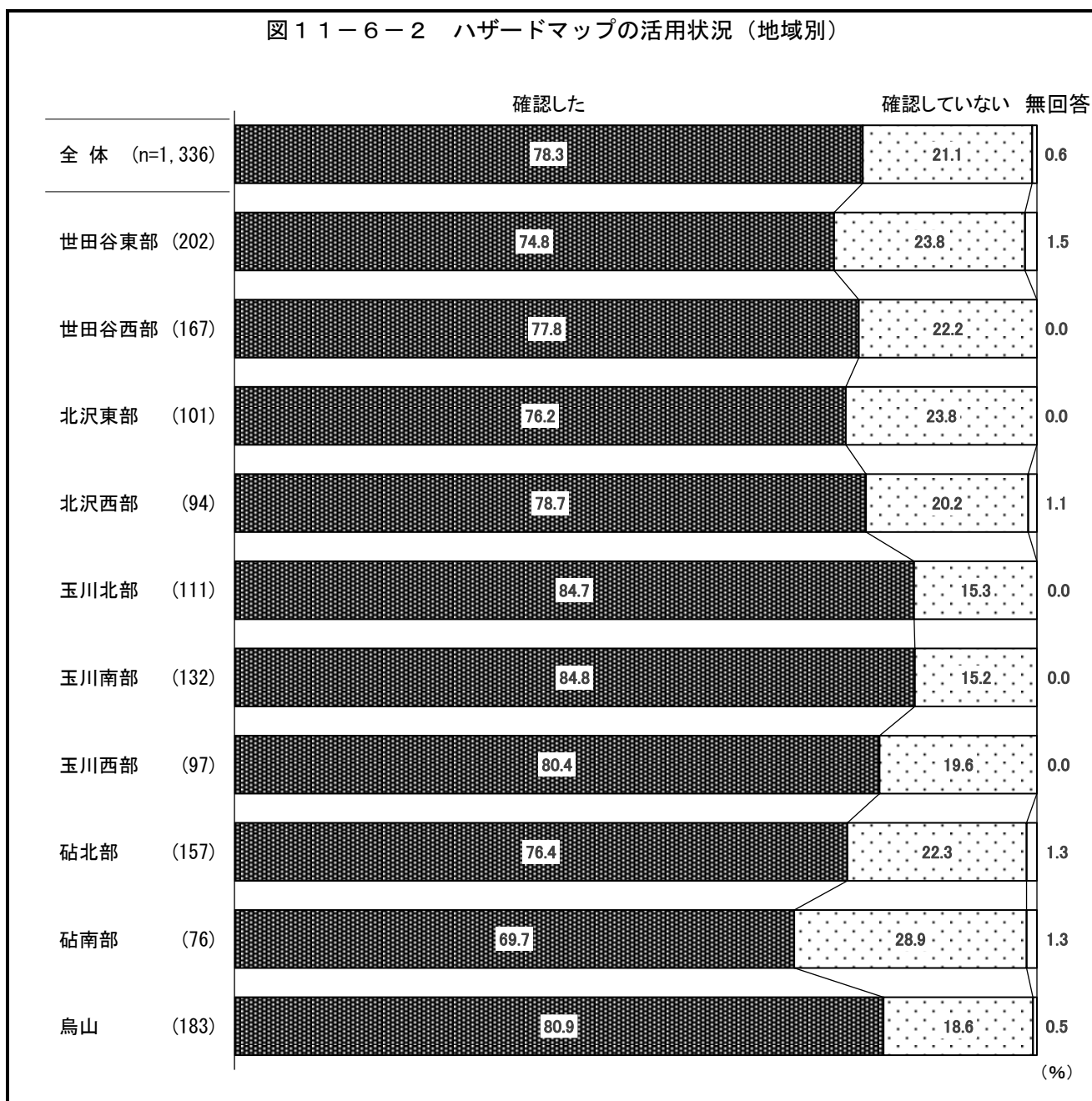
問27-1 あなたは、「世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ」で自宅の浸水リスク（浸水するかどうか、浸水する場合は浸水の深さ）を確認しましたか。（○は1つ）

図11-6-1



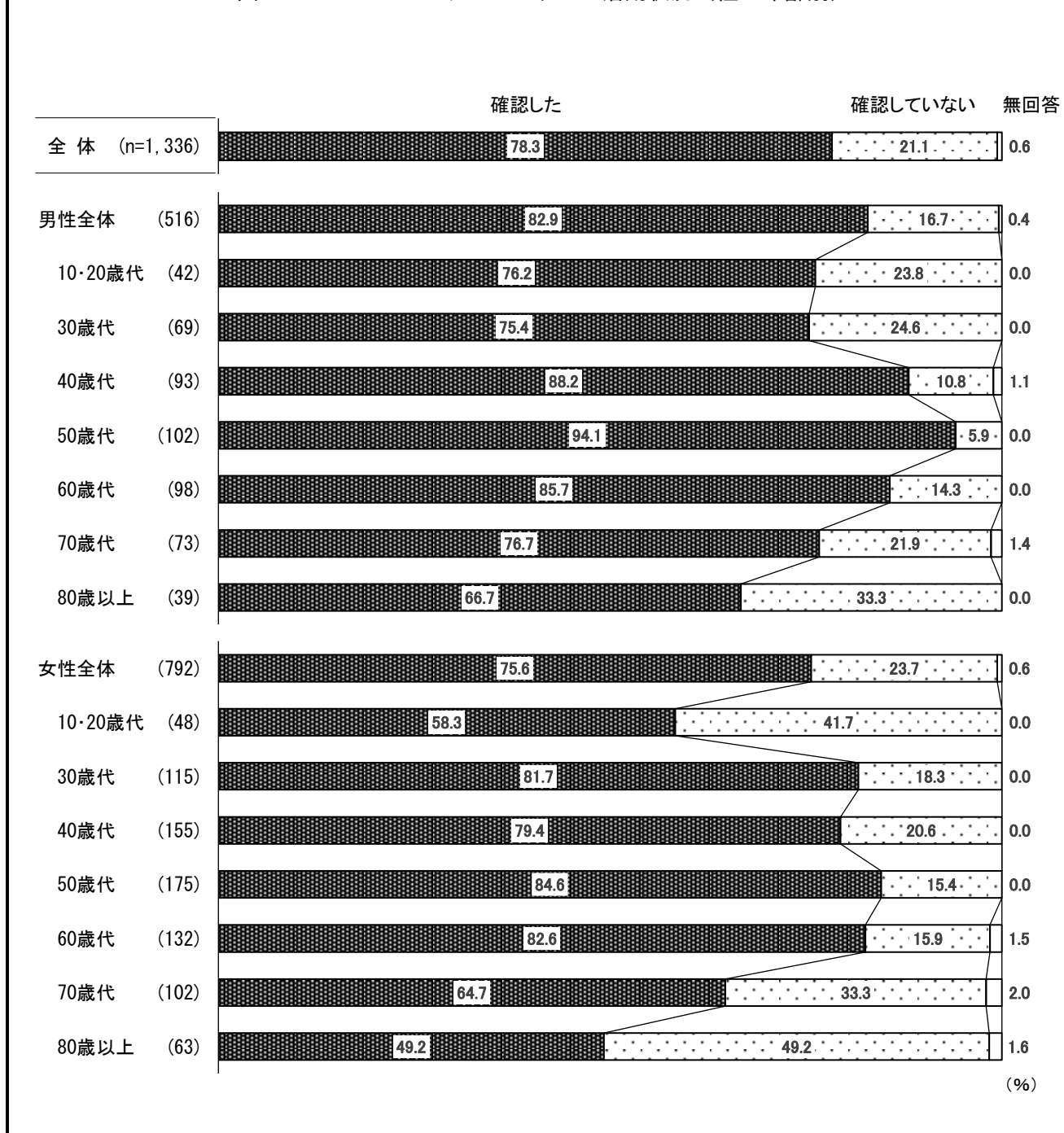
ハザードマップを「持っている」または「持ってはいないが、見たことがある」と答えた方（1,336人）に、ハザードマップの活用状況を聞いたところ、「確認した」（78.3%）が8割近くとなっている。「確認していない」（21.1%）は2割を超えている。（図11-6-1）

図 1 1 - 6 - 2 ハザードマップの活用状況 (地域別)



地域別にみると、「確認した」は玉川南部と玉川北部で8割半ば、烏山でほぼ8割、玉川西部で8割となっている。(図 1 1 - 6 - 2)

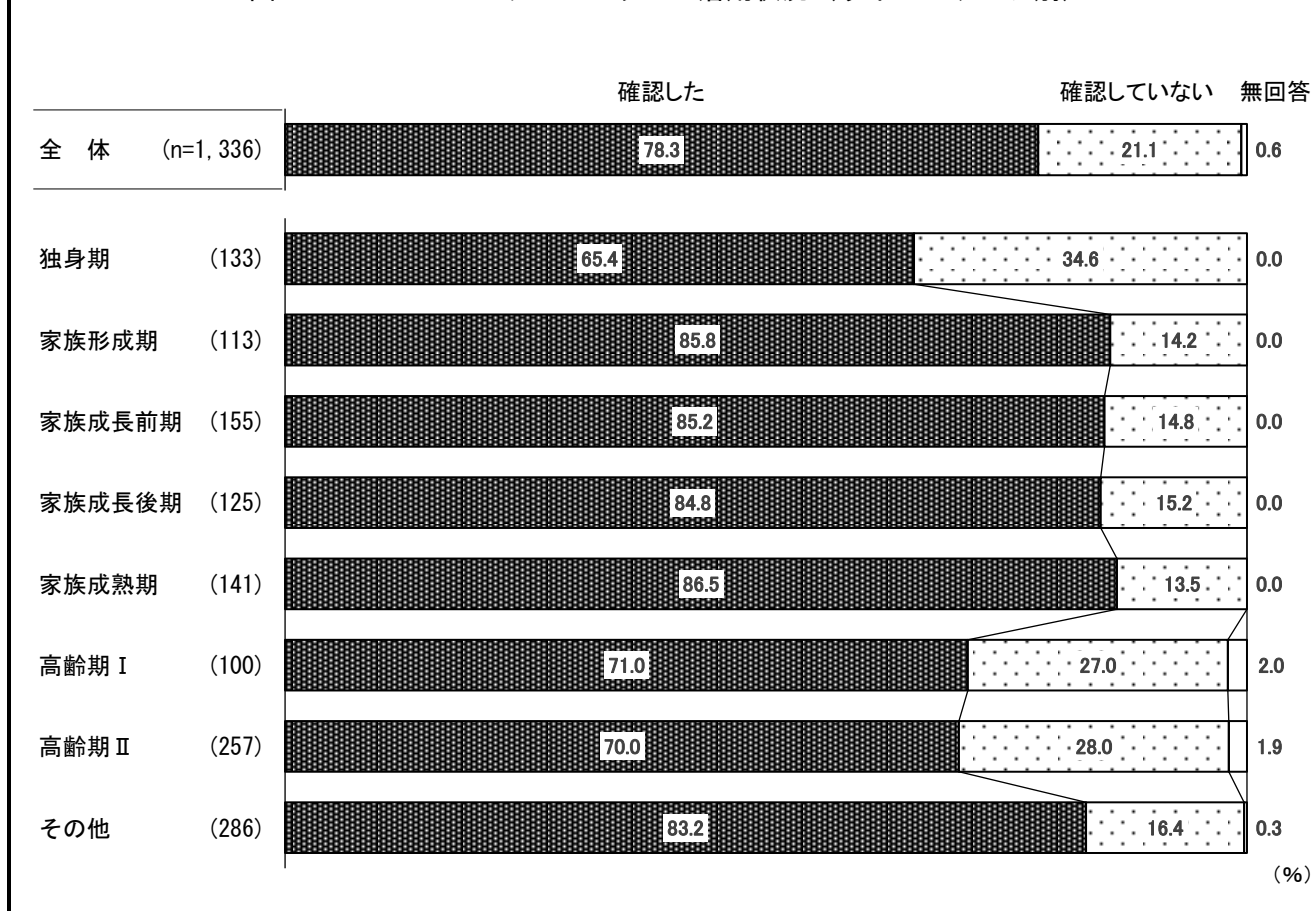
図 1 1 - 6 - 3 ハザードマップの活用状況（性・年齢別）



性・年齢別にみると、「確認した」は男性の50歳代で9割半ば、男性の40歳代で9割近くとなっている。一方、「確認していない」は女性の80歳以上でほぼ5割、女性の10・20歳代で4割を超えている。(図11-6-3)



図 1 1 - 6 - 4 ハザードマップの活用状況 (ライフステージ別)



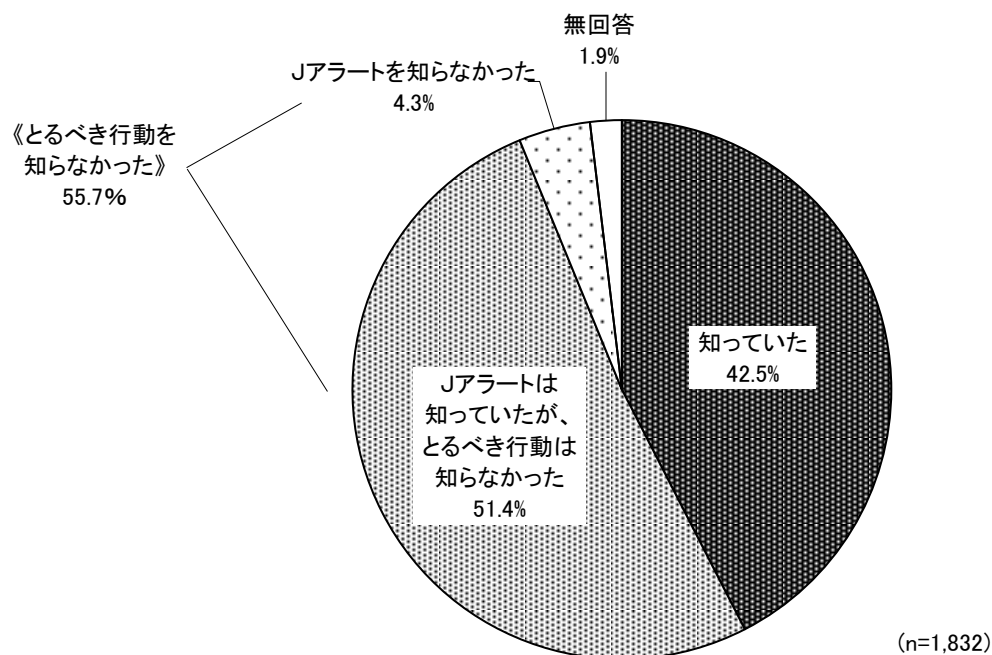
ライフステージ別にみると、「確認した」は家族成熟期で9割近く、家族形成期、家族成長前期、家族成長後期で8割半ばとなっている。「確認していない」は独身期で3割半ば、高齢期 I と高齢期 II で3割近くとなっている。(図 1 1 - 6 - 4)

## (7) Jアラート発信時の避難行動の認知度

◎ 《とるべき行動を知らなかった》が5割半ば

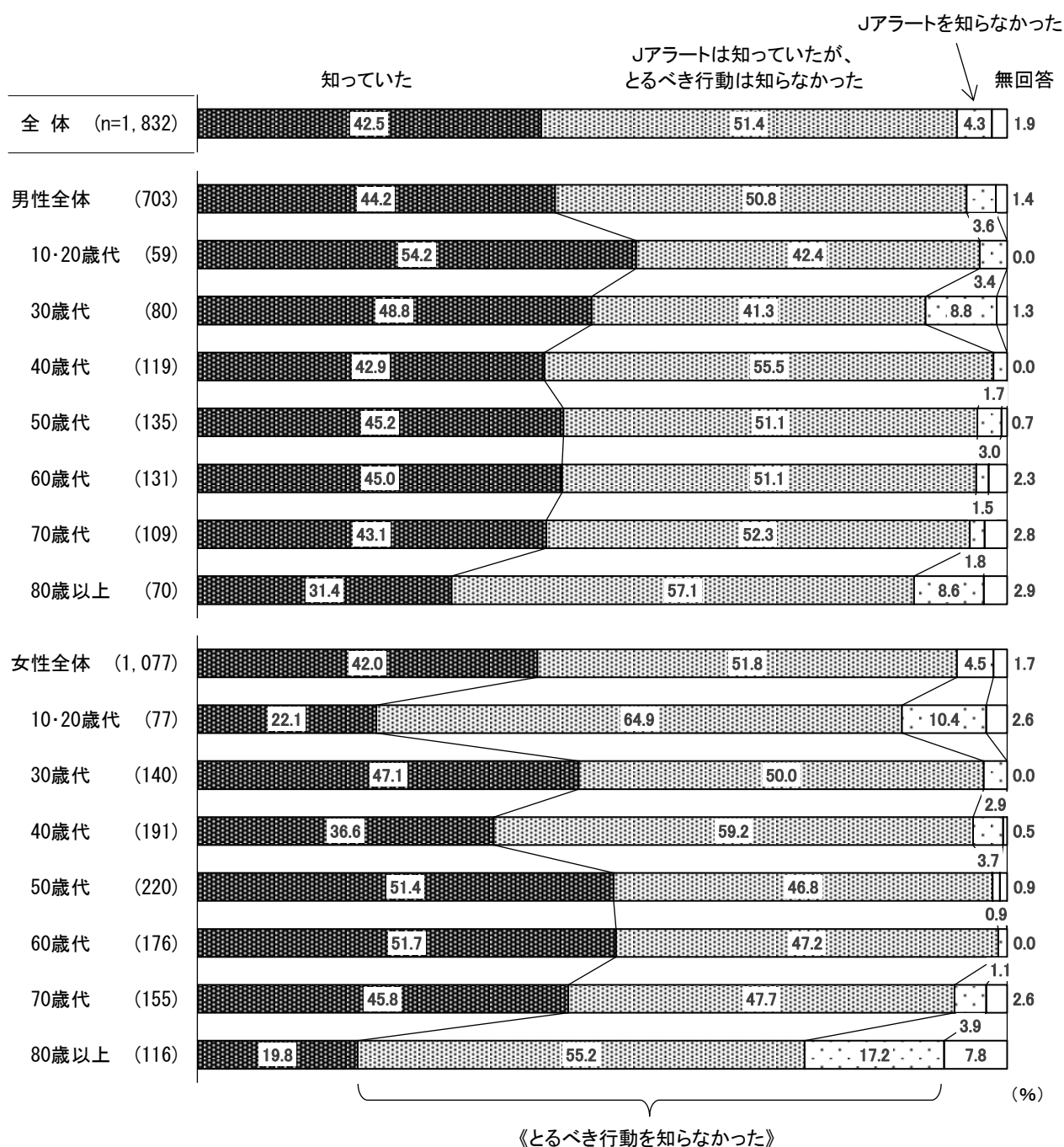
問28 あなたは、Jアラートが発信されたときにとるべき行動を知っていましたか。(○は1つ)

図11-7-1



Jアラート発信時にとるべき行動の認知度を聞いたところ、「Jアラートは知っていたが、とるべき行動は知らなかった」(51.4%)が5割を超えて最も高く、「Jアラートを知らなかった」(4.3%)と合わせた《とるべき行動を知らなかった》(55.7%)が5割半ばとなっている。一方、「知っていた」(42.5%)は4割を超えている。(図11-7-1)

図 1 1 - 7 - 2 Jアラート発信時の避難行動の認知度（性・年齢別）

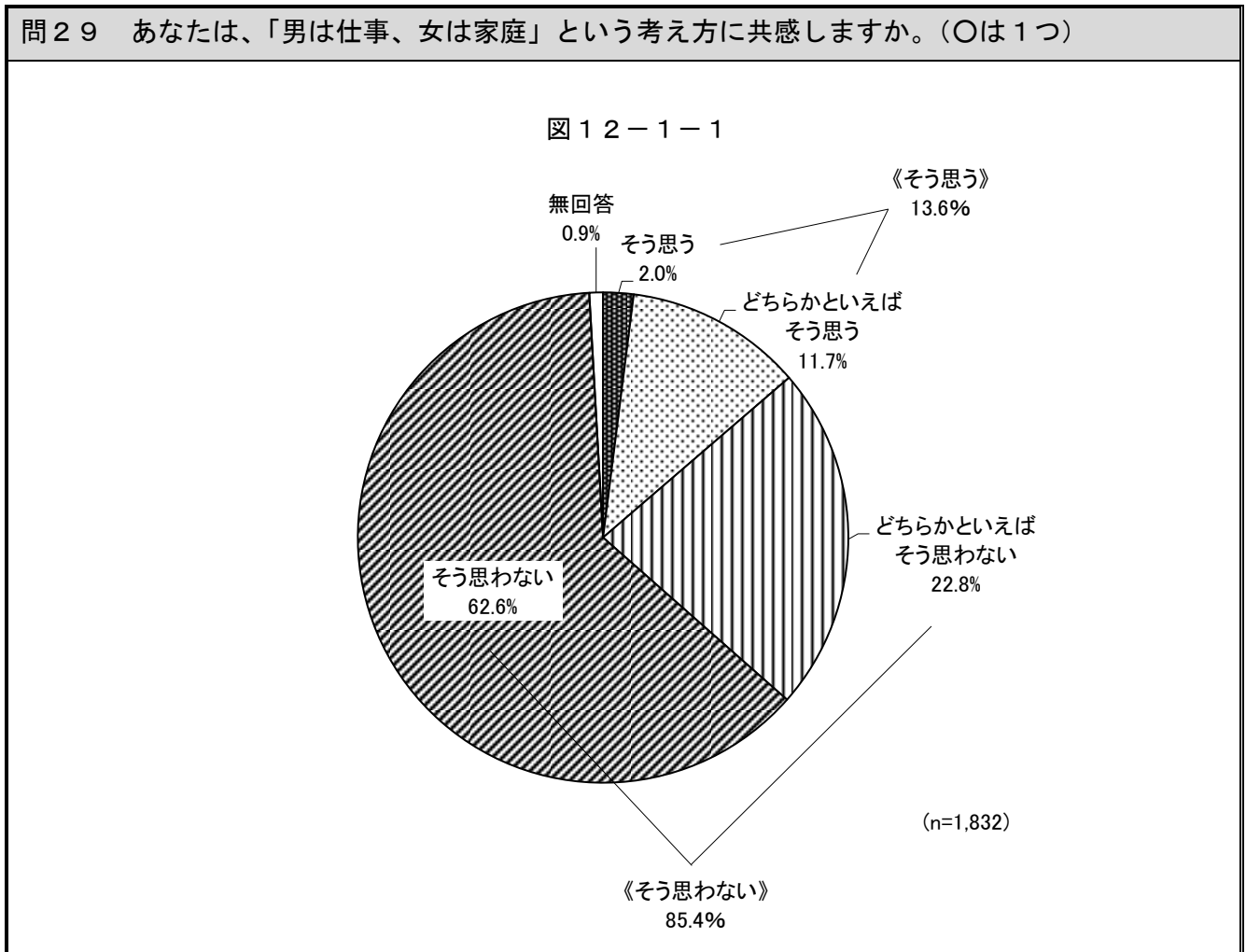


性・年齢別にみると、「知っていた」は男性の10・20歳代で5割半ば、女性の50歳代と60歳代で5割を超えている。《とるべき行動を知らなかった》は女性の10・20歳代で7割半ば、女性の80歳以上で7割を超え、男性の80歳以上で6割半ばとなっている。女性の80歳以上は「Jアラートを知らなかった」が2割近くとなっている。(図11-7-2)

## 12. 男女共同参画の推進

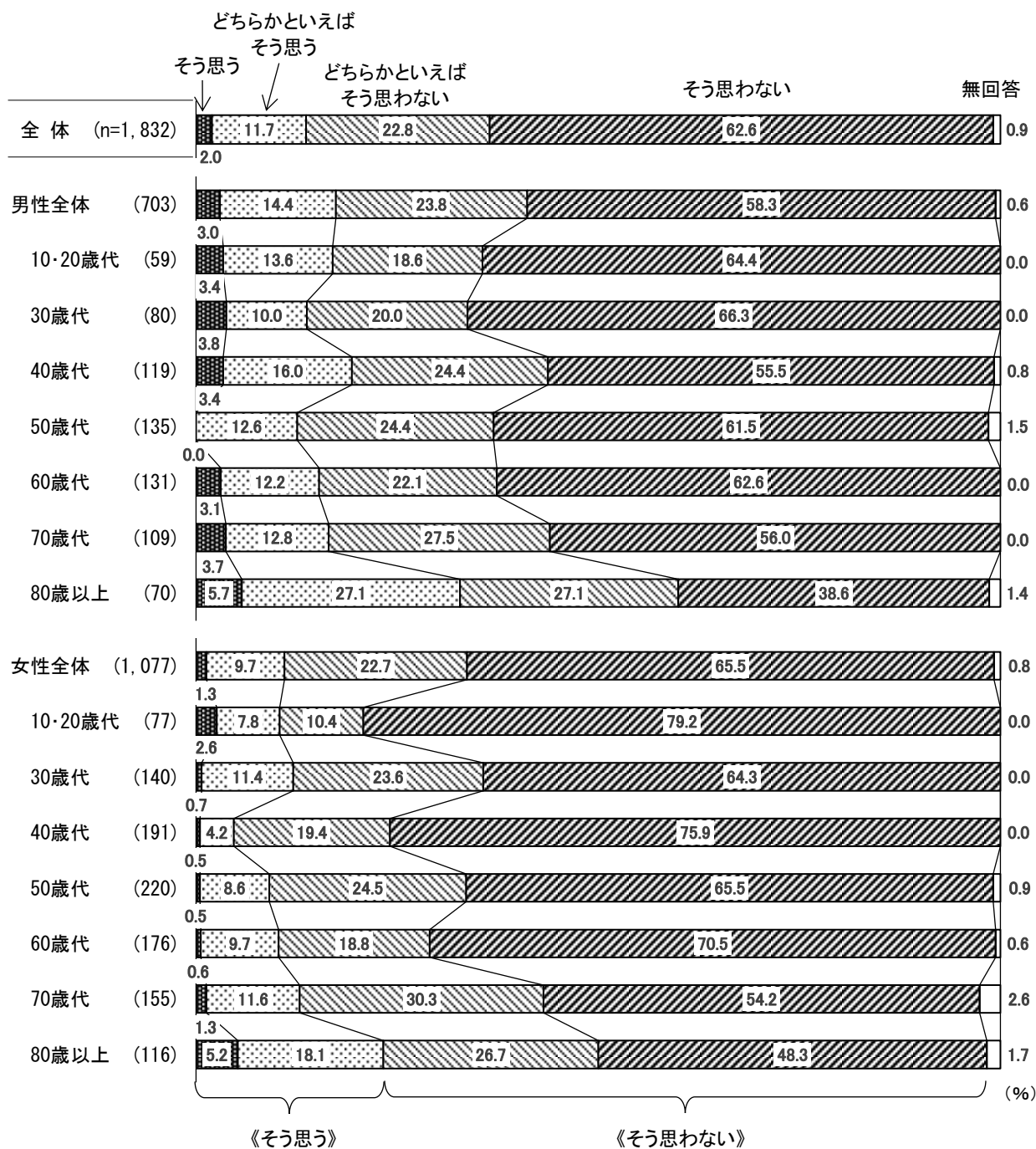
### (1) 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

◎ 《そう思わない》が8割半ば



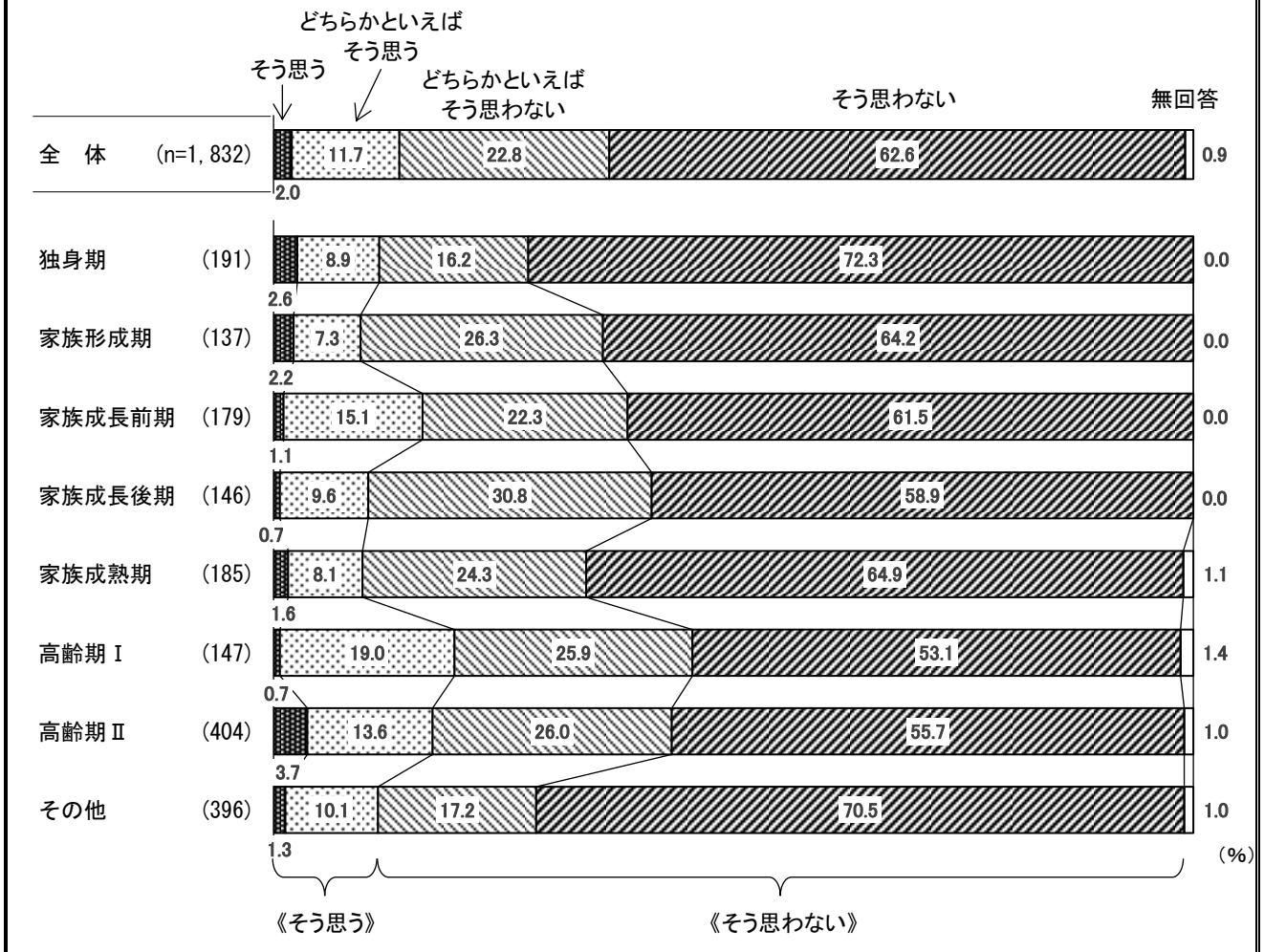
「男は仕事、女は家庭」という考え方について共感するか聞いたところ、「そう思わない」(62.6%)が6割を超えて最も高く、「どちらかといえばそう思わない」(22.8%)と合わせた《そう思わない》(85.4%)が8割半ばとなっている。「どちらかといえばそう思う」(11.7%)と「そう思う」(2.0%)を合わせた《そう思う》(13.6%)は1割を超えている。(図12-1-1)

図12-1-2 「男は仕事、女は家庭」という考え方について（性・年齢別）



性・年齢別にみると、《そう思う》は男女ともに80歳以上が高く、男性の80歳以上で3割を超え、女性の80歳以上で2割を超えている。一方、《そう思わない》は女性の40歳代で9割半ば、女性の10・20歳代と50歳代で9割、女性の60歳代でほぼ9割となっている。（図12-1-2）

図 1 2 - 1 - 3 「男は仕事、女は家庭」という考え方について (ライフステージ別)



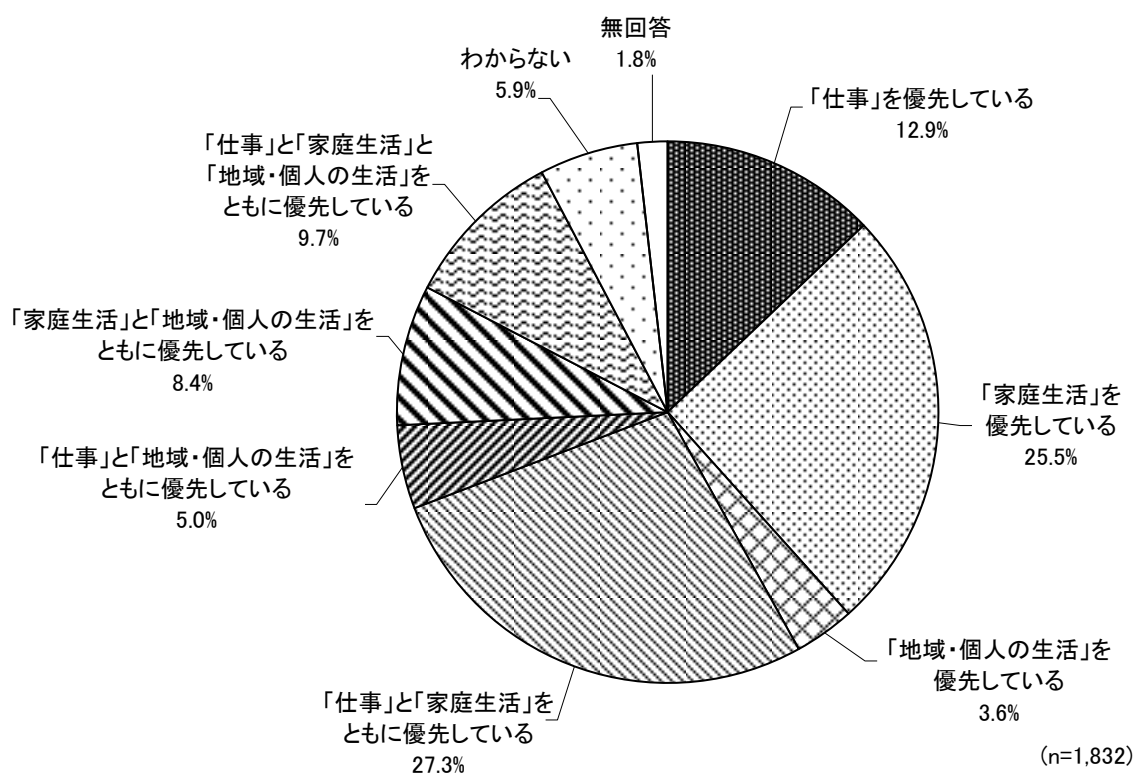
ライフステージ別にみると、《そう思う》は高齢期 I で 2 割となっている。《そう思わない》は家族形成期、家族成長後期、家族成熟期で 9 割前後となっている。(図 1 2 - 1 - 3)

## (2) 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度

### ◎ 「「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」が3割近く

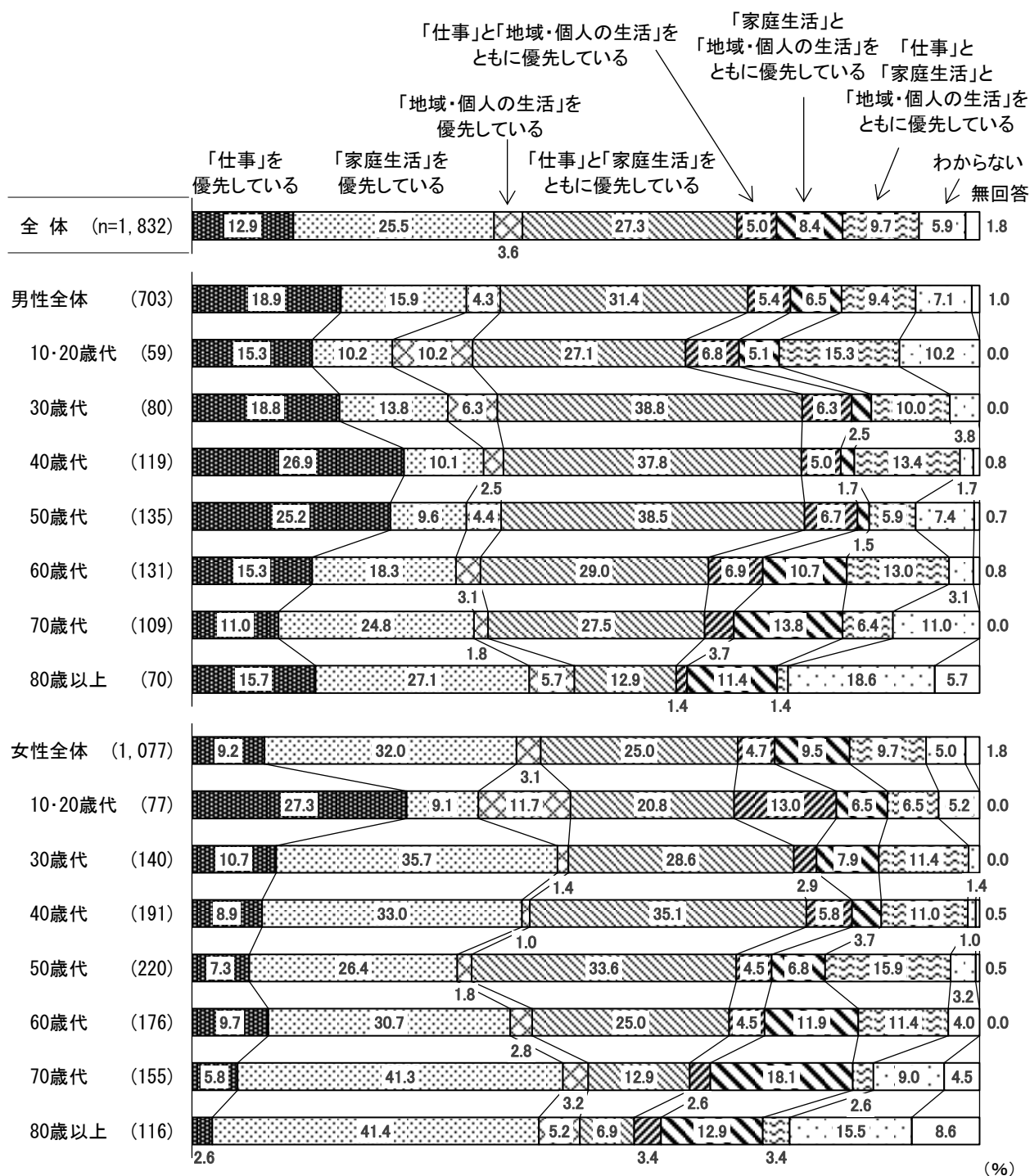
問30 あなたの生活の中で「仕事」「家庭生活（家族と過ごすこと、家事、育児、介護など）」  
「地域・個人の生活（地域・社会活動、学習・研修、趣味、娯楽、スポーツなど）」の優先度についておたずねします。あなたの現状に近いものはどれですか。（○は1つ）

図12-2-1



「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度を聞いたところ、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」（27.3%）が3割近く、「「家庭生活」を優先している」（25.5%）が2割半ばとなっている。以下、「「仕事」を優先している」（12.9%）、「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している」（9.7%）、「「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している」（8.4%）などと続く。（図12-2-1）

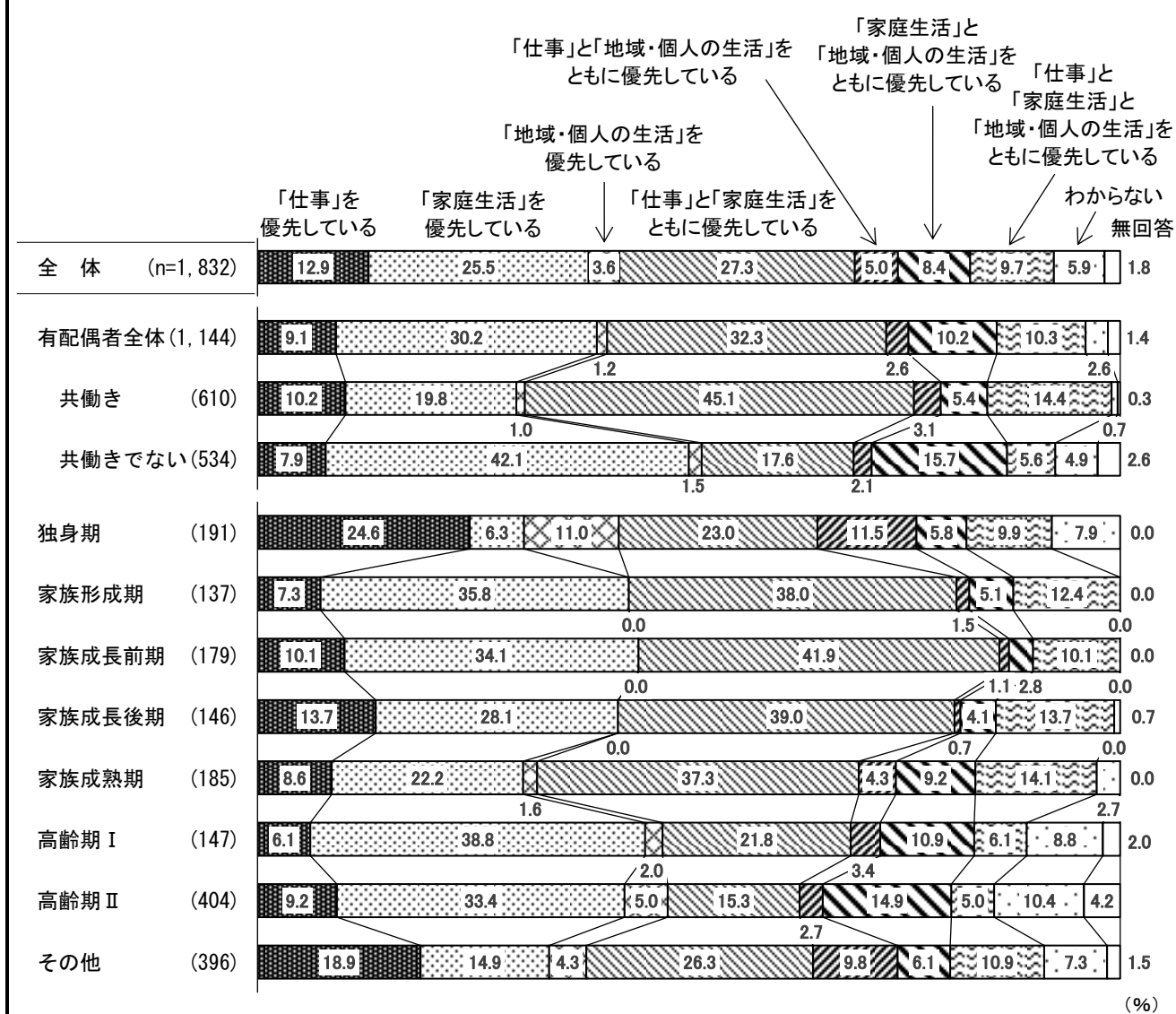
図 1 2 - 2 - 2 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度（性・年齢別）



性・年齢別にみると、「仕事」と「家庭生活」をともに優先しているは男性の30歳代～50歳代で4割近くとなっている。「家庭生活」を優先しているは30歳代以上の各年代で男性より女性の方が高く、「仕事」を優先しているは30歳代以上の各年代で女性より男性の方が高くなっている。（図12-2-2）



図 1 2 - 2 - 3 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度  
(共働きの有無別・ライフステージ別)



共働きの有無別にみると、共働き世帯は「「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」が4割半ばで最も高く、共働きでない世帯は「「家庭生活」を優先している」が4割を超えて最も高くなっている。

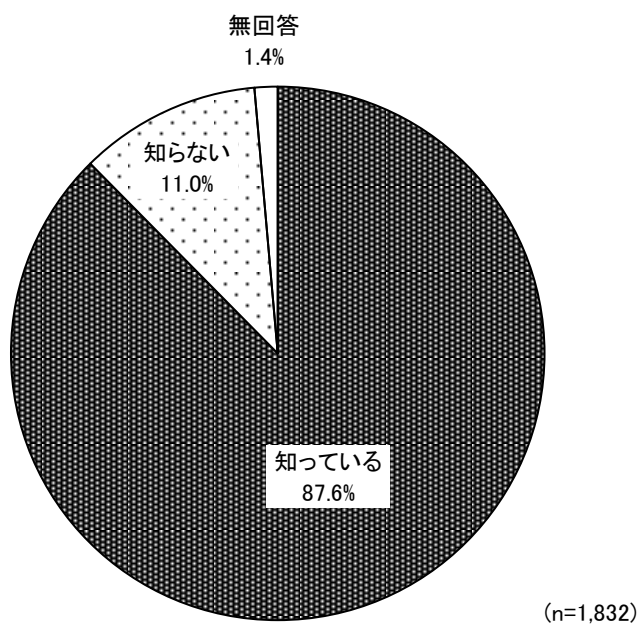
ライフステージ別にみると、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」は家族成長前期で4割を超え、家族成長後期でほぼ4割となっている。「「家庭生活」を優先している」は高齢期 I で4割近く、家族形成期と家族成長前期で3割半ば、「「仕事」を優先している」は独身期で2割半ばとなっている。(図 1 2 - 2 - 3)

### (3) 性的マイノリティという言葉の認知度

◎「知っている」が9割近く

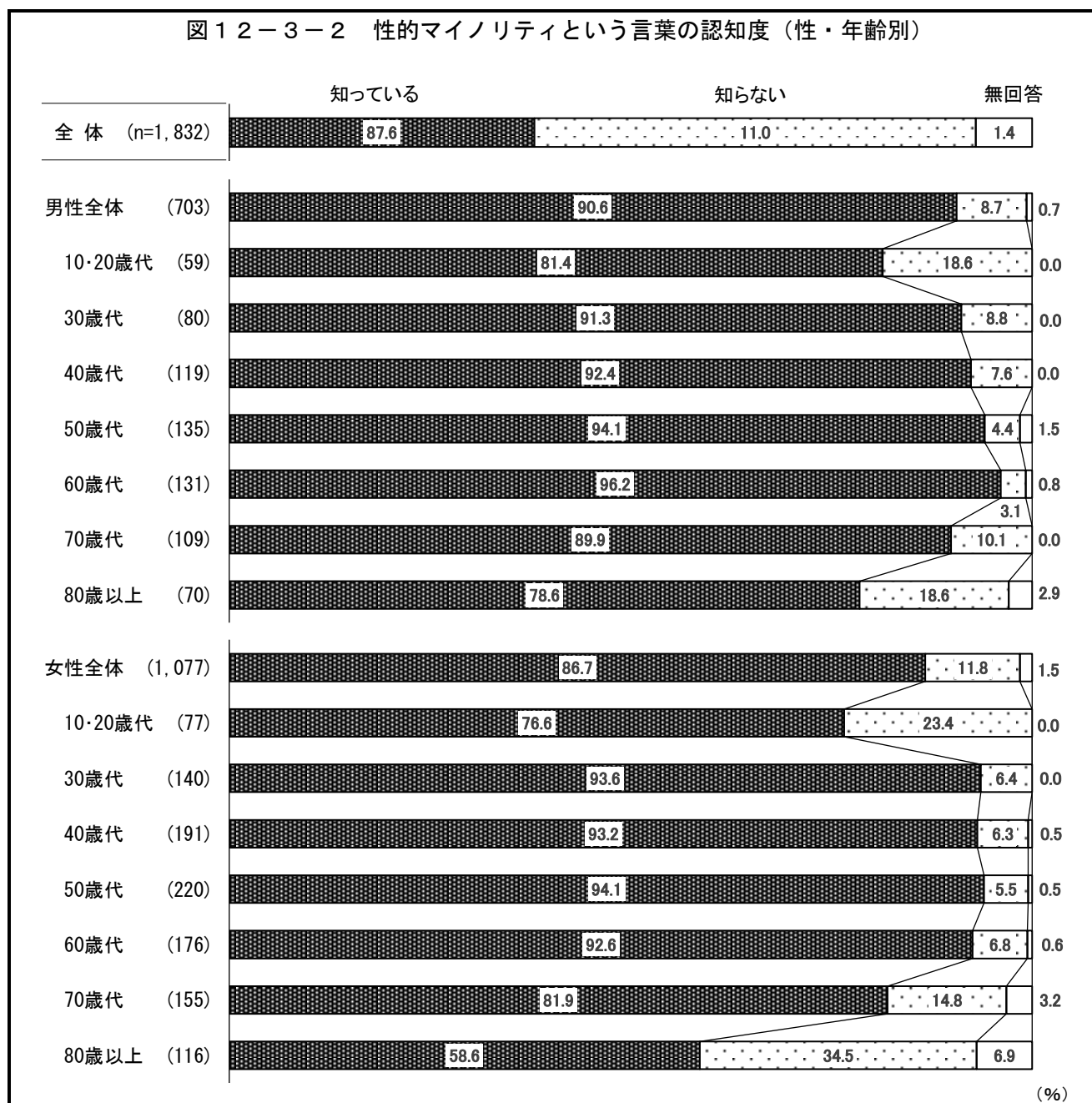
問3 1 あなたは、性的マイノリティという言葉を知っていますか。(○は1つ)

図1 2-3-1



性的マイノリティという言葉を知っているか聞いたところ、「知っている」(87.6%)が9割近く、「知らない」(11.0%)が1割を超えている。(図1 2-3-1)

図12-3-2 性的マイノリティという言葉の認知度（性・年齢別）



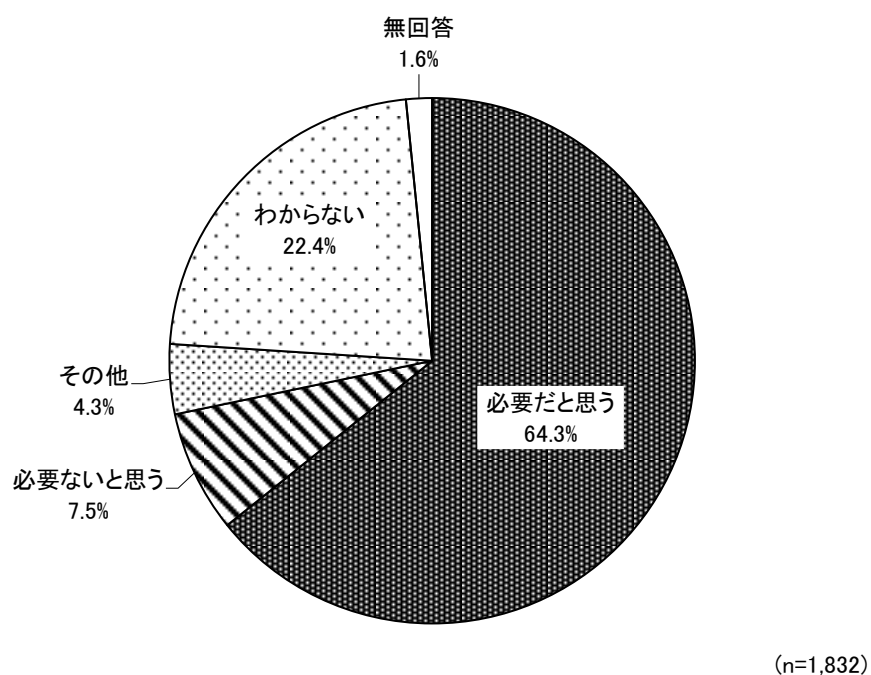
性・年齢別にみると、「知っている」は男女とも30歳代～60歳代で9割台となっている。「知らない」は女性の80歳以上で3割半ばとなっている。（図12-3-2）

#### (4) 性的マイノリティの人権を守る啓発や施策の必要性

##### ◎「必要だと思う」が6割半ば

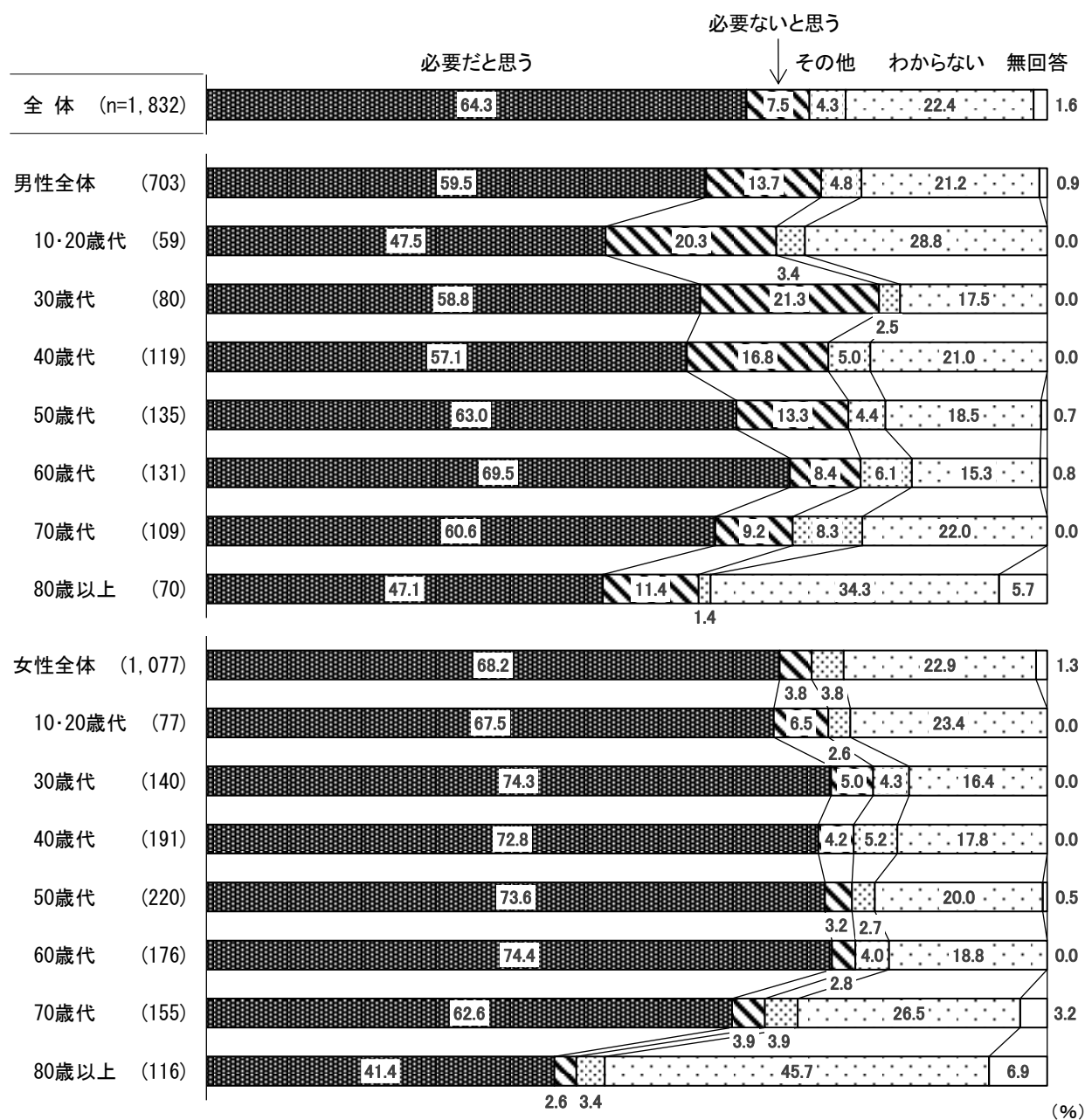
問32 あなたは、性的マイノリティの方々の人権を守る啓発や施策について、必要だと思いますか。(○は1つ)

図12-4-1



性的マイノリティの方々の人権を守る啓発や施策の必要性を聞いたところ、「必要だと思う」(64.3%)が6割半ばで最も高い。以下、「わからない」(22.4%)、「必要ないと思う」(7.5%)、「その他」(4.3%)と続く。(図12-4-1)

図 1 2 - 4 - 2 性的マイノリティの人権を守る啓発や施策の必要性 (性・年齢別)



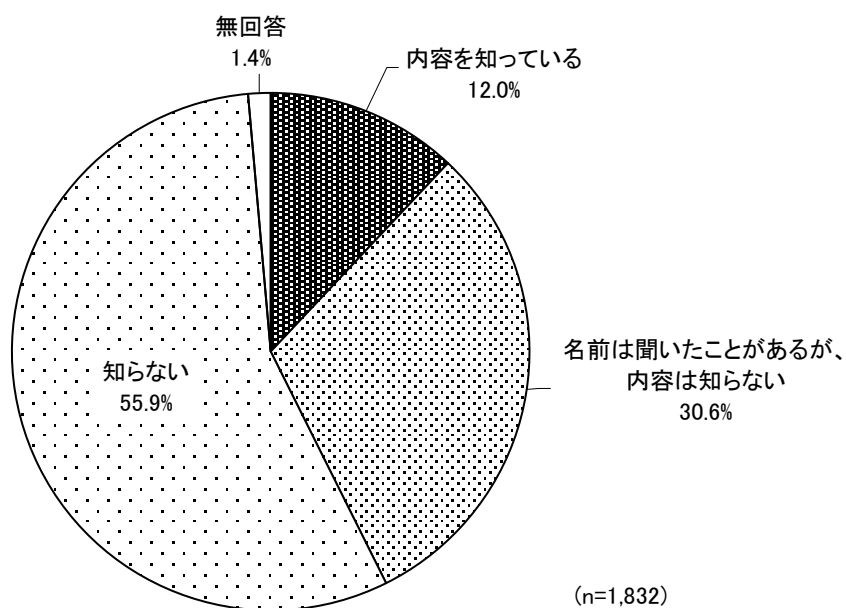
性・年齢別にみると、「必要だと思う」は女性の30歳代と60歳代で7割半ば、女性の40歳代と50歳代で7割を超え、男性の60歳代で7割となっている。「必要ないと思う」は男性の30歳代で2割を超え、男性の10・20歳代で2割となっている。(図12-4-2)

(5) 「世田谷区パートナーシップの宣誓の取組み」の認知度

◎ 「知らない」が5割半ば

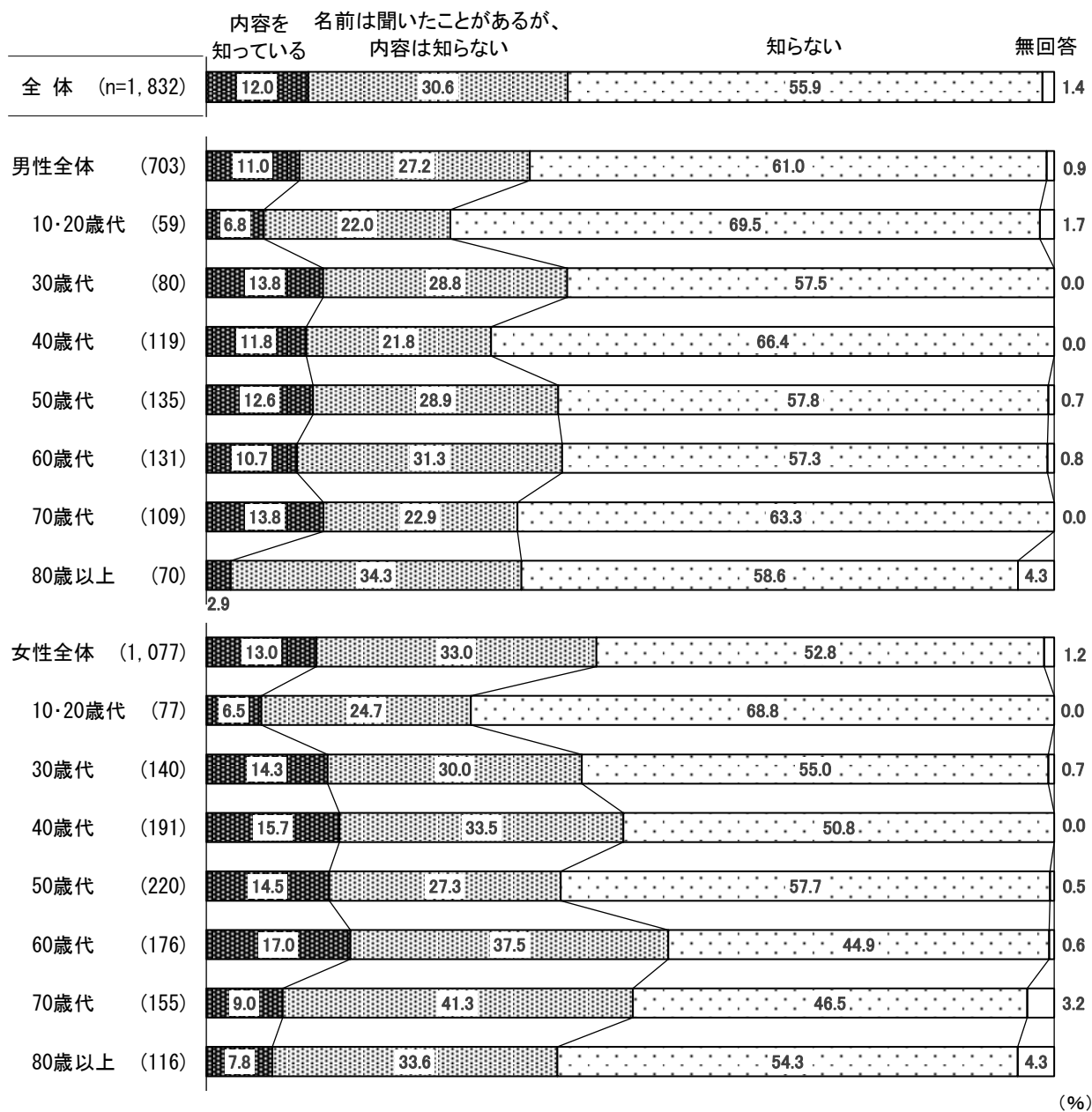
問33 あなたは、「世田谷区パートナーシップの宣誓の取組み」を知っていますか。(○は1つ)

図12-5-1



「世田谷区パートナーシップの宣誓の取組み」を知っているか聞いたところ、「知らない」(55.9%)が5割半ばで最も高い。「名前はあるが内容は知らない」(30.6%)がほぼ3割、「内容を知っている」(12.0%)が1割を超えている。(図12-5-1)

図 1 2 - 5 - 2 「世田谷区パートナーシップの宣誓の取組み」の認知度（性・年齢別）



性・年齢別にみると、「内容を知っている」は女性の60歳代で2割近くとなっている。「知らない」は男性の10・20歳代で7割、女性の10・20歳代で7割近くとなっている。（図12-5-2）

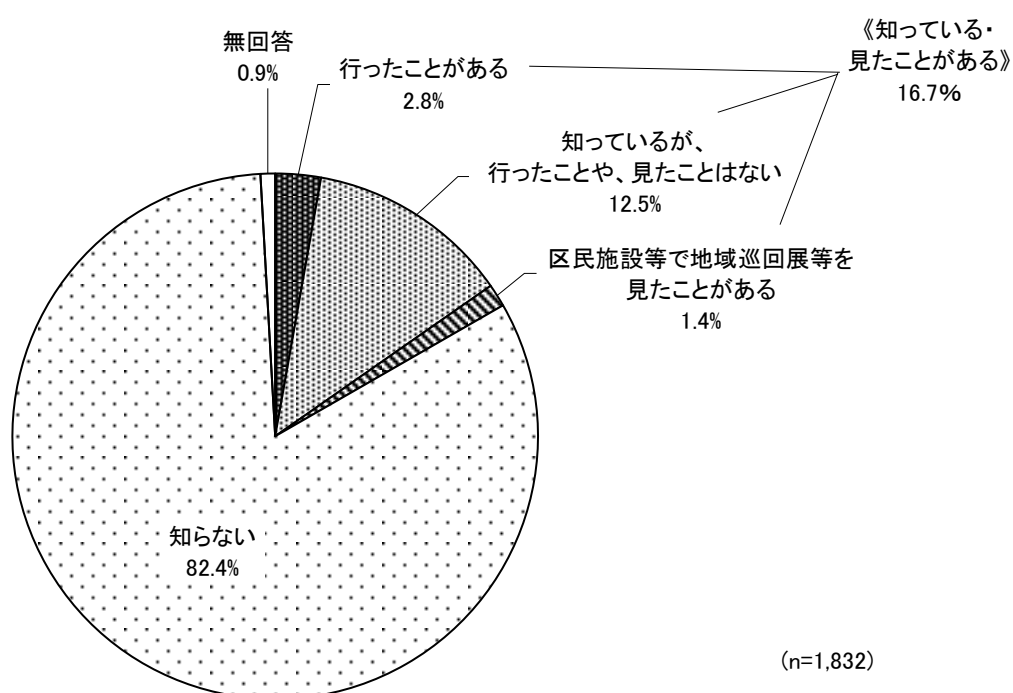
### 13. 平和資料館

#### (1) 区立平和資料館の認知度

◎「知らない」が8割を超える

問34 あなたは、世田谷区立平和資料館（愛称：せたがや未来の平和館）を知っていますか。  
（○は1つ）

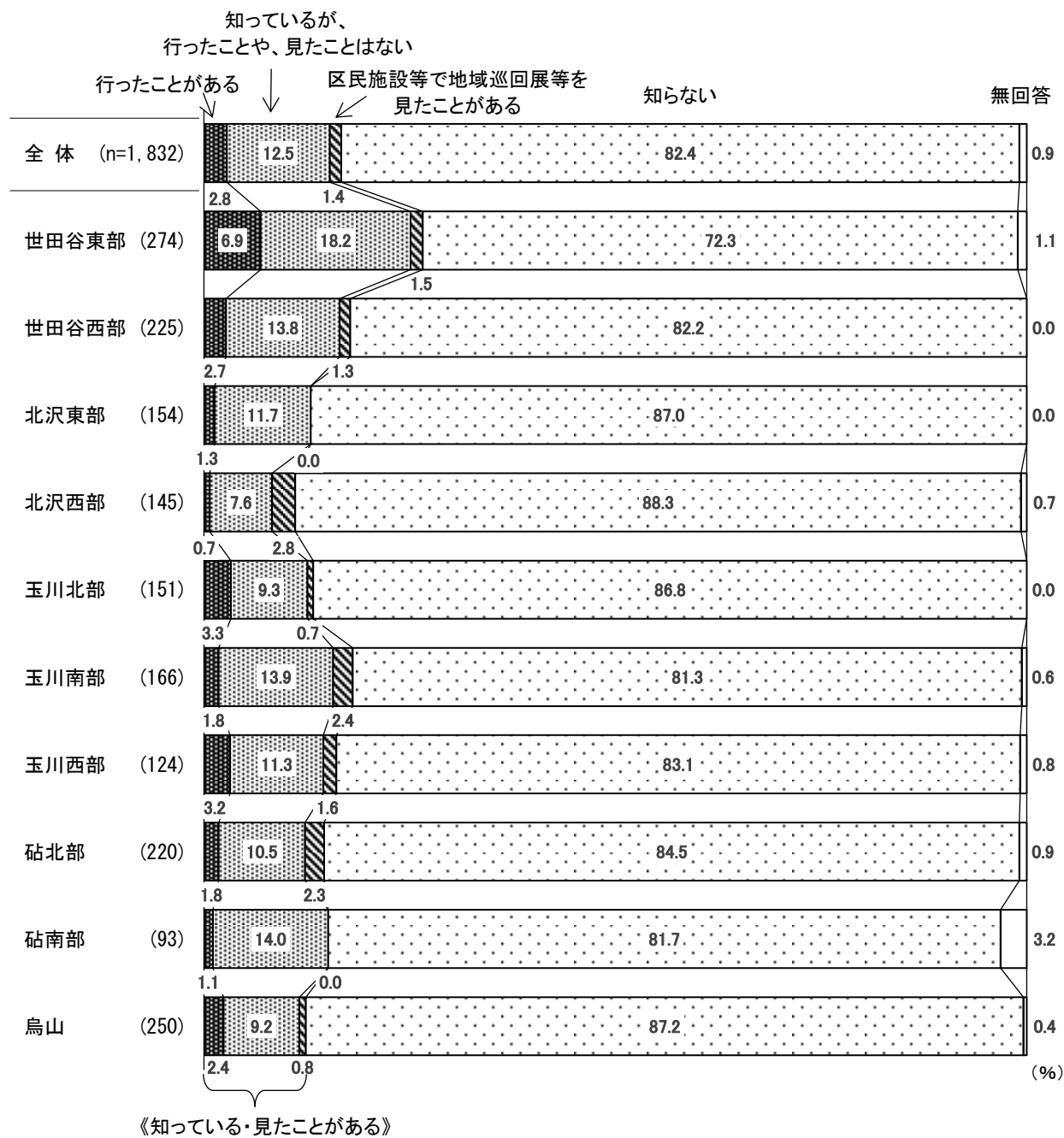
図13-1-1



世田谷区立平和資料館を知っているか聞いたところ、「知らない」（82.4%）が8割を超えている。「知っているが、行ったことや、見たことはない」（12.5%）が1割を超え、「行ったことがある」（2.8%）、「区民施設等で地域巡回展等を見たことがある」（1.4%）を合わせた《知っている・見たことがある》（16.7%）が2割近くとなっている。（図13-1-1）

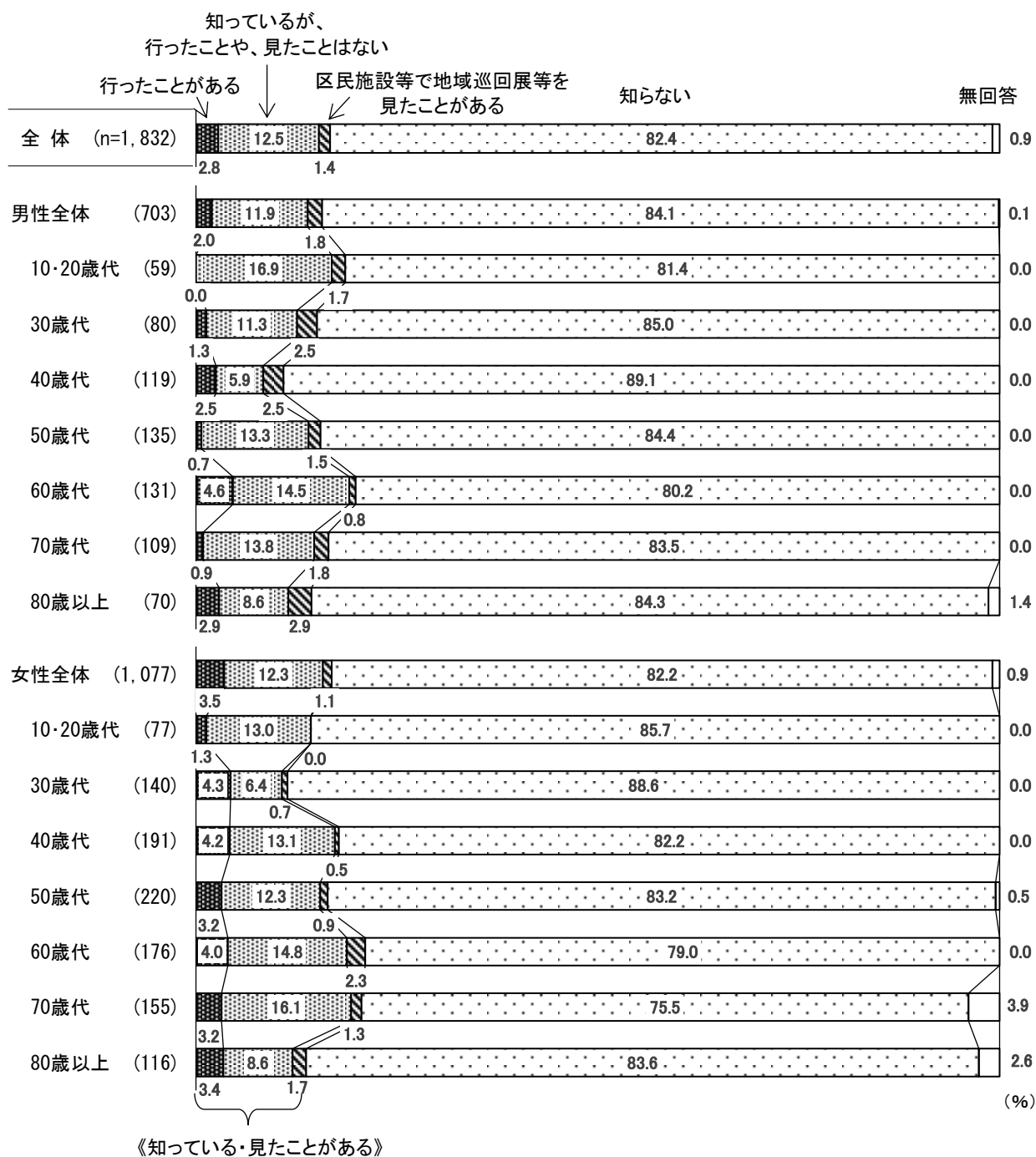


図 1 3 - 1 - 2 区立平和資料館の認知度（地域別）



地域別にみると、世田谷東部は「知っているが、行ったことや、見たことはない」が2割近く、《知っている・見たことがある》が3割近くで、他の地域より高くなっている。（図 1 3 - 1 - 2）

図 1 3 - 1 - 3 区立平和資料館の認知度（性・年齢別）



性・年齢別にみると、「知っているが、行ったことや、見たことはない」は男性の10・20歳代で2割近く、《知っている・見たことがある》は女性の60歳代で2割を超え、女性の70歳代ではほぼ2割、男性の60歳代で2割となっている。「知らない」は男性の40歳代でほぼ9割、女性の30歳代で9割近くとなっている。（図13-1-3）

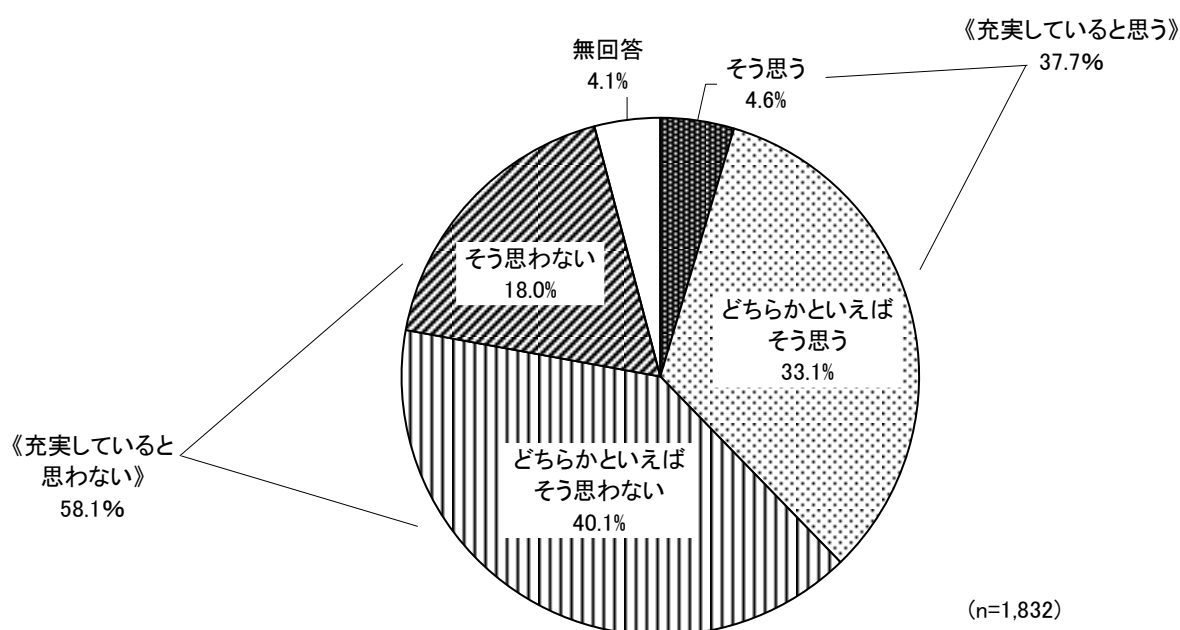
## 14. 多文化共生

### (1) 区の多文化共生社会の実現に向けた施策の充実度

#### ◎ 《充実していると思わない》が6割近く

問35 あなたは、「外国人と日本人が共に暮らす」という視点からみて、区の多文化共生社会の実現に向けた施策が充実していると思いますか。(○は1つ)

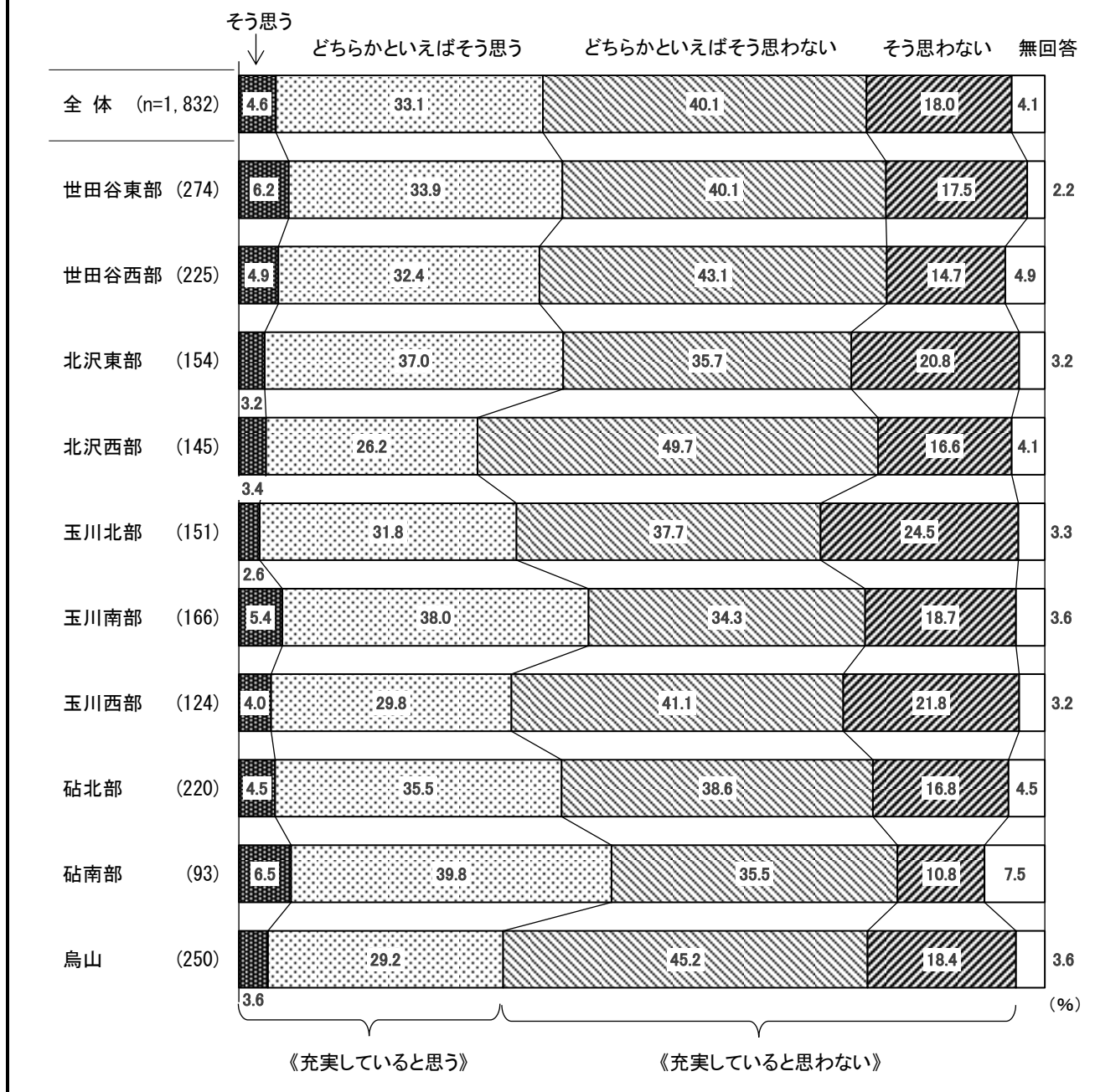
図14-1-1



区の多文化共生社会の実現に向けた施策の充実度を聞いたところ、「どちらかといえばそう思わない」(40.1%)が4割で最も高く、「そう思わない」(18.0%)と合わせた《充実していると思わない》(58.1%)が6割近くとなっている。「どちらかといえばそう思う」(33.1%)と「そう思う」(4.6%)を合わせた《充実していると思う》(37.7%)は4割近くにとどまっている。

(図14-1-1)

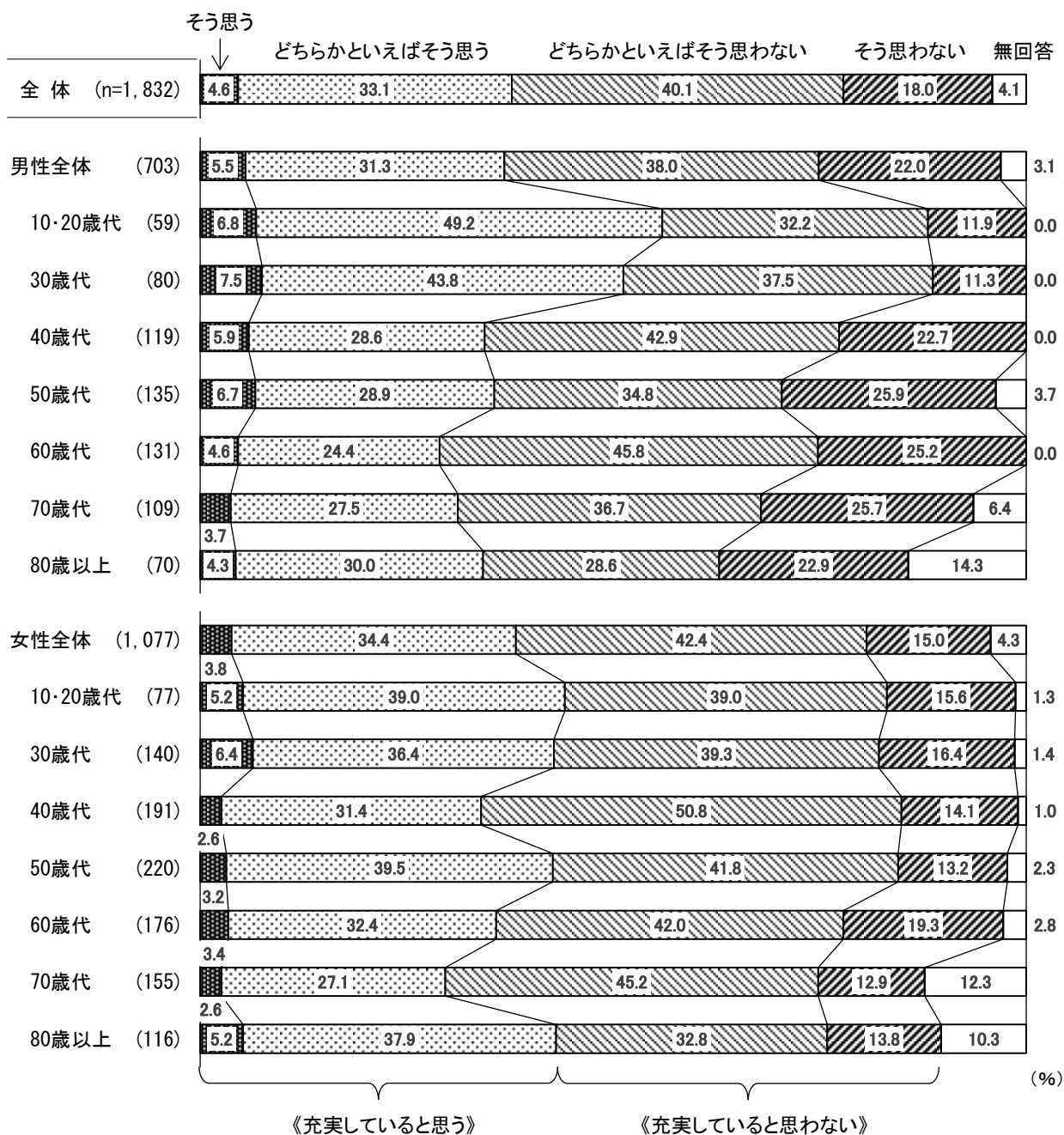
図 1 4 - 1 - 2 区の多文化共生社会の実現に向けた施策の充実度（地域別）



地域別にみると、《充実していると思う》は砧南部で4割半ば、玉川南部で4割を超えている。《充実していると思わない》は北沢西部で6割半ば、烏山、玉川西部、玉川北部で6割を超えている。

(図 1 4 - 1 - 2)

図 1 4 - 1 - 3 区の多文化共生社会の実現に向けた施策の充実度（性・年齢別）



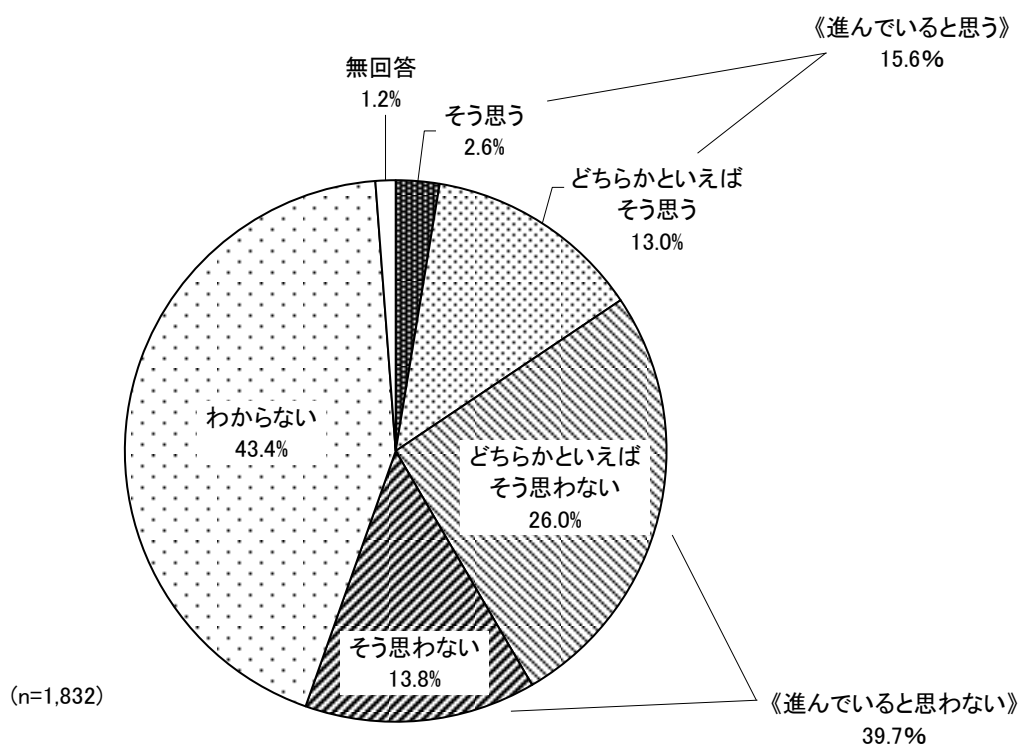
性・年齢別にみると、《充実していると思う》は男性の10・20歳代で5割半ば、男性の30歳代で5割を超えている。《充実していると思わない》は男性の60歳代で7割を超え、男性の40歳代、女性の40歳代で6割半ばとなっている。（図14-1-3）

## (2) 外国人の地域活動への参加の進捗状況

◎ 《進んでいると思う》が1割半ば、《進んでいると思わない》が4割

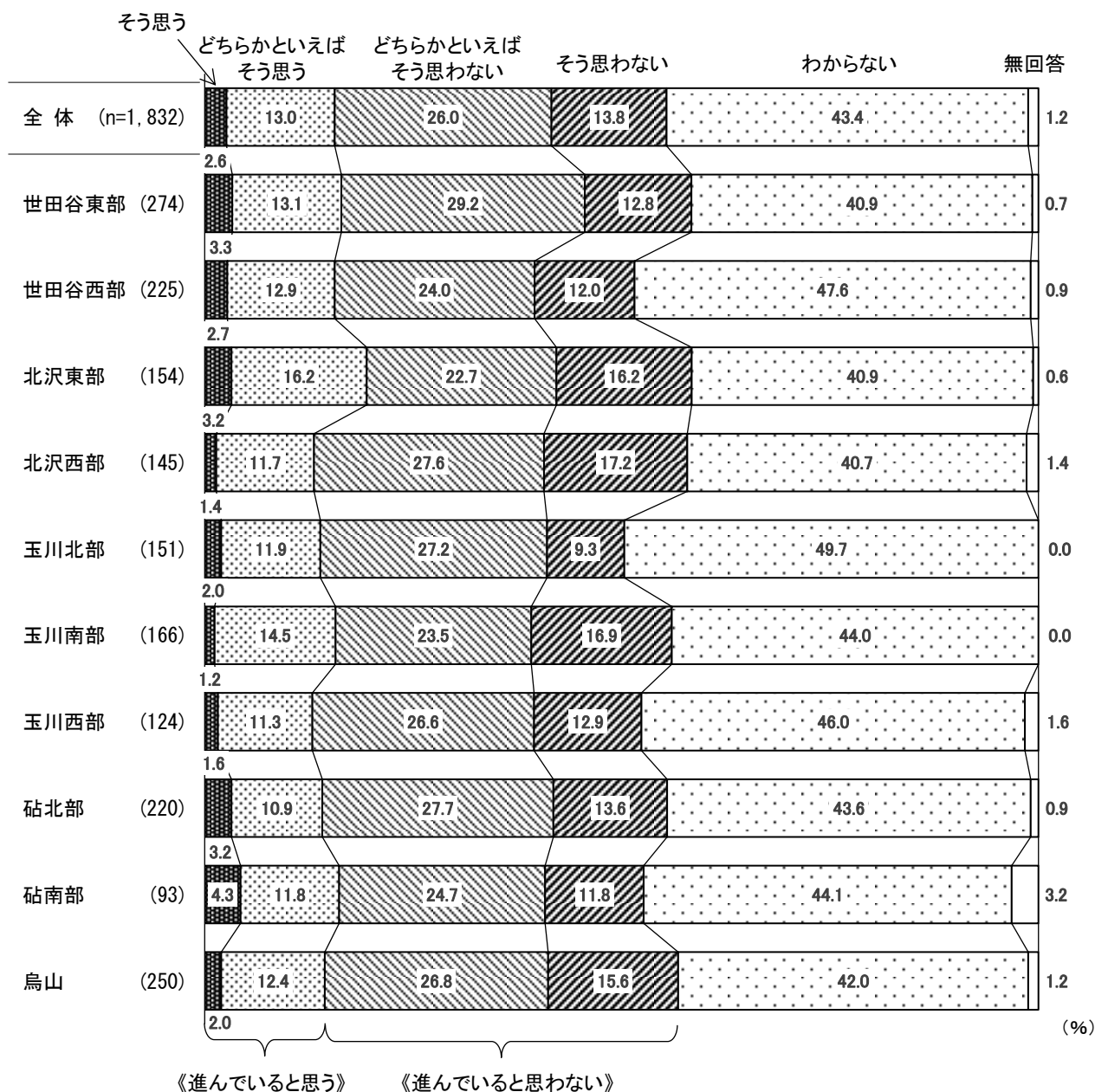
問36 区では、外国人が地域住民の一人として地域社会に参加・活躍できるように、地域のおまつりや防災訓練、ボランティア活動等への参加を促進しています。あなたは、外国人の地域活動への参加が進んでいると思いますか。(〇は1つ)

図14-2-1



外国人の地域活動への参加が進んでいると思うか聞いたところ、「わからない」(43.4%)が4割を超えて最も高い。「どちらかといえばそう思わない」(26.0%)が2割半ばで、「そう思わない」(13.8%)と合わせた《進んでいると思わない》(39.7%)が4割となっている。「そう思う」(2.6%)と「どちらかといえばそう思う」(13.0%)を合わせた《進んでいると思う》(15.6%)は1割半ばとなっている。(図14-2-1)

図 1 4 - 2 - 2 外国人の地域活動への参加の進捗状況（地域別）



地域別にみると、《進んでいると思う》は北沢東部で2割となっている。《進んでいると思わない》は北沢西部で4割半ば、烏山、世田谷東部、砧北部で4割を超えている。「わからない」は玉川北部で5割となっている。（図14-2-2）

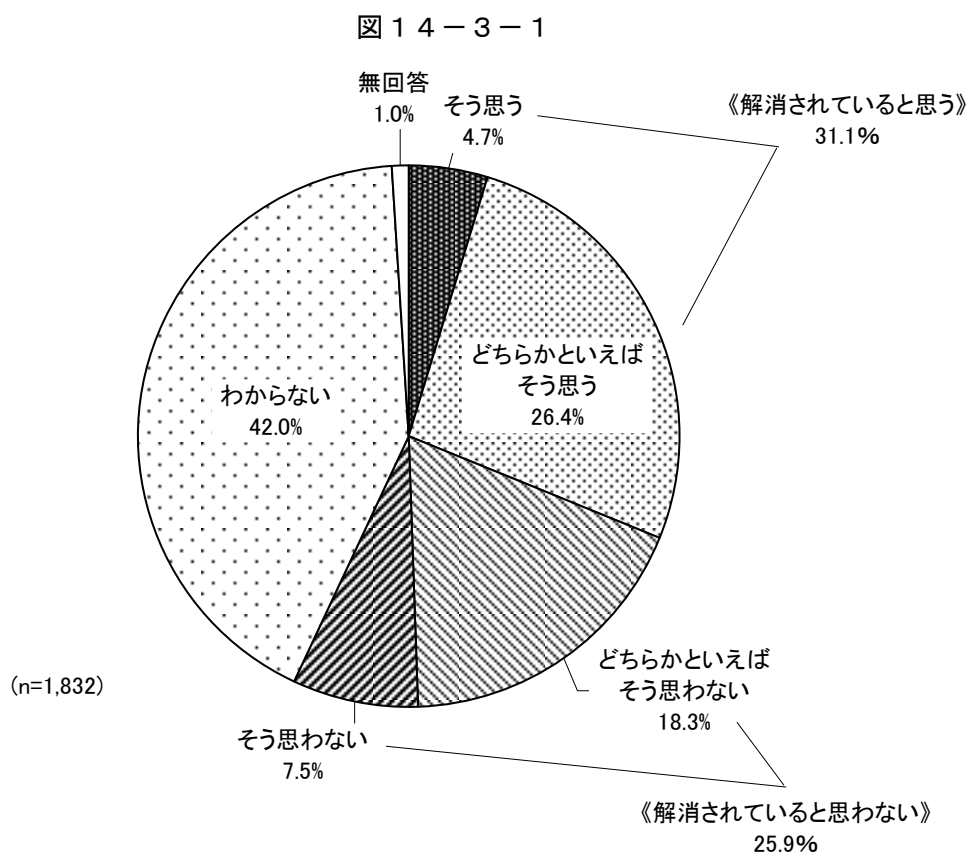




### (3) 区内の外国人への誤解・偏見の解消状況

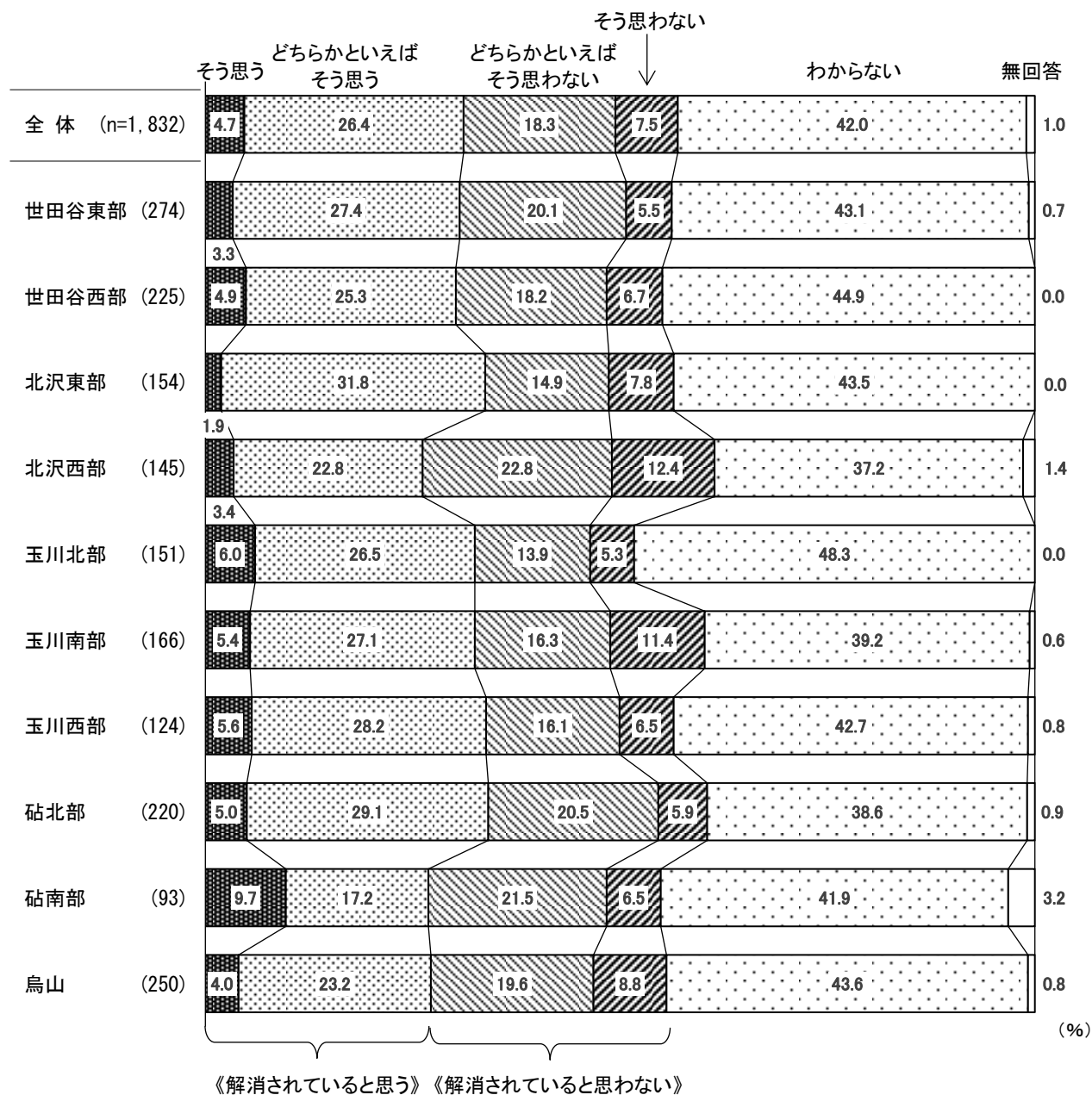
◎ 《解消されていると思う》が3割を超え、《解消されていると思わない》が2割半ば

問37 区では、多様な文化を理解し合える交流イベント等を開催し、区民一人ひとりが互いの文化について理解を深め、誤解や偏見を解消することで、多文化共生社会の実現を目指しています。あなたは、区内において外国人に対する誤解や偏見が解消されていると思いますか。(〇は1つ)



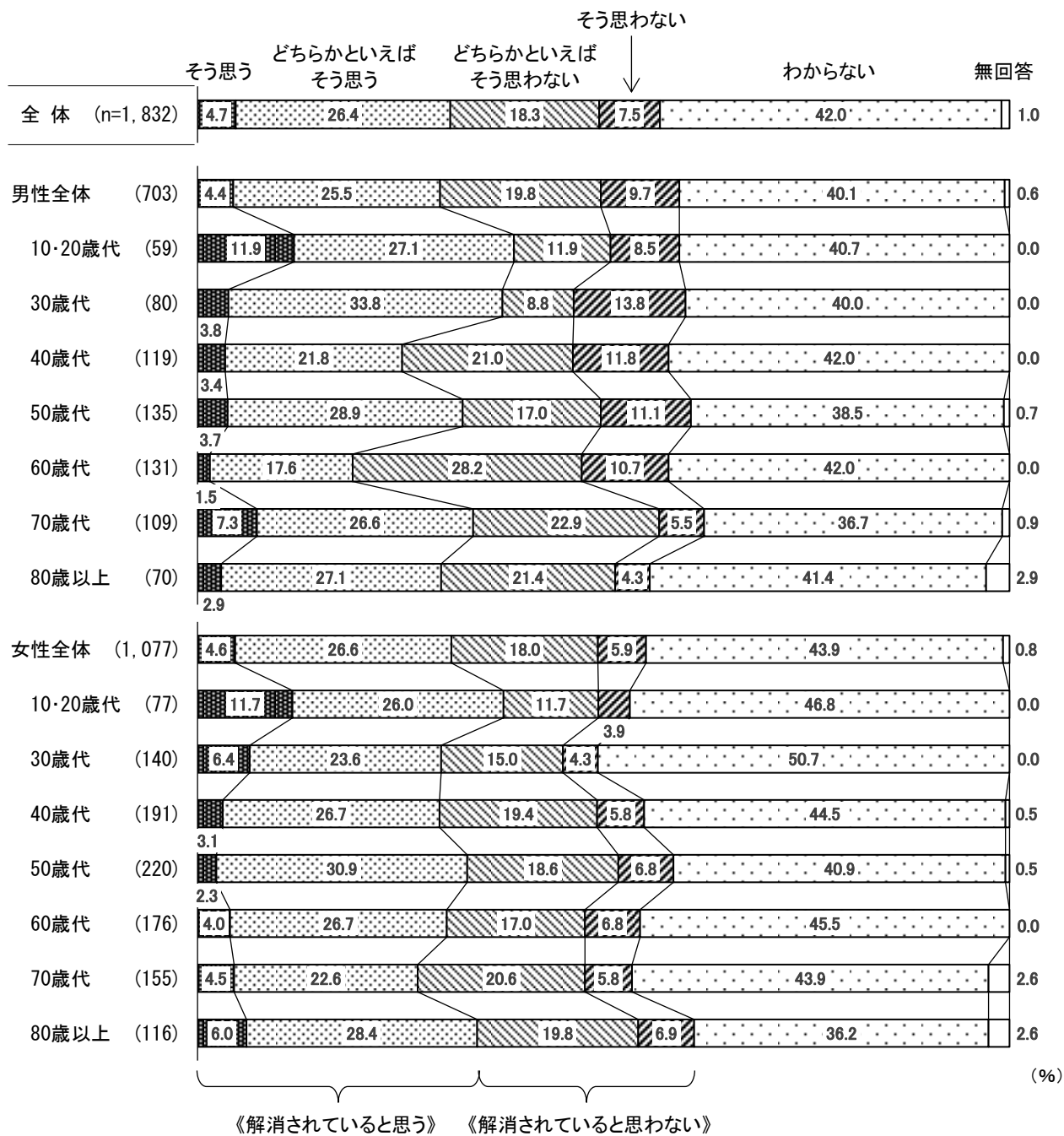
区内の外国人に対する誤解や偏見が解消されていると思うか聞いたところ、「わからない」(42.0%)が4割を超えて最も高い。「どちらかといえばそう思う」(26.4%)が2割半ばで、「そう思う」(4.7%)と合わせた《解消されていると思う》(31.1%)が3割を超えている。「どちらかといえばそう思わない」(18.3%)と「そう思わない」(7.5%)を合わせた《解消されていると思わない》(25.9%)は2割半ばとなっている。(図14-3-1)

図 1 4 - 3 - 2 区内の外国人への誤解・偏見の解消状況（地域別）



地域別にみると、「解消されていると思う」は砧北部で3割半ば、玉川西部、北沢東部、玉川北部、玉川南部で3割を超えている。「解消されていると思わない」は北沢西部で3割半ばとなっている。「わからない」は玉川北部で5割近くとなっている。（図14-3-2）

図 1 4 - 3 - 3 区内の外国人への誤解・偏見の解消状況（性・年齢別）

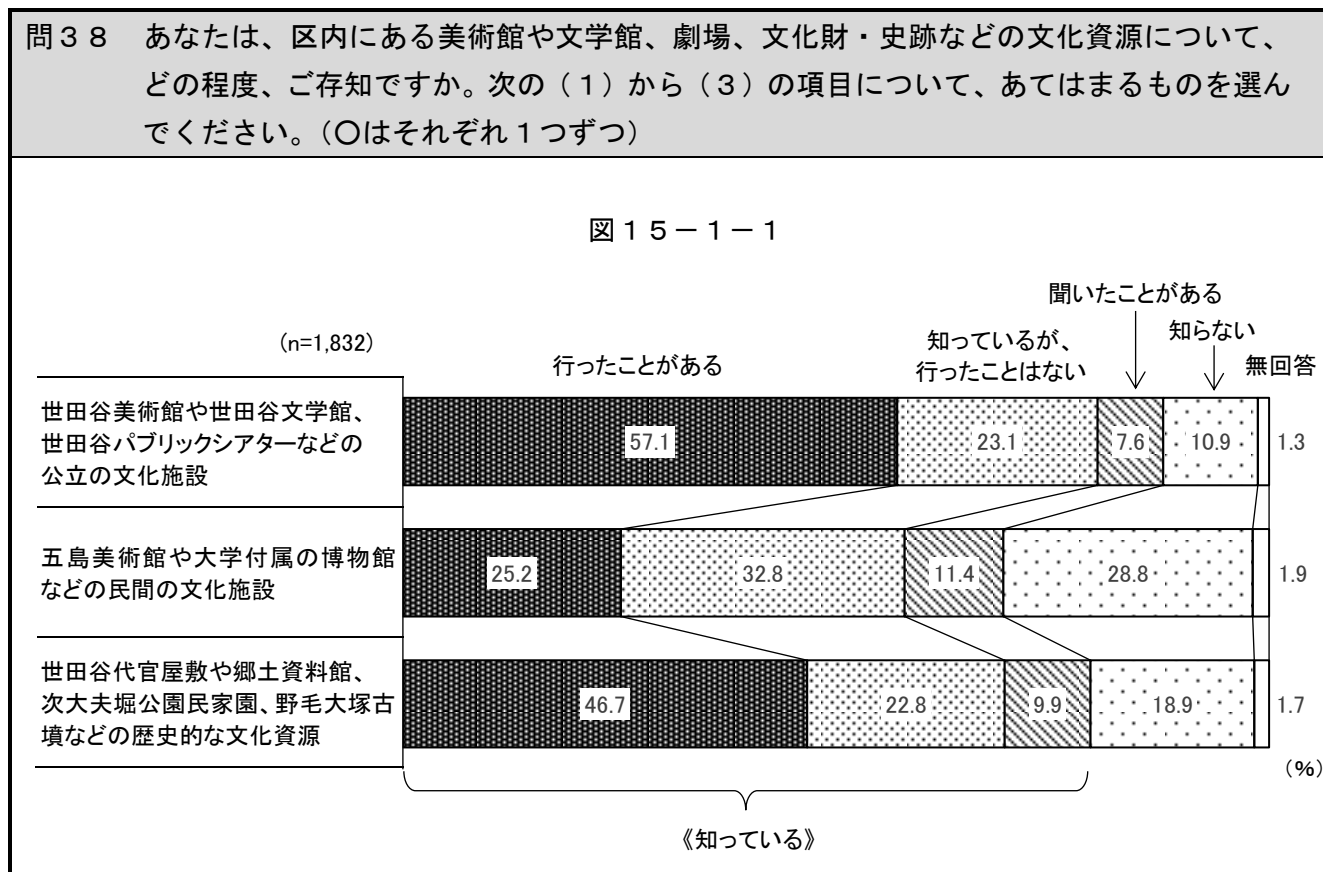


性・年齢別にみると、《解消されていると思う》は男性の10・20歳代でほぼ4割、男性の30歳代、女性の10・20歳代で4割近くとなっている。《解消されていると思わない》は男性の60歳代で4割近くとなっている。「わからない」は女性の30歳代でほぼ5割となっている。（図14-3-3）

## 15. 文化活動

## (1) 区内の文化資源の認知度

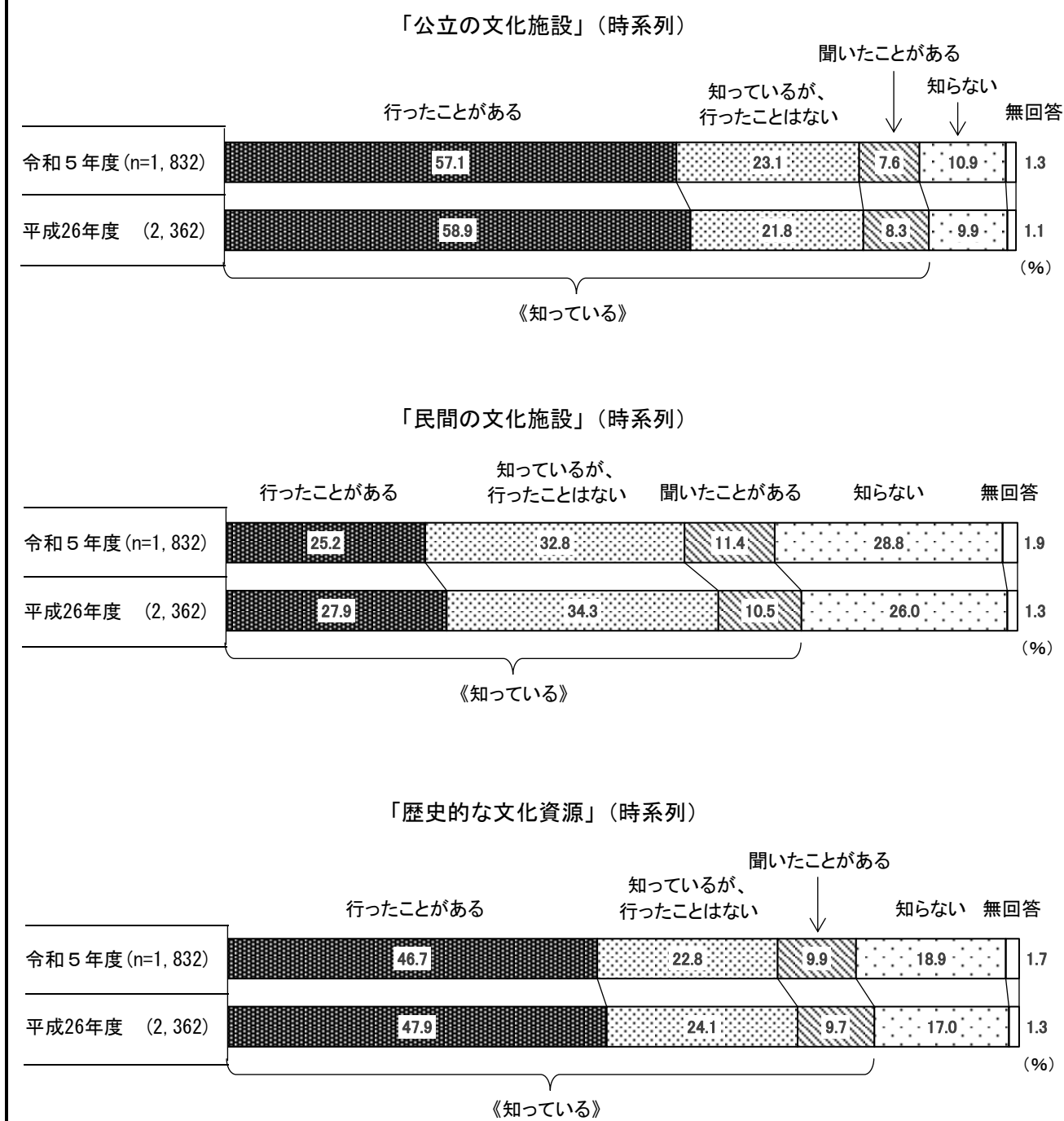
◎「行ったことがある」は公立の文化施設が6割近く、歴史的な文化資源が5割近く



区内の文化資源についてどの程度知っているか聞いたところ、「行ったことがある」は、公立の文化施設(57.1%)が6割近くで最も高く、歴史的な文化資源(46.7%)が5割近く、民間の文化施設(25.2%)が2割半ばとなっている。《知っている》は、公立の文化施設が9割近くで最も高い。

(図15-1-1)

図 15-1-2 区内の文化資源の認知度（時系列）



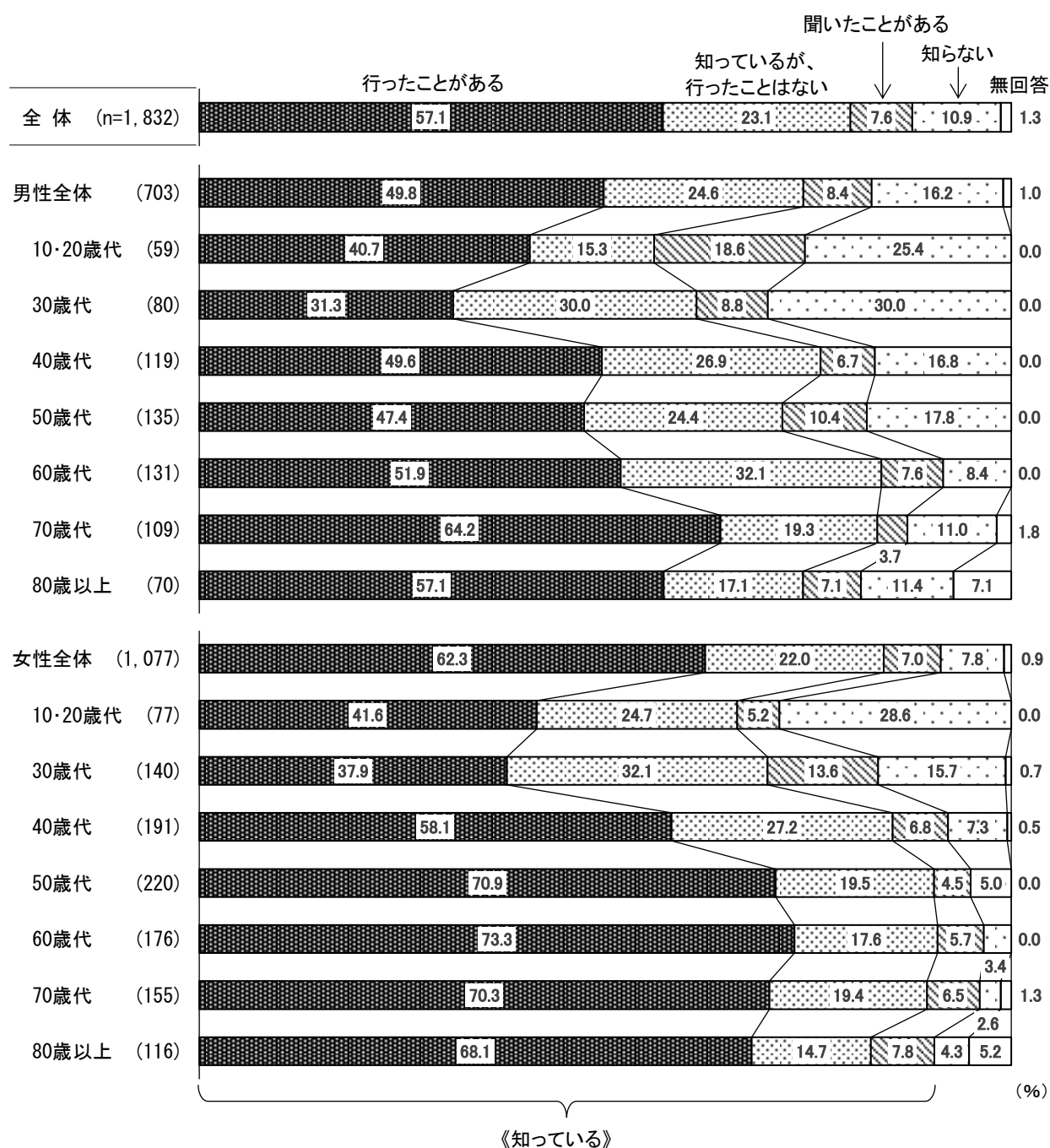
「公立の文化施設」について平成26年度からの時系列の変化をみると、「行ったことがある」は平成26年度（58.9%）から令和5年度（57.1%）で大きな違いはみられない。

「民間の文化施設」について平成26年度からの時系列の変化をみると、「行ったことがある」は平成26年度（27.9%）から令和5年度（25.2%）で大きな違いはみられない。

「歴史的な文化資源」について平成26年度からの時系列の変化をみると、「行ったことがある」は平成26年度（47.9%）から令和5年度（46.7%）で大きな違いはみられない。（図15-1-2）

図 15-1-3 区内の文化資源の認知度

## 公立の文化施設（性・年齢別）

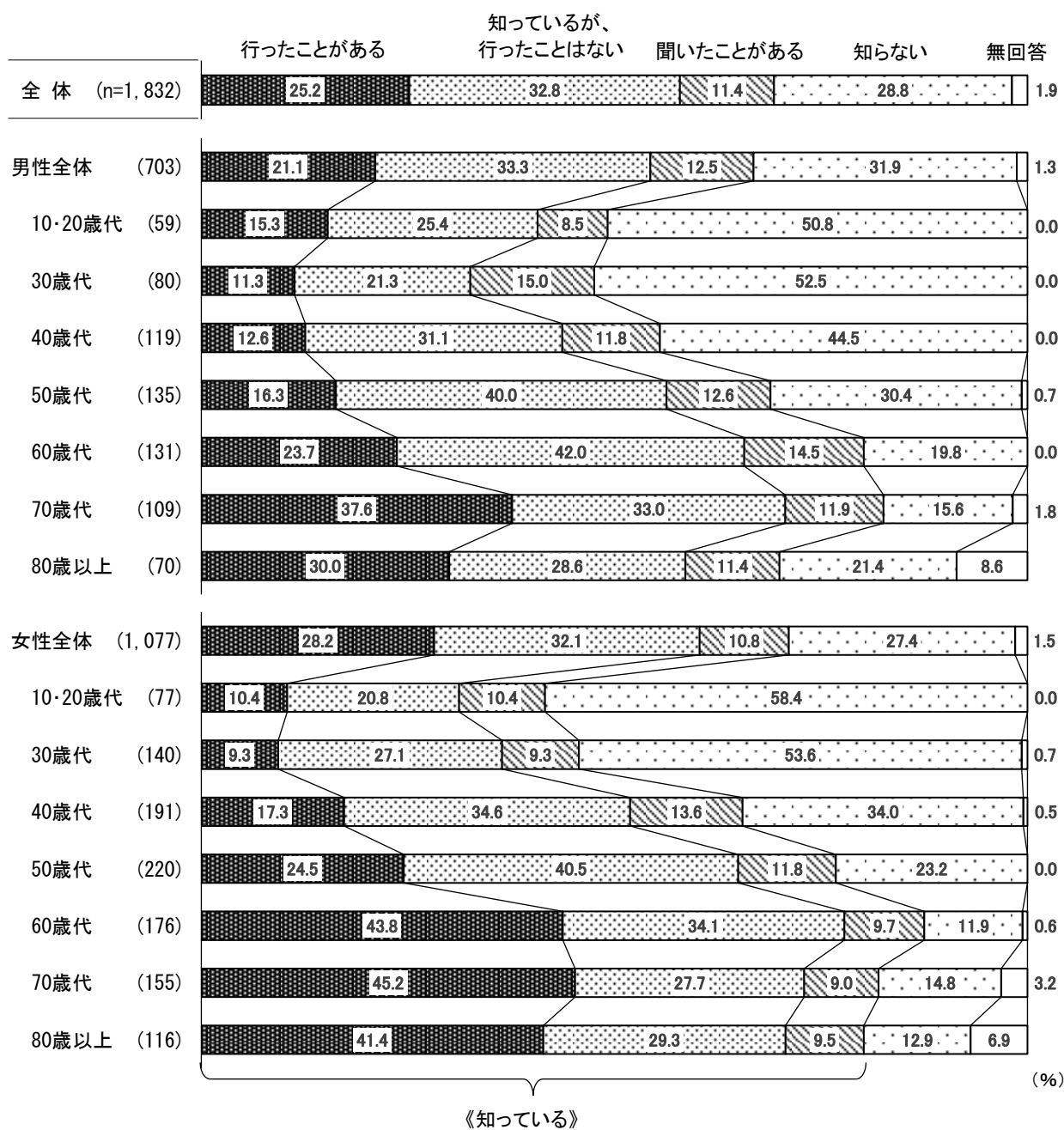


「公立の文化施設」について性・年齢別にみると、「行ったことがある」は女性の60歳代で7割を超え、女性の50歳代でほぼ7割、女性の70歳代で7割となっている。「知らない」は男性の30歳代で3割、女性の10・20歳代で3割近く、男性の10・20歳代で2割半ばとなっている。

(図 15-1-3)

図 15-1-4 区内の文化資源の認知度

## 民間の文化施設（性・年齢別）

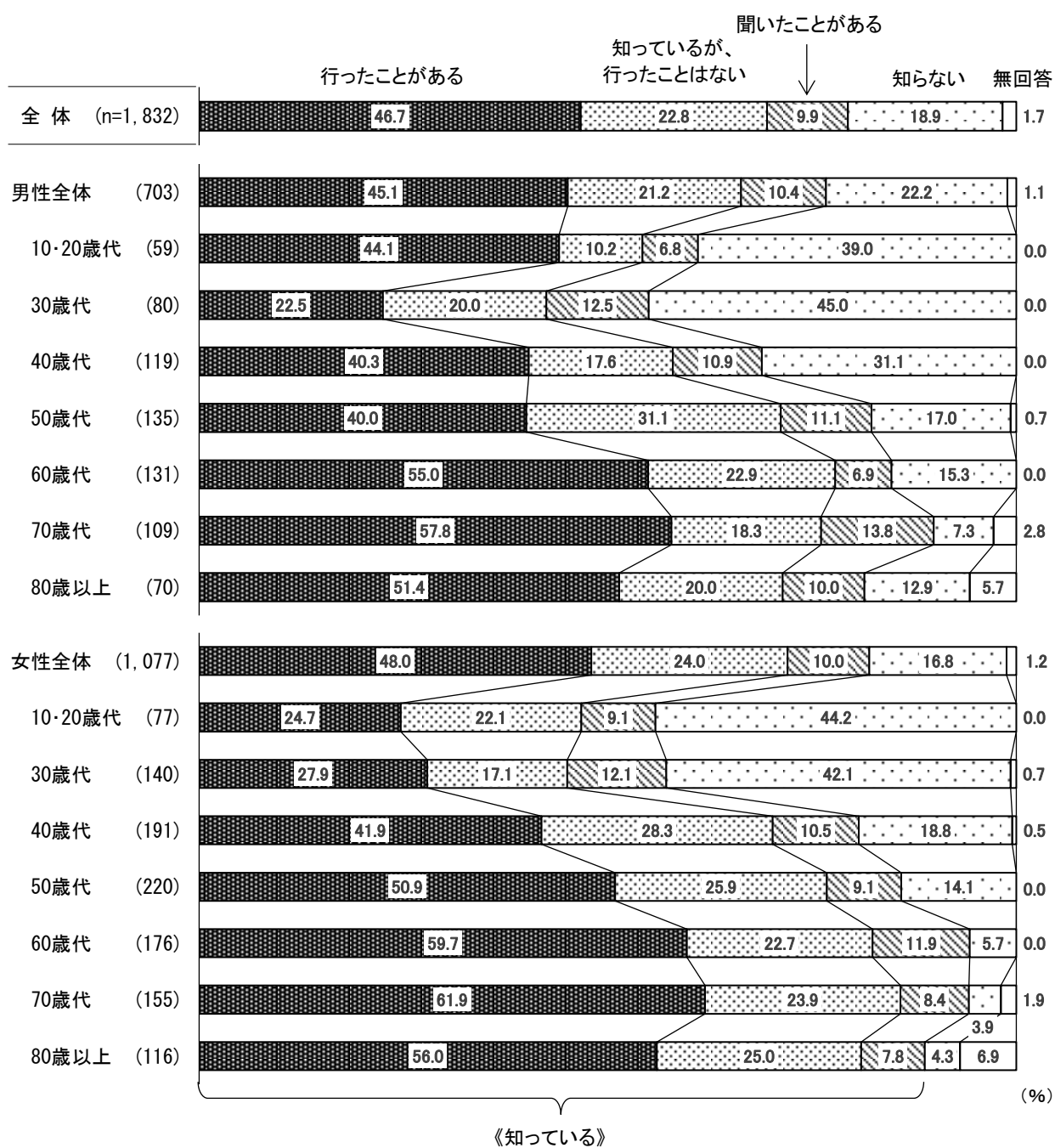


「民間の文化施設」について性・年齢別にみると、「行ったことがある」は女性の70歳代で4割半ば、女性の60歳代と80歳以上で4割を超えている。「知らない」は女性の10・20歳代で6割近く、男性の30歳代、女性の30歳代で5割を超え、男性の10・20歳代でほぼ5割となっている。

(図 15-1-4)

図 15-1-5 区内の文化資源の認知度

## 歴史的な文化資源（性・年齢別）



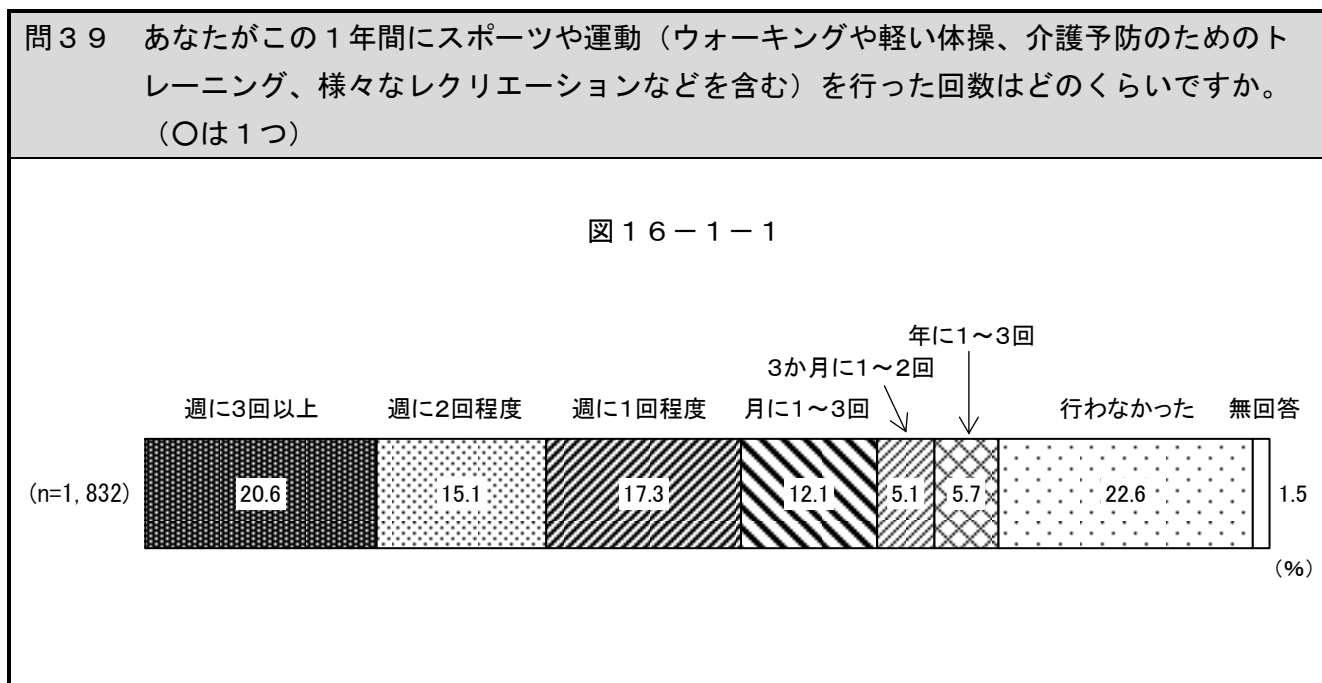
「歴史的な文化資源」について性・年齢別にみると、「行ったことがある」は女性の70歳代で6割を超え、女性の60歳代で6割、男性の70歳代で6割近くとなっている。「知らない」は男性の30歳代、女性の10・20歳代で4割半ば、女性の30歳代で4割を超えている。(図15-1-5)



## 16. スポーツ

### (1) この1年間に行ったスポーツや運動の回数

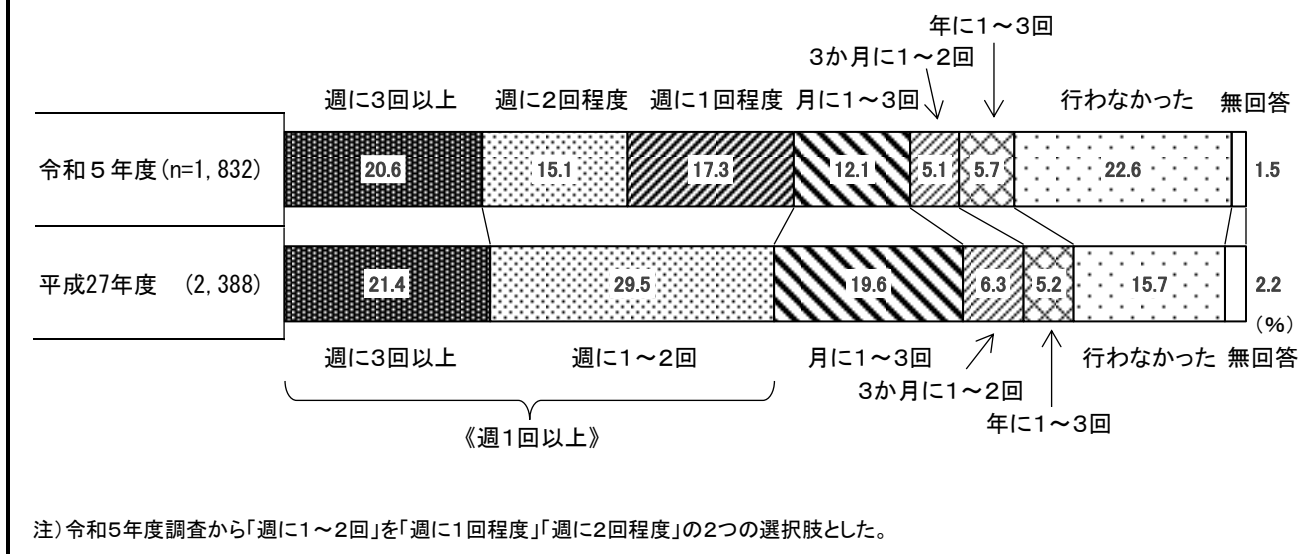
◎「週に3回以上」がほぼ2割、「週に1回程度」が2割近く



この1年間に行ったスポーツや運動の回数を聞いたところ、「行わなかった」（22.6%）が2割を超えて最も高い。行った中では、「週に3回以上」（20.6%）がほぼ2割で最も高く、以下、「週に1回程度」（17.3%）、「週に2回程度」（15.1%）、「月に1~3回」（12.1%）などと続く。

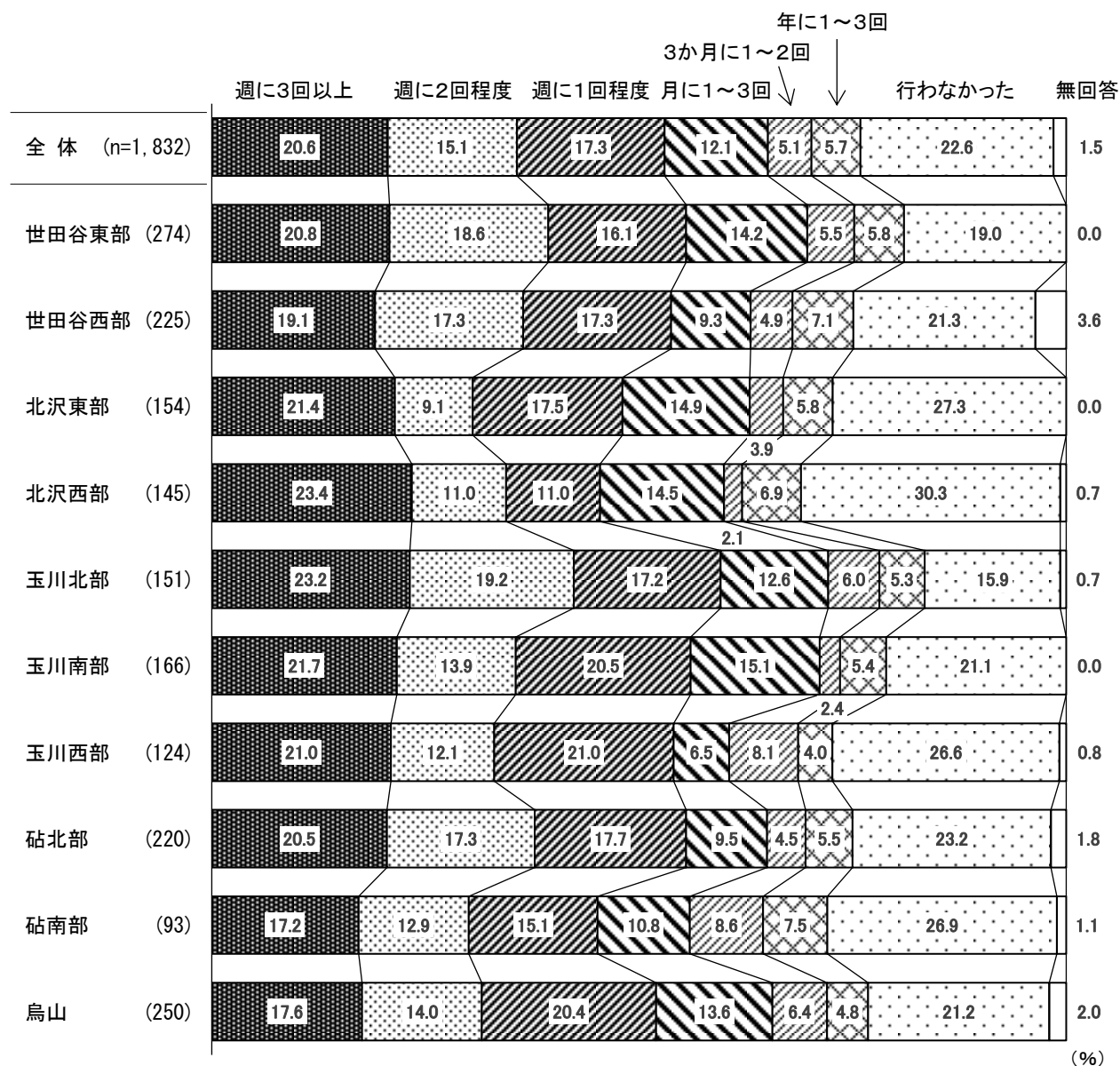
(図16-1-1)

図16-1-2 この1年間に行ったスポーツや運動の回数（時系列）



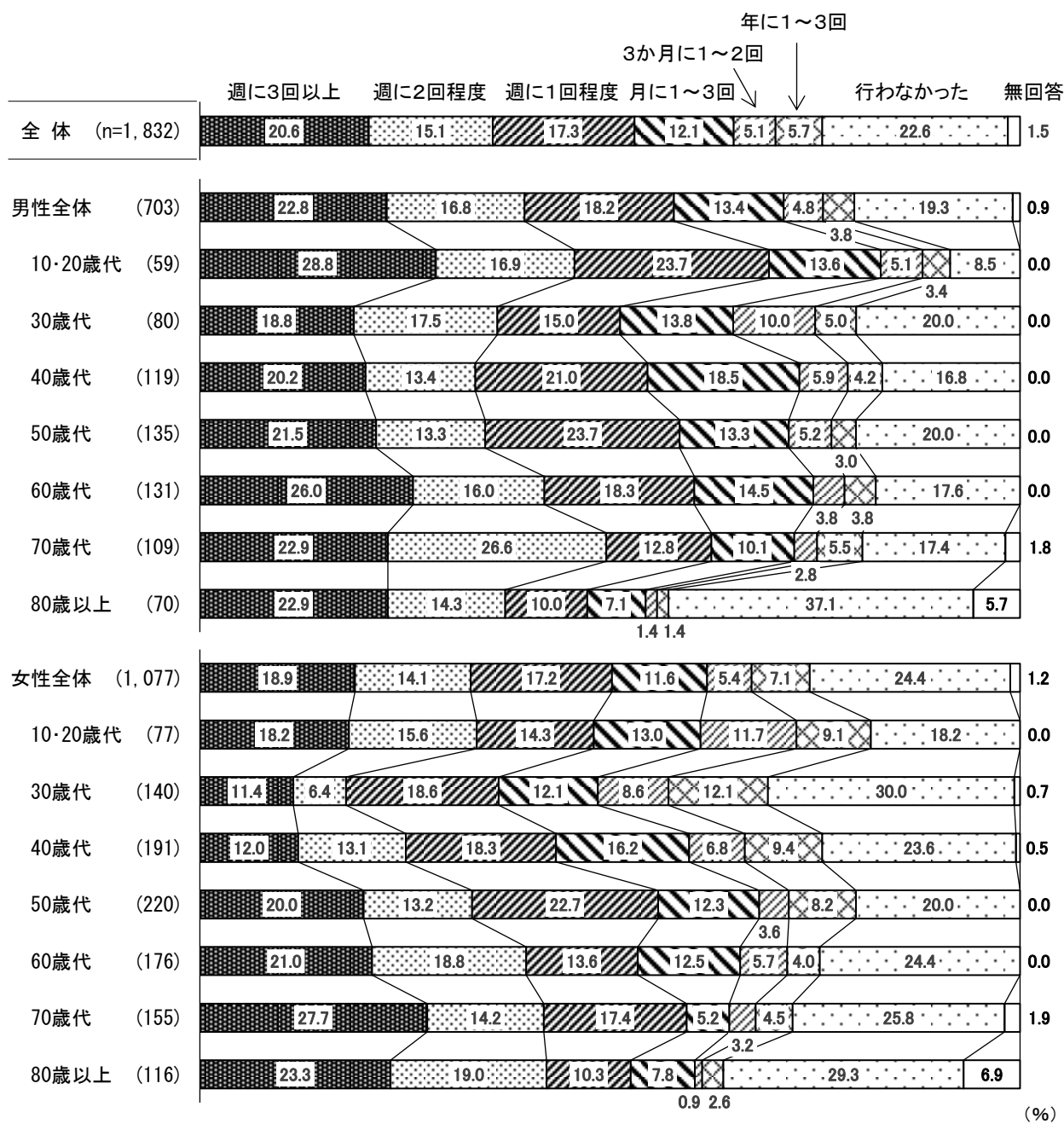
平成27年度からの時系列の変化をみると、《週1回以上》は平成27年度（50.9%）から令和5年度（53.0%）で大きな違いはみられないが、「行わなかった」は平成27年度（15.7%）から令和5年度（22.6%）で増加している。（図16-1-2）

図16-1-3 この1年間に行ったスポーツや運動の回数（地域別）



地域別にみると、《週1回以上》（「週に3回以上」＋「週に2回程度」＋「週に1回程度」）は玉川北部で6割、玉川南部、世田谷東部、砧北部、玉川西部で5割半ばとなっている。《月1回以上》（「週に3回以上」＋「週に2回程度」＋「週に1回程度」＋「月に1～3回」）は砧南部が5割半ばで他の地域に比べ低い。「行わなかった」は北沢西部で3割となっている。（図16-1-3）

図16-1-4 この1年間に行ったスポーツや運動の回数（性・年齢別）



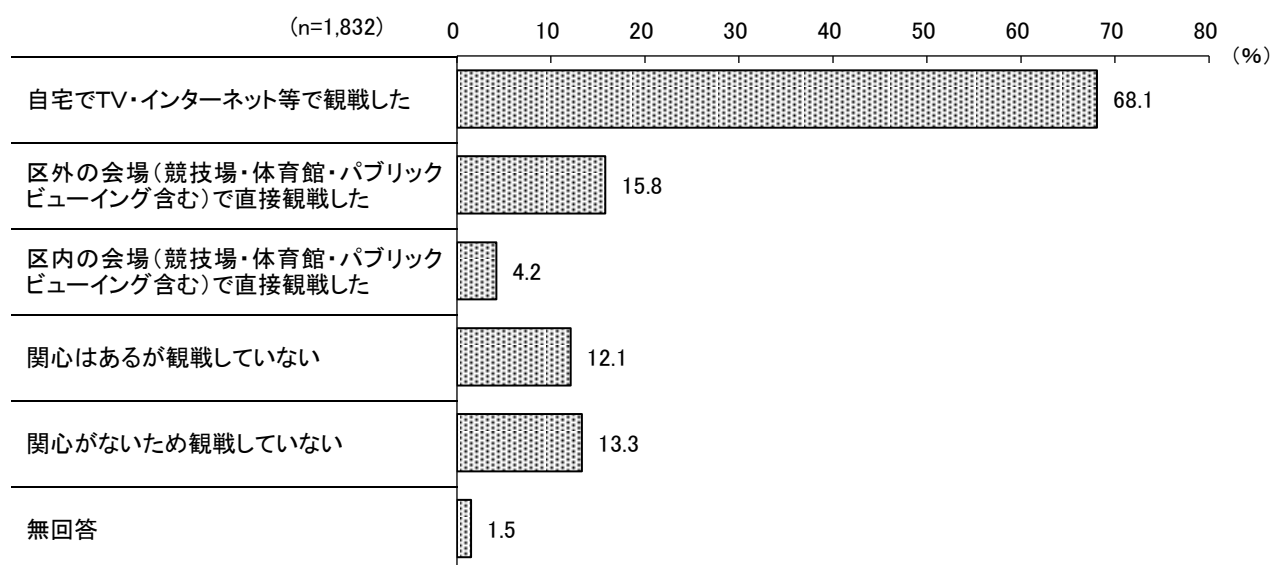
性・年齢別にみると、「週に3回以上」は男性の10・20歳代、女性の70歳代で3割近くとなっている。《週1回以上》は男性の10・20歳代で7割、男性の70歳代で6割を超えている。《月1回以上》は男性の10・20歳代で8割を超え、男性の40歳代～70歳代で7割台となっている。「行わなかった」は男性の80歳以上で4割近くとなっている。（図16-1-4）

## (2) この1年間のスポーツの観戦状況

◎「自宅でTV・インターネット等で観戦した」が7割近く

問40 あなたがこの1年間に観戦したスポーツの試合・イベントについて教えてください。  
(プロ・アマチュア問わず) (〇はいくつでも)

図16-2-1



この1年間に観戦したスポーツの試合・イベントについて聞いたところ、「自宅でTV・インターネット等で観戦した」(68.1%)が7割近くで最も高い。「区外の会場(競技場・体育館・パブリックビューイング含む)で直接観戦した」(15.8%)が1割半ば、「関心がないため観戦していない」(13.3%)と「関心はあるが観戦していない」(12.1%)は1割を超えている。(図16-2-1)

表 16-2-1 この1年間のスポーツの観戦状況（性・年齢別）

		(%)						
		n	で自宅 で観戦 した TV・ イン ター ネッ ト等	でパ ブリ ック ビュ ーイ ン グ 含 む 区 外 の 会 場 ( 競 技 場 ・ 体 育 館 ・ パ ブ リ ック ビ ュ ー イ ン グ 含 む )	でパ ブリ ック ビュ ーイ ン グ 含 む 区 内 の 会 場 ( 競 技 場 ・ 体 育 館 ・ パ ブ リ ック ビ ュ ー イ ン グ 含 む )	関 心 は あ る が 観 戦 し て い な い	関 心 が な い た め 観 戦 し て い な い	無 回 答
全 体		1,832	68.1	15.8	4.2	12.1	13.3	1.5
性・ 年 齢 別	男性全体	703	68.6	18.2	4.8	12.9	11.1	1.0
	10・20歳代	59	62.7	25.4	1.7	5.1	16.9	-
	30歳代	80	65.0	18.8	1.3	3.8	27.5	-
	40歳代	119	70.6	31.9	6.7	11.8	8.4	-
	50歳代	135	70.4	17.8	4.4	13.3	11.1	-
	60歳代	131	72.5	19.8	8.4	11.5	6.9	0.8
	70歳代	109	70.6	7.3	5.5	19.3	5.5	1.8
	80歳以上	70	60.0	2.9	1.4	24.3	8.6	5.7
	女性全体	1,077	68.3	14.2	3.7	11.6	14.8	1.2
	10・20歳代	77	61.0	22.1	5.2	14.3	19.5	-
	30歳代	140	57.9	14.3	2.1	11.4	24.3	1.4
	40歳代	191	64.9	21.5	6.3	6.3	19.4	0.5
	50歳代	220	77.3	20.0	4.1	9.1	9.1	0.5
	60歳代	176	76.7	14.8	3.4	8.0	10.8	1.1
70歳代	155	71.6	2.6	1.9	13.5	13.5	0.6	
80歳以上	116	58.6	0.9	2.6	25.0	11.2	5.2	

性・年齢別にみると、「自宅でTV・インターネット等で観戦した」は各年代とも5割台～7割台で最も高くなっている。「区外の会場（競技場・体育館・パブリックビューイング含む）で直接観戦した」は男性の40歳代で3割を超え、男性の10・20歳代で2割半ばとなっている。「関心はあるが観戦していない」は男女とも80歳以上で2割半ば、「関心がないため観戦していない」は男性の30歳代で3割近く、女性の30歳代で2割半ばとなっている。（表16-2-1）

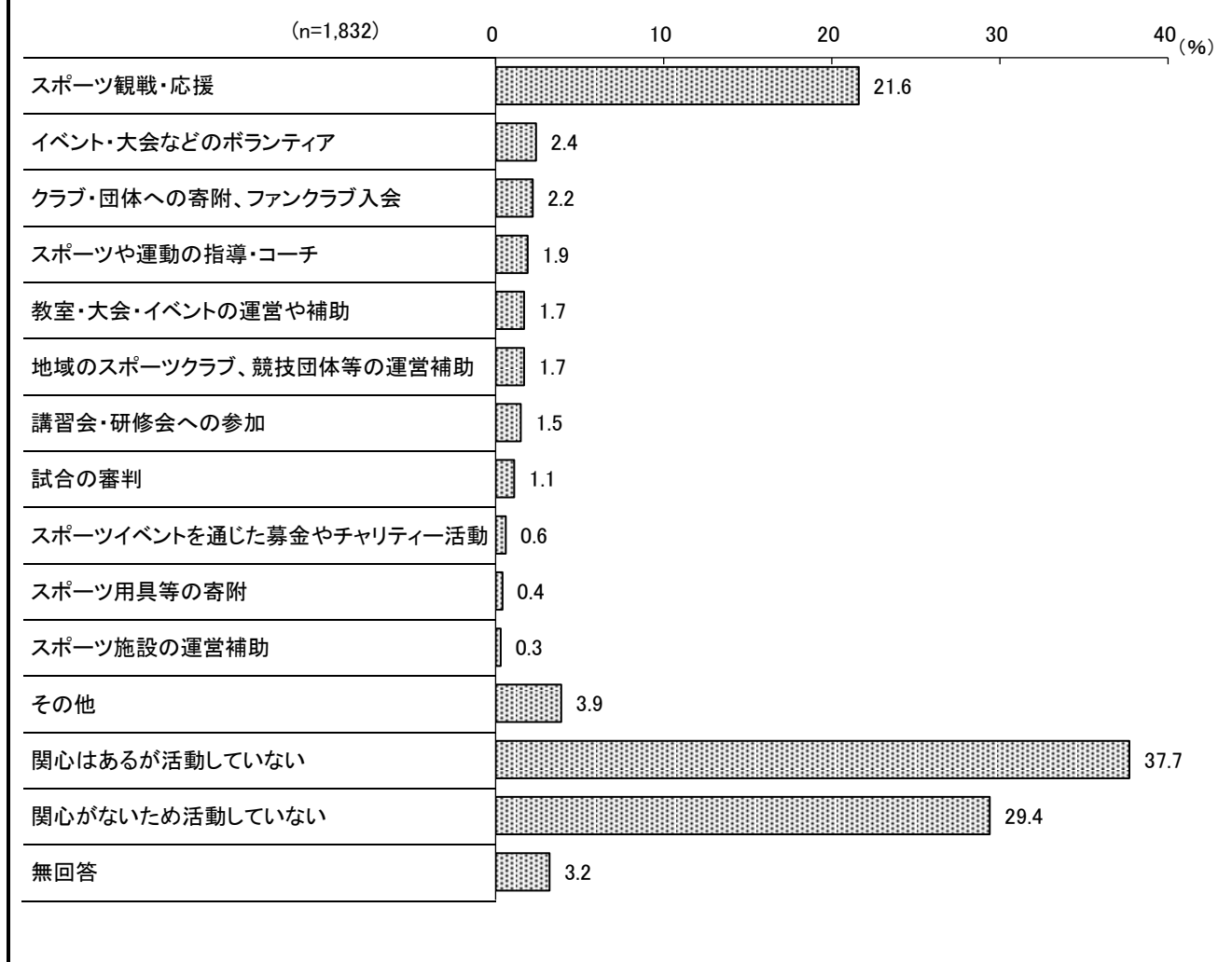
## (3) この1年間に参加したスポーツを支える活動

## ◎「スポーツ観戦・応援」が2割を超える

問4-1 あなたがこの1年間に参加したスポーツを支える活動を教えてください。

(〇はいくつでも)

図16-3-1



この1年間に参加したスポーツを支える活動を聞いたところ、「興味はあるが活動していない」(37.7%)が4割近くで最も高く、「興味がないため活動していない」(29.4%)がほぼ3割となっている。参加した活動の中では、「スポーツ観戦・応援」(21.6%)が2割を超えて最も高く、それ以外の活動は1割未満となっている。(図16-3-1)

表 16-3-1 この1年間に参加したスポーツを支える活動（性・年齢別）

（％）

		n	スポーツ観戦・応援	イベント・大会などのボランティア	クラブ・団体への寄附、ファンクラブ入会	スポーツや運動の指導・コーチ	教室・大会・イベントの運営や補助	地域のスポーツクラブ、競技団体等の運営補助	講習会・研修会への参加	試合の審判	スポーツイベントを通じた募金やチャリティ活動	スポーツ用具等の寄附	スポーツ施設の運営補助	その他	関心はあるが活動していない	関心がないため活動していない	無回答
全体		1,832	21.6	2.4	2.2	1.9	1.7	1.7	1.5	1.1	0.6	0.4	0.3	3.9	37.7	29.4	3.2
性・年齢別	男性全体	703	25.2	3.7	1.8	3.3	2.6	1.8	1.4	2.4	0.7	1.0	0.4	3.3	38.8	25.9	1.8
	10・20歳代	59	40.7	3.4	-	5.1	1.7	1.7	3.4	6.8	-	-	1.7	3.4	20.3	30.5	-
	30歳代	80	28.8	3.8	3.8	5.0	1.3	1.3	1.3	2.5	-	1.3	1.3	5.0	26.3	38.8	1.3
	40歳代	119	39.5	4.2	2.5	5.9	2.5	1.7	2.5	4.2	0.8	1.7	-	2.5	28.6	21.8	3.4
	50歳代	135	23.0	2.2	2.2	1.5	3.7	2.2	-	1.5	0.7	1.5	-	3.7	37.8	30.4	-
	60歳代	131	25.2	6.1	1.5	4.6	6.1	1.5	1.5	3.1	0.8	-	0.8	3.1	39.7	23.7	1.5
	70歳代	109	13.8	2.8	1.8	0.9	-	1.8	0.9	-	1.8	0.9	-	1.8	56.9	19.3	1.8
	80歳以上	70	5.7	2.9	-	-	-	2.9	1.4	-	-	1.4	-	4.3	58.6	20.0	5.7
	女性全体	1,077	19.5	1.7	2.4	1.0	1.2	1.7	1.5	0.3	0.6	0.1	0.1	4.0	37.5	32.1	3.2
	10・20歳代	77	36.4	1.3	2.6	2.6	1.3	2.6	1.3	1.3	-	-	-	6.5	26.0	31.2	1.3
	30歳代	140	22.9	2.1	2.9	2.1	0.7	-	-	-	-	0.7	-	1.4	26.4	42.9	3.6
	40歳代	191	26.2	2.6	3.1	1.6	1.6	3.7	2.1	0.5	1.0	-	0.5	1.6	24.6	39.8	1.6
	50歳代	220	26.8	1.4	4.5	0.5	2.3	2.7	1.4	-	1.8	-	-	2.3	35.9	30.5	1.4
60歳代	176	15.3	2.3	2.3	0.6	0.6	0.6	1.7	0.6	-	-	-	2.3	47.2	27.8	3.4	
70歳代	155	7.7	1.3	-	-	-	-	2.6	-	-	-	-	-	9.0	48.4	27.7	3.9
80歳以上	116	1.7	-	-	0.9	1.7	1.7	0.9	-	-	-	-	8.6	52.6	23.3	8.6	

性・年齢別にみると、「スポーツ観戦・応援」は男性の10・20歳代でほぼ4割、男性の40歳代で4割、女性の10・20歳代で3割半ばとなっている。それ以外の活動は各年代とも1割未満となっているが、「イベント・大会などのボランティア」「スポーツや運動の指導・コーチ」「教室・大会・イベントの運営や補助」「試合の審判」は男性でやや高くなっている。「関心はあるが活動していない」は男性の70歳代と80歳以上で6割近く、「関心がないため活動していない」は女性の30歳代で4割を超え、女性の40歳代で4割、男性の30歳代で4割近くとなっている。（表16-3-1）

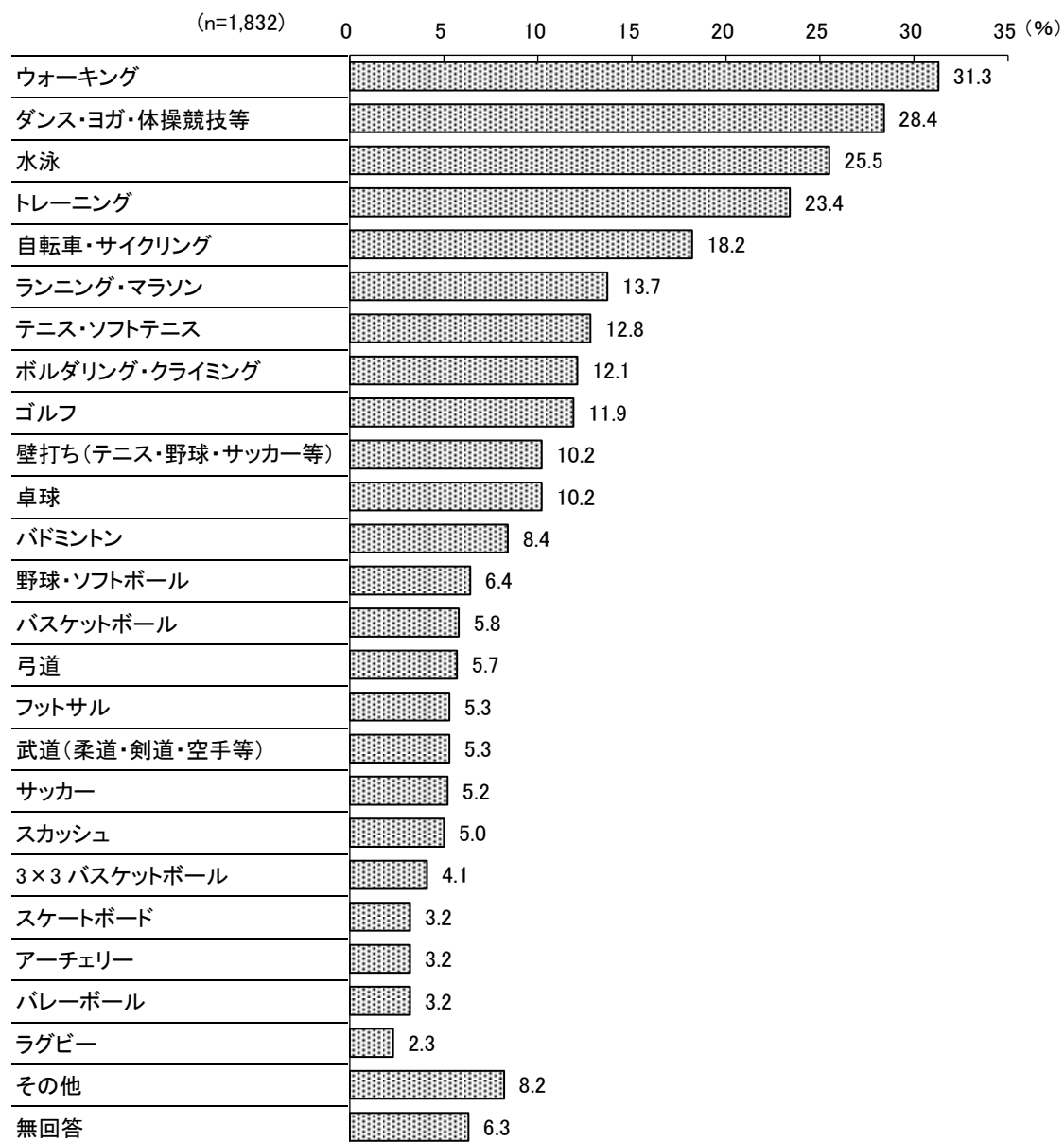


## (4) 今後のスポーツ施設整備について

## ◎新たな施設の要望として「ウォーキング」が3割を超える

問42 新たなスポーツ施設が作られるとしたら、あなたは何ができる施設が欲しいですか。  
(〇はいくつでも)

図16-4-1



今後のスポーツ施設整備について聞いたところ、「ウォーキング」(31.3%)が3割を超えて最も高く、以下、「ダンス・ヨガ・体操競技等」(28.4%)、「水泳」(25.5%)、「トレーニング」(23.4%)、「自転車・サイクリング」(18.2%)などと続く。(図16-4-1)

表 16-4-1 今後のスポーツ施設整備について（地域別）

（％）

	n	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位	9 位	10 位
全 体	1,832	ウォーキング 31.3	ダンス・ヨガ・体操競技等 28.4	水泳 25.5	トレーニング 23.4	自転車・サイクリング 18.2	ランニング・マラソン 13.7	テニス・ソフトテニス 12.8	ボルダリング・クライミング 12.1	ゴルフ 11.9	壁打ち(テニス・野球・サッカー等)／卓球 10.2
世田谷東部	274	ウォーキング 33.6	ダンス・ヨガ・体操競技等 27.4	トレーニング 23.4	水泳 23.0	自転車・サイクリング 17.5	ランニング・マラソン 15.0	テニス・ソフトテニス 12.8	ボルダリング・クライミング 11.7	ゴルフ 10.6	バドミントン 10.2
世田谷西部	225	ウォーキング 34.7	トレーニング 25.8	水泳 22.7	ダンス・ヨガ・体操競技等 21.8	自転車・サイクリング 18.7	ランニング・マラソン 12.0	ゴルフ 11.6	ボルダリング・クライミング／卓球 11.1	バドミントン 9.8	
北沢東部	154	ウォーキング／水泳 33.8		トレーニング／ダンス・ヨガ・体操競技等 29.9	自転車・サイクリング 18.2	ランニング・マラソン 15.6	ゴルフ 14.3	テニス・ソフトテニス 11.7	壁打ち(テニス・野球・サッカー等)／ボルダリング・クライミング 11.0		
北沢西部	145	ウォーキング 31.0	ダンス・ヨガ・体操競技等 30.3	トレーニング／水泳 25.5		自転車・サイクリング 20.0	ランニング・マラソン 13.8	テニス・ソフトテニス／卓球 12.4	ボルダリング・クライミング 10.3	壁打ち(テニス・野球・サッカー等) 9.7	
玉川北部	151	水泳 31.1	ウォーキング 27.2	ダンス・ヨガ・体操競技等 26.5	トレーニング 23.8	自転車・サイクリング 21.2	テニス・ソフトテニス 17.2	ランニング・マラソン／ゴルフ 14.6	壁打ち(テニス・野球・サッカー等) 12.6	ボルダリング・クライミング 10.6	
玉川南部	166	ダンス・ヨガ・体操競技等 36.1	ウォーキング 34.3	水泳 31.9	トレーニング 22.9	自転車・サイクリング 19.9	ゴルフ 14.5	ランニング・マラソン 12.7	ボルダリング・クライミング 12.0	テニス・ソフトテニス 11.4	卓球 10.2
玉川西部	124	ダンス・ヨガ・体操競技等 32.3	水泳 26.6	ウォーキング 25.0	トレーニング 21.0	テニス・ソフトテニス 20.2	自転車・サイクリング 16.9	ランニング・マラソン 16.1	ゴルフ／バドミントン／卓球 14.5		
砧北部	220	ダンス・ヨガ・体操競技等 29.5	ウォーキング 29.1	水泳 22.3	トレーニング 21.4	自転車・サイクリング／ボルダリング・クライミング 16.8		ランニング・マラソン／ゴルフ／テニス・ソフトテニス／卓球 10.5			
砧南部	93	ウォーキング 32.3	ダンス・ヨガ・体操競技等 26.9	自転車・サイクリング 20.4	トレーニング／水泳 19.4		ランニング・マラソン／ゴルフ 11.8	壁打ち(テニス・野球・サッカー等)／サッカー 10.8		ボルダリング・クライミング 9.7	
烏山	250	ウォーキング 30.4	ダンス・ヨガ・体操競技等 29.2	水泳 25.2	トレーニング 21.2	自転車・サイクリング 16.8	ランニング・マラソン／テニス・ソフトテニス 16.0	ボルダリング・クライミング 14.0	壁打ち(テニス・野球・サッカー等) 13.6	ゴルフ 11.2	

地域別にみると、「ウォーキング」はすべての地域で、3位以内に挙げられている。

(表 16-4-1)

表 16-4-2 今後のスポーツ施設整備について（性・年齢別）

（%）

	n	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位	9 位	10 位	
全 体	1,832	ウォーキング 31.3	ダンス・ヨガ・ 体操競技等 28.4	水泳 25.5	トレーニング 23.4	自転車・サイ クリング 18.2	ランニング・ マラソン 13.7	テニス・ソフト テニス 12.8	ボルダリン グ・クライミ ング 12.1	ゴルフ 11.9	壁打ち(テニス・野球・サッ カー等) / 卓球 10.2	
男 性 体	703	ウォーキング 31.2	トレーニング 29.2	水泳 25.6	自転車・サイ クリング 22.8	ランニング・ マラソン 17.6	ゴルフ 17.1	ダンス・ヨガ・ 体操競技等 12.7	テニス・ソフト テニス 12.5	ボルダリン グ・クライミ ング 12.1	壁打ち(テニス・野球・サッ カー等) 11.4	
10・ 20歳 代	59	トレーニング 50.8	ウォーキング 32.2	ランニング・ マラソン 30.5	壁打ち(テニ ス・野球・ サッカー等) 27.1	自転車・サイクリング / サッカー / フットサル / 水泳	ゴルフ / バスケットボール			22.0	20.3	
30歳 代	80	トレーニング / ランニング・マラソン / 水泳 31.3			自転車・サイ クリング 23.8	ボルダリング・クライミング / フットサル 21.3	テニス・ソフト テニス 20.0	ウォーキング	サッカー / バドミントン 18.8			16.3
40歳 代	119	水泳 31.9	トレーニング 29.4	自転車・サイ クリング 27.7	ランニング・ マラソン 23.5	ウォーキング 21.8	ゴルフ / ボルダリング・クラ イミング 19.3	野球・ソフトボール / ダン ス・ヨガ・体操競技等		フットサル 14.3		13.4
50歳 代	135	ウォーキング 30.4	水泳 27.4	トレーニング 26.7	自転車・サイ クリング 25.9	ゴルフ 20.7	ランニング・ マラソン 18.5	テニス・ソフトテニス / 壁打 ち(テニス・野球・サッカー 等) 16.3	ボルダリン グ・クライミ ング 15.6	ダンス・ヨガ・体操競技等 14.8		
60歳 代	131	ウォーキング 37.4	水泳 29.8	トレーニング 28.2	自転車・サイ クリング 22.1	ランニング・ マラソン 16.0	ゴルフ 15.3	テニス・ソフト テニス 13.7	ダンス・ヨガ・ 体操競技等 13.0	卓球 11.5	ボルダリング・クライミング 9.9	
70歳 代	109	ウォーキング 39.4	トレーニング 26.6	自転車・サイ クリング 21.1	ゴルフ / 水泳 / 卓球 15.6			ダンス・ヨガ・ 体操競技等 8.3	野球・ソフト ボール 7.3	テニス・ソフト テニス 5.5	ランニング・マラソン / 弓道 4.6	
80歳 以上	70	ウォーキング 37.1	トレーニング 18.6	水泳 15.7	ゴルフ 12.9	自転車・サイ クリング 11.4	卓球 / ダンス・ヨガ・体操競 技等 10.0	壁打ち(テニス・野球・サッ カー等) / バドミントン		5.7	テニス・ソフトテニス / ス カッシュ / サッカー / 野 球・ソフトボール / 武道(柔 道・剣道・空手等) / 弓道 4.3	
女 性 体	1,077	ダンス・ヨガ・ 体操競技等 39.4	ウォーキング 31.5	水泳 25.5	トレーニング 20.1	自転車・サイ クリング 15.4	テニス・ソフト テニス 13.0	ボルダリン グ・クライミ ング 12.2	ランニング・ マラソン 11.2	卓球 10.0	壁打ち(テニス・野球・サッ カー等) / バドミントン 9.6	
10・ 20歳 代	77	ダンス・ヨガ・ 体操競技等 37.7	トレーニング 27.3	ランニング・マラソン / 水泳 26.0		ウォーキング 24.7	バドミントン	テニス・ソフトテニス / ボル ダリング・クライミング 22.1	自転車・サイ クリング 20.8	19.5	壁打ち(テニス・野球・サッ カー等) 16.9	
30歳 代	140	ダンス・ヨガ・ 体操競技等 48.6	ウォーキング 27.1	水泳 24.3	トレーニング 23.6	自転車・サイ クリング 21.4	ボルダリン グ・クライミ ング 20.7	ランニング・ マラソン 20.0	テニス・ソフト テニス 16.4	ゴルフ 10.7	スカッシュ 9.3	
40歳 代	191	ダンス・ヨガ・ 体操競技等 50.8	水泳 32.5	ウォーキング 26.7	ボルダリン グ・クライミ ング 23.0	トレーニング 19.9	テニス・ソフト テニス 19.4	自転車・サイ クリング 16.8	壁打ち(テニ ス・野球・ サッカー等) 15.7	ランニング・ マラソン 14.7	バドミントン 13.1	
50歳 代	220	ダンス・ヨガ・ 体操競技等 41.4	ウォーキング 35.5	水泳 27.7	トレーニング 21.8	自転車・サイ クリング 20.0	テニス・ソフト テニス 14.1	ランニング・ マラソン 13.6	ゴルフ / 卓球 11.4		壁打ち(テニス・野球・サッ カー等) / ボルダリング・ク ライミング 10.9	
60歳 代	176	ダンス・ヨガ・ 体操競技等 39.2	ウォーキング 33.5	水泳 27.8	トレーニング 23.9	自転車・サイ クリング 15.3	バドミントン 10.8	卓球 10.2	ゴルフ / テニス・ソフトテニ ス 9.7		壁打ち(テニス・野球・サッ カー等) 9.1	
70歳 代	155	ウォーキング 40.6	ダンス・ヨガ・ 体操競技等 29.0	水泳 22.6	トレーニング 18.1	卓球 15.5	自転車・サイクリング / テニ ス・ソフトテニス 7.1		バドミントン 5.2	ゴルフ 4.5	壁打ち(テニス・野球・サッ カー等) 3.2	
80歳 以上	116	ウォーキング 26.7	ダンス・ヨガ・ 体操競技等 20.7	水泳 12.1	自転車・サイクリング / 卓 球 6.0		トレーニング / ゴルフ / 野球・ソフトボ ール 5.2		テニス・ソフトテニス / バレーボ ール 3.4			

性・年齢別にみると、「ウォーキング」は男性の50歳代以上、女性の70歳代以上で1位に挙げられ、「ダンス・ヨガ・体操競技等」は女性の60歳代以下で1位に挙げられている。「トレーニング」は男性の40歳代以下で2位以内に挙げられている。(表16-4-2)

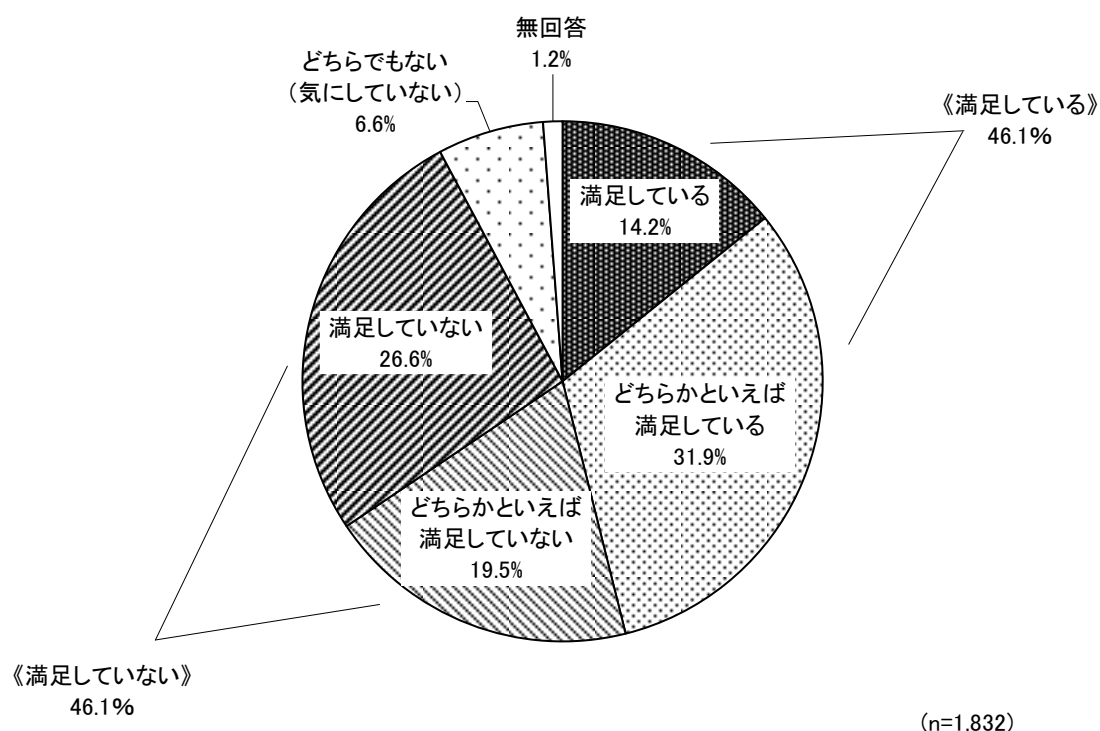
## 17. たばこマナー

### (1) 居住地域におけるたばこマナーの満足度

◎ 《満足している》と《満足していない》がともに4割半ば

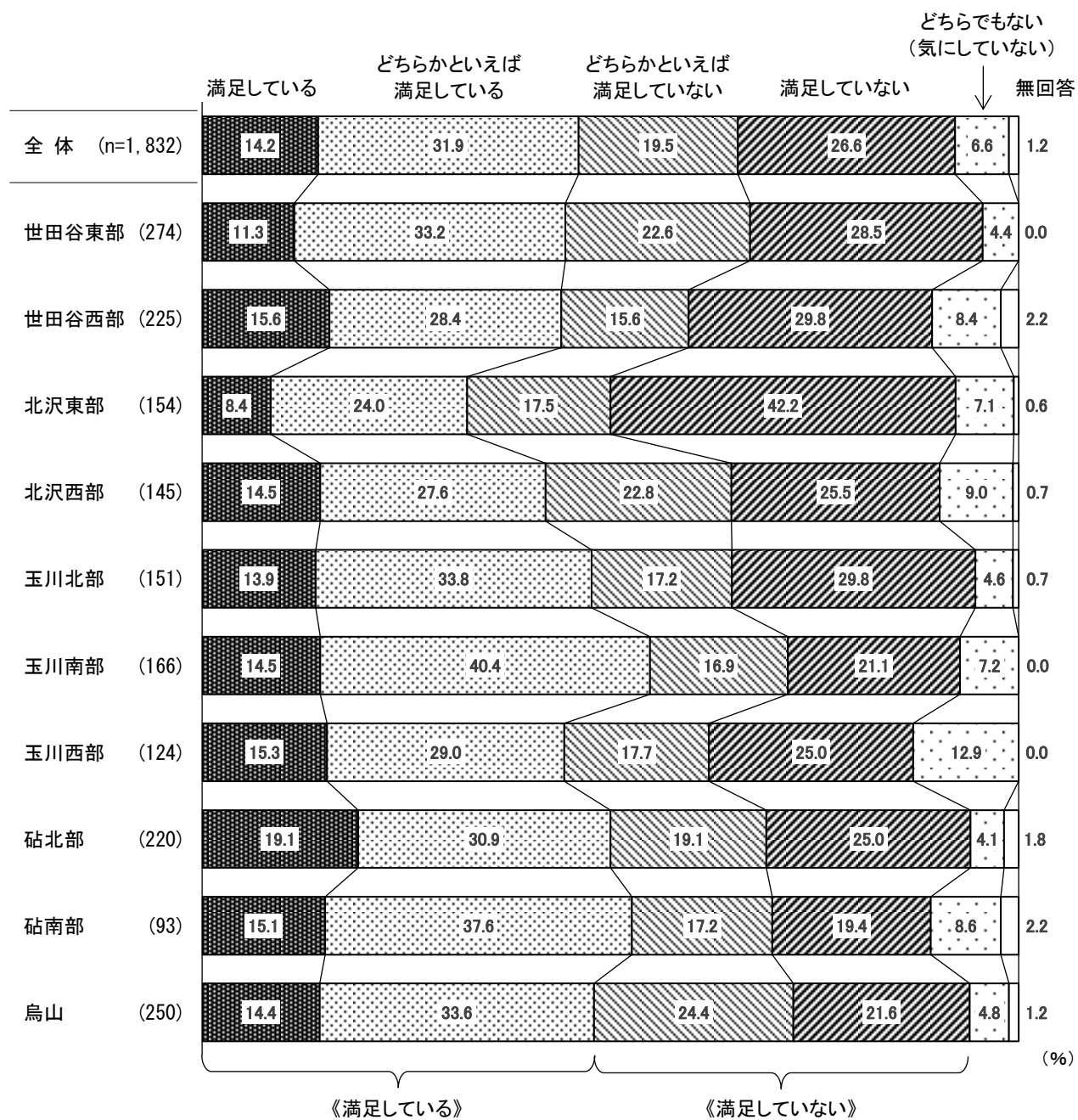
問43 あなたは、現在お住まいの地域における路上喫煙やポイ捨て等たばこマナーに満足していますか。(○は1つ)

図17-1-1



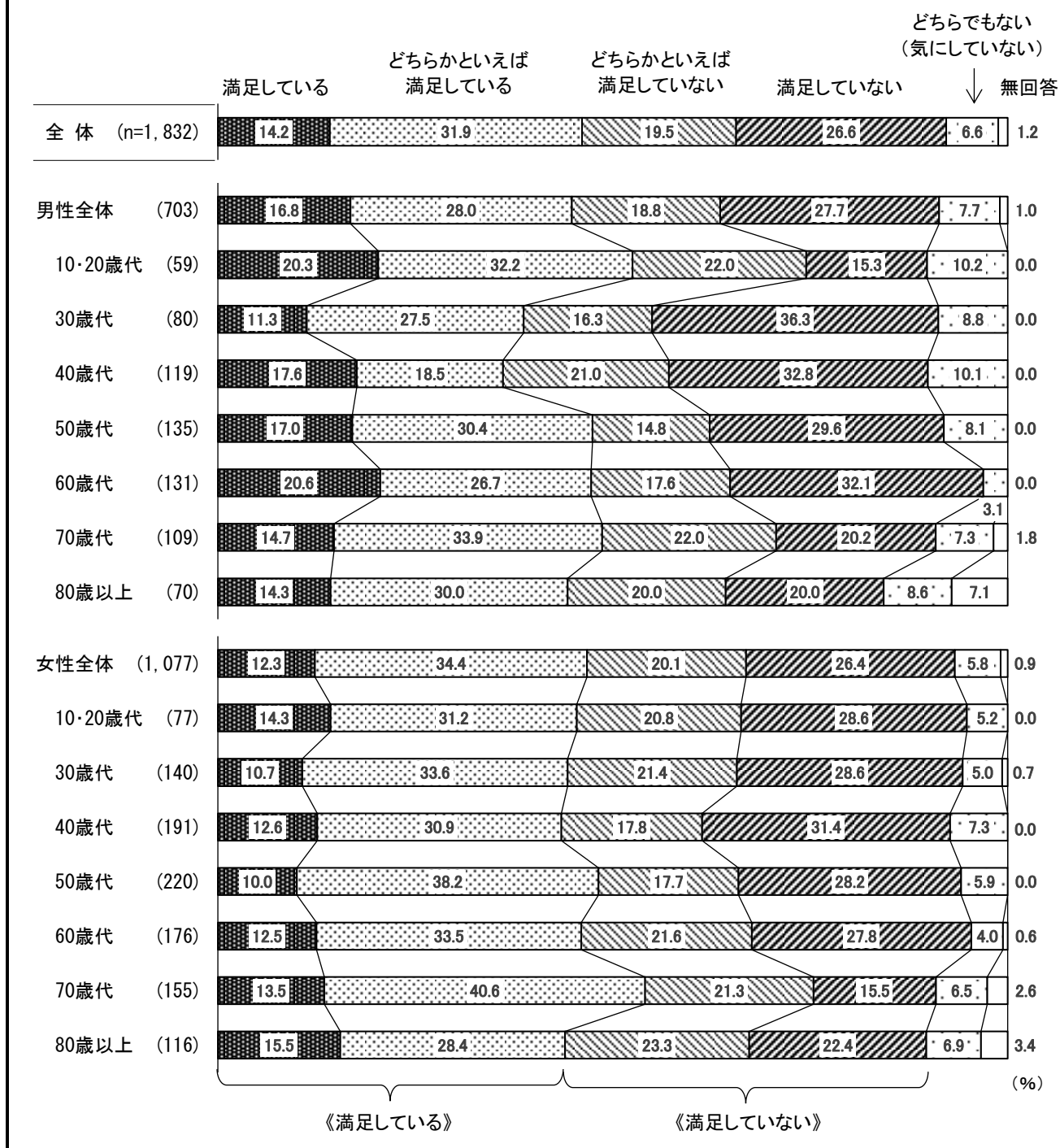
居住地域におけるたばこマナーの満足度を聞いたところ、「満足している」(14.2%)と「どちらかといえば満足している」(31.9%)を合わせた《満足している》(46.1%)が4割半ば、「満足していない」(26.6%)と「どちらかといえば満足していない」(19.5%)を合わせた《満足していない》(46.1%)も4割半ばとなっている。(図17-1-1)

図 17-1-2 居住地域におけるたばこマナーの満足度（地域別）



地域別にみると、《満足している》は玉川南部で5割半ば、砧南部で5割を超え、砧北部で5割となっている。一方、《満足していない》は北沢東部で6割、世田谷東部で5割を超えている。特に北沢東部は「満足していない」が4割を超え、他の地域より高くなっている。（図17-1-2）

図 17-1-3 居住地域におけるたばこマナーの満足度（性・年齢別）

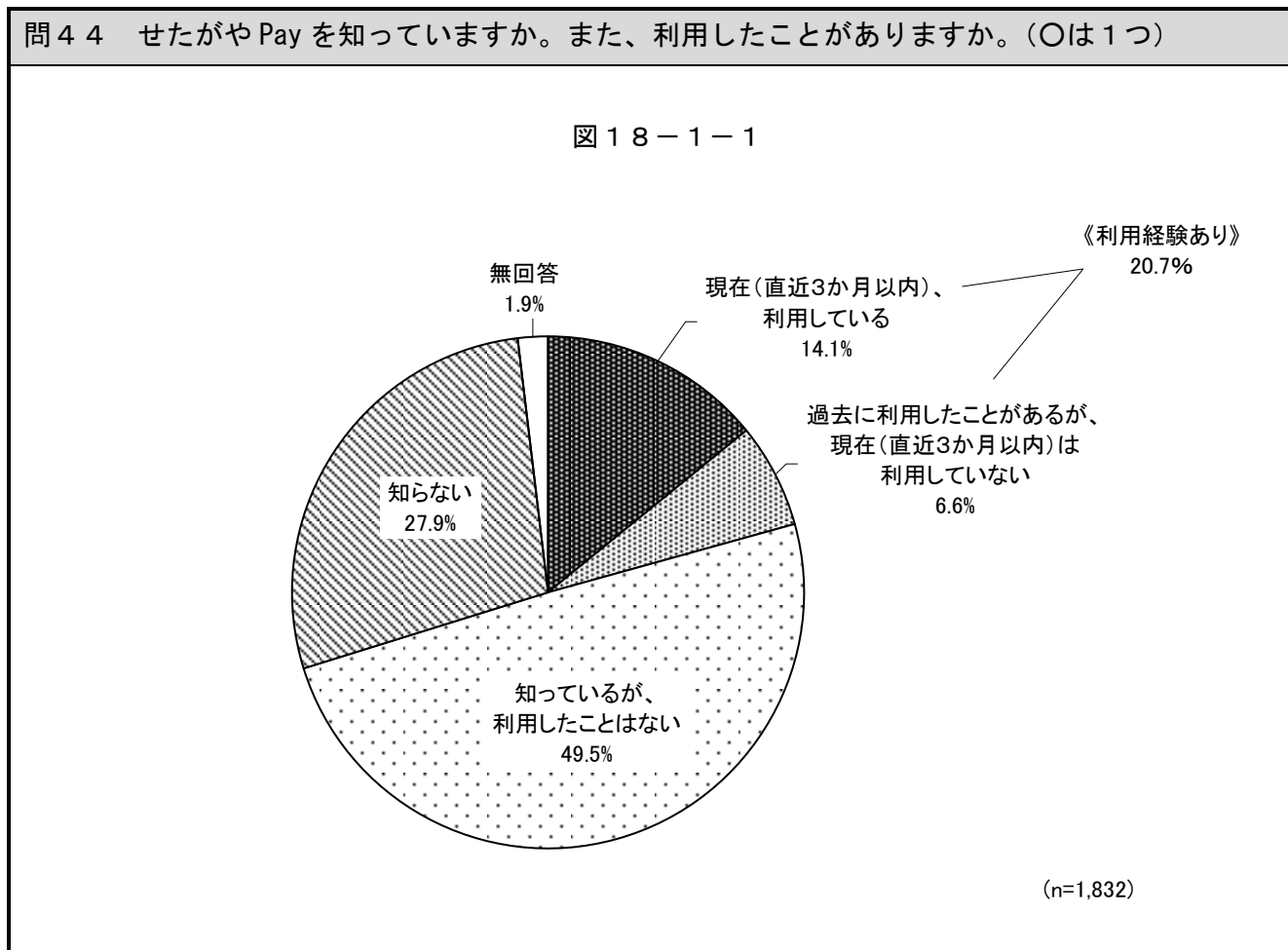


性・年齢別にみると、《満足している》は女性の70歳代で5割半ば、男性の10・20歳代で5割を超えている。《満足していない》は男性の30歳代と40歳代で5割を超え、男性の60歳代と女性の30歳代で5割、女性の10・20歳代、40歳代、60歳代でほぼ5割となっている。（図17-1-3）

## 18. せたがや Pay

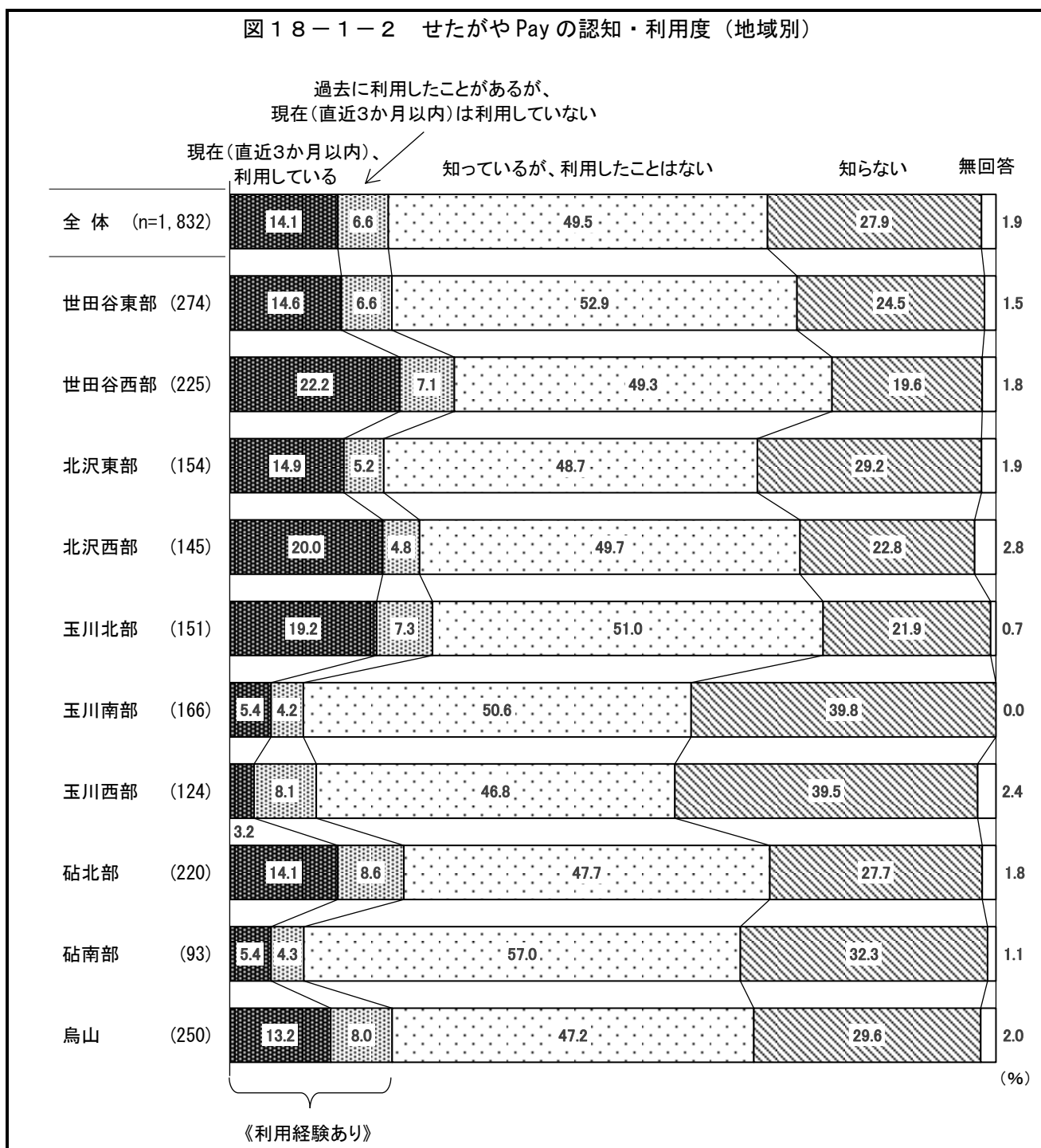
### (1) せたがや Pay の認知・利用度

◎「知っているが、利用したことはない」が5割



せたがや Pay の認知・利用度を聞いたところ、「知っているが、利用したことはない」(49.5%)が5割で最も高い。「知らない」(27.9%)は3割近くで、「現在(直近3か月以内)、利用している」(14.1%)と「過去に利用したことがあるが、現在(直近3か月以内)は利用していない」(6.6%)を合わせた《利用経験あり》(20.7%)はほぼ2割となっている。(図18-1-1)

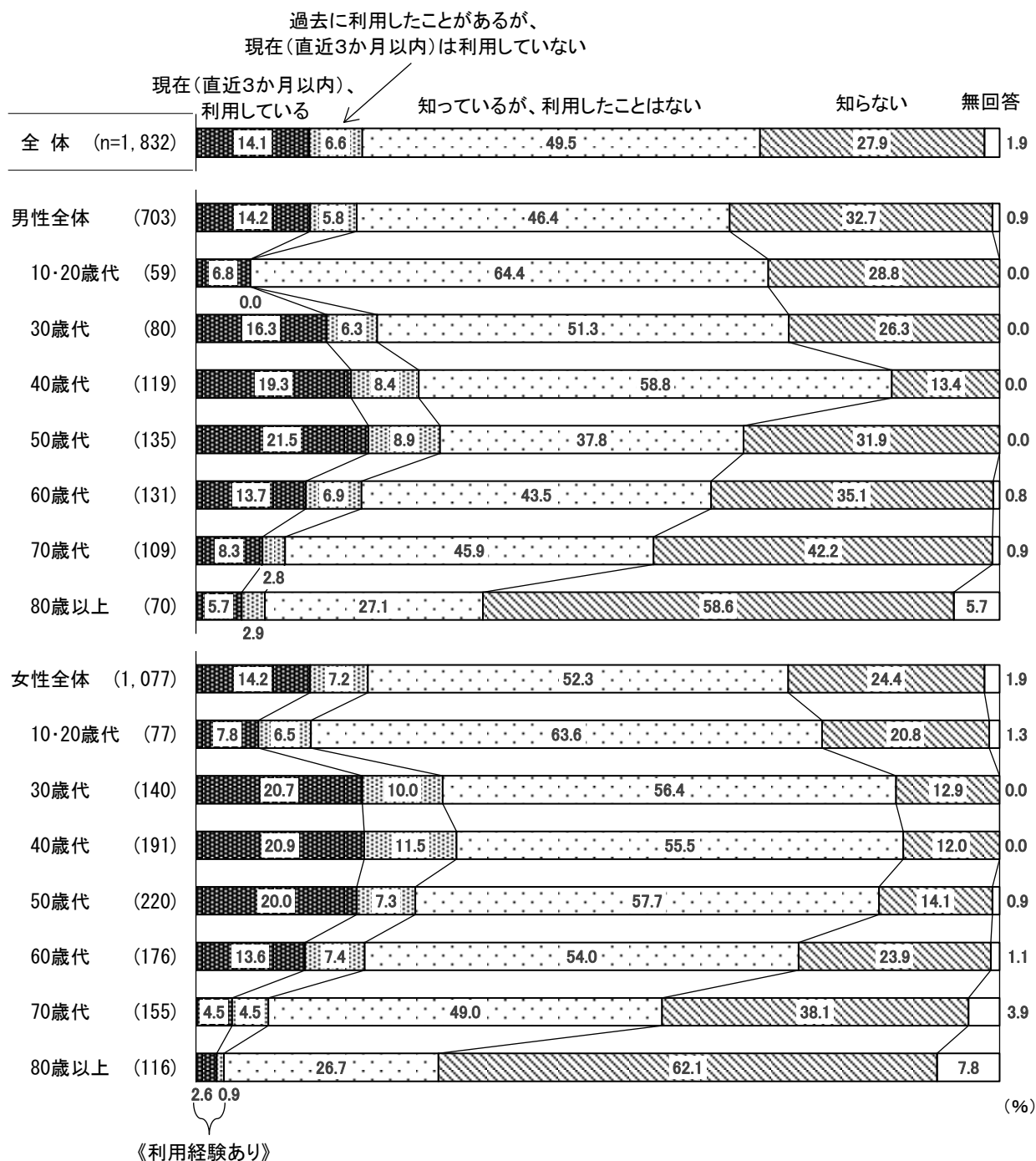
図 18-1-2 せたがや Pay の認知・利用度（地域別）



地域別にみると、「知っているが、利用したことはない」は砧南部で6割近くとなっている。《利用経験あり》は世田谷西部でほぼ3割、玉川北部で3割近く、北沢西部で2割半ばとなっている。一方、「知らない」は玉川南部と玉川西部で4割となっている。（図18-1-2）



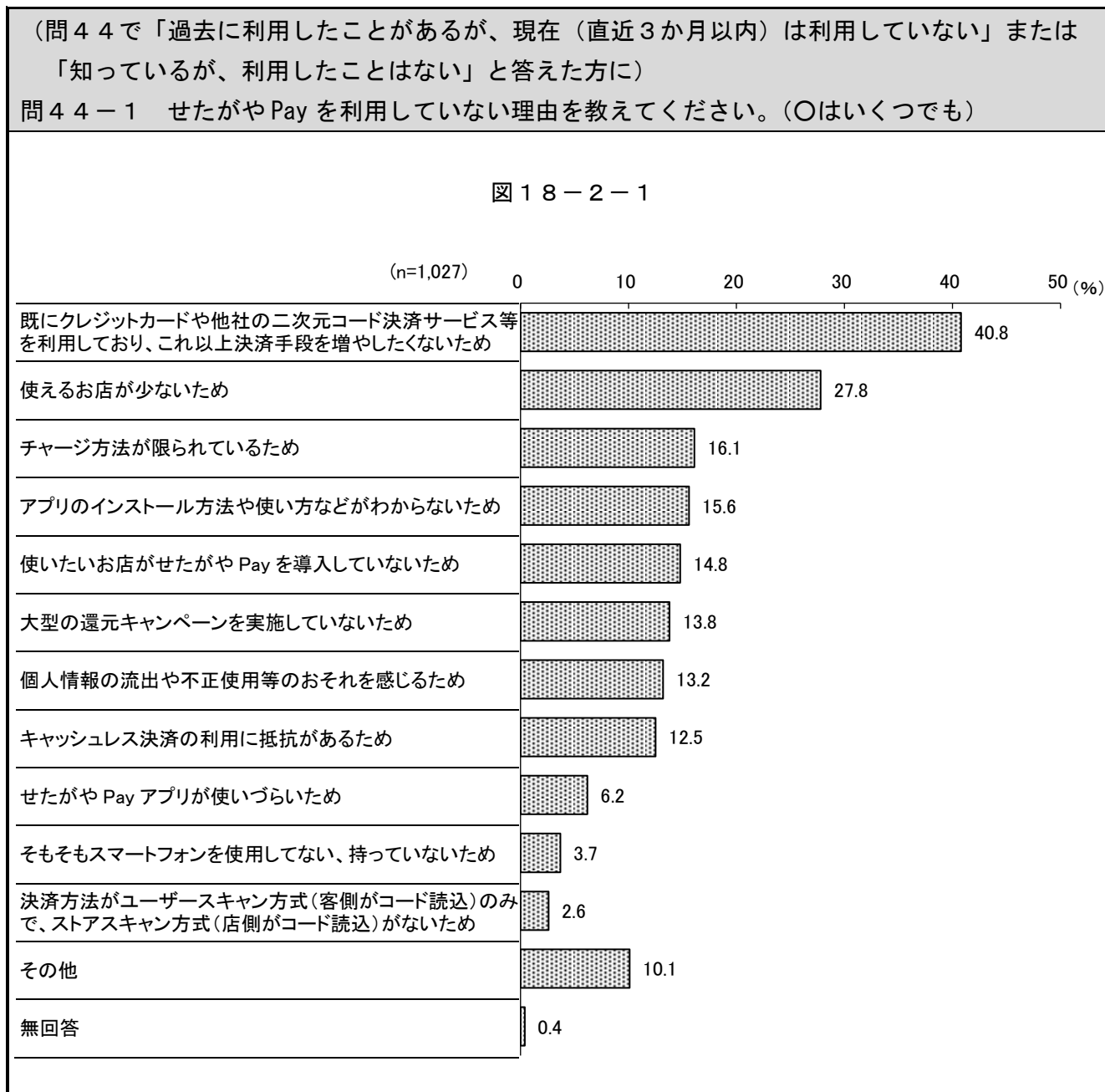
図 18-1-3 せたがや Pay の認知・利用度（性・年齢別）



性・年齢別にみると、「知っているが、利用したことはない」は男女とも10・20歳代で6割台となっている。《利用経験あり》は女性の40歳代で3割を超え、女性の30歳代でほぼ3割、男性の50歳代で3割となっている。一方、「知らない」は女性の80歳以上で6割を超え、男性の80歳以上で6割近くとなっている。（図18-1-3）

## (2) せたがや Pay を利用しない理由

◎「既にクレジットカードや他社の二次元コード決済サービス等を利用しており、これ以上決済手段を増やしたくないため」がほぼ4割



せたがや Pay を「過去に利用したことがあるが、現在(直近3か月以内)は利用していない」または「知っているが、利用したことはない」と答えた方(1,027人)に、利用していない理由を聞いたところ、「既にクレジットカードや他社の二次元コード決済サービス等を利用しており、これ以上決済手段を増やしたくないため」(40.8%)がほぼ4割で最も高く、「使えるお店が少ないため」(27.8%)が3割近くとなっている。(図18-2-1)

表 18-2-1 せたがや Pay を利用しない理由 (性・年齢別)

(%)

	n	既にクレジットカードや他社の二次元コード決済手段を増やしたくないため	使えるお店が少ないため	チャージ方法が限られているため	アプリのインストール方法や使い方などがわからないため	使いたいお店がせたがや Pay を導入していないため	大型の還元キャンペーンを実施していないため	個人情報の流出や不正使用等のおそれを感じるため	キャッシュレス決済の利用に抵抗があるため	せたがや Pay アプリが使いづらいため	そもそもスマートフォンを使用していない、持っていないため	決済方法がユーザーズキャン方式(客側がコード読み込み)で、ストアスキャン方式(店側がコード読み込み)がないため	その他	無回答	
全体	1,027	40.8	27.8	16.1	15.6	14.8	13.8	13.2	12.5	6.2	3.7	2.6	10.1	0.4	
性・年齢別	男性全体	367	40.6	24.5	14.7	15.3	13.6	13.6	13.1	12.0	7.4	3.3	3.3	11.4	0.3
	10・20歳代	38	52.6	15.8	15.8	7.9	7.9	7.9	2.6	2.6	-	-	-	23.7	-
	30歳代	46	34.8	32.6	23.9	10.9	8.7	15.2	2.2	8.7	8.7	-	2.2	8.7	-
	40歳代	80	45.0	27.5	16.3	10.0	10.0	16.3	8.8	6.3	5.0	1.3	2.5	12.5	-
	50歳代	63	38.1	22.2	15.9	9.5	22.2	17.5	19.0	12.7	9.5	-	4.8	9.5	-
	60歳代	66	40.9	27.3	10.6	18.2	22.7	16.7	10.6	15.2	7.6	3.0	4.5	9.1	-
	70歳代	53	32.1	22.6	11.3	22.6	9.4	7.5	20.8	18.9	11.3	7.5	5.7	9.4	-
	80歳以上	21	42.9	14.3	4.8	47.6	4.8	4.8	42.9	28.6	9.5	23.8	-	9.5	4.8
	女性全体	641	41.0	30.0	16.7	15.8	15.3	14.2	13.4	12.8	5.6	3.7	2.0	9.2	0.5
	10・20歳代	54	46.3	35.2	16.7	3.7	14.8	16.7	5.6	5.6	5.6	-	1.9	13.0	-
	30歳代	93	46.2	24.7	20.4	7.5	9.7	23.7	7.5	4.3	2.2	-	2.2	14.0	-
	40歳代	128	43.8	32.8	17.2	9.4	18.8	13.3	10.2	7.8	7.0	1.6	0.8	10.9	-
	50歳代	143	41.3	33.6	15.4	14.0	14.7	14.7	14.0	14.0	4.9	1.4	2.8	6.3	-
	60歳代	108	39.8	31.5	21.3	19.4	21.3	12.0	18.5	20.4	8.3	1.9	2.8	7.4	-
70歳代	83	36.1	20.5	10.8	42.2	12.0	9.6	20.5	21.7	4.8	10.8	1.2	4.8	1.2	
80歳以上	32	21.9	28.1	9.4	12.5	9.4	3.1	18.8	15.6	6.3	28.1	3.1	12.5	6.3	

性・年齢別にみると、「既にクレジットカードや他社の二次元コード決済サービス等を利用しており、これ以上決済手段を増やしたくないため」は男性の10・20歳代で5割を超えている。「アプリのインストール方法や使い方などがわからないため」は女性の70歳代で4割を超えている。

(表 18-2-1)

なお、基数(n)が30に満たない層については参考値とする。

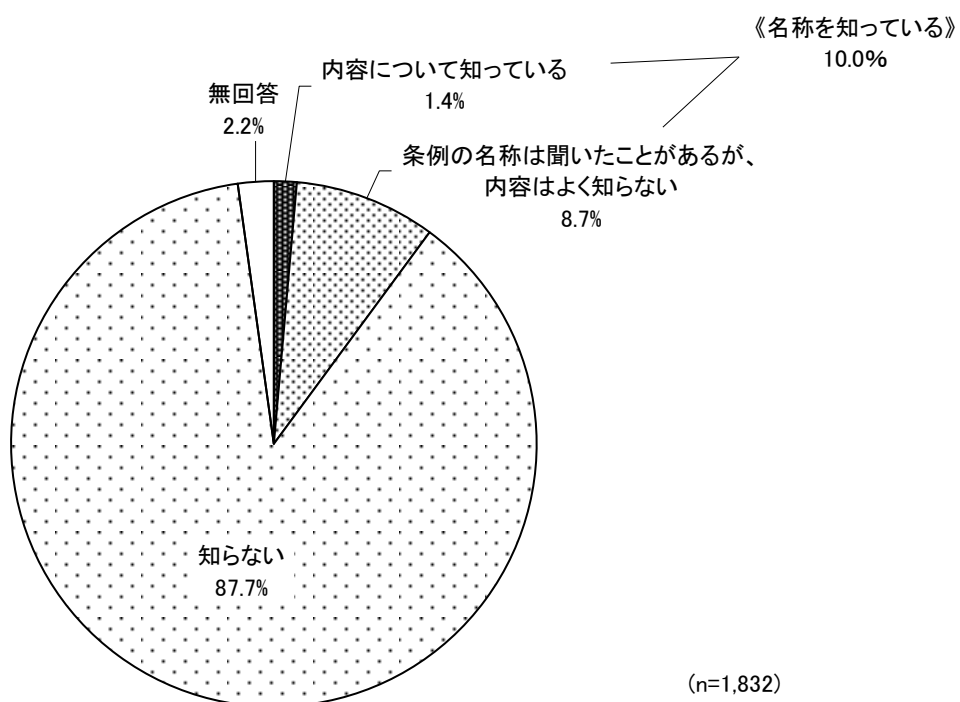
## 19. 世田谷区公契約条例

## (1) 「世田谷区公契約条例」の認知度

◎ 「知らない」が9割近く

問45 あなたは「世田谷区公契約条例」を知っていますか。(○は1つ)

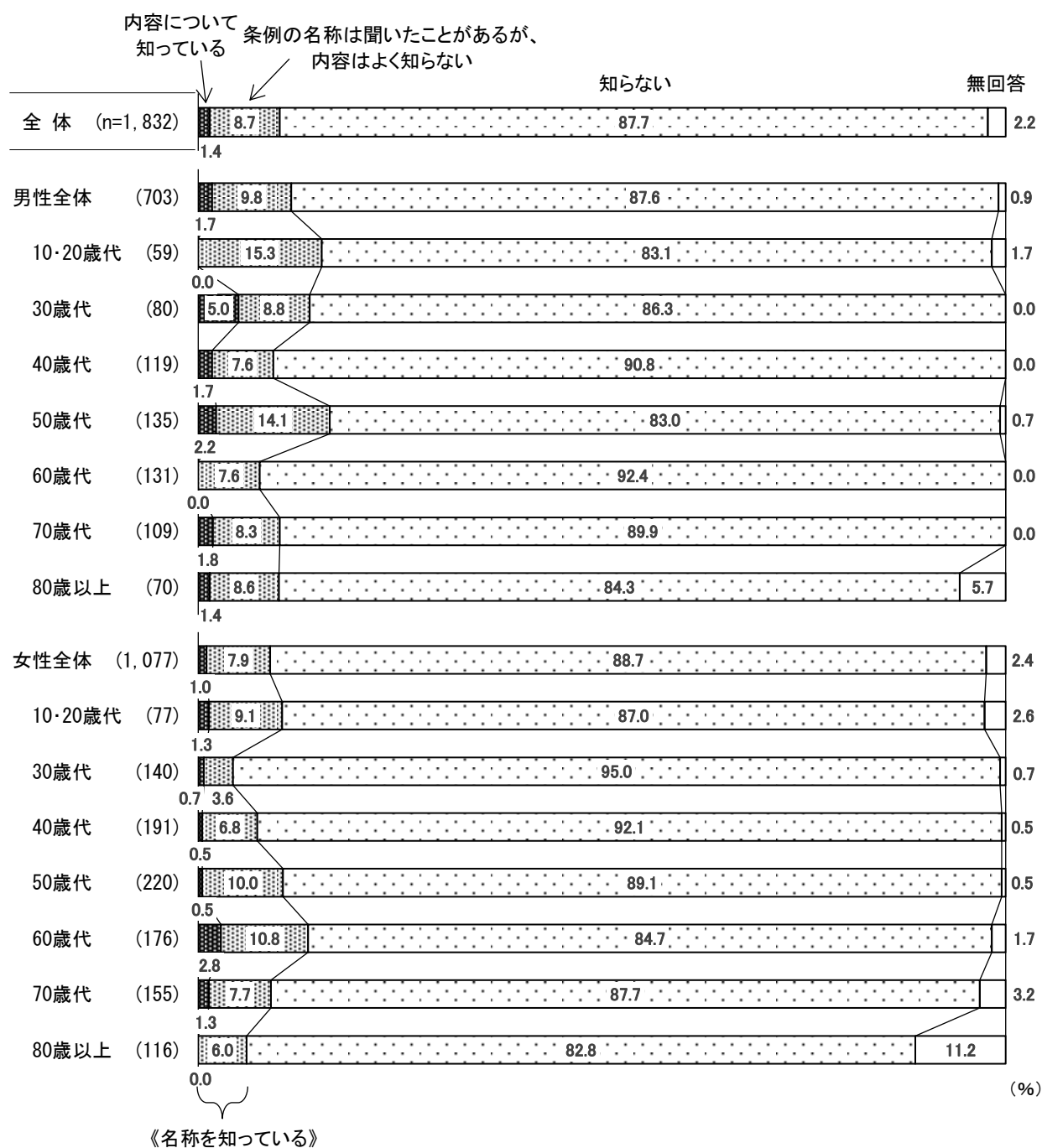
図19-1-1



「世田谷区公契約条例」の認知度を聞いたところ、「知らない」（87.7%）が9割近くと多数を占めている。「内容について知っている」（1.4%）と「条例の名称は聞いたことがあるが、内容はよく知らない」（8.7%）を合わせた《名称を知っている》（10.0%）は1割となっている。

(図19-1-1)

図19-1-2 「世田谷区公契約条例」の認知度（性・年齢別）



性・年齢別にみると、《名称を知っている》は男性の10・20歳代と50歳代で1割半ば、男性の30歳代と女性の60歳代で1割を超えている。一方、「知らない」は女性の30歳代で9割半ば、男性の60歳代と女性の40歳代で9割を超えている。（図19-1-2）

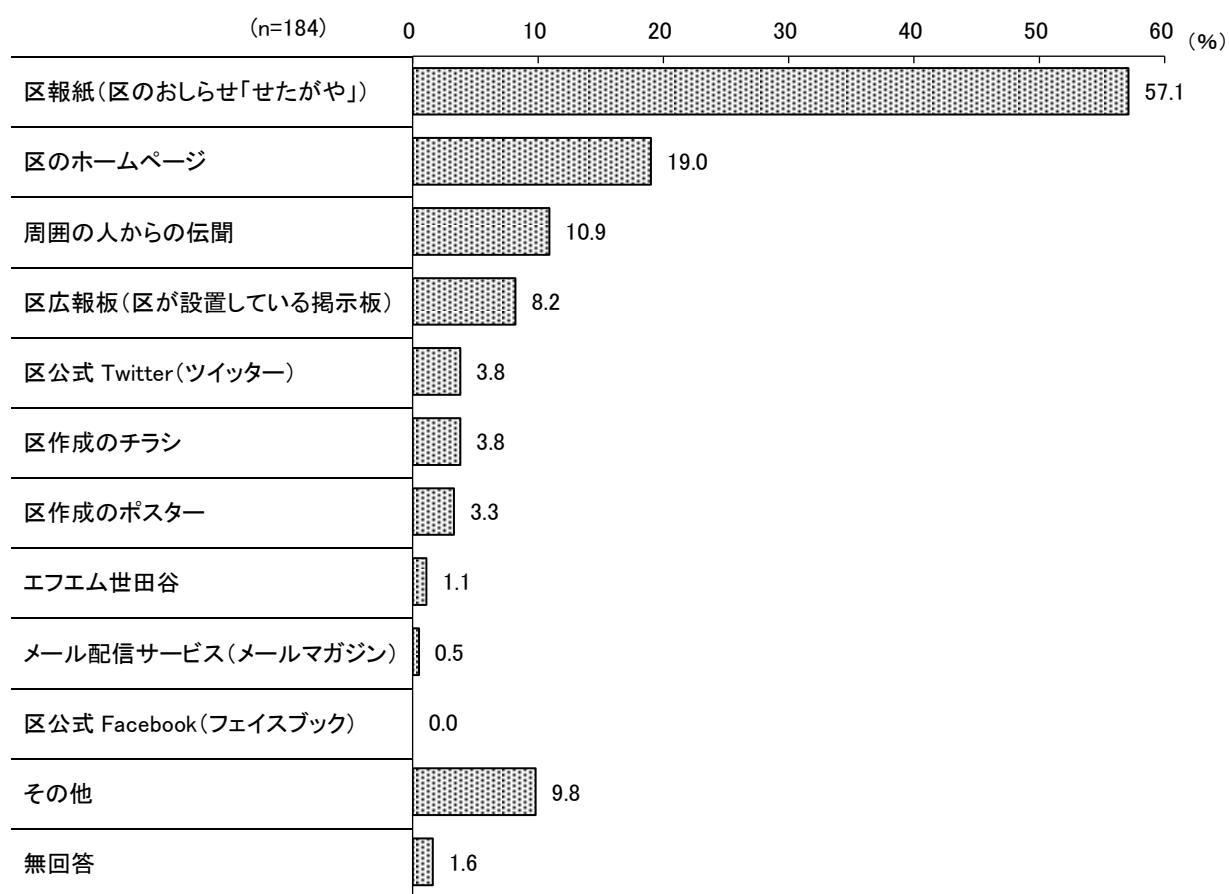
## (2) 「世田谷区公契約条例」の認知経路

### ◎ 「区報紙（区のおしらせ「せたがや」）」が6割近く

（問45で「内容について知っている」または「条例の名称は聞いたことがあるが、内容はよく知らない」と答えた方に）

問45-1 「世田谷区公契約条例」についてどこで知りましたか。（○はいくつでも）

図19-2-1



「世田谷区公契約条例」を「内容について知っている」または「条例の名称は聞いたことがあるが、内容はよく知らない」と答えた方（184人）に、どこで知ったかを聞いたところ、「区報紙（区のおしらせ「せたがや」）」（57.1%）が6割近くで最も高く、以下、「区のホームページ」（19.0%）、「周囲の人からの伝聞」（10.9%）、「区広報板（区が設置している掲示板）」（8.2%）などと続いている。（図19-2-1）

表 19-2-1 「世田谷区公契約条例」の認知経路（性・年齢別）

			区 報 紙 （ 区 の お し ら せ 「 せ た が や 」 ）	区 の ホ ー ム ペ ー ジ	周 圍 の 人 か ら の 伝 聞	区 広 報 板 （ 区 が 設 置 し て い る 掲 示 板 ）	区 公 式 T w i t t e r （ ツ イ ッ タ ー ）	区 作 成 の チ ラ シ	区 作 成 の ポ ス タ ー	エ フ エ ム 世 田 谷	メ ー ル 配 信 サ ー ビ ス （ メ ー ル マ ガ ジ ン ）	区 公 式 F a c e b o o k （ フ ェ イ ス ブ ッ ク ）	そ の 他	無 回 答	
		n	(%)												
全 体		184	57.1	19.0	10.9	8.2	3.8	3.8	3.3	1.1	0.5	-	9.8	1.6	
性・ 年 齢 別	男性全体	81	42.0	23.5	12.3	11.1	1.2	7.4	3.7	2.5	1.2	-	18.5	1.2	
	10・20歳代	9	33.3	11.1	11.1	11.1	-	11.1	11.1	-	-	-	22.2	-	
	30歳代	11	18.2	27.3	18.2	18.2	-	-	9.1	9.1	-	-	54.5	9.1	
	40歳代	11	18.2	-	18.2	9.1	-	18.2	9.1	9.1	-	-	27.3	-	
	50歳代	22	40.9	40.9	9.1	4.5	-	-	-	-	4.5	-	9.1	-	
	60歳代	10	60.0	20.0	-	10.0	10.0	10.0	-	-	-	-	-	-	
	70歳代	11	45.5	36.4	18.2	18.2	-	9.1	-	-	-	-	9.1	-	
	80歳以上	7	100.0	-	14.3	14.3	-	14.3	-	-	-	-	-	14.3	-
	女性全体	96	67.7	14.6	10.4	6.3	6.3	1.0	3.1	-	-	-	-	3.1	2.1
	10・20歳代	8	37.5	-	12.5	12.5	-	12.5	25.0	-	-	-	-	25.0	-
	30歳代	6	33.3	33.3	-	-	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-
	40歳代	14	50.0	28.6	14.3	-	14.3	-	-	-	-	-	-	-	7.1
	50歳代	23	56.5	13.0	17.4	4.3	8.7	-	-	-	-	-	-	-	4.3
	60歳代	24	87.5	20.8	4.2	4.2	-	-	-	-	-	-	-	4.2	-
70歳代	14	100.0	-	-	14.3	-	-	7.1	-	-	-	-	-	-	
80歳以上	7	71.4	-	28.6	14.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

性・年齢別にみると、男性は「区報紙（区のおしらせ「せたがや）」」が4割を超え、「区のホームページ」が2割を超えている。女性は「区報紙（区のおしらせ「せたがや）」」が7割近くとなっている。（表19-2-1）

なお、基数(n)が30に満たない層については参考値とする。

## 世田谷区民意調査 2023

令和5年9月発行（広報印刷物登録番号 No. 2177）

- 発行 世田谷区政策経営部広報広聴課  
〒154-8504 東京都世田谷区世田谷4丁目21番27号  
電話：03（5432）2014  
ファクシミリ：03（5432）3001
- 実施 株式会社アダムコミュニケーション  
〒168-0074 東京都杉並区上高井戸1丁目8番17号  
          ブライトコアビル新館6階  
電話：03（6847）5757  
ファクシミリ：03（6847）5756